

vDC Automation Standard Edition
ポータル利用者マニュアル
(監視編)

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

- SigmaSystemCenter、JobCenter、WebSAM は日本電気株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows ロゴ、Windows Server、Internet Explorer、SQL Server および Azure は 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、Itanium は、Intel 社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apache、Apache Tomcat、Tomcat は、Apache Software Foundation の登録商標または商標です。
- Firefox は Mozilla Foundation の登録商標または商標です。
- Google Chrome は Google Inc.の登録商標または商標です。
- PostgreSQL は、PostgreSQL の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Amazon Web Services、およびその他の AWS 商標は、米国その他の諸国における Amazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。
- OpenStack のワードマークは、米国とその他の国における OpenStack Foundation の登録商標/サービスマークまたは商標/サービスマークのいずれかであり、OpenStack Foundation の許諾の下に使用されています。
- Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

なお、® マーク、™ マークは本書に明記しておりません。

改版履歴

表 マニュアル更新履歴

番号	章・項	改版内容
初版		
—	—	—
1.1 版		
1	「2.1 vDCA SE ポータルを運用するにあたっての注意・制限事項 (4 ページ)」	今バージョンで解消・追加された注意・制限事項を削除・追記しました。
2	「5.2.1.8 監視設定削除 (28 ページ)」	監視設定削除の節を追加しました。
第 2 版		
1	全体	文書内イメージの修正

目次

第1編 はじめに.....	1
第1章 vDC Automation Standard Edition とは.....	2
1.1 vDCA SE ポータルで出来ること.....	2
1.1.1 サーバの監視設定.....	2
第2編 vDCA SE ポータルを運用する.....	3
第2章 運用の概要.....	4
2.1 vDCA SE ポータルを運用するにあたっての注意・制限事項.....	4
2.2 監視機能使用時の全体の流れ.....	5
第3章 運用の流れ.....	6
3.1 vDCA SE ポータルの運用設定をする.....	6
3.2 テナントを登録する.....	6
3.3 テナントに監視エージェントを割り当てる.....	7
3.4 テナント管理組織を設定する.....	8
3.5 監視設定をする.....	8
3.6 テナントを解約する.....	8
第3編 運用を開始する前に.....	9
第4章 SystemManager G の運用設定.....	10
4.1 設定方法.....	10
第4編 管理者操作編.....	11
第5章 監視(管理者).....	12
5.1 システムメッセージ.....	12
5.1.1 メッセージ一覧の表示.....	12
5.1.2 メッセージの検索.....	14
5.1.3 メッセージ詳細の表示.....	15
5.1.4 メッセージの確認状態の変更.....	17
5.1.5 メッセージへのマーク付与.....	18
5.1.6 メッセージのコメント編集.....	20
5.2 設定.....	20
5.2.1 ノード監視.....	20
5.2.1.1 グループの作成.....	22
5.2.1.2 グループの削除.....	23
5.2.1.3 グループ名の変更.....	23
5.2.1.4 グループの移動.....	24
5.2.1.5 監視テンプレートの適用(グループ).....	25
5.2.1.6 テナント割り当て.....	27
5.2.1.7 監視状態変更.....	27
5.2.1.8 監視設定削除.....	28
5.2.1.9 詳細タブ.....	29
5.2.1.10 監視設定タブ.....	32
5.2.1.11 監視テンプレート化.....	33
5.2.1.12 監視テンプレートの適用(ノード).....	34
5.2.2 監視設定.....	36
5.2.2.1 Windows サービス監視.....	36
5.2.2.2 プロセス監視.....	37

5.2.2.3	性能監視	39
5.2.2.4	サービスポート監視	40
5.2.2.5	イベントログ監視	41
5.2.2.6	シスログ監視	42
5.2.2.7	アプリケーションログ監視	43
第5編 利用者操作編		46
第6章	監視(利用者)	47
6.1	ノード	47
6.1.1	ノード一覧の表示	48
6.1.2	ステータスパネルの表示	50
6.1.3	性能グラフの表示	52
6.1.4	グループの作成	54
6.1.5	グループ名の変更	55
6.1.6	グループの移動	56
6.1.7	グループの削除	58
6.1.8	ノードの移動	59
6.1.9	ノードの監視	61
6.1.10	通報フィルタの設定	62
6.1.10.1	フィルタ一覧の表示	62
6.1.10.2	フィルタの追加・変更	66
6.1.10.3	フィルタの順序変更	72
6.1.10.4	フィルタの削除	73
6.1.11	ノード種別ごとの表示と操作	74
6.1.11.1	ノード種別ごとのノード一覧の表示	74
6.1.11.2	ノード種別ごとのステータスパネルの表示	75
6.1.11.3	ノード種別ごとの操作	76
6.1.11.4	ノード種別ごとの監視設定可否	76
6.2	メッセージ	76
6.2.1	メッセージ一覧の表示	78
6.2.2	メッセージの検索	79
6.2.3	メッセージ詳細の表示	81
6.2.4	メッセージの確認状態の変更	85
6.2.5	メッセージへのマーク付与	86
6.2.6	メッセージのコメント編集	88
6.2.7	重要度別メッセージ件数の表示	88
6.2.8	カテゴリの操作	89
6.2.9	カテゴリの監視の開始・停止	91
6.2.10	フィルタ一覧の表示	93
6.2.11	フィルタの追加・変更	97
6.2.12	フィルタの順序変更	104
6.2.13	フィルタの削除	106
6.2.14	フィルタの一括有効/無効化	106
6.3	分析/レポート	107
6.3.1	分析/レポートビューの設定	108
6.3.2	性能グラフの設定	111
6.3.3	ランキンググラフの設定	114
6.3.4	稼働状況グラフの設定	118
6.3.4.1	エージェント稼働率の追加	120
6.3.4.2	その他の稼働率の追加	120
6.3.5	分析/レポートビューの削除	123
6.3.6	分析/レポートビューの印刷	124

6.3.7	分析機能	125
6.4	設定	126
6.4.1	ノード監視	126
6.4.1.1	グループの作成	127
6.4.1.2	グループの削除	128
6.4.1.3	グループ名の変更	129
6.4.1.4	グループの移動	130
6.4.1.5	監視テンプレートの適用(グループ)	130
6.4.1.6	監視状態変更	132
6.4.1.7	監視設定削除	133
6.4.1.8	詳細タブ	134
6.4.1.9	監視設定タブ	137
6.4.1.10	監視テンプレート化	138
6.4.1.11	監視テンプレートの適用(ノード)	139
6.4.2	監視設定	141
6.4.2.1	Windows サービス監視	141
6.4.2.2	プロセス監視	147
6.4.2.3	性能監視	154
6.4.2.4	サービスポート監視	159
6.4.2.5	イベントログ監視	162
6.4.2.6	シスログ監視	170
6.4.2.7	アプリケーションログ監視	176
6.4.3	クラウド監視	186
6.4.3.1	Azure 監視	186
6.4.4	監視テンプレート	192
6.4.4.1	監視テンプレートの追加	195
6.4.4.2	監視テンプレートの変更	196
6.4.4.3	監視テンプレートの複製	197
6.4.4.4	監視テンプレートの削除	198
6.4.4.5	監視テンプレートの適用	198
6.4.5	自動監視	200
6.4.5.1	自動監視ルールの追加・変更	202
6.4.5.2	自動監視ルールの削除	206
6.4.5.3	自動監視ルールの実行結果の確認	206
6.4.6	メール通報	207
6.4.6.1	メール通報設定の追加・変更	209
6.4.6.2	メール通報設定の削除	213
6.4.7	コマンド	213
6.4.7.1	コマンド設定の追加・変更	214
6.4.7.2	コマンド設定の削除	217
6.4.8	タスク	217
付録 A	監視端末 (View) と Web Console とのフィールドマッピング情報	221
付録 B	置換文字列一覧	222
付録 C	重要度一覧	224
付録 D	WebConsole Option とコマンドで同期する	225

第1編 はじめに

本手順書は vDC Automation Standard Edition の設定および GUI 操作について説明しています。

第 1 章

vDC Automation Standard Edition とは

vDC Automation Standard Edition（以降、vDCA SE ポータル）は、SigmaSystemCenter の機能を利用するための Web ベースの GUI です。SigmaSystemCenter に加え、SystemManager G を利用することで以下の効果も期待できます。

- サービス利用者/テナントが自ら利用申請したサーバの監視設定を Web ブラウザから設定することができます。
- サービス利用者/テナントごとに監視設定を行えるため、サービスプロバイダの負担が軽減されます。

1.1 vDCA SE ポータルで出来ること

vDCA SE ポータルは SystemManager G を利用することで以下のユースケースもサポートされます。

- サーバの監視設定

vDCA SE ポータルがサポートするユースケースは、『vDC Automation Standard Edition ポータルマニュアル(リソース管理編)』を参照してください。

それぞれの機能に対して以降で説明します。

1.1.1 サーバの監視設定

サーバに対して SystemManager G が提供する各種監視設定を、Web 上から行うことができます。また、設定した監視内容を後から確認することができます。監視により発生した通報はメールで受信することが可能です。

第2編

vDCA SE ポータルを運用する

vDCA SE ポータルを運用する流れを説明します。

第2章 運用の概要

vDCA SE ポータルを運用する流れを説明します。

2.1 vDCA SE ポータルを運用するにあたっての注意・制限事項

注意事項

- vDCA SE ポータルを利用して監視設定を行う場合、原則として vDCA SE ポータルを通して操作を行ってください。
- ブラウザの JavaScript を有効化してください。

制限事項

- ダイアログのボタンを何度もクリックすると画面が操作を受け付けなくなる場合があります。その場合はブラウザの機能で画面の再読み込みを行ってください。
- 極端に長い文字列を入力項目に入力した場合、表示が崩れることがあります。その場合、入力した文字列を短い文字列に変更してください。
- 検索条件にて、"[と"]"を条件に指定した場合、正常に検索できません。検索条件には"[と"]は指定しないでください
- 正規表現で入力する箇所において、その正規表現が文法的に正しいかの確認機能はありません。利用者が正しい正規表現を入力してください
- Windows サービス監視設定にてサービスを追加した直後は設定した情報が vDCA SE ポータルに反映されない場合があります。その場合は時間をおいて再度情報を表示してください。
- vDCA SE ポータルはハイパーバイザ監視、クラウドサービス監視（AWS）に対応していません。ハイパーバイザ、クラウドサービス（AWS）もノード監視画面に表示されますが、設定を参照・編集することはできません。
- 監視結果を参照する権限（ROLE_MONITORING_SHOW）をカスタムロール設定の禁止権限のリストに指定しても、ダッシュボード画面のウィジェットとして追加する画面一覧の選択肢には監視の画面も表示されます。その状態で追加してもウィジェットに「権限がありません」のメッセージが表示され、監視の画面は表示できませんので、ウィジェットのカスタマイズ画面にて削除してください。
- 監視テンプレートに設定されている性能監視カウンタが適用対象のノードには実際には存在しないカウンタであっても設定は登録されます。存在しないカウンタの設定が登録された状態でも監視結果に影響はありませんが、削除する場合、当該カウンタのみを削除することができませんので、リソースまたはインスタンスを一旦削除した上で必要なカウンタのみ再設定してください。

注

「監視マネージャからの情報取得に失敗しました(コード:xxx)」と画面に表示される場合は、以下の原因の可能性がります。

表 2-1 エラーコード別事象補足

コード	対象となる機能	説明
400	サービスポート監視設定	リモートホストに対するサービスポートの監視間隔に 60 秒未満の値を指定した場合に表示されます。
404	監視設定全般	エージェントのバージョンが古い場合に表示することがあります。エージェントのバージョンアップをしてください。
404	監視設定全般	エージェントが停止している場合に表示されることがあります。エージェントを起動してください。

2.2 監視機能使用時の全体の流れ

vDCA SE ポータルにおける監視機能利用時の運用の流れを説明します。

【vDCA SE ポータルを利用するユーザ】

全体の流れは以下です。それぞれの手順については「第3章 運用の流れ (6 ページ)」を参照してください。

表 2-2 ユーザ種別と運用の流れ

種別	システム管理者	テナント管理者	テナントユーザ
役割	サービスプロバイダ側の管理者ユーザで、WebConsole を操作してシステムを運用する。	テナント側の管理者ユーザで、WebConsole を操作してテナントの管理、監視の設定、メッセージの確認を行う	テナント側の一般ユーザで、WebConsole を操作して監視の設定、メッセージの確認を行う
1	vDCA SE ポータルの運用設定を行う	-	-
2	テナントを登録。監視エージェントを割り当てる	-	-
3	-	テナント管理組織の初期設定を行う。	-
4	運用中のお知らせ情報の管理、基盤側のメンテナンスを行う	<ul style="list-style-type: none"> 自身が管理するサーバの監視設定を行う。 サーバ監視を行う。 運用中に発生したメッセージの確認、お知らせの確認を行う。 	
5	-	テナント利用の終了をシステム管理者に通知する	-
6	テナントの解約・削除を行う。	-	-

第3章 運用の流れ

本章では、テナント契約した情報を vDCA SE ポータルに登録する説明をします。上記の項目を設定する作業者は、以下の通りです。

表 3-1 運用の流れ

	システム管理者	テナント管理者	テナントユーザ
vDCA SE ポータルの運用設定をする	○	—	—
テナントを登録する	○	—	—
テナントに監視エージェントを割り当てる	○	—	—
テナント管理組織を設定する	—	○	—
監視設定をする	—	○	○
テナントを解約する	○	—	—

3.1 vDCA SE ポータルの運用設定をする

vDCA SE ポータルを運用する前にサービスプロバイダ組織は vDCA SE ポータルの設定を行います。

- SystemManager G の運用設定

設定手順や方法については「[第3編 運用を開始する前に \(9 ページ\)](#)」を参照してください。

3.2 テナントを登録する

サービスプロバイダはテナント利用者と利用契約を締結したあとテナント組織の情報や管理者の情報を vDCA SE ポータルに登録します。

登録に必要な情報は以下です。

- テナント情報
 - テナント名
 - テナント ID
- テナント管理者ユーザ情報
 - ユーザ ID
 - 氏名
 - メールアドレス
 - ログインパスワード

テナントやテナント管理者の登録方法については『vDC Automation Standard Edition ポータルマニュアル(リソース管理編)』を参照してください。

3.3 テナントに監視エージェントを割り当てる

1 台の監視マネージャで監視可能なサーバ台数には限りがあるため、監視対象サーバをテナント毎に監視マネージャに振り分けることにより負荷分散を行います。

まず、テナントを追加する毎に以下のファイルを編集し、テナントに監視マネージャを割り当ててください。

ファイル:

"インストールディレクトリ"\Tomcat\conf\NEC\monitoring.conf

書式:

```
<テナントID>=<監視マネージャ名>[:<監視マネージャポート番号>]
```

注

監視マネージャ名、監視マネージャポート番号は、SystemManager G の設定ファイル (SysMonMgr.ini) の SelfNode の以下の値を指定してください。

- 監視マネージャ名 : HostName
- 監視マネージャ名 : ServerPort

この設定により、監視マネージャが監視する監視対象サーバ (監視エージェント) が vDCA SE ポータル上で管理可能となりますが、テナントがサーバの監視を行うためには、システム管理者が監視対象サーバ (監視エージェント) をテナントに割り当てる必要があります。操作方法は、「[5.2.1.6 テナント割り当て \(27 ページ\)](#)」を参照してください。

ヒント

- 複数のテナントに同じ監視マネージャを指定することができます。
- 1 テナントに対し、複数の監視マネージャ名を指定することはできません。
- テナントの監視マネージャ名を変更したい場合、所属するすべての監視エージェントの監視マネージャを切り替えたうえで変更をしてください。
- 監視マネージャが監視する監視対象サーバ (監視エージェント) の情報は定期的に取得し、vDCA SE ポータルに登録/更新/削除を行っています。取得間隔の既定値は 5 分ですが、変更することも可能です。詳しくは、「[4.1 設定方法 \(10 ページ\)](#)」を参照してください。
- テナントが監視エージェントに対して監視スケジュールやメッセージの通報先を設定するには、システム管理者が SystemManager G でスケジュールやメールポリシーの設定を行う必要があります。通報先を登録する際、通報名の先頭に「テナント ID__ (アンダースコア×2)」を付与することで、ログインユーザの所属テナントのテナント ID に一致する通報設定のみ選択肢に表示されます。(例: TenantA__データベース担当者) ただし、マルチテナント構成でない場合、全ての通報先が選択肢に表示されるため、テナント ID の付与は不要です。操作方法については『SystemManager G マニュアル』を参照してください。

3.4 テナント管理組織を設定する

サービスの利用を開始する前に、テナント管理者は利用者（テナントユーザ）の登録を行います。

設定に必要な情報は以下です。

- 利用者（テナントユーザ）の登録情報
 - ユーザに付与するロール
 - ユーザ ID
 - 氏名
 - メールアドレス
 - ログインパスワード

テナントユーザの登録については『vDC Automation Standard Edition ポータルマニュアル(リソース管理編)』を参照してください。

3.5 監視設定をする

テナントは vDCA SE ポータルから監視設定を行うことができます。操作方法は、「[第6章 監視\(利用者\) \(47 ページ\)](#)」を参照してください。

3.6 テナントを解約する

テナントが利用契約を解約する場合の流れは以下です。

1. テナント管理者はシステム管理者あてにテナントの解除申請を行う。
2. システム管理者は、テナントのユーザを無効にする。
3. システム管理者はテナントの監視エージェントを削除する。(SystemManager G 上での作業)
4. システム管理者はテナントを削除する。

ユーザの無効の設定方法については『vDC Automation Standard Edition ポータルマニュアル(リソース管理編)』を参照してください。

テナントを削除する場合は、テナントの全ての監視エージェントとユーザを削除してから行ってください。テナントを削除する方法については『vDC Automation Standard Edition ポータルマニュアル(リソース管理編)』を参照してください。

第3編

運用を開始する前に

本編では、vDCA SE ポータルの運用を開始する前にシステム管理者が実施する設定について説明します。

第4章

SystemManager G の運用設定

本章では SystemManager G の運用設定について説明します。

4.1 設定方法

C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties を開きます。

1. 必要に応じて以下を修正してください。

設定例

```
product.cloudportal.service.monitoring.multitenant = true
product.cloudportal.service.monitoring.agentlist.default-tenant =
product.cloudportal.service.monitoring.agentlist.update.interval = 5
```

表 4-1 SystemManager G 運用設定

設定項目	設定内容
product.cloudportal.service.monitoring.multitenant	マルチテナント構成かを設定する 基本的に true とする
product.cloudportal.service.monitoring.agentlist.default-tenant	監視エージェントを割り当てるテナントのテナント ID を設定する 単一のテナントで運用する場合などに当該テナントのテナント ID を指定しておくことで、システム管理者がテナントに監視エージェントを割り当てる手間を削減可能。
product.cloudportal.service.monitoring.agentlist.update.interval	監視エージェント情報の取得間隔を分単位で設定する 有効な値: 0~1440 既定値: 5 (省略時、有効値以外の値が指定された場合、既定値で動作する) 0 を指定した場合、定期更新処理を実行しない (LoadBalancer による冗長構成の 2 台目以降には 0 を指定する)

注

- ・ 設定ファイル (C:\Program Files (x86)\NEC\vDCA\MoM\FW\Tomcat\conf\NEC\webframework.properties) の各行の最後には空白を含めないでください。

上記を記載後、ファイルの文字コードを UTF-8(BOM 無し)で保存し、アプリケーションサーバ(Tomcat)を再起動します。 サーバーマネージャー の左側のパネルからローカルサーバーを選択し、サービスから「Apache Tomcat 8.5 ServiceGovernor」を右クリックし、「サービスの再起動」を選択します。

第4編

管理者操作編

本編では、システム管理者が操作するメニューについて説明します。

第5章 監視(管理者)

本章では監視メニュー(管理者)について説明します。

5.1 システムメッセージ

本項ではシステムメッセージについて記載します。

メニューから、[監視]–[システムメッセージ]をクリックすることにより、「システムメッセージ」画面が表示されます。

「システムメッセージ」画面では、システムの稼働状況等のシステムに関するメッセージの閲覧と、メッセージに対する確認状態変更、マーク付与、コメント編集の操作をすることができます。条件を指定してメッセージを検索することもできます。

[自動更新]チェックボックスをオンにすると、システムメッセージの一覧が30秒毎に自動更新されます。

重要度	マーク	発生日時	メッセージテキスト	オブジェクト
異常		2019/03/08 03:13:35	コンポーネントが異常終了しました。(COMPONENT=msc_eventcorrelation 原因:Failed to check license.)	msc_eventcorrelation
異常		2019/03/08 03:13:35	EventCorrelation Optionのライセンスが不足しています。	msc_eventcorrelation
異常		2019/03/08 03:10:31	コンポーネントが異常終了しました。(COMPONENT=msc_eventcorrelation 原因:Failed to check license.)	msc_eventcorrelation
異常		2019/03/08 03:10:31	EventCorrelation Optionのライセンスが不足しています。	msc_eventcorrelation
異常		2019/03/08 03:08:59	コンポーネントが異常終了しました。(COMPONENT=msc_eventcorrelation 原因:Failed to check license.)	msc_eventcorrelation
異常		2019/03/08 03:08:59	EventCorrelation Optionのライセンスが不足しています。	msc_eventcorrelation
警告		2019/03/08 01:35:42	ロケーション情報が取得できませんでした。(COMPONENT=msc_agcontrol)	msc_status
正常		2019/03/08 01:35:40	コンポーネントを起動しました。(COMPONENT=msc_status)	msc_status
正常		2019/03/08 01:35:12	コンポーネントを停止しました。(COMPONENT=msc_status)	msc_status
警告		2019/03/08 01:35:12	ロケーション情報が取得できませんでした。(COMPONENT=msc_extlink)	msc_status

図 5-1 「システムメッセージ」画面

5.1.1 メッセージ一覧の表示

本項ではシステムメッセージの一覧を表示させる方法および各項目の内容を説明します。

メニューから、[監視]–[システムメッセージ]をクリックすることにより、「システムメッセージ」画面が表示されます。

「システムメッセージ」画面には未確認状態のシステムメッセージの一覧が表示されます。

重要度	マーク	発生日時	メッセージテキスト	オブジェクト
正常		2019/03/01 01:48:27	コンポーネントを起動しました。(COMPONENT=msc_apigateway)	msc_apigateway
正常		2019/03/01 01:48:26	コンポーネントを停止しました。(COMPONENT=msc_apigateway)	msc_apigateway
正常		2019/03/01 01:48:17	コンポーネントを起動しました。(COMPONENT=msc_azure)	msc_azure
正常		2019/03/01 01:47:03	コンポーネントを停止しました。(COMPONENT=msc_azure)	msc_azure
正常		2019/02/28 06:17:17	コンポーネントを起動しました。(COMPONENT=msc_azure)	msc_azure
警告		2019/02/28 05:00:05	ロケーション情報が取得できませんでした。(COMPONENT=msc_agcontrol)	msc_status
正常		2019/02/28 05:00:04	コンポーネントを起動しました。(COMPONENT=msc_status)	msc_status
正常		2019/02/28 04:52:50	コンポーネントを停止しました。(COMPONENT=msc_status)	msc_status
警告		2019/02/28 04:52:50	ロケーション情報が取得できませんでした。(COMPONENT=msc_extlink)	msc_status
正常		2019/02/28 05:00:03	コンポーネントを起動しました。(COMPONENT=msc_auth)	msc_auth

図 5-2 メッセージパネルとメッセージ一覧

「システムメッセージ」画面に表示される項目、ボタンは以下の通りです。

表 5-1 項目一覧（「システムメッセージ」画面 メッセージパネル）

項目名	説明
システムメッセージトグル	メッセージパネルを開閉します。
更新アイコン🔄	メッセージパネルを更新します。
ウィジェット追加アイコン📌	現在表示されているメッセージパネルをダッシュボードにウィジェットとして貼り付けます。
検索アイコン🔍	検索条件を開閉します。初期表示時は閉じています。
表示設定アイコン📄	表示設定を開閉します。初期表示時は閉じています。
表示件数	一覧に表示されるメッセージの1ページ当たりの表示件数です。表示件数は10, 100, 500, 1000のいずれかから選択可能です。
マークアイコン📌	選択したメッセージにマークを付けます。
確認アイコン🔍	選択したメッセージの確認状態を変更します。
前ページボタン	表示されているメッセージより新しいメッセージを表示します。
次ページボタン	表示されているメッセージより古いメッセージを表示します。

「システムメッセージ」画面のメッセージ一覧に表示される項目は以下の通りです。

一覧に表示する項目は[表示設定]アイコン📄で変更できます。変更方法は「[5.1.2 メッセージの検索 \(14 ページ\)](#)」を参照してください。

表 5-2 項目一覧（「システムメッセージ」画面 メッセージ一覧）

項目名	説明
チェックボックス	チェックされたメッセージが操作対象となります。
重要度	重要度を表示します。
マーク	マークを表示します。
発生日時	発生日時を表示します。
受信日時	受信日時を表示します。
確認状態	確認状態を表示します。
メッセージテキスト	メッセージテキストを表示します。
メッセージ概要	メッセージ概要を表示します。

項目名	入力規則	説明
マーク	—	選択されたマークが検索対象となります。選択されない場合は、全てのマークが検索対象となります。[マーク無し]を選択するとマークされていないメッセージが検索対象となります。
発生日時	1970/01/01 00:00:00 ~ 2999/12/31 23:59:59	選択、もしくは入力した発生日時が検索対象となります。監視対象のサーバマシンで、エージェントがメッセージを生成した日時です。タイムゾーンは、マネージャ (Manager) のシステム時刻に依存します。
受信日時	1970/01/01 00:00:00 ~ 2999/12/31 23:59:59	選択、もしくは入力した受信日時が検索対象となります。監視対象のサーバマシンで生成されたメッセージを、マネージャが受信した日時です。タイムゾーンは、マネージャ (Manager) のシステム時刻に依存します。
確認状態	—	チェックされた確認状態(確認済み、未確認)が検索対象となります。必ず1つ以上にチェックを入れる必要があります。
メッセージテキスト	1024 文字以内	入力したメッセージテキストが検索対象となります。
メッセージ概要	256 文字以内	入力したメッセージ概要が検索対象となります。
アプリケーション	1024 文字以内	入力したアプリケーションが検索対象となります。
オブジェクト	1024 文字以内	入力したオブジェクトが検索対象となります。
メッセージID	128 文字以内	入力したメッセージIDが検索対象となります。
カテゴリ	128 文字以内	入力したカテゴリが検索対象となります。
コメント	1024 文字以内	入力されたコメントが検索対象となります。
タグ	256 文字以内	入力されたタグ条件が検索対象となります。
表示順	—	メッセージの表示順を選択します。メッセージ番号の降順もしくは昇順で一覧が表示されます。
表示項目	—	メッセージの表示項目を選択します。選択した項目が一覧に表示されます。
クリア	—	入力(指定)した値を初期値へ戻します。
検索	—	ボタンをクリックすることで検索を実行します。

5.1.3 メッセージ詳細の表示

本項ではシステムメッセージの詳細を表示させる方法および各項目の内容を説明します。

「システムメッセージ」画面のメッセージ一覧に表示されているメッセージを選択すると、「メッセージ詳細」ダイアログが表示されます。

メッセージ詳細
×

メッセージ詳細

表示項目	値
メッセージ番号	1887
重要度	● 正常
マーク	<input type="text" value=""/>
発生日時	2019/03/08 01:35:40+09:00
受信日時	2019/03/08 01:36:42+09:00
確認状態	<input type="text" value="未確認"/>
メッセージテキスト	コンポーネントを起動しました。(COMPONENT=msc_status)
メッセージ概要	コンポーネントを起動しました。
アプリケーション	msc_status
オブジェクト	msc_status
メッセージ定義ID	1
メッセージID	1
カテゴリ	
コメント	<div style="border: 1px solid gray; height: 40px; width: 100%;"></div>
タグ	

図 5-4 「メッセージ詳細」ダイアログ

メッセージ詳細に表示される項目の内容は以下の通りです

表 5-4 項目一覧（「メッセージ詳細」ダイアログ）

項目名	説明
メッセージ番号	メッセージ番号を表示します。
重要度	重要度を表示します。
マーク	マークを表示します。
発生日時	発生日時を表示します。監視対象のサーバマシンで、エージェントがメッセージを生成した日時です。
受信日時	受信日時を表示します。監視対象のサーバマシンで生成されたメッセージを、マネージャが受信した日時です。
確認状態	確認状態を表示します。
メッセージテキスト	メッセージテキストを表示します。
メッセージ概要	メッセージ概要を表示します。
アプリケーション	アプリケーションを表示します。
オブジェクト	オブジェクトを表示します。
メッセージ定義 ID	メッセージ定義 ID を表示します。
メッセージ ID	メッセージ ID を表示します。
カテゴリ	カテゴリを表示します。

項目名	説明
コメント	コメントを表示します。
タグ	タグを表示します。

5.1.4 メッセージの確認状態の変更

本項ではメッセージの確認状態の変更方法を説明します。

メッセージの確認状態の変更方法は以下の2種類の方法が存在します。

- 変更方法1

1. メッセージ一覧の操作対象メッセージのチェックボックスにチェックを入れ、[確認]アイコンをクリックします。
2. [確認]アイコンの下に確認状態が表示されるため、変更したい状態をクリックします。

なお、複数のメッセージに対してチェックを入れることで同時に複数のメッセージの確認状態を変更することが可能です。

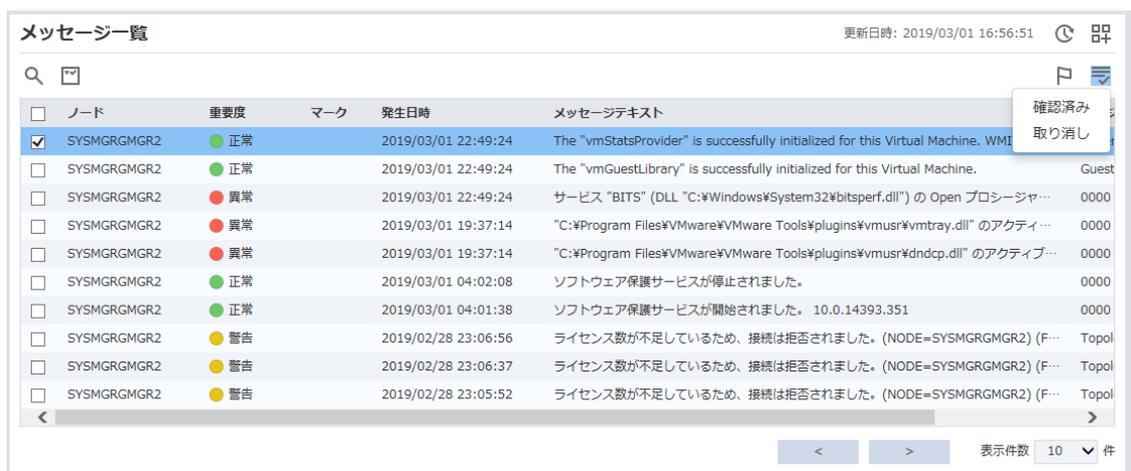


図 5-5 確認状態の変更方法1

- 変更方法2

1. メッセージ一覧の操作対象メッセージをクリックします。
2. 「メッセージ詳細」ダイアログが表示されるため、[確認状態]のプルダウンリストから確認状態を選択して[確定]ボタンをクリックします。

メッセージ詳細
×

メッセージ詳細
ナレッジ
アクション

表示項目	値
メッセージ番号	1751
ノード	SYSMGRGMGR2
重要度	● 正常
マーク	<input type="text" value=""/>
発生日時	2019/03/01 22:49:24+09:00
受信日時	2019/03/01 22:49:25+09:00
確認状態	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;"> 確認済み 未確認 </div>
メッセージテキスト	The "vmStatsProvider" is successfully initialized for this Virtual Machine. WMI namespace: "root%#cimv2".
メッセージ概要	
アプリケーション	vmStatsProvider
オブジェクト	General
メッセージ定義ID	1400000
メッセージID	00000256
カテゴリ	Application
通報状態	異常終了
コメント	<div style="border: 1px solid #ccc; height: 40px; width: 100%;"></div>
タグ	

キャンセル
確定

図 5-6 確認状態の変更 方法 2

5.1.5 メッセージへのマーク付与

本項ではメッセージに対するマークの付与方法を説明します。

メッセージに対するマークの付与方法は以下の 2 種類の方法が存在します。

- 付与方法 1
 1. メッセージ一覧の操作対象メッセージのチェックボックスにチェックを入れ、[マーク]アイコン  をクリックします。
 2. [マーク]アイコン  の下にマークが表示されるため、付与したいマークをクリックします。

なお、複数のメッセージに対してチェックを入れることで同時に複数のメッセージにマークを付与することが可能です。

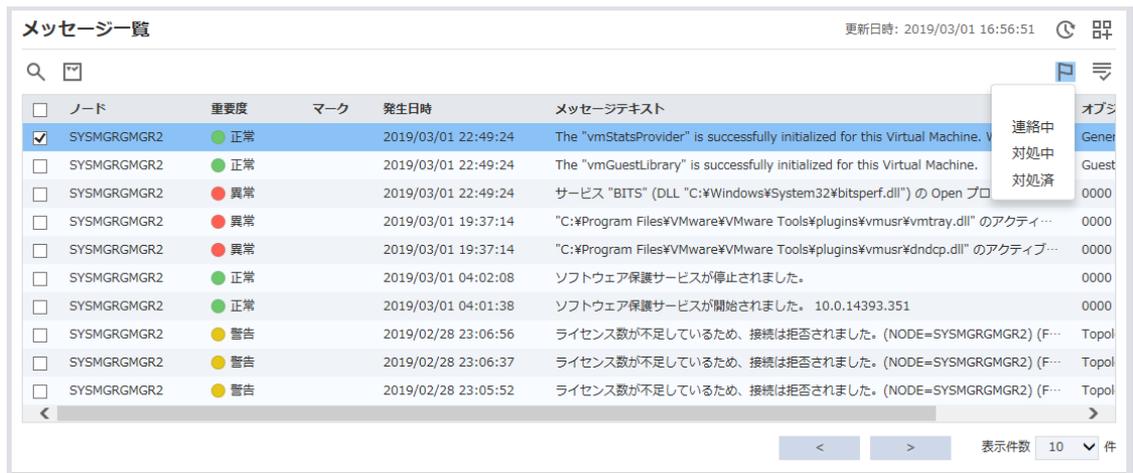


図 5-7 マークの付与 方法 1

- 付与方法 2

- メッセージ一覧の操作対象メッセージをクリックします。
- 「メッセージ詳細」ダイアログが表示されるため、[マーク]のプルダウンリストからマークを選択して[確定]ボタンをクリックします。

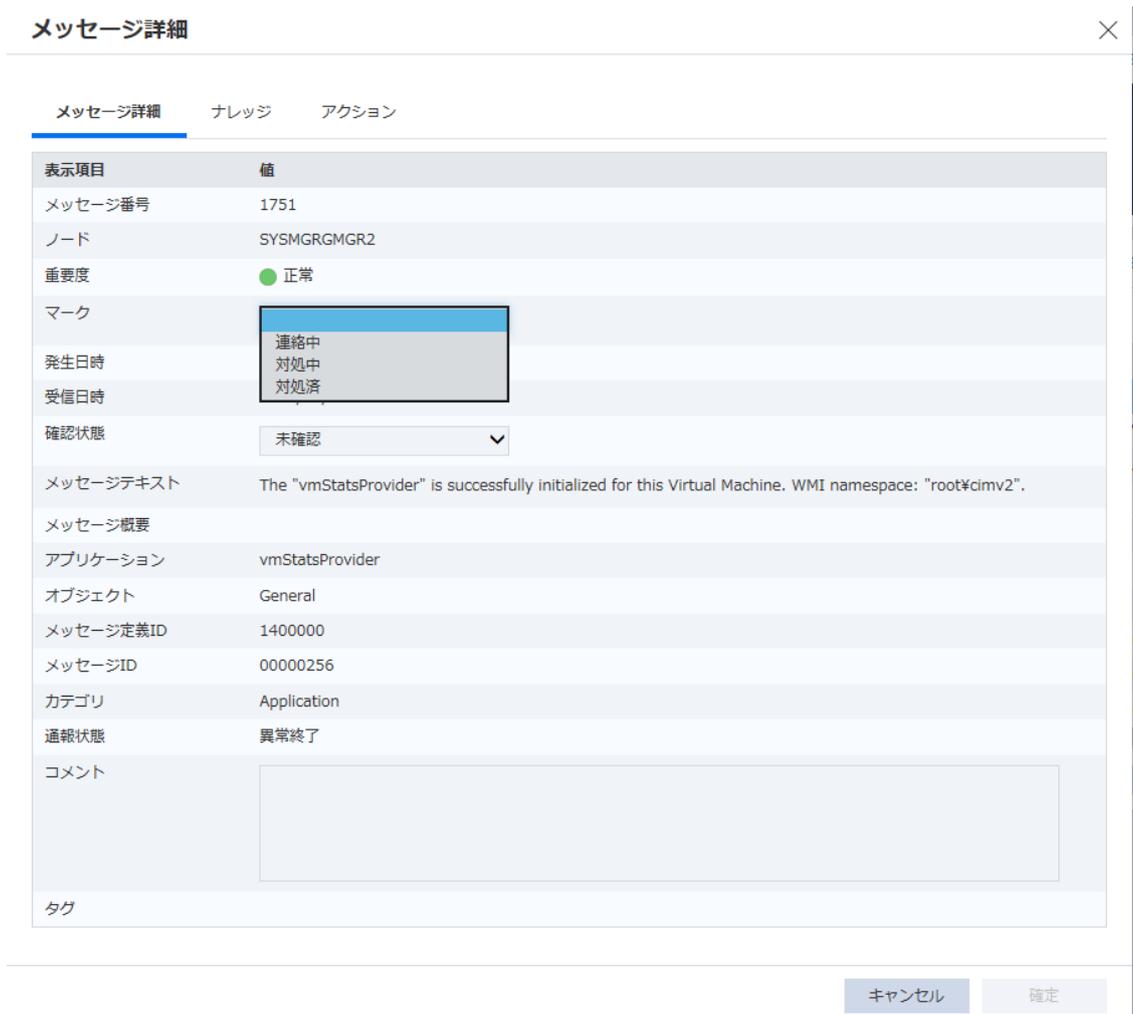


図 5-8 マークの付与 方法 2

5.1.6 メッセージのコメント編集

本項ではメッセージのコメントの編集方法を説明します。

1. メッセージ一覧の操作対象メッセージをクリックします。
2. 「メッセージ詳細」ダイアログが表示されるため、[コメント]を入力して[確定]ボタンをクリックします。

メッセージ詳細
×

メッセージ詳細

ナレッジ

アクション

表示項目	値
メッセージ番号	1751
ノード	SYSMGRGMGR2
重要度	● 正常
マーク	<input type="text" value=""/>
発生日時	2019/03/01 22:49:24+09:00
受信日時	2019/03/01 22:49:25+09:00
確認状態	<input type="text" value="未確認"/>
メッセージテキスト	The "vmStatsProvider" is successfully initialized for this Virtual Machine. WMI namespace: "root#cimv2".
メッセージ概要	
アプリケーション	vmStatsProvider
オブジェクト	General
メッセージ定義ID	1400000
メッセージID	00000256
カテゴリ	Application
通報状態	異常終了
コメント	<input style="width: 100%; height: 40px;" type="text" value="コメント"/>
タグ	

図 5-9 コメント編集

5.2 設定

本項では設定機能について説明します。

メニューから、[監視]-[設定]をクリックすることにより、「設定」画面が表示されます。

5.2.1 ノード監視

本項では監視対象のノードの一覧を表示するための「ノード監視」画面について説明します。

メニューから、[監視]-[設定]-[ノード監視]タブをクリックすることにより、「ノード監視」画面が表示されます。

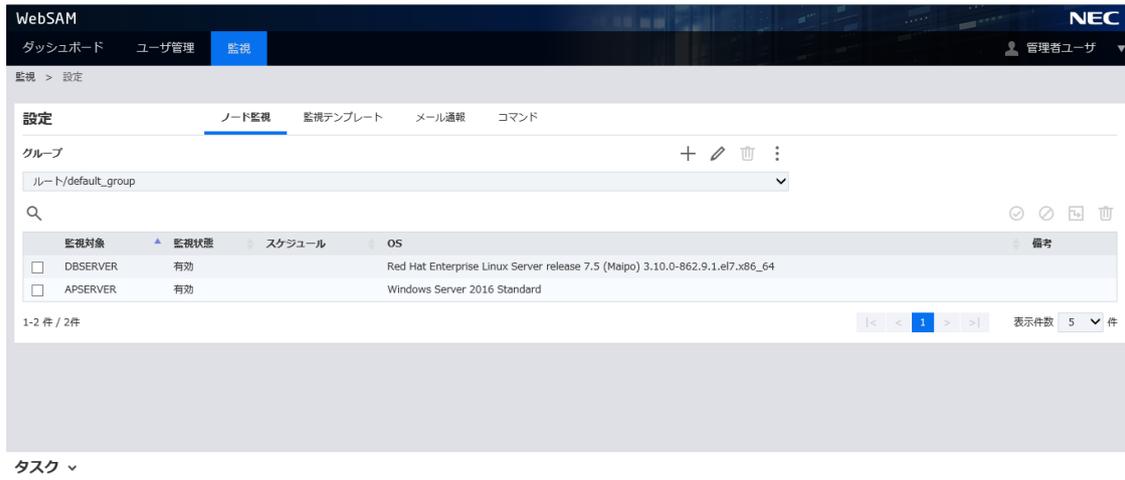


図 5-10 ノード監視画面

表 5-5 項目一覧 (監視一覧)

項目名	説明
監視対象	監視対象サーバの監視エージェント名を表示します。
監視状態	監視の状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 有効 無効
スケジュール	監視スケジュールの定義名を表示します。
OS	監視対象サーバの OS を表示します。
備考	監視設定に対する備考を表示します。

グループプルダウンをクリックすることにより、グループツリーを参照できます。任意のグループを選択することで、選択したグループ配下のノード一覧を参照することができます。

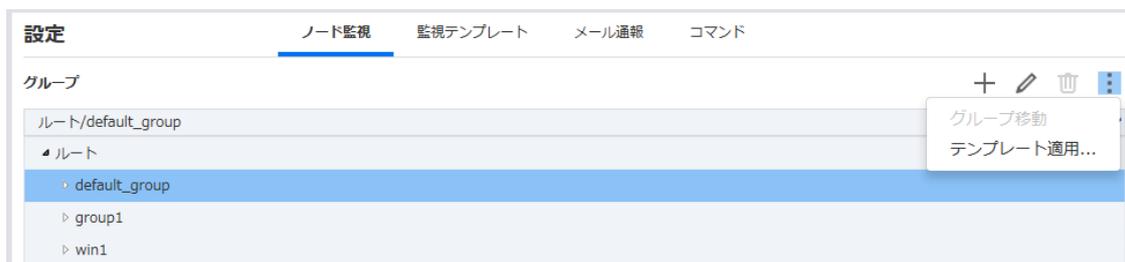


図 5-11 ノード監視画面「グループツリー」

表 5-6 項目一覧 (「ノード」画面 ノード一覧パネルとグループツリー)

項目名	説明
グループ作成アイコン+	「5.2.1.1 グループの作成 (22 ページ)」
グループ名変更アイコン✎	「5.2.1.3 グループ名の変更 (23 ページ)」
グループ削除アイコン✖	「5.2.1.2 グループの削除 (23 ページ)」

項目名	説明
操作メニューアイコン	選択したグループに対する操作メニューを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 「5.2.1.4 グループの移動 (24 ページ)」 「5.2.1.5 監視テンプレートの適用(グループ) (25 ページ)」

ヒント

- ノード監視画面には、SystemManager G ビュー上で「未登録のホスト」として登録されているノードは表示されません。「未登録のホスト」に登録されているノードは任意のトポロジグループに移動してください。

5.2.1.1 グループの作成

本項ではグループの作成方法について説明します。

- 作成先の親グループをグループツリーから選択します。
- 選択すると操作メニューの[グループ作成]が有効になるため、[グループ作成]をクリックします。

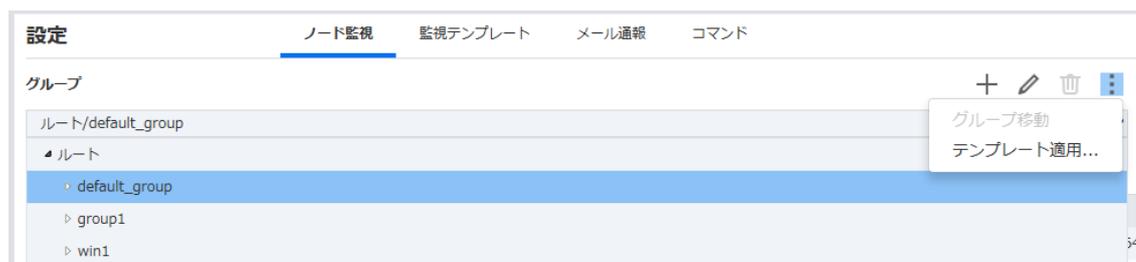


図 5-12 「ノード監視」画面 グループ作成

- 「グループ作成」ダイアログが表示されるため、グループ名を入力し、[OK]ボタンをクリックするとグループが作成されます。



図 5-13 「グループ作成」ダイアログ

表 5-7 項目一覧（「グループ作成」ダイアログ）

項目名	入力規則	説明
グループ名	128 文字以内	作成するグループの名称となります。

5.2.1.2 グループの削除

本項ではグループの削除方法について説明します。

注

- 削除対象のグループ配下にグループが存在している場合はグループを削除することができません。
- 削除対象のグループ配下にノードが存在している場合、グループを削除するとノードは default_group 配下に移動します。

1. 削除対象のグループをグループツリーから選択します。
2. 選択すると[グループ削除]アイコンが有効になるため、[グループ削除]アイコンをクリックします。



図 5-14 「ノード監視」画面 グループ削除

3. 「グループ削除」ダイアログが表示されるため、[OK]ボタンをクリックするとグループが削除されます。

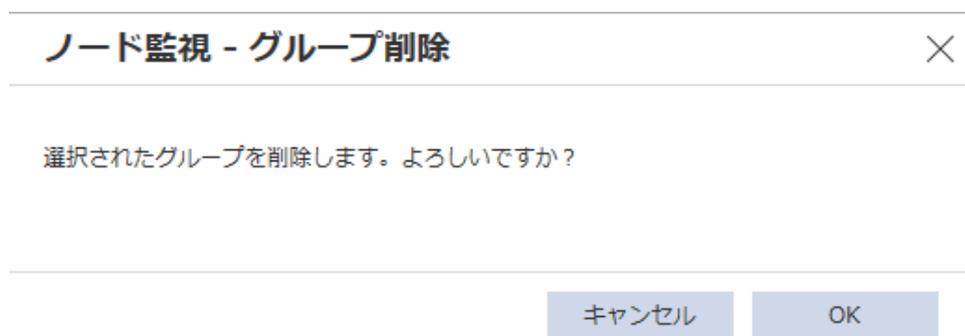


図 5-15 「グループ削除」ダイアログ

5.2.1.3 グループ名の変更

本項ではグループ名の変更方法について説明します。

1. 名称を変更したいグループをグループツリーから選択します。
2. 選択すると操作メニューの[グループ名変更]アイコンが有効になるため、[グループ名変更]アイコンをクリックします。

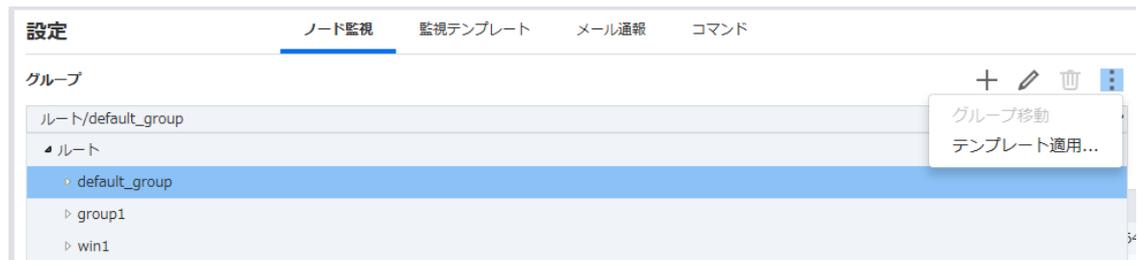


図 5-16 「ノード監視」画面 グループ名変更

3. 「グループ名変更」ダイアログが表示されるため、グループ名を入力し、[OK]ボタンをクリックするとグループ名が変更されます。



図 5-17 「グループ名変更」ダイアログ

表 5-8 項目一覧 (グループ名変更)

項目名	入力規則	説明
グループ名	128 文字以内	変更後のグループの名称となります。

5.2.1.4 グループの移動

本項ではグループの移動方法について説明します。

1. 移動対象のグループをグループツリーから選択します。
2. 操作メニュー  の[グループ移動]が有効となるため、[グループ移動]をクリックします。



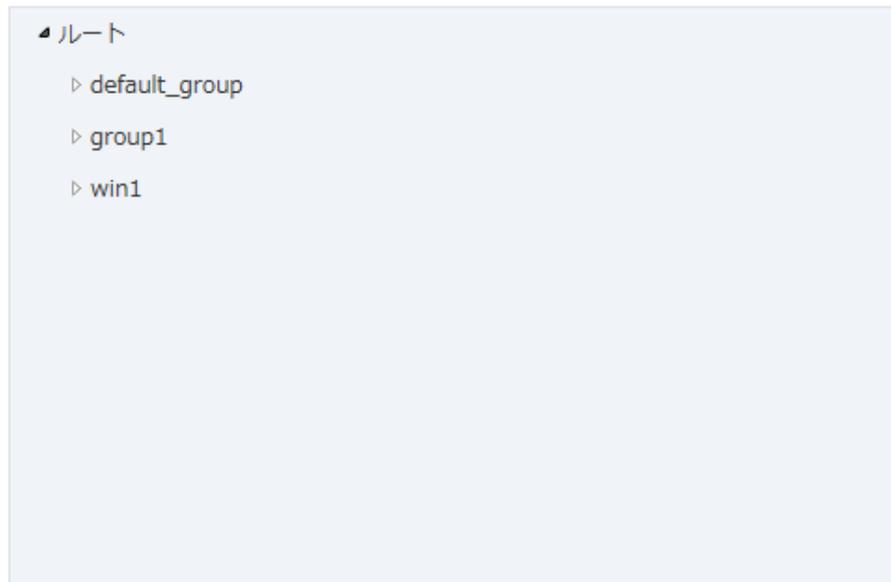
図 5-18 「ノード監視」画面 グループ移動

3. 「グループ移動」ダイアログが表示されるため、移動先のグループを選択し、[OK]ボタンをクリックするとグループが移動されます。

ノード監視 - グループ移動



移動先のグループを選択してください



キャンセル

確定

図 5-19 「グループ移動」ダイアログ

5.2.1.5 監視テンプレートの適用(グループ)

本項ではノード監視からの監視テンプレートの適用方法について説明します。

1. 「ノード監視」画面にてテンプレートを適用したいグループをグループツリーから選択します。
2. 操作メニュー  の[テンプレート適用...]をクリックします。

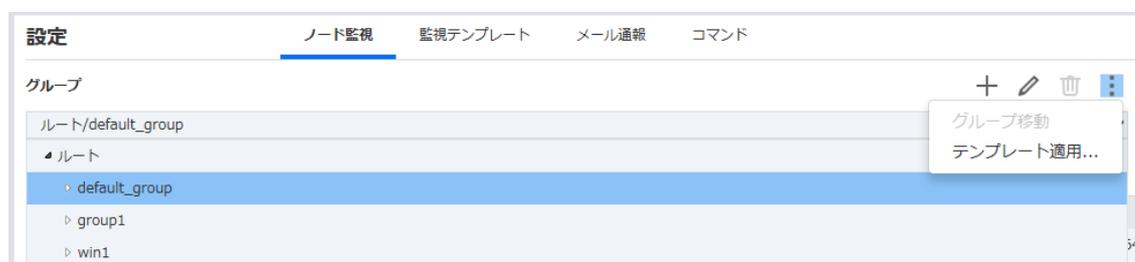


図 5-20 「ノード監視」画面 テンプレート適用

3. 「テンプレート選択」ダイアログが表示されます。適用したいテンプレートを選択し、[OK]ボタンをクリックします。



図 5-21 「テンプレート選択」ダイアログ

4. テンプレートの適用状況を示すタスク一覧が表示されます。タスク一覧に表示される項目については「6.4.8 タスク (217 ページ)」を参照してください。

タスク名	対象	状態	進捗率	重要度	要求時刻	完了時刻	実行ユーザ
テンプレート適用	SB-VM01,rhel73_mg	完了	100%	● 正常	00:32:45	00:32:45	管理者ユーザ
テンプレート適用	SB-VM01,rhel73_mg	完了	100%	○ 重要度なし	00:32:19	00:32:20	管理者ユーザ

図 5-22 タスク一覧

5. タスク一覧からタスクを選択すると「タスク詳細」ダイアログが表示され、テンプレートの適用の実行ログを参照することができます。タスク詳細に表示される項目については「6.4.8 タスク (217 ページ)」を参照してください。



図 5-23 「タスク詳細」ダイアログ

5.2.1.6 テナント割り当て

監視一覧画面には、監視一覧表右上部にテナント割り当てリンクがあります。監視一覧で監視対象のチェックボックスをチェックするとテナント割り当てリンクが有効になります。(複数の監視対象をチェック可能)

テナント割り当てリンクをクリックすると、以下のようなテナント割り当てダイアログが表示されます。本ダイアログを使用して、監視対象（監視エージェント）をテナントに割り当てることで、割り当て先のテナントユーザがその監視対象の監視設定を行えるようになります。



図 5-24 テナント割り当てダイアログ

表 5-9 項目一覧（テナント割り当て）

項目名	説明
テナント	割り当てるテナントをプルダウンリストから選択する。 空欄を選択した場合、割り当てを解除する。
キャンセル	テナント割り当てをせずにダイアログを終了する
OK	テナント割り当てを行いダイアログを終了する

5.2.1.7 監視状態変更

本項では監視の有効化および無効化方法について説明します。

「ノード監視」画面には、監視一覧表右上部に[有効化]アイコン☑[無効化]アイコン☒があります。監視一覧で監視対象のチェックボックスをチェックすると[有効化]アイコン☑[無効化]アイコン☒が有効になります。(複数の監視対象をチェックした場合は有効になりません。)

[有効化]アイコン☑[無効化]アイコン☒をクリックすると、監視の有効化および無効化を行うことができます。



図 5-25 監視状態変更

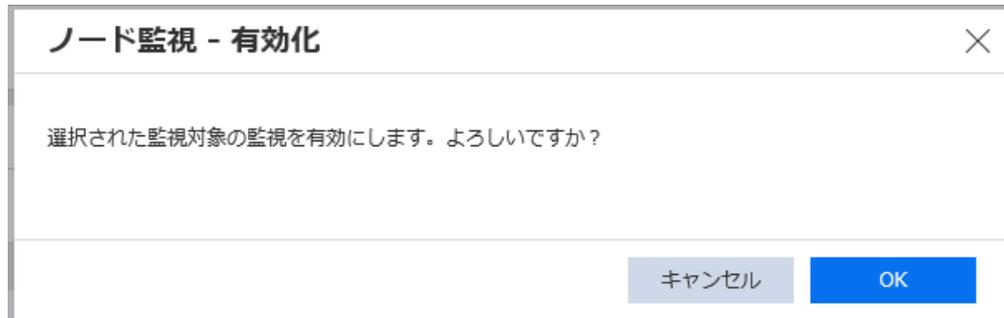


図 5-26 「有効化」ダイアログ

表 5-10 項目一覧（「有効化」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	監視を有効化せずにダイアログを閉じます。
OK	監視を有効化してダイアログを閉じます。

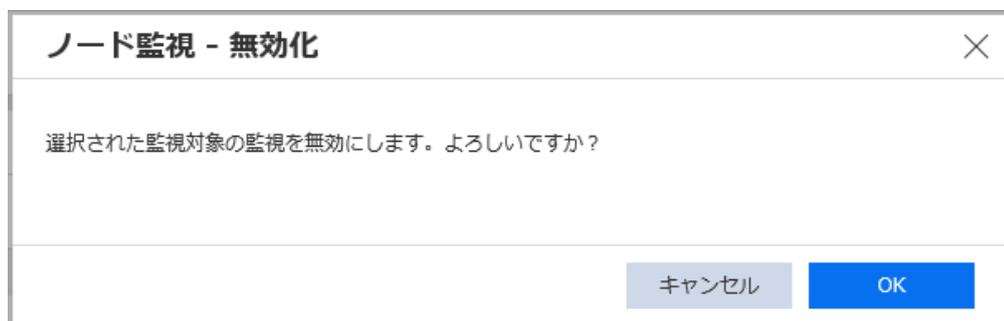


図 5-27 「無効化」ダイアログ

表 5-11 項目一覧（「無効化」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	監視を無効化せずにダイアログを閉じます。
OK	監視を無効化してダイアログを閉じます。

5.2.1.8 監視設定削除

本項では監視設定の削除方法について説明します。

「ノード監視」画面には、監視一覧表右上部に[削除]アイコンがあります。ノード一覧で監視対象のチェックボックスをチェックすると[削除]アイコンが有効になります。(複数の監視対象をチェックした場合も有効になります。)

[削除]アイコンをクリックすると、以下のような「監視設定削除」ダイアログが表示され、選択中の監視対象の監視設定を全て削除することができます。

⚠ 注意

- 削除した監視設定は元に戻せません。誤って削除してしまった場合、全ての監視設定を登録し直す必要がありますのでご注意ください。

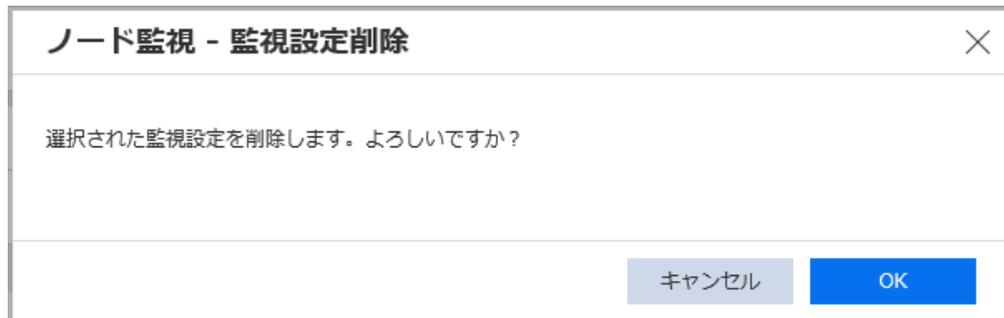


図 5-28 「監視設定削除」ダイアログ

表 5-12 項目一覧（「監視設定削除」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	監視設定を削除せずにダイアログを閉じます。
OK	監視設定を削除してダイアログを閉じます。

5.2.1.9 詳細タブ

本項では監視設定の詳細情報の参照方法について説明します。

ノード監視一覧で監視対象の行をクリックすると、該当する監視設定の詳細情報が詳細タブに表示されます。

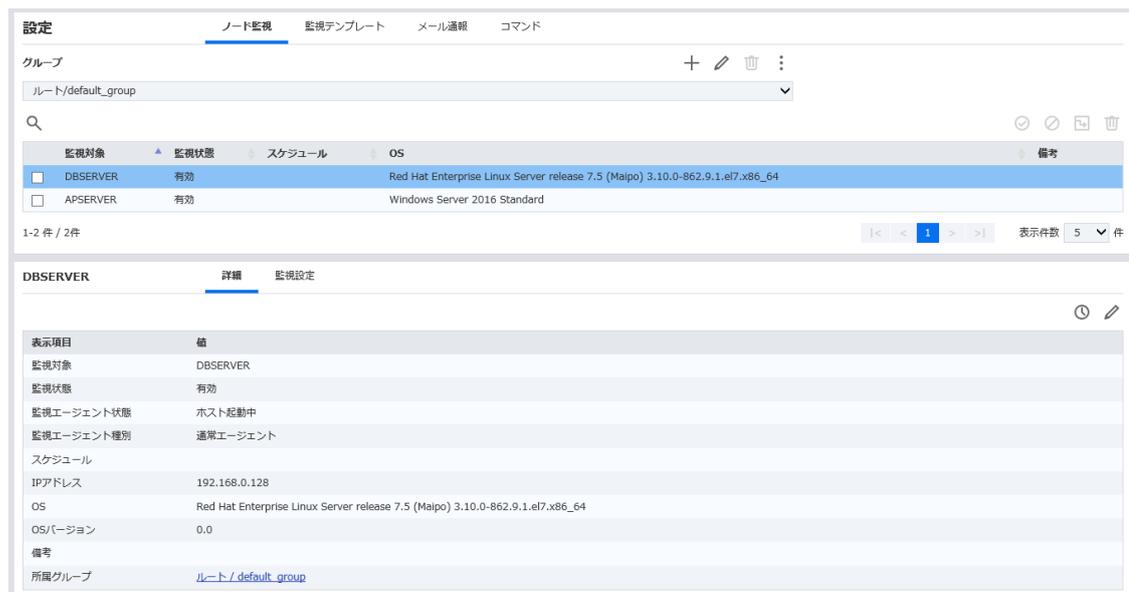


図 5-29 詳細タブ

表 5-13 項目一覧 (詳細タブ)

項目名	説明
監視状態	監視の状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 有効 無効
監視エージェントの状態	監視エージェントの状態を表示します。エージェントが存在しない場合は、[削除済み]と表示されます。
監視エージェント種別	監視エージェントの種別を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 通常エージェント 通常監視エージェント リモートホスト エージェントレスのホスト (リモート監視エージェントにより監視されます)
スケジュール	監視スケジュールの定義名を表示します。
スケジュール状態	スケジュールが設定されている場合その状態を示します。以下のいずれかの状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 稼働中 停止中
IP アドレス	監視対象サーバの IP アドレスを表示します。
OS	監視対象サーバの OS を表示します。
備考	監視設定に対する備考を表示します。
スケジュール設定アイコン 	クリックすると「スケジュール設定」ダイアログを表示します。
備考編集	クリックすると「備考編集」ダイアログを表示します。
所属グループ	監視対象サーバの所属グループを表示します。

スケジュール設定

本項では監視のスケジュール設定方法について説明します。

[スケジュール設定...]アイコンをクリックすると、以下のような「スケジュール設定」ダイアログが表示されます。本ダイアログを利用して、監視対象 (監視エージェント) にスケジュールを設定することで、指定した期間に監視を行うことができます。

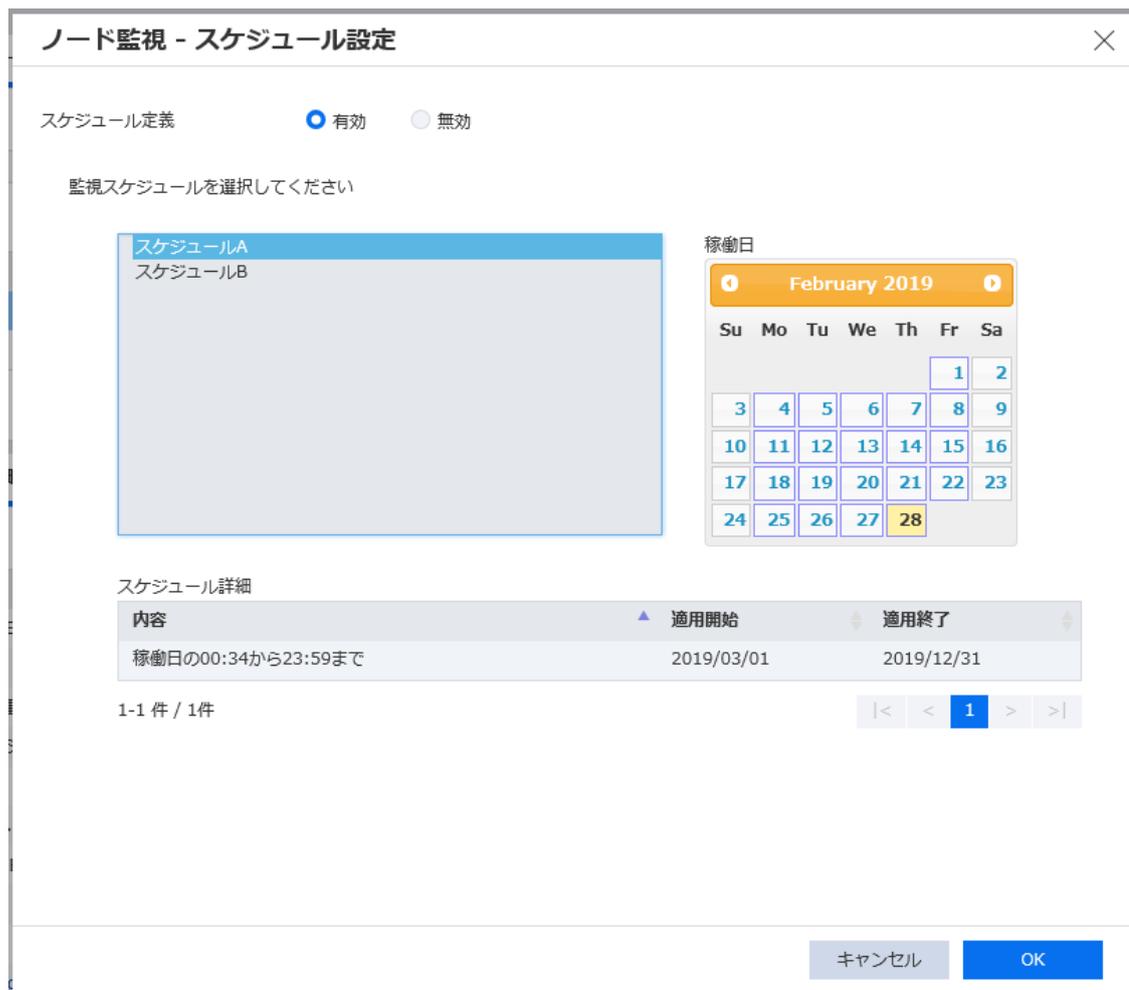


図 5-30 「スケジュール設定」ダイアログ

表 5-14 項目一覧（「スケジュール設定」ダイアログ）

項目名	説明
スケジュール定義	以下のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 有効 無効 有効を選択した場合にはさらにスケジュール定義をリストボックスから選択します。
稼働日	選択されているスケジュールの稼働日をカレンダー上に表示します。稼働日を示す日は枠線が青で表示されます。稼働日以外は枠線がグレーで表示されます。
スケジュール詳細	選択されたスケジュール定義に登録されているスケジュールの一覧を表形式で表示します。スケジュール詳細には以下の項目があります。 <ul style="list-style-type: none"> 内容 スケジュールの内容を表示します。 適用開始 定期スケジュールの場合に、スケジュールの適用開始日を表示します。 適用終了 定期スケジュールの場合に、スケジュールの適用終了日を表示します。空の場合は終了日はありません。
キャンセル	スケジュールの設定を破棄してダイアログを閉じます。

項目名	説明
OK	スケジュールの設定を反映してダイアログを閉じます。

ヒント

スケジュールは SystemManager G で設定されたものが表示されます。スケジュールの設定方法は「WebSAM SystemManager G マニュアル」の「スケジュールを設定する」を参照してください。

備考編集

本項では監視設定の備考の編集方法について説明します。

詳細タブで[備考編集]アイコンをクリックすると以下に示す「備考編集」ダイアログが表示されます。本ダイアログで監視設定の備考を編集できます。



図 5-31 「備考編集」ダイアログ

表 5-15 項目一覧（「備考編集」ダイアログ）

項目名	説明
備考編集	備考の内容を 255 文字以内で入力します。
キャンセル	備考の編集を破棄し、ダイアログを閉じます。
OK	備考の編集を反映してダイアログを閉じます。

5.2.1.10 監視設定タブ

監視設定タブをクリックすると、監視設定の大項目が表示されます。各項目をクリックすると監視設定の参照および監視項目の設定を行うことができます。

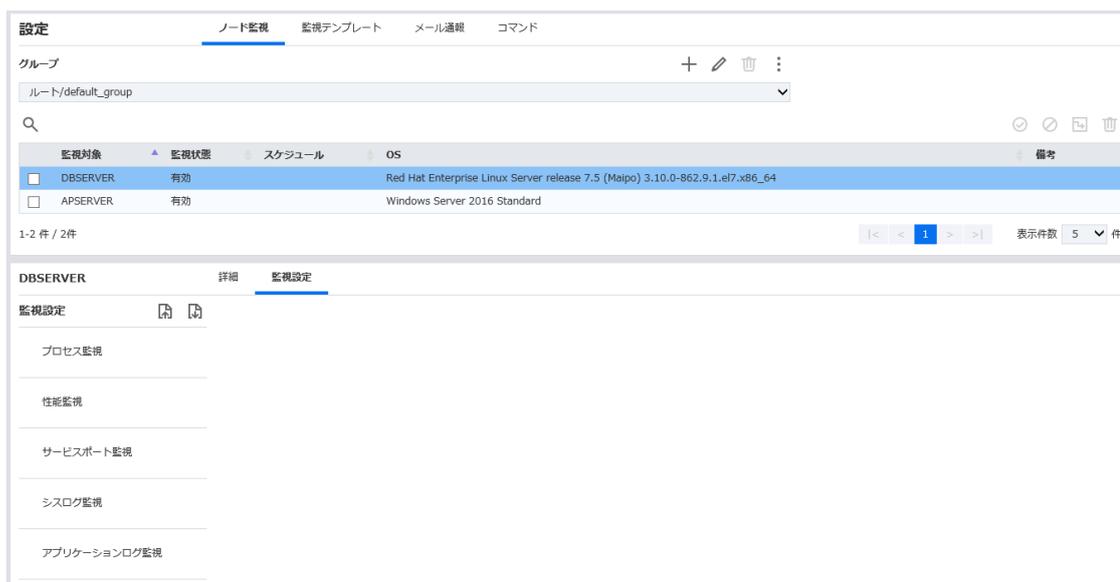


図 5-32 監視設定タブ

表 5-16 項目一覧 (監視設定タブ)

項目名	説明
テンプレート化アイコン 	ノードに設定されている監視設定を監視テンプレートとして登録します。詳細は「 5.2.1.11 監視テンプレート化 (33 ページ) 」を参照してください。
テンプレート適用アイコン 	監視テンプレートの備考が表示されます。詳細は「 5.2.1.12 監視テンプレートの適用(ノード) (34 ページ) 」を参照してください。
Windows サービス監視パネル	ノードの Windows サービス監視設定を表示します。OS 種別が Windows の場合にのみ表示されます。詳細は「 5.2.2.1 Windows サービス監視 (36 ページ) 」を参照してください。
プロセス監視パネル	ノードのプロセス監視設定を表示します。詳細は「 5.2.2.2 プロセス監視 (37 ページ) 」を参照してください。
性能監視パネル	ノードの性能監視設定を表示します。詳細は「 5.2.2.3 性能監視 (39 ページ) 」を参照してください。
サービスポート監視パネル	ノードのサービスポート監視設定を表示します。詳細は「 5.2.2.4 サービスポート監視 (40 ページ) 」を参照してください。
イベントログ監視パネル	ノードのイベントログ監視設定を表示します。OS 種別が Windows の場合にのみ表示されます。詳細は「 5.2.2.5 イベントログ監視 (41 ページ) 」を参照してください。
シスログ監視パネル	ノードのシスログ監視設定を表示します。OS 種別が Linux/Unix の場合にのみ表示されます。詳細は「 5.2.2.6 シスログ監視 (42 ページ) 」を参照してください。
アプリケーションログ監視パネル	ノードのアプリケーションログ監視設定を表示します。詳細は「 5.2.2.7 アプリケーションログ監視 (43 ページ) 」を参照してください。

5.2.1.11 監視テンプレート化

本項ではノードの監視設定を監視テンプレート化する方法について説明します。

監視設定タブで[テンプレート化...]アイコン  をクリックして「テンプレート化」ダイアログを表示します。

ノード監視 - テンプレート化
×

テンプレート名

設定対象

Windowsサービス監視

プロセス監視

性能監視

サービスポート監視

イベントログ監視

アプリケーションログ監視

備考

キャンセル

OK

図 5-33 「テンプレート化」ダイアログ

表 5-17 項目一覧（「テンプレート化」ダイアログ）

項目名	必須	説明
テンプレート名	○	監視テンプレートの名前を 256 文字以内で入力します。
設定対象	○	監視テンプレートに設定する監視設定を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows サービス監視：Windows サービス監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。ノードの OS の種別が Windows の場合に表示されます。 • プロセス監視：プロセス監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。 • 性能監視：性能監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。 • サービスポート監視：サービスポート監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。 • イベントログ監視：イベントログ監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。ノードの OS 種別が Windows の場合に表示されます。 • シスログ監視：シスログ監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。ノードの OS の種別が Linux もしくは Unix の場合に表示されます。 • アプリケーションログ監視：アプリケーションログ監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。
備考		監視テンプレートの備考を 1024 文字以内で入力します。

項目の入力が完了したら、[OK]ボタンをクリックして監視テンプレート化します。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合は入力内容を破棄して監視設定タブに戻ります。

5.2.1.12 監視テンプレートの適用(ノード)

本項では監視設定タブからの監視テンプレートの適用方法について説明します。

1. 監視設定タブで[テンプレート適用...]アイコンをクリックします。

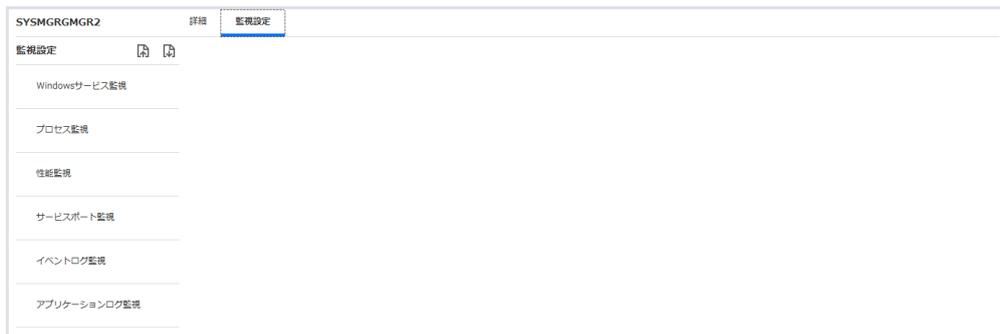


図 5-34 監視設定タブ テンプレート適用

2. 「テンプレート選択」ダイアログが表示されます。適用したいテンプレートを選択し、[OK]ボタンをクリックします。



図 5-35 「テンプレート選択」ダイアログ

3. テンプレートの適用状況を示すタスク一覧が表示されます。タスク一覧に表示される項目については「6.4.8 タスク (217 ページ)」を参照してください。



図 5-36 タスク一覧

4. タスク一覧からタスクを選択すると「タスク詳細」ダイアログが表示され、テンプレートの適用の実行ログを参照することができます。タスク詳細に表示される項目については「6.4.8 タスク (217 ページ)」を参照してください。

表示項目		値
タスク名	テンプレート適用	
対象	SYSMGRGMGR2	
状態	完了	
重要度	● 正常	
要求日時	2019/03/02 02:15:15+09:00	
開始日時	2019/03/02 02:15:15+09:00	
完了日時	2019/03/02 02:15:16+09:00	
実行ユーザ	管理者ユーザ	

時刻	重要度	メッセージ
02:15:16	● 正常	SYSMGRGMGR2に性能監視テンプレート(Windows)を適用しました
02:15:16	● 正常	SYSMGRGMGR2に性能監視設定を適用しました

閉じる

図 5-37 「タスク詳細」ダイアログ

5.2.2 監視設定

本項では「ノード監視」画面の監視設定タブおよび「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細から操作可能な監視設定機能について説明します。

5.2.2.1 Windows サービス監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[Windows サービス監視]をクリックすると Windows サービス監視設定パネルが開きます。Windows サービス監視設定パネルでは Windows サービスの監視状況を確認することができます。

表示項目	値
監視サービス表示名	SystemManager G API Gateway
監視サービス名	SystemManagerGAPIGateway
スタートアップ	自動
ログオン名	LocalSystem
サービス説明	"Carbon Kernel"

図 5-38 Windows サービス監視

本パネルは左に Windows サービスグループのツリーを表示します。ツリー上で Windows サービスグループを選択すると、右側に選択されたグループに属するサービスの一覧が表示されます。表には以下の項目があります。

表 5-18 項目一覧 (Windows サービス)

項目名	説明
監視サービス表示名	監視対象サービスの表示名を表示します。
スタートアップ	監視対象サービスのスタートアップ状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> システム 自動 手動 無効 不明
ログオン名	監視対象サービスのログオン名を表示します。

Windows サービスの一覧から Windows サービスを選択すると、下部に Windows サービス詳細が表示されます。

表 5-19 項目一覧 (Windows サービス詳細)

項目名	説明
監視サービス表示名	監視対象サービスの表示名を表示します。
監視サービス名	監視対象サービスのサービス名を表示します。
スタートアップ	監視対象サービスのスタートアップ状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> システム 自動 手動 無効 不明
ログオン名	監視対象サービスのログオン名を表示します。
サービス説明	監視対象サービスの説明を表示します。

5.2.2.2 プロセス監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[プロセス監視]をクリックするとプロセス監視設定パネルが開きます。プロセス監視設定パネルではプロセスの監視状況を確認することができます。

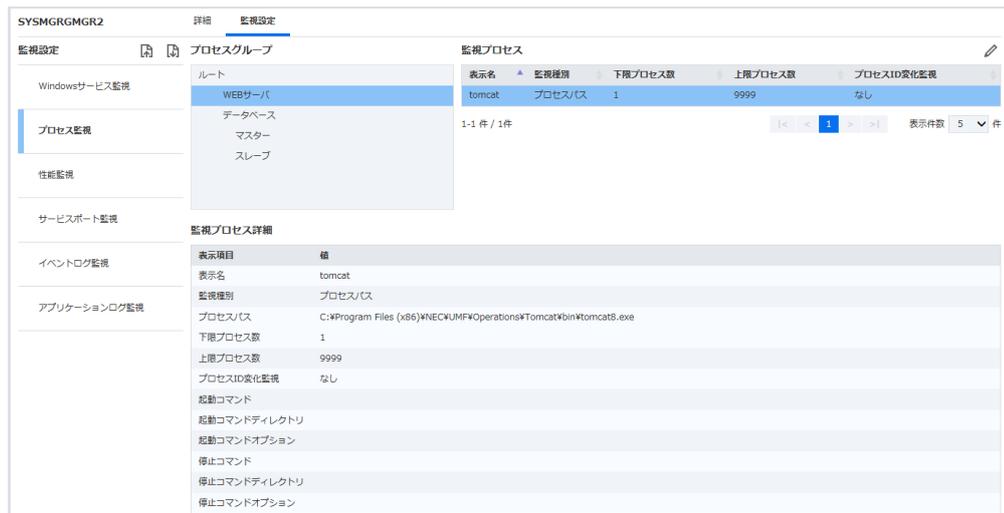


図 5-39 プロセス監視

本パネルは左にプロセスグループのツリーを表示します。ツリー上でプロセスグループを選択すると、右側に選択されたグループに属する監視サービスの一覧が表示されます。表には以下の項目があります。

表 5-20 項目一覧 (監視プロセス)

項目名	説明
表示名	監視対象プロセスの表示名を表示します。
監視種別	監視方法を表示します。以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> プロセスパス コマンドライン
下限プロセス数	プロセス数の下限値を表示します。
上限プロセス数	プロセス数の上限値を表示します。
プロセス ID 変化監視	プロセス ID の変化監視の有無を表示します。以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> あり なし

監視プロセスの一覧から監視プロセスを選択すると、下部に監視プロセス詳細が表示されます。

監視プロセス詳細には以下の項目があります。

表 5-21 項目一覧 (監視プロセス詳細)

項目名	説明
表示名	監視対象プロセスの表示名を表示します。
監視種別	監視方法を表示します。以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> プロセスパス コマンドライン
プロセスパス	監視種別がプロセスパスの場合はプロセスパスを表示します。
コマンドライン	監視種別がコマンドラインの場合はコマンドラインを表示します。
下限プロセス数	プロセス数の下限値を表示します。

項目名	説明
上限プロセス数	プロセス数の上限値を表示します。
プロセス ID 変化監視	プロセス ID の変化監視の有無を表示します。以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> あり なし
起動コマンド	起動コマンドのアプリケーションを表示します。
起動コマンドディレクトリ	起動コマンドの作業ディレクトリを表示します。
起動コマンドオプション	起動コマンドのオプションを表示します。
停止コマンド	停止コマンドのアプリケーションを表示します。
停止コマンドディレクトリ	停止コマンドの作業ディレクトリを表示します。
停止コマンドオプション	停止コマンドのオプションを表示します。

5.2.2.3 性能監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[性能監視]をクリックすると性能監視設定パネルが開きます。性能監視設定パネルでは性能情報の監視状況を確認することができます。

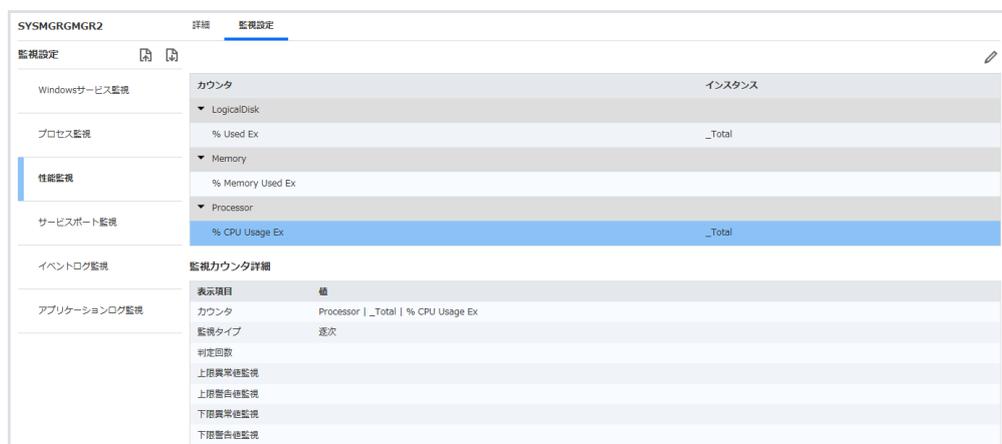


図 5-40 性能監視一覧

表 5-22 項目一覧 (性能監視)

項目名	説明
カウンタ	監視対象の項目を表示します。
インスタンス	監視対象のインスタンスを表示します。

カウンタをクリックすると、以下に示す監視カウンタ詳細が表示されます。

表示項目	値
カウンタ	Processor _Total % CPU Usage Ex
監視タイプ	逐次
判定回数	
上限異常値監視	
上限警告値監視	
下限異常値監視	
下限警告値監視	

図 5-41 監視カウンタ詳細

表 5-23 項目一覧 (監視カウンタ詳細)

項目名	説明
カウンタ	監視対象の項目を表示します。
監視タイプ	以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 逐次 連続 平均
判定回数	連続と平均の場合のみ表示します。連続の場合は閾値を何回超えた場合に通知するかを示し、平均の場合は過去何回分の平均値を使用するかを示します。
上限異常値監視	上限異常閾値を表示します。上限異常値監視をしない場合は空欄です。
上限警告値監視	上限警告閾値を表示します。上限警告値監視をしない場合は空欄です。
下限異常値監視	下限異常閾値を表示します。下限異常値監視をしない場合は空欄です。
下限警告値監視	下限警告閾値を表示します。下限警告値監視をしない場合は空欄です。

5.2.2.4 サービスポート監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[サービスポート監視]をクリックすると サービスポート監視設定パネルが開きます。サービスポート監視設定パネルではサービスポートの監視状況を確認することができます。

表示名	ポート番号	プロトコル	正常なポート状態
HTTP	80	TCP	オープン
クロース監視	12080	TCP	クローズ
データベース	1234	TCP	オープン

図 5-42 サービスポート監視

表 5-24 項目一覧 (サービスポート監視)

項目名	説明
表示名	サービスポートの表示名を表示します。
ポート番号	サービスポートのポート番号を表示します。
プロトコル	以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> TCP

項目名	説明
正常なポート状態	<ul style="list-style-type: none"> • UDP 以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • オープン • クローズ

サービスポート監視の一覧表からサービスポートを選択すると、以下に示すサービスポート監視設定詳細が表示されます。

表示項目	値
表示名	HTTP
ポート番号	80
プロトコル	TCP
正常なポート状態	オープン
監視間隔	30秒
接続タイムアウト	3秒
リトライ回数	
監視アドレス	localhost

図 5-43 サービスポート詳細

表 5-25 項目一覧 (サービスポート詳細)

項目名	説明
表示名	サービスポートの表示名を表示します。
ポート番号	サービスポートのポート番号を表示します。
プロトコル	以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • TCP • UDP
正常なポート状態	以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • オープン • クローズ
監視間隔	ポートを監視する間隔 (秒) を表示します。
接続タイムアウト	接続タイムアウトと判断する時間 (秒) を表示します。
リトライ回数	接続タイムアウト時のリトライ回数を表示します。
監視アドレス	監視対象アドレスを表示します。IP アドレス (IPv4/IPv6) 形式または localhost が表示されます。

5.2.2.5 イベントログ監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[イベントログ監視]をクリックするとイベントログ監視設定パネルが開きます。イベントログ監視設定パネルではイベントログの監視状況を確認することができます。

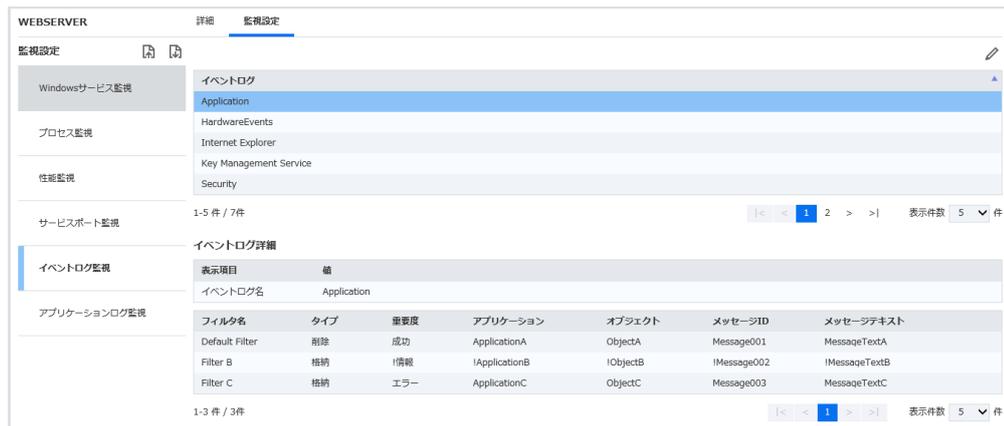


図 5-44 イベントログ監視

イベントログの一覧からイベントログを選択すると、下部にイベントログ詳細が表示されます。イベントログ詳細には以下の項目があります。

表 5-26 項目一覧（イベントログ詳細）

項目名	説明
イベントログ名	イベントログの名前を表示します。
ログフィルタ	ログフィルタの一覧を表示します。

表 5-27 項目一覧（ログフィルタ）

項目名	説明
フィルタ名	ログフィルタ名を表示します。
タイプ	フィルタタイプを以下のいずれかで表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 格納 削除 [格納]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されます。[削除]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されず、後続のフィルタについてのフィルタ処理も行われません。
重要度	イベントログの種類のフィルタ条件を表示します。
アプリケーション	イベントログのソースのフィルタ条件を表示します。
オブジェクト	イベントログのタスクのカテゴリまたは分類のフィルタ条件を表示します。
メッセージ ID	イベントログのイベント ID のフィルタ条件を表示します。
メッセージテキスト	メッセージ本文に対するフィルタ条件を表示します。

5.2.2.6 シスログ監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[シスログ監視]をクリックするとシスログ監視設定パネルが開きます。シスログ監視設定パネルではシスログの監視状況を確認することができます。



図 5-45 シスログ監視

シスログの一覧からシスログを選択すると、下部にシスログ詳細が表示されます。シスログ詳細には以下の項目があります。

表 5-28 項目一覧（シスログ詳細）

項目名	説明
シスログ名	シスログの名前を表示します。
ログフィルタ	ログフィルタの一覧を表示します。

表 5-29 項目一覧（ログフィルタ）

項目名	説明
フィルタ名	ログフィルタ名を表示します。
タイプ	フィルタタイプを以下のいずれかで表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 格納 削除 [格納]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されます。[削除]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されず、後続のフィルタについてのフィルタ処理も行われません。
カテゴリ	シスログのカテゴリを表示します。
重要度	ログをメッセージ通知する際に付与される重要度を表示します。
アプリケーション	ログをメッセージ通知する際に付与されるアプリケーション名を表示します。
オブジェクト	ログをメッセージ通知する際に付与されるオブジェクト名を表示します。
メッセージ ID	ログをメッセージ通知する際に付与されるメッセージ ID を表示します。
メッセージテキスト	メッセージ本文に対するフィルタ条件を表示します。

5.2.2.7 アプリケーションログ監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[アプリケーションログ監視]をクリックするとアプリケーションログ監視設定パネルが開きます。アプリケーションログ監視設定パネルではアプリケーションログの監視状況を確認することができます。



図 5-46 アプリケーションログ監視

表 5-30 項目一覧 (アプリケーションログ詳細)

項目名	説明
アプリケーションログ名	アプリケーションログの名前を表示します。
ログファイル名	アプリケーションログのファイルパスを表示します。
ログファイル文字コード	アプリケーションログの文字コードです。 <ul style="list-style-type: none"> • US-ASC II • Unicode(UTF-8) • Unicode(Big-Endian) • Unicode • Japanese(Shift-JIS) • Japanese(JIS) • Japanese(JIS 0208-1990 and 0212-1990) • Chinese Traditional(Big5) • Chinese Simplified(GB2312) • Chinese Simplified(GB18030)
ログフィルタ	ログフィルタの一覧を表示します。

本パネルは左にアプリケーションロググループのツリーを表示します。ツリー上でアプリケーションロググループを選択すると、右側に選択されたグループに属するアプリケーションログの一覧が表示されます。アプリケーションログの一覧からアプリケーションログを選択すると、下部にアプリケーションログ詳細が表示されます。アプリケーションログ詳細には以下の項目があります。

表 5-31 項目一覧 (ログフィルタ)

項目名	説明
フィルタ名	ログフィルタ名を表示します。
タイプ	フィルタタイプを以下のいずれかで表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 格納 • 削除 <p>[格納]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されます。[削除]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されず、後続のフィルタについてのフィルタ処理も行われません。</p>

項目名	説明
カテゴリ	ログをメッセージ通知する際に付与されるカテゴリを表示します。
重要度	ログをメッセージ通知する際に付与される重要度を表示します。
アプリケーション	ログをメッセージ通知する際に付与されるアプリケーション名を表示します。
オブジェクト	ログをメッセージ通知する際に付与されるオブジェクト名を表示します。
メッセージ ID	ログをメッセージ通知する際に付与されるメッセージ ID を表示します。
メッセージテキスト	メッセージ本文に対するフィルタ条件を表示します。

第 5 編

利用者操作編

本編では、利用者が操作する機能について説明します。

第6章 監視(利用者)

本章では監視メニューについて説明します。

6.1 ノード

本項ではノード機能について説明します。

メニューから、[監視]-[ノード]をクリックすることにより、「ノード」画面が表示されます。

「ノード」画面にはノード一覧パネル、ステータスパネル(初期非表示)、メッセージパネル(初期非表示)が表示されます。

ノード一覧パネル、ステータスパネルでは、監視対象ノードの現在の状況を表示します。ノードの重要度は、そのノードの各監視項目(プロセスや性能情報等)のうち、最も緊急度の高い項目の重要度になります。また、ノードは任意の階層のグループにまとめることができます。グループの重要度は、配下のノード(グループ)のうち最も緊急度の高い重要度になるため、グループツリーのトップ階層から重要度の高いグループを辿っていくことで、障害が発生しているノードを特定することができます。

グループツリーのルートでは、特定のメッセージが発生した場合に、あらかじめ登録された設定で通報を行うための、フィルタ設定ができます。フィルタ設定画面の表示方法は「[6.1.1 ノード一覧の表示 \(48 ページ\)](#)」を、フィルタ設定の詳細は「[6.1.10 通報フィルタの設定 \(62 ページ\)](#)」を参照してください。

メッセージパネルでは、ノード一覧パネルで選択したノードもしくはグループのメッセージの一覧表示、メッセージの操作を行えます。表示内容の詳細は「[6.2.1 メッセージ一覧の表示 \(78 ページ\)](#)」を参照してください。

[自動更新]チェックボックスをオンにすると各パネルが30秒毎に自動更新されます。

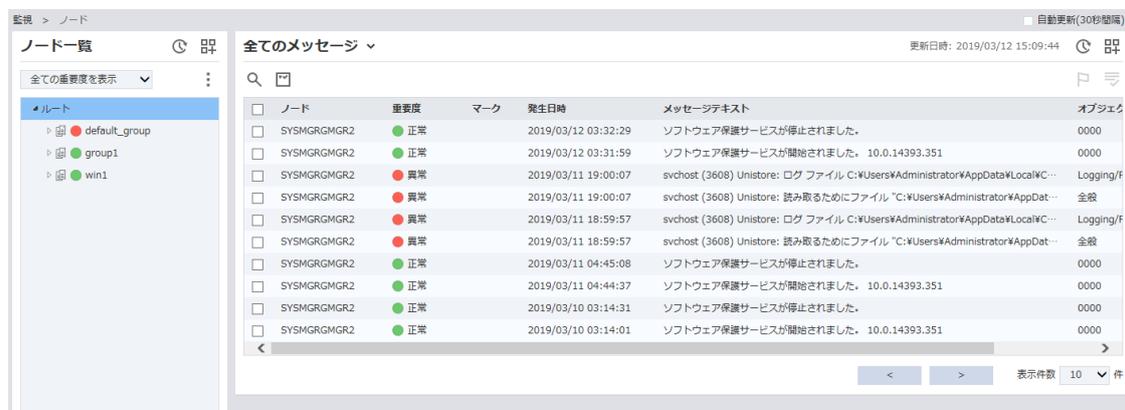


図 6-1 「ノード」画面

6.1.1 ノード一覧の表示

本項ではノード一覧を表示するためのノード一覧パネルについて説明します。

メニューから、[監視]-[ノード]をクリックすることにより、「ノード」画面にノード一覧パネルが表示されます。ノード一覧パネルにはグループツリーが表示されます。

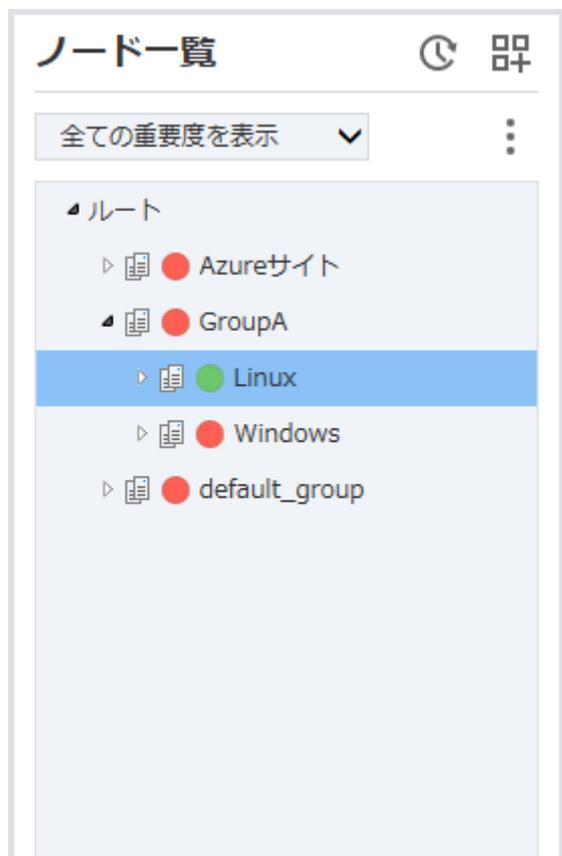


図 6-2 「ノード」画面 ノード一覧パネルとグループツリー

表 6-1 項目一覧（「ノード」画面 ノード一覧パネルとグループツリー）

項目名	説明
ノード一覧トグル	ノード一覧パネルを開閉します。
更新アイコン🔄	ノード一覧パネルを更新します。
ウィジェット追加アイコン📌	現在表示されているノード一覧パネルをダッシュボードにウィジェットとして貼り付けます。
重要度選択	選択した重要度より緊急度の高いグループに絞り込んでツリー表示します。
操作メニュー⋮	選択したグループに対する操作メニューを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 「6.1.4 グループの作成 (54 ページ)」 「6.1.5 グループ名の変更 (55 ページ)」 「6.1.6 グループの移動 (56 ページ)」 「6.1.7 グループの削除 (58 ページ)」 「6.1.8 ノードの移動 (59 ページ)」 「6.1.10.1 フィルター一覧の表示 (62 ページ)」

項目名	説明
	「6.1.10.1 フィルター一覧の表示 (62 ページ)」は選択したグループがルートの場合のみ有効です。

また、ノード一覧パネルのグループツリーからグループを開くと、グループに所属するノードがツリー上に表示されます。

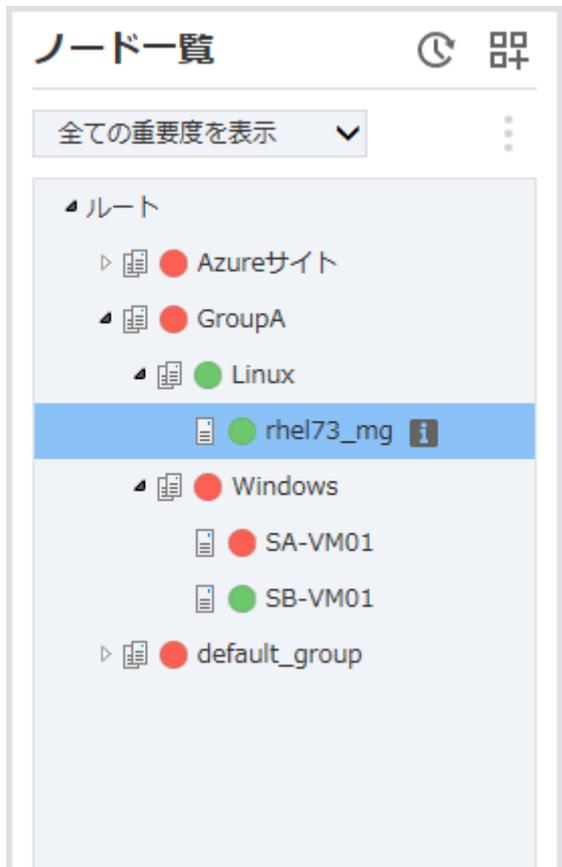


図 6-3 「ノード」画面ノード

グループツリーのノードを選択するかマウスカーソルを合わせると、ノード名の横に詳細アイコンが表示されます。詳細アイコンをクリックすると、「ノード詳細」ダイアログが表示されます。

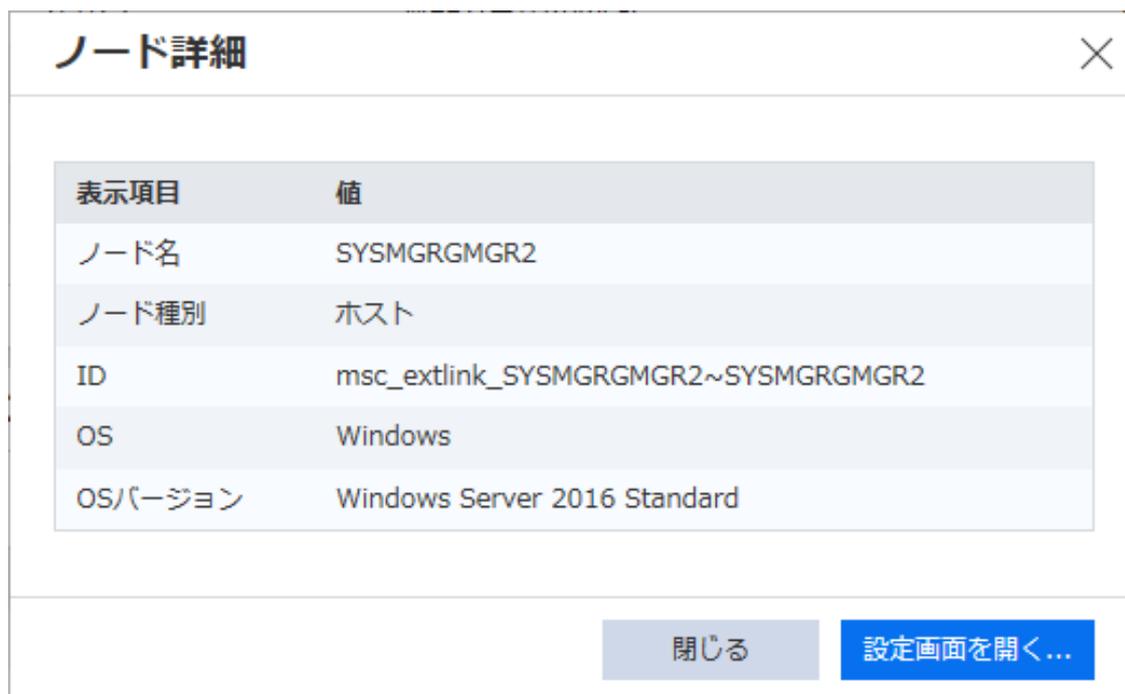


図 6-4 「ノード詳細」ダイアログ

表 6-2 項目一覧（「ノード詳細」ダイアログ）

項目名	説明
ノード名	名前を表示します。
ノード種別	種別を表示します。
ID	ノードを一意に識別する ID です（ノード ID、またはエージェント ID と表記される場合があります）。
OS	OS 種別を表示します。
OS バージョン	OS のバージョンを表示します。
閉じる	「ノード詳細」ダイアログを閉じます。
設定画面を開く...	「監視設定」画面を開きます。

6.1.2 ステータスパネルの表示

本項ではグループあるいはノードのステータスを表示するためのステータスパネルについて説明します。

グループツリー上でグループを選択することで、そのグループに所属するノードのステータスが重要度順に 100 件表示されます。

また、グループツリー上でノードを選択することでノードのステータスが重要度順に全件表示されます。



図 6-5 「ノード」画面 ステータスパネル(グループ)



図 6-6 「ノード」画面 ステータスパネル(ノード)

表 6-3 項目一覧(「ノード」画面 ステータスパネル)

項目名	説明
ステータストグル	ステータスパネルを開閉します。
更新アイコン🕒	ステータスパネルを更新します。
ウィジェット追加アイコン📌	現在表示されているステータスパネルをダッシュボードにウィジェットとして貼り付けます。 グループのステータスを表示している場合、重要度別件数とステータス一覧のいずれか、または両方表示するかを選択することができます。
重要度別件数	グループ内のノードを重要度別に集計して表示します。グループを選択した場合にのみ表示します。 重要度をクリックすると、ステータスとメッセージがクリックした重要度に絞り込まれます。ただし、ステータス一覧は画面に表示されているステータスのみが絞り込みの対象になります。
検索ボックス	ノードを選択した場合にのみ表示します。種別または、対象を入力し一覧を絞り込みます。
重要度	重要度を表示します。
ノード名	名称を表示します。グループに対する詳細表示の場合のみ表示します。
種別	種別を表示します。
対象	対象を表示します。
発生日時	発生日時を表示します。
状態	状態を表示します。
アクション	アクションアイコンを表示します。ノードを選択した場合にのみ表示されます。

項目名	説明
	<ul style="list-style-type: none"> 種別が[性能]の場合、性能グラフ表示アイコンが表示されます。性能グラフ表示の詳細は「6.1.3 性能グラフの表示 (52 ページ)」を参照してください。 種別が[プロセス]の場合、プロセスの復旧を行うための[起動][停止]アイコンが表示されます。[運用管理操作権]を持つユーザにのみ表示されます。 種別が[Windows サービス]の場合、Windows サービスの復旧を行うための[起動][停止][その他の操作]アイコンが表示されます。[運用管理操作権]を持つユーザにのみ表示されます。[その他の操作]アイコンをクリックすると、プルダウンメニューが表示され、[一時停止][再開]等の、その他の操作を選択することができます。 <p>Windows サービスを停止する際、依存するサービスが存在すると停止に失敗します。依存サービスも含めて全て停止する場合は[その他の操作]から、[強制停止]を選択してください。</p> <p>復旧操作を実行すると、一定時間 (約 20 秒)、その監視項目に対する操作ができなくなります。</p> <p>復旧操作については「復旧操作一覧」も参照してください。</p>

表 6-4 復旧操作一覧

種別	説明
プロセス	<p>プロセスの起動・停止操作を行います。</p> <p>プロセスの復旧操作はプロセスの状態にかかわらず表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> プロセス起動 プロセス停止
Windows サービス	<p>Windows サービスの起動・停止等の操作を行います。</p> <p>サービスの状態・種類により可能な操作が異なります。操作可能な項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス起動 サービス停止 サービス一時停止 サービス再開 サービス再起動 サービス強制停止 サービス強制再起動

注

プロセスの[起動][停止]アイコンはプロセスの状態にかかわらず表示され、実行することが可能です。[起動][停止]の操作を行なう際はプロセスの状態を確認したうえで実施してください。

6.1.3 性能グラフの表示

本項では取得した性能値をもとに作成される性能グラフについて説明します。

ノードの監視ステータスから性能グラフアイコンをクリックすると性能グラフが表示されます。

性能 - グラフ表示 SYSMGRGMGR2の性能情報

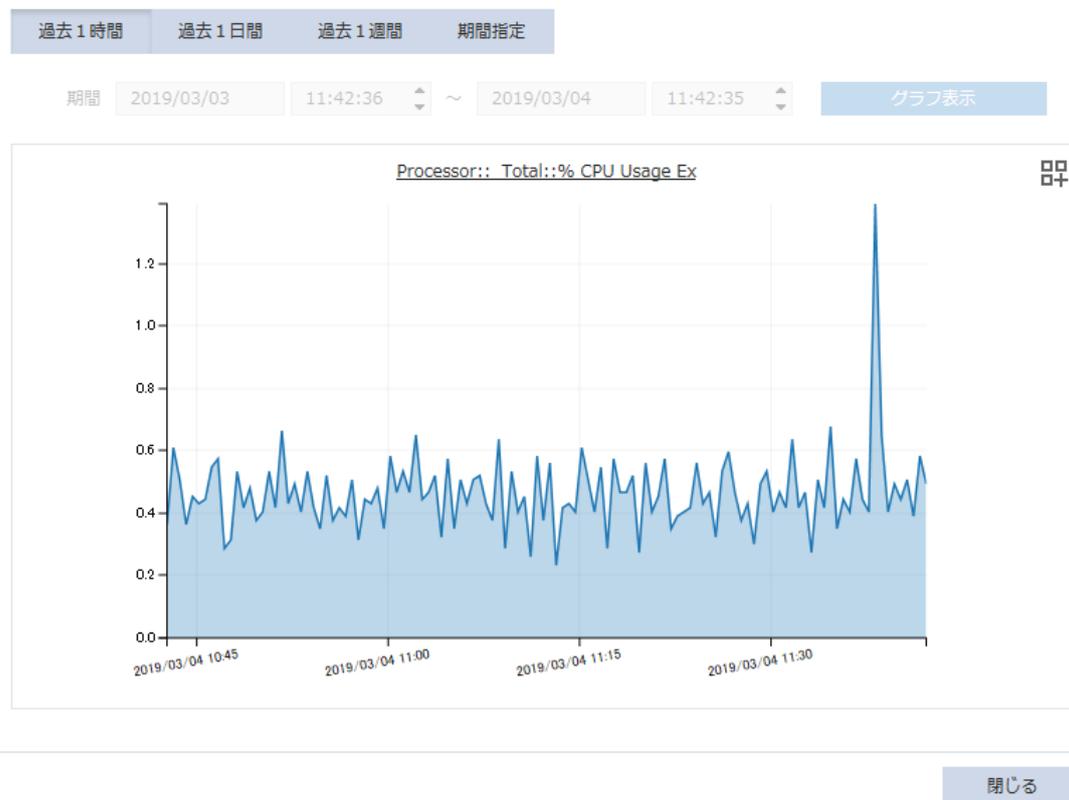


図 6-7 性能グラフ

表 6-5 項目一覧 (性能グラフ)

項目名	説明
過去 1 時間	過去 1 時間のグラフを表示します。初期表示時はこのボタンが選択されています。
過去 1 日間	過去 1 日間のグラフを表示します。
過去 1 週間	過去 1 週間のグラフを表示します。
期間指定	開始時刻、終了時刻を指定して[グラフ表示]ボタンをクリックすると、指定された期間のグラフを表示します。 開始時刻、終了時刻ともに 1971/01/01 00:00:00～2036/12/31 23:59:59 の範囲で指定します。 開始時刻と終了時刻の間隔は 1 週間まで指定することができます。
ウィジェット追加アイコン	現在表示されている性能グラフをダッシュボードにウィジェットとして貼り付けます。

ヒント

描画領域の制限により表示する期間によってはデータが間引かれます。間引きなしに表示できる期間は以下の通りです。

表 6-6 間引きなしに表示できる期間

監視間隔	期間
30 秒(default)	3 時間 7 分 30 秒(11250 秒)
10 秒(min)	1 時間 2 分 30 秒(3750 秒)

6.1.4 グループの作成

本項ではグループの作成方法について説明します。

1. 作成先の親グループをグループツリーから選択します。
2. 選択すると操作メニュー[⋮]の[グループ作成]が有効になるため、[グループ作成]をクリックします。



図 6-8 「ノード」画面 グループ作成

3. 「グループ作成」ダイアログが表示されるため、グループ名を入力し、[OK]ボタンをクリックするとグループが作成されます。

ノード一覧 - グループ作成

作成先 Linux

グループ名

キャンセル OK

図 6-9 「グループ作成」ダイアログ

表 6-7 項目一覧（「グループ作成」ダイアログ）

項目名	入力規則	説明
グループ名	128 文字以内	作成するグループの名称となります。

6.1.5 グループ名の変更

本項ではグループ名の変更方法について説明します。

1. 名称を変更したいグループをグループツリーから選択します。
2. 選択すると操作メニュー[⋮]の[グループ名変更]が有効になるため、[グループ名変更]をクリックします。



図 6-10 「ノード」画面 グループ名変更

3. 「グループ名変更」ダイアログが表示されるため、グループ名を入力し、[OK]ボタンをクリックするとグループ名が変更されます。



図 6-11 「グループ名変更」ダイアログ

表 6-8 項目一覧 (グループ名変更)

項目名	入力規則	説明
グループ名	128 文字以内	変更後のグループの名称となります。

6.1.6 グループの移動

本項ではグループの移動方法について説明します。

1. 移動対象のグループをグループツリーから選択します。

2. 操作メニュー[⋮]の[グループ移動]が有効となるため、[グループ移動]をクリックします。



図 6-12 「ノード」画面 グループ移動

3. 「グループ移動」ダイアログが表示されるため、移動先のグループを選択し、[OK]ボタンをクリックするとグループが移動されます。

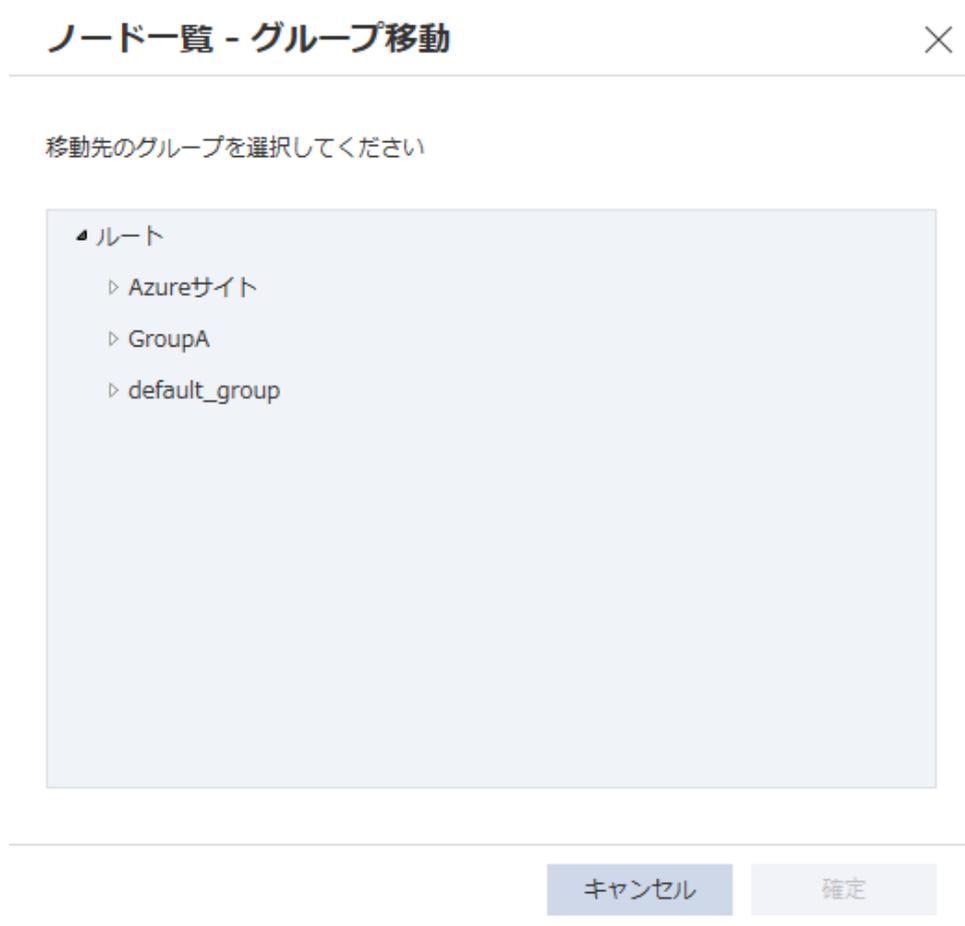


図 6-13 「グループ移動」ダイアログ

6.1.7 グループの削除

本項ではグループの削除方法について説明します。

注

- 削除対象のグループ配下にグループが存在している場合はグループを削除することができません。
- 削除対象のグループ配下にノードが存在している場合、グループを削除するとノードは default_group 配下に移動します。

1. 削除対象のグループをグループツリーから選択します。
2. 選択すると操作メニュー  の[グループ削除]が有効になるため、[グループ削除]をクリックします。



図 6-14 「ノード」画面 グループ削除

3. 「グループ削除」ダイアログが表示されるため、[OK]ボタンをクリックするとグループが削除されます。

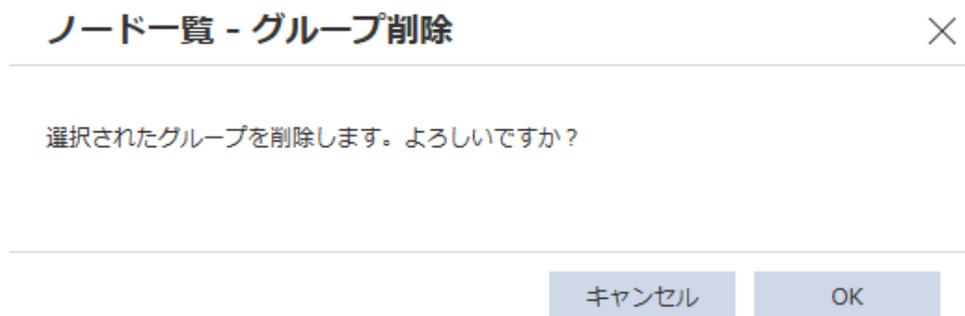


図 6-15 「グループ削除」ダイアログ

6.1.8 ノードの移動

本項ではノードの移動方法について説明します。

1. 移動対象のノードが所属するグループをグループツリーから選択します。
2. 選択すると操作メニューの[ノード移動]が有効になるため、[ノード移動]をクリックします。



図 6-16 「ノード」画面 ノード移動

3. 「ノード移動」ダイアログが表示されるため移動対象のノードをチェックし[移動先選択]ボタンをクリックします。



図 6-17 「ノード移動」ダイアログ

4. 移動先のグループを選択するためのダイアログが表示されるため、移動先のグループを選択し[確定]ボタンをクリックするとノードが移動されます。

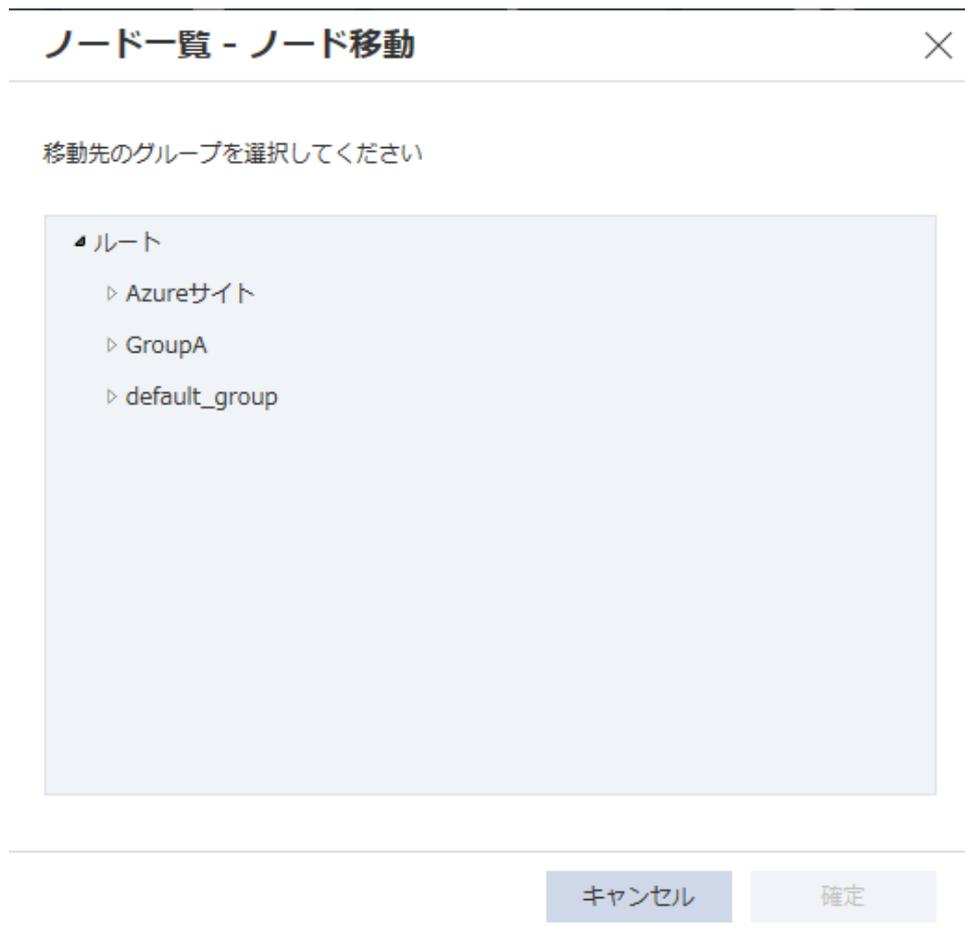


図 6-18 「ノード移動」ダイアログ 移動先選択

6.1.9 ノードの監視

本項ではノードの監視設定について説明します。

1. グループツリーから監視設定対象のノードを選択もしくはマウスカーソルを合わせます。
2. ノード名の横に表示される詳細アイコンをクリックします。
3. 「ノード詳細」ダイアログが表示され、[設定画面を開く...]ボタンをクリックすると「監視設定」画面に遷移します。

ノード詳細	
表示項目	値
ノード名	rhel73_mg
ノード種別	ホスト
ID	mssc_extlink_SYSMGRG1~rhel73_mg
OS	Linux
OSバージョン	Red Hat Enterprise Linux Server release 7.5 (Maipo)

閉じる 設定画面を開く...

図 6-19 「ノード」画面 ノード監視

4. 監視設定の詳細は「[5.2.2 監視設定 \(36 ページ\)](#)」を参照してください。

6.1.10 通報フィルタの設定

本項ではノード画面で通報を行うためのメッセージフィルタ機能について説明します。

「ノード」画面のルートノードでは、システム内のエージェントのハードウェア/ソフトウェアのメッセージを一元管理し照会することができ、特定のメッセージが発生した場合に、あらかじめ登録された設定で通報を行い、オペレータに通知することができます。

通報を行うためには、システムで発生するメッセージが通報の対象かどうかを判定するフィルタを設定する必要があります。

6.1.10.1 フィルター一覧の表示

本項ではノード画面で通報を行うためのメッセージフィルタの設定方法について説明します。

フィルタの設定はフィルター一覧画面から行います。

フィルター一覧画面の表示方法は「[6.1.1 ノード一覧の表示 \(48 ページ\)](#)」を参照してください。

フィルタは優先順位順に表示されます。メッセージが出力されると、優先順位の高い順にメッセージがフィルタリングされ、最初に条件に一致したフィルタに設定されているアクションが実行されます。

フィルター一覧								
<input type="checkbox"/>	フィルタ名	タイプ	状態	ノード	アプリケーション	オブジェクト	メッセージID	メッセージテキスト
<input type="checkbox"/>	アプリケーション正常	抽出	有効		Apache		000001	
<input type="checkbox"/>	ノード異常	抽出	有効	SM-VM01			000001	
<input type="checkbox"/>	アプリケーション異常	抽出	有効		Apache		000001	

+ 削除 有効 無効 順序変更

戻る

図 6-20 フィルター一覧

表 6-9 項目一覧（フィルター一覧画面）

項目名	説明
追加アイコン+	フィルタを追加します。
削除アイコン	フィルタを削除します。
有効アイコン	フィルタを有効にします。
無効アイコン	フィルタを無効にします。
順序変更	チェックボックスをオンにすることでフィルタの順序を変更できるようになります。
フィルタ名	フィルタ名を表示します。
タイプ	フィルタのタイプを表示します。 抽出：条件に一致したメッセージが通報の対象になります。 除外：条件に一致したメッセージは通報の対象になりません。（以降のフィルタは処理されません）。
状態	フィルタの状態を表示します。 有効：フィルタリングの条件として有効であることを示します。 無効：一時的にフィルタリングの条件から外されていることを示します。
ノード	ノード名の条件文（正規表現）を表示します。
アプリケーション	アプリケーションの条件文（正規表現）を表示します。
オブジェクト	オブジェクトの条件文（正規表現）を表示します。
メッセージ ID	メッセージ ID の条件文（正規表現）を表示します。
メッセージテキスト	メッセージテキストの条件文（正規表現）を表示します。
[戻る]ボタン	「ノード」画面に戻ります。

フィルター一覧のフィルタをクリックすると、フィルタ詳細が表示されます。

アプリケーション正常 ✎

表示項目	値
フィルタ名	アプリケーション正常
状態	有効
タイプ	抽出

フィルタ条件

表示項目	値												
グループ													
ノード													
アプリケーション	Apache												
オブジェクト													
メッセージID	≠ 000001												
カテゴリ													
メッセージ概要													
メッセージ定義ID													
重要度													
メッセージテキスト													
位置指定	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>否定</th> <th>比較位置</th> <th>比較条件</th> <th>比較値</th> <th>比較値形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>1</td> <td>=</td> <td>error</td> <td>文字列</td> </tr> </tbody> </table>	否定	比較位置	比較条件	比較値	比較値形式	<input type="checkbox"/>	1	=	error	文字列		
否定	比較位置	比較条件	比較値	比較値形式									
<input type="checkbox"/>	1	=	error	文字列									
キー指定	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>否定</th> <th>キー値</th> <th>比較条件</th> <th>比較値</th> <th>比較値形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td>error</td> <td>=</td> <td>fatal</td> <td>文字列</td> </tr> </tbody> </table>	否定	キー値	比較条件	比較値	比較値形式	<input checked="" type="checkbox"/>	error	=	fatal	文字列		
否定	キー値	比較条件	比較値	比較値形式									
<input checked="" type="checkbox"/>	error	=	fatal	文字列									
タグ	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">比較方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>どれかに一致する</td> </tr> <tr> <th>否定</th> <th>タグ名</th> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>tagA</td> </tr> <tr> <th colspan="2">比較条件</th> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>で始まる</td> </tr> </tbody> </table>	比較方法		<input type="checkbox"/>	どれかに一致する	否定	タグ名	<input type="checkbox"/>	tagA	比較条件		<input type="checkbox"/>	で始まる
比較方法													
<input type="checkbox"/>	どれかに一致する												
否定	タグ名												
<input type="checkbox"/>	tagA												
比較条件													
<input type="checkbox"/>	で始まる												

アクション定義

表示項目	値
状態	有効
完了時の自動確認	自動確認しない
電子メール通報	ECサイト担当者への通報
コマンド実行	インシデント登録コマンド

図 6-21 「フィルター一覧」画面 フィルタ詳細

表 6-10 項目一覧（「フィルター一覧」画面 フィルタ詳細）

項目名	説明
フィルタ名	フィルタ名を表示します。
状態	フィルタの状態を表示します。 有効：フィルタリングの条件として有効であることを示します。 無効：一時的にフィルタリングの条件から外されていることを示します。
タイプ	フィルタのタイプ [抽出]を指定した場合、フィルタに一致したメッセージが通報の対象になります。 [除外]を指定した場合、フィルタに一致したメッセージは通報の対象になりません。(以降のフィルタは処理されません)。除外フィルタには、アクション定義を設定できません。
グループ	グループの条件を表示します。
ノード	ノード名の条件文（正規表現）を表示します。
アプリケーション	アプリケーションの条件文（正規表現）を表示します。
オブジェクト	オブジェクトの条件文（正規表現）を表示します。
メッセージID	メッセージIDの条件文（正規表現）を表示します。
カテゴリ	カテゴリの条件文（正規表現）を表示します。
メッセージ概要	メッセージ概要の条件文（正規表現）を表示します。
メッセージ定義ID	メッセージ定義IDの条件文（正規表現）を表示します。

項目名	説明
重要度	重要度の条件を表示します。
メッセージテキスト	メッセージテキストの条件文（正規表現）を表示します。
位置指定	位置指定のフィルタ条件を設定している場合は、以下パラメータを表形式で表示します。 否定：否定にチェックを入れた場合、チェックされたチェックボックスを表示します。 比較位置：比較位置に指定した文字数を表示します。 比較条件：比較条件に指定した不等号を表示します。 比較値：比較値に指定した文字列を表示します。 比較形式：比較値の比較形式を表示します。
キー指定	キー指定のフィルタ条件を設定している場合は、以下パラメータを表形式で表示します。 否定：否定にチェックを入れた場合、チェックされたチェックボックスを表示します。 キー値：キー値に指定した文字列を表示します。 比較条件：比較条件に指定した不等号を表示します。 比較値：比較値に指定した文字列を表示します。 比較形式：比較値の比較形式を表示します。
タグ	タグのフィルタ条件を設定している場合は、以下パラメータを表形式で表示します。 比較方法：指定した比較方法を表示します。 否定：否定にチェックを入れた場合、チェックされたチェックボックスを表示します。 タグ名：タグに指定した文字列を表示します。 比較条件：比較条件に指定した文字列を表示します。
編集アイコン 	フィルタの条件を変更します。 詳細は「 6.1.10.2 フィルタの追加・変更 (66 ページ) 」を参照してください。
引用アイコン 	詳細表示中のフィルタ情報を引用してフィルタを追加します。 詳細は「 6.1.10.2 フィルタの追加・変更 (66 ページ) 」を参照してください。 追加したフィルタは、引用元のフィルタの一つ上に挿入されます。

注

[否定]（条件に該当しないものを対象とする）条件の場合、条件の先頭に[≠]を表示します。

格納タイプのフィルタで、アクション定義設定がされている場合、フィルタ詳細画面に、以下のアクション定義一覧が表示されます。

表 6-11 項目一覧（「フィルター一覧」画面 フィルタ詳細 - アクション定義）

項目名	説明
状態	アクション定義の状態を表示します。 有効：フィルタに合致するメッセージが発生した場合に定義されているアクション（メール通報、コマンド実行）が行われる状態です。

項目名	説明
	無効:フィルタに合致するメッセージが発生した場合でも定義されているアクション(メール通報、コマンド実行)が行われない状態です。一時的にアクションの実行を停止したい場合に利用します。
完了時の自動確認	アクション定義の完了時の自動確認を表示します。 自動確認する:フィルタに合致したメッセージを、自動的に「確認済み」にする設定です。 自動確認しない:フィルタにメッセージが合致しても、自動的に「確認済み」にしません。既定値ではこちらが設定されます。
電子メール通報	フィルタに合致した際に実行される、メール通報設定の通報設定名を表示します。
メール通報 情報アイコン 	メール通報設定の設定内容をダイアログ画面に表示します。 メール通報設定の設定内容については「 6.4.6.1 メール通報設定の追加・変更 (209 ページ) 」を参照してください。
コマンド実行	フィルタに合致した際に実行される、コマンド設定の通報設定名を表示します。
コマンド 情報アイコン 	コマンド設定の設定内容をダイアログ画面に表示します。 コマンド設定の設定内容については「 6.4.7.1 コマンド設定の追加・変更 (214 ページ) 」を参照してください。

6.1.10.2 フィルタの追加・変更

本項ではメッセージフィルタの追加・変更方法について説明します。

「フィルター一覧」画面にて[追加]アイコンをクリックする、または「フィルター一覧」画面にてフィルタを選択し、[引用]アイコンをクリックすることにより、「メッセージフィルタ追加」画面を表示します。[引用]を選択した場合、各条件の入力フィールドには選択したフィルタの条件がセットされた状態で表示されます。

「フィルター一覧」画面にてフィルタを選択し、[変更]アイコンをクリックすることにより、「メッセージフィルタ変更」画面を表示します。

図 6-22 「メッセージフィルタ追加」画面

表 6-12 項目一覧(「メッセージフィルタ追加」画面)

項目名	説明
フィルタ名	フィルタの名前を 0～128 文字で入力します
状態	[有効]を指定した場合、フィルタの状態を有効とします。 [無効]を指定した場合、フィルタの状態を無効とします。
タイプ	フィルタのタイプ [抽出]を指定した場合、フィルタに一致したメッセージが通報の対象になります。 [除外]を指定した場合、フィルタに一致したメッセージは通報の対象になりません。(以降のフィルタは処理されません)。除外フィルタには、アクション定義を設定できません。
グループ	グループを選択します。選択したグループ配下のノードのメッセージを対象とします。
否定(グループ)	チェックが入った場合、選択したグループ以外を対象とします。[配下のグループも含める]もチェックした場合、選択したグループ配下の全てのグループ以外のグループが対象になります。
配下のグループを含める	チェックを入れた場合、指定したグループ配下のすべてグループを対象とします。
否定(ノード名)	チェックが入った場合、ノード名に対するフィルタ条件に一致しないもの全てを条件に一致したとみなします。

項目名	説明
ノード名	ノード名に対するフィルタ条件を正規表現で指定します。
否定(アプリケーション)	チェックが入った場合、アプリケーションに対するフィルタ条件に一致しないものを条件に一致したとみなします。
アプリケーション	アプリケーションに対するフィルタ条件を指定します。
否定(オブジェクト)	チェックが入った場合、オブジェクトに対するフィルタ条件に一致しないものを条件に一致したとみなします。
オブジェクト	オブジェクト(メッセージ発生元のオブジェクト名)に対するフィルタ条件を正規表現で指定します。
否定(メッセージID)	チェックが入った場合、メッセージIDに対するフィルタ条件に一致しないものを条件に一致したとみなします。
メッセージID	メッセージIDに対するフィルタ条件を指定します。
否定(カテゴリ)	チェックが入った場合、カテゴリに対するフィルタ条件に一致しないものを条件に一致したとみなします。
カテゴリ	カテゴリに対するフィルタ条件を指定します。
否定(メッセージ概要)	チェックが入った場合、メッセージ概要に対するフィルタ条件に一致しないものを条件に一致したとみなします。
メッセージ概要	メッセージ概要に対するフィルタ条件を指定します。
否定(メッセージ定義ID)	チェックが入った場合、メッセージ定義IDに対するフィルタ条件に一致しないものを条件に一致したとみなします。
メッセージ定義ID	メッセージ本文の生成に使用するメッセージ定義を表すIDに対するフィルタ条件。
重要度	重要度に対するフィルタ条件を指定します。
重要度の範囲	重要度に対して、[以上][等しい][以下]の中から選択します。 緊急度の高い重要度を指定する場合は[以上]を選択してください。
否定(メッセージテキスト)	チェックが入った場合、メッセージテキストに対するフィルタ条件に一致しないものを条件に一致したとみなします。
メッセージテキスト	メッセージテキストに対するフィルタ条件を指定します。
否定(位置指定)	チェックが入った場合、メッセージテキストに対する位置指定フィルタ条件に一致しないものを条件に一致したとみなします。
比較位置	メッセージテキストに対する比較位置を指定します。メッセージテキストの何文字目からを比較対象とするか、文字数を指定します。

項目名	説明
比較条件	<p>"=" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」が完全一致するか比較します。正規表現は使用できません。</p> <p>"<" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」が不一致であるか比較します。</p> <p>">" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値より大きい」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 > 「比較値」</p> <p>"<" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値より小さい」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 < 「比較値」</p> <p>">=" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値以上」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 >= 「比較値」</p> <p>"<=" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値以下」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 <= 「比較値」</p>
比較値	指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、この設定した文字列を比較します。正規表現は使用できません。
比較値形式	<p>比較値の比較形式を指定します。文字列、数字のいずれかの比較形式を指定します。</p> <p>"文字列" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を文字列 (バイナリ) 比較します。</p> <p>"数字" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を数値変換し、数値として比較します。</p>
位置指定の追加	<p>位置指定フィルタ条件を追加します。</p> <p>位置指定は1つのフィルタに対して複数設定することが可能です。</p> <p>設定した位置指定を削除する場合は、各位置指定設定の右上の「×」を選択してください。</p>
否定 (キー指定)	チェックが入った場合、メッセージテキストに対するキー指定フィルタ条件に一致しないものを全てを条件に一致したとみなします。
キー値	メッセージテキストに対するキー指定フィルタ条件を指定します。メッセージテキストの何文字目からを比較対象とするか、文字数を指定します。
比較条件	<p>"=" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」が完全一致するか比較します。正規表現で比較されます。</p> <p>"<" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」が不一致であるか比較します。</p> <p>">" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値より大きい」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 > 「比較値」</p>

項目名	説明
	<p>"<": 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値より小さい」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 < 「比較値」</p> <p>">=": 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値以上」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 >= 「比較値」</p> <p>"<=": 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値以下」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 <= 「比較値」</p>
比較値	指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、この設定した文字列を比較します。「条件」に「=」を指定した場合、比較値は正規表現で指定します。(完全一致の場合の例「^文字列\$」)。
比較値形式	<p>比較値の比較形式を指定します。文字列、数字のいずれかの比較形式を指定します。</p> <p>"文字列": 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を文字列 (バイナリ) 比較します。</p> <p>"数字": 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を数値変換し、数値として比較します。</p>
キー指定の追加	<p>キー指定フィルタ条件を追加します。</p> <p>キー指定は1つのフィルタに対して複数設定することが可能です。</p> <p>設定したキー指定を削除する場合は、各キー指定設定の右上の「×」を選択してください。</p>
比較方法 (タグ指定)	<p>タグ指定の比較方法を指定します。「どれかに一致する」、「すべてに一致する」のいずれかの比較方法を指定します。</p> <p>"どれかに一致する": 指定したタグ指定フィルタ条件のどれかに一致した場合、条件に一致したとみなします。</p> <p>"すべてに一致する": 指定した全てのタグ指定フィルタ条件に一致した場合、条件に一致したとみなします。</p>
否定 (タグ指定)	チェックが入った場合、タグ指定に対するフィルタ条件に一致しないもの全てを条件に一致したとみなします。
タグ名	メッセージに付与されたタグ名に対するフィルタ条件を指定します。
比較条件 (タグ指定)	<p>"で始まる": タグ名が指定した文字列で始まるタグに一致したとみなします。</p> <p>"に一致する": タグ名に指定した文字列が完全に同一のタグに一致したとみなします。</p> <p>"を含む": タグ名に指定した文字列が含まれるタグに一致したとみなします。</p> <p>"で終わる": タグ名が指定した文字列で終わるタグに一致したとみなします。</p>

項目名	説明
	"正規表現":タグ名に指定した文字列が正規表現でタグに一致したとみなします。
タグ指定の追加	タグ指定フィルタ条件を追加します。 タグ指定は1つのフィルタに対して複数設定することが可能です。 設定したタグ指定を削除する場合は、各タグ指定設定の右の「×」を選択してください。

図 6-23 「メッセージフィルタ追加」画面 - アクション定義

表 6-13 項目一覧（「メッセージフィルタ追加」画面 アクション定義）

項目名	説明
状態	アクションの状態を設定します。 有効：フィルタに合致するメッセージが発生した場合に定義されているアクション（メール通報、コマンド実行）が行われる状態です。 無効：フィルタに合致するメッセージが発生した場合でも定義されているアクション（メール通報、コマンド実行）が行われない状態です。一時的にアクションの実行を停止したい場合に利用します。
完了時の自動確認	アクション定義の完了時の自動確認を設定します。 自動確認する：フィルタに合致したメッセージを、自動的に「確認済み」にする設定です。 自動確認しない：フィルタにメッセージが合致しても、自動的に「確認済み」にしません。既定値ではこちらが設定されます。
アクション定義の追加	フィルタに合致するメッセージが発生する際に実行するアクションを追加します。 アクションは以下から選択します。 メール通報：メッセージ発生時に設定されたメールを送信します。 コマンド実行：メッセージ発生時に設定されたコマンドを実行します。 アクションは1つのフィルタに対して複数設定することが可能です。 設定したアクション定義を削除する場合は、各アクション設定の右上の「×」を選択してください。
メール通報	フィルタに合致するメッセージが発生した場合に、あらかじめ登録された内容でメールを送信します。 「選択」ボタンを押すと表示されるメール通報設定選択ダイアログから、選択した設定名が表示されます。 送信するメール内容の設定方法については「 6.4.6.1 メール通報設定の追加・変更 (209 ページ) 」を参照してください。

項目名	説明
コマンド実行	<p>フィルタに合致するメッセージが発生した場合に、あらかじめ登録された設定でコマンドを実行します。</p> <p>「選択」ボタンを押すと表示されるコマンド実行設定選択ダイアログから、選択した設定名が表示されます。</p> <p>実行するコマンドの定義方法については「6.4.7.1 コマンド設定の追加・変更 (214 ページ)」を参照してください。</p>

条件の入力が完了したら、[OK]ボタンをクリックして登録します。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合、入力内容は破棄して「フィルター一覧」画面に戻ります。

6.1.10.3 フィルタの順序変更

本項ではメッセージフィルタの順序変更方法について説明します。

「フィルター一覧」画面にて[順序変更]をチェックすることにより、順序変更操作が可能になります。

フィルタ名	タイプ	状態	ノード	アプリケーション	オブジェクト	メッセージID	メッセージテキスト
アプリケーション正常	抽出	有効		Apache		≠ 000001	
ノード異常	抽出	有効	SM-VM01			000001	
アプリケーション異常	抽出	有効		Apache		000001	

図 6-24 「フィルター一覧」画面 順序変更

表 6-14 項目一覧（「フィルター一覧」画面 順序変更）

項目名	説明
↑	選択行を上へ移動します
↓	選択行を下へ移動します
キャンセル	<p>キャンセル確認ダイアログを表示します</p> <p>「表 6-15 項目一覧（「キャンセル確認」ダイアログ） (73 ページ)」</p>
順序反映	<p>反映確認ダイアログを表示します</p> <p>「表 6-16 項目一覧（「反映確認」ダイアログ） (73 ページ)」</p>

「キャンセル確認」ダイアログ



図 6-25 「キャンセル確認」ダイアログ

表 6-15 項目一覧（「キャンセル確認」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	キャンセルせずにダイアログを閉じます (順序変更操作へ戻ります)
OK	順序変更を中止しフィルター一覧表示へ戻ります

「反映確認」ダイアログ



図 6-26 「反映確認」ダイアログ

表 6-16 項目一覧（「反映確認」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	順序変更を反映せずにダイアログを閉じます (順序変更操作へ戻ります)
OK	順序変更を反映しダイアログを閉じます

6.1.10.4 フィルタの削除

本項ではメッセージフィルタの削除方法について説明します。

「フィルター一覧」画面にてフィルター一覧の削除対象をチェックすることにより、[削除]アイコンが有効になります。

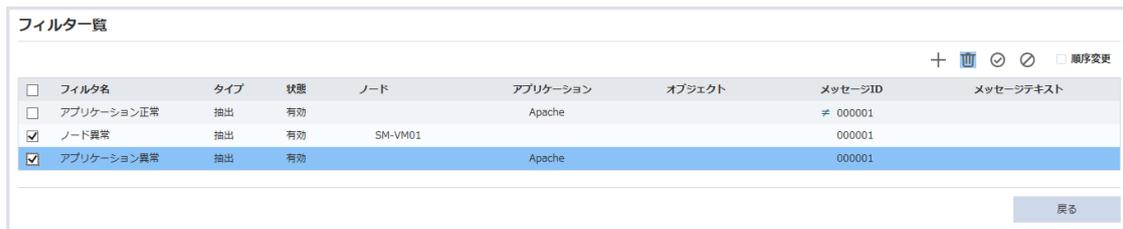


図 6-27 「フィルター一覧」画面 削除

[削除]アイコンをクリックすることにより「フィルタ削除」ダイアログが表示されます。
[OK]をクリックしフィルタを削除します。



図 6-28 「フィルタ削除」ダイアログ

6.1.11 ノード種別ごとの表示と操作

本項では、ノード種別ごとに表示される情報の特徴と、操作方法の違いについて記載します。

ノード一覧に表示されるノードのノード種別を、以下に示します

表 6-17 ノード種別一覧

ノード種別	説明
ホスト	SystemManagerG エージェントがインストールされた監視対象ホストを示すノードです。
Azure サイト	監視対象の Azure サイトを示すノードです。
Azure サブスクリプション	監視対象のサブスクリプションを示すノードです。
Azure リソース	監視対象のリソース (VM の稼動状態等) を示すノードです。
ACOS ホスト	監視対象の ACOS ホストを示すノードです。
ACOS 論理システム	監視対象の ACOS 論理システムを示すノードです。

6.1.11.1 ノード種別ごとのノード一覧の表示

本項では、ノード一覧に表示されるノードの情報について、ノード種別ごと記載します。

ACOS の CENTER、LCMP は、グループノードとして表示され、所属する ACOS ホスト、ACOS 論理システムがその配下のノードとして表示されます。

各ノード種別ごとに、ノード詳細ダイアログに表示される情報の表示/非表示を以下の表に示します。

○：表示される項目。×：非表示の項目を示す。

表 6-18 「ノード詳細」ダイアログの表示有無

ノード種別	ノード名	ノード種別	ID	OS	OSバージョン
ホスト	○	○	○	○	○
Azure サイト	○	○	○	×	×
Azure サブスクリプション	○	○	○	×	×
Azure リソース	○	○	○	○	○
ACOS ホスト	○	○	○	○	×
ACOS 論理システム	○	○	○	○	×

6.1.11.2 ノード種別ごとのステータスパネルの表示

本項では、各ノード種別ごとにステータスパネルに表示されるノードの情報について記載します。

各ノード種別ごとに、ステータスパネルに表示される情報の表示/非表示を以下の表に示します。

○：表示される項目。×：非表示の項目を示す。

表 6-19 ステータスパネルの表示有無

ノード種別	重要度	種別	対象	稼働ホスト	待機ホスト	発生日時	状態	アクション
ホスト	○	○	○	×	×	○	○	○
Azure サイト	○	○	○	×	×	○	○	○
Azure サブスクリプション	○	○	○	×	×	○	○	○
Azure リソース	○	○	○	×	×	○	○	○
ACOS ホスト	○	○	○	×	×	○	○	×
ACOS 論理システム	○	○	○	○	○	○	○	×

ACOS 論理システムノードを、ノードツリーから選択した場合、その論理システムを構成する稼働ホストと待機ホストを表示します。

種別	対象	稼働ホスト	待機ホスト	発生日時	状態
正常	LS	ACOS01	ACOS02	2019/03/15 00:29:05	正常
正常	VIS	ACOS01	ACOS02	2019/03/15 00:29:05	正常
正常	APM	ACOS01	ACOS02	2019/03/15 00:29:05	正常
正常	FIPS	ACOS01	○	2019/03/15 00:29:05	正常

図 6-29 ACOS 論理システムノード選択時のステータスパネル

6.1.11.3 ノード種別ごとの操作

本項では、各ノード種別ごとに操作できる操作メニューについて記載します。

各ノード種別ごとに、操作メニューの操作可能/操作不可を以下の表に示します。

○：操作可能。×：操作不可の操作メニューを示す。

表 6-20 操作メニューの操作可能/操作不可

ノード種別	グループ作成	グループ名変更	グループ移動 (※1)	グループ削除	ノード移動 (※1)	フィルター一覧
ルートグループ	○	×	×	×	×	○
グループ	○	○	○	○	○	×
ホスト	×	×	×	×	×	×
ACOS CENTER グループ	×	×	○	×	×	×
ACOS LCMP グループ	×	×	×	×	×	×
ACOS ホスト	×	×	×	×	×	×
ACOS 論理システム	×	×	×	×	×	×
Azure サイト	×	×	×	×	×	×
Azure サブスクリプション	×	×	×	×	×	×
Azure リソース	×	×	×	×	×	×

※1 ACOS CENTER グループ,ACOS LCMP グループへグループおよびノードを移動させることはできません。

6.1.11.4 ノード種別ごとの監視設定可否

本項では、各ノード種別ごとの監視設定の可否について記載します。

各ノード種別ごとに、監視設定の可否について以下の表に示します。

○：監視設定可能。×：監視設定不可を示す。

表 6-21 監視設定の可否

ノード種別	監視設定の可否
ホスト	○
ACOS ホスト	×
ACOS 論理システム	×
Azure サイト	○
Azure サブスクリプション	○
Azure リソース	○

6.2 メッセージ

本項ではメッセージ機能について説明します。

メニューから、[監視]-[メッセージ]をクリックすることにより、「メッセージ」画面が表示されます。

「メッセージ」画面にはカテゴリ一覧パネル、重要度別メッセージ件数一覧パネル(初期非表示)、メッセージ一覧パネル(初期非表示)が表示されます。

「メッセージ」画面では、任意の条件でメッセージをカテゴリライズし、カテゴリ単位で監視状況を表示することができます。カテゴリの重要度は、そのカテゴリに振り分けられた未確認状態のメッセージのうち最も緊急度の高い重要度になります。また、カテゴリは任意の階層のグループにまとめることができます。カテゴリグループの重要度は、配下のカテゴリ(カテゴリグループ)のうち最も緊急度の高い重要度になるため、グループツリーのトップ階層から重要度の高いグループを辿っていくことで、障害が発生しているカテゴリを特定することができます。

メッセージパネルでは、カテゴリ一覧パネルで選択したカテゴリに振り分けられたメッセージの一覧表示、メッセージの操作を行えます。

[自動更新]チェックボックスをオンにすると各パネルが30秒毎に自動更新されます。

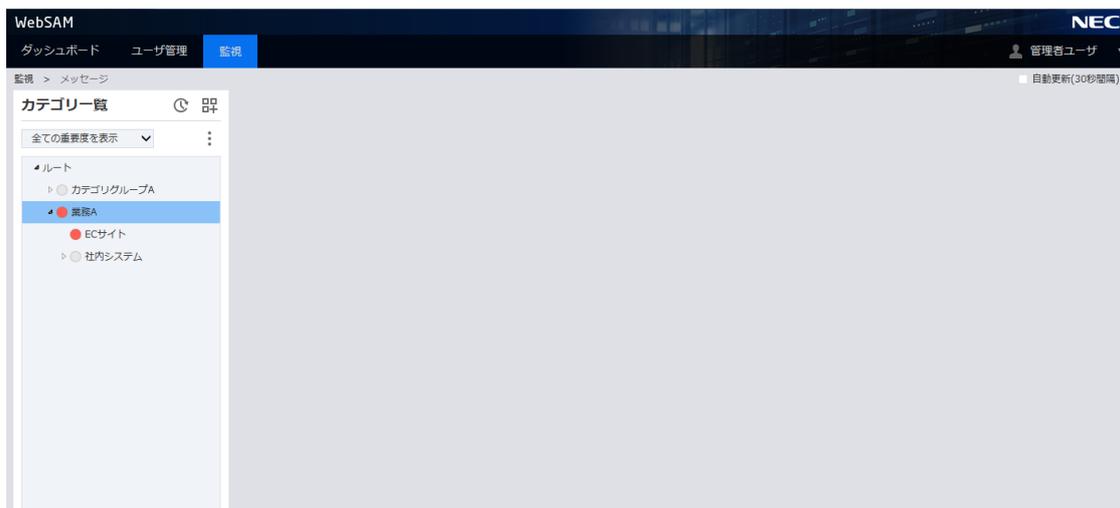


図 6-30 「メッセージ」画面

表 6-22 項目一覧 (「メッセージ」画面 カテゴリ一覧)

項目名	説明
更新ボタン	カテゴリ一覧パネルを更新します。
ウィジェット追加ボタン	カテゴリ一覧パネルをダッシュボードにウィジェットとして貼り付けます。
重要度選択	選択した重要度より緊急度の高いカテゴリ(カテゴリグループ)に絞り込んでツリー表示します。
操作	操作プルダウンを表示します。運用管理設定変更権限を持つユーザにのみ表示されます。 詳細は「6.2.8 カテゴリの操作 (89 ページ)」を参照してください。
カテゴリグループノード	カテゴリグループ名を重要度の背景色で表示します。

項目名	説明
	開閉アイコンで配下のカテゴリの表示／非表示を切り替えることができます。
カテゴリノード	<p>カテゴリ名を重要度アイコン付きで表示します。</p> <p>カテゴリ名をクリックすることで、そのカテゴリに分類されたメッセージの一覧と、未確認メッセージの重要度別件数を参照することができます。</p> <p>メッセージの一覧については、「6.2.1 メッセージ一覧の表示 (78 ページ)」を参照してください。</p> <p>未確認メッセージの重要度別件数については、「6.2.7 重要度別メッセージ件数の表示 (88 ページ)」を参照してください。</p>

6.2.1 メッセージ一覧の表示

本項ではメッセージの一覧を表示させる方法および各項目の内容を説明します。

「メッセージ」画面のカテゴリ一覧パネルのカテゴリを選択すると、メッセージパネルに選択したカテゴリのメッセージが一覧表示されます。

The screenshot shows a web interface titled 'メッセージ一覧' (Message List) with a refresh icon and a timestamp '更新日時: 2019/03/01 16:56:51'. Below the title is a search icon and a list of messages. The table has the following columns: 'ノード' (Node), '重要度' (Severity), 'マーク' (Mark), '発生日時' (Occurrence Time), 'メッセージテキスト' (Message Text), and 'アクション' (Action). The messages listed include system initialization logs and license warnings.

図 6-31 メッセージパネルとメッセージ一覧

「メッセージ」画面に表示される項目、ボタンは以下の通りです。

表 6-23 項目一覧 (メッセージパネル)

項目名	説明
メッセージトグル	メッセージパネルを開閉します。
更新ボタン	メッセージパネルを更新します。
ウィジェット追加ボタン	現在表示されているメッセージパネルをダッシュボードにウィジェットとして貼り付けます。
検索トグル	検索条件を開閉します。初期表示時は閉じています。
表示件数	<p>一覧に表示するメッセージの件数を指定します。</p> <p>一覧に表示されるメッセージの1ページ当たりの表示件数です。</p> <p>表示件数は10, 100, 500, 1000のいずれかから選択可能です。</p>
マークボタン	選択したメッセージにマークを付けます。
確認ボタン	選択したメッセージの確認状態を変更します。
前ページボタン	表示されているメッセージより新しいメッセージを表示します。

項目名	説明
次ページボタン	表示されているメッセージより古いメッセージを表示します。

「メッセージ」画面のメッセージ一覧に表示される項目、ボタンは以下の通りです。

表 6-24 項目一覧 (メッセージ一覧)

項目名	説明
チェックボックス	チェックされたメッセージが操作対象となります。
ノード	ノードを表示します。グループを選択した場合のみ表示します。
重要度	重要度を表示します。
マーク	マークを表示します。
発生日時	発生日時を表示します。
確認状態	確認状態を表示します。
メッセージテキスト	メッセージテキストを表示します。
アプリケーション	アプリケーションを表示します。
オブジェクト	オブジェクトを表示します。
メッセージ ID	メッセージ ID を表示します。

6.2.2 メッセージの検索

本項ではメッセージを検索する方法を説明します。

「メッセージ」画面の[検索]アイコンを押下することで検索条件を指定できる項目が表示されます。

検索条件を指定し[検索]ボタンを押下することで検索条件に該当するメッセージが一覧で表示されます。検索条件として文字列を指定する項目（ノード、メッセージテキスト、メッセージ概要、コメント）は、正規表現で検索されます。

[表示設定]アイコンをクリックすることで表示条件を指定できる項目が表示されます。

表示設定を指定し[適用]ボタンをクリックすることで一覧に表示する項目を変更することができます。

検索設定

対象 ECサイト

ノード名

重要度 以上

マーク

発生日時 ~

受信日時 ~

確認状態 確認済み 未確認

メッセージテキスト

メッセージ概要

アプリケーション

オブジェクト

メッセージID

カテゴリ

通報状態 正常終了 異常終了 通報中 通報無し

コメント

タグ で始まる

図 6-32 メッセージ検索

表 6-25 項目一覧 (メッセージ検索)

項目名	入力規則	説明
対象	—	検索対象が表示されます。グループを選択した場合はグループの配下の再帰的検索の可否を選択するチェックボックスが表示されます。
ノード名	256 文字以内	入力したノード名が検索対象となります。
重要度	—	選択された重要度と重要度の範囲が検索対象となります。選択されない場合は、全ての重要度が検索対象となります。
マーク	—	選択されたマークが検索対象となります。選択されない場合は、全てのマークが検索対象となります。[マーク無し]を選択するとマークされていないメッセージが検索対象となります。
発生日時	1970/01/01 00:00:00 ~ 2999/12/31 23:59:59	選択、もしくは入力した発生日時が検索対象となります。監視対象のサーバマシンで、エージェントがメッセージを生成した日時です。タイムゾーンは、マネージャ (Manager) のシステム時刻に依存します。
受信日時	1970/01/01 00:00:00 ~ 2999/12/31 23:59:59	選択、もしくは入力した受信日時が検索対象となります。監視対象のサーバマシンで生成されたメッセージを、マネージャが受信した日時です。タイムゾーンは、マネージャ (Manager) のシステム時刻に依存します。
確認状態	—	チェックされた確認状態 (確認済み、未確認) が検索対象となります。必ず 1 つ以上にチェックを入れる必要があります。
メッセージテキスト	1024 文字以内	入力したメッセージテキストが検索対象となります。
メッセージ概要	256 文字以内	入力したメッセージ概要が検索対象となります。
アプリケーション	1024 文字以内	入力したアプリケーションが検索対象となります。

項目名	入力規則	説明
オブジェクト	1024 文字以内	入力したオブジェクトが検索対象となります。
メッセージ ID	128 文字以内	入力したメッセージ ID が検索対象となります。
カテゴリ	128 文字以内	入力したカテゴリが検索対象となります。
通報状態	—	チェックされた通報状態（正常終了、異常終了、通報中、通報無し）が検索対象となります。必ず1つ以上にチェックを入れる必要があります。
コメント	1024 文字以内	入力されたコメントが検索対象となります。
タグ	256 文字以内	入力されたタグ条件が検索対象となります。
表示順	—	メッセージの表示順を選択します。メッセージ番号の降順もしくは昇順で一覧が表示されます。
表示項目	—	メッセージの表示項目を選択します。選択した項目が一覧に表示されます。
クリア	—	入力（指定）した値を初期値へ戻します。
検索	—	ボタン押下で検索を実施します。

6.2.3 メッセージ詳細の表示

本項ではメッセージの詳細を表示させる方法および各項目の内容を説明します。

「メッセージ」画面のメッセージ一覧に表示されているメッセージを選択すると「メッセージ詳細」ダイアログが表示されます。「メッセージ詳細」ダイアログには[メッセージ詳細]、[ナレッジ]、[アクション]のタブが表示されます。

メッセージ詳細 ×

メッセージ詳細 ナレッジ アクション

表示項目	値
メッセージ番号	1751
ノード	SYSMGRGMGR2
重要度	● 正常
マーク	<input type="text" value=""/>
発生日時	2019/03/01 22:49:24+09:00
受信日時	2019/03/01 22:49:25+09:00
確認状態	<input type="text" value="未確認"/>
メッセージテキスト	The "vmStatsProvider" is successfully initialized for this Virtual Machine. WMI namespace: "root\cimv2".
メッセージ概要	
アプリケーション	vmStatsProvider
オブジェクト	General
メッセージ定義ID	1400000
メッセージID	00000256
カテゴリ	Application
通報状態	異常終了
コメント	<input type="text" value=""/>
タグ	

図 6-33 「メッセージ詳細」ダイアログ メッセージ詳細タブ

メッセージ詳細タブに表示される項目の内容は以下の通りです

表 6-26 項目一覧（メッセージ詳細タブ）

項目名	説明
メッセージ番号	メッセージ番号を表示します。
ノード	ノードを表示します。グループを選択した場合のみ表示します。
重要度	重要度を表示します。
マーク	マークを表示します。
発生日時	発生日時を表示します。監視対象のサーバマシンで、エージェントがメッセージを生成した日時です。
受信日時	受信日時を表示します。監視対象のサーバマシンで生成されたメッセージを、マネージャが受信した日時です。
確認状態	確認状態を表示します。
メッセージテキスト	メッセージテキストを表示します。
メッセージ概要	メッセージ概要を表示します。
アプリケーション	アプリケーションを表示します。
オブジェクト	オブジェクトを表示します。
メッセージ定義ID	メッセージ定義IDを表示します。
メッセージID	メッセージIDを表示します。
カテゴリ	カテゴリを表示します。

項目名	説明
通報状態	通報状態を表示します。
コメント	コメントを表示します。
タグ	タグを表示します。

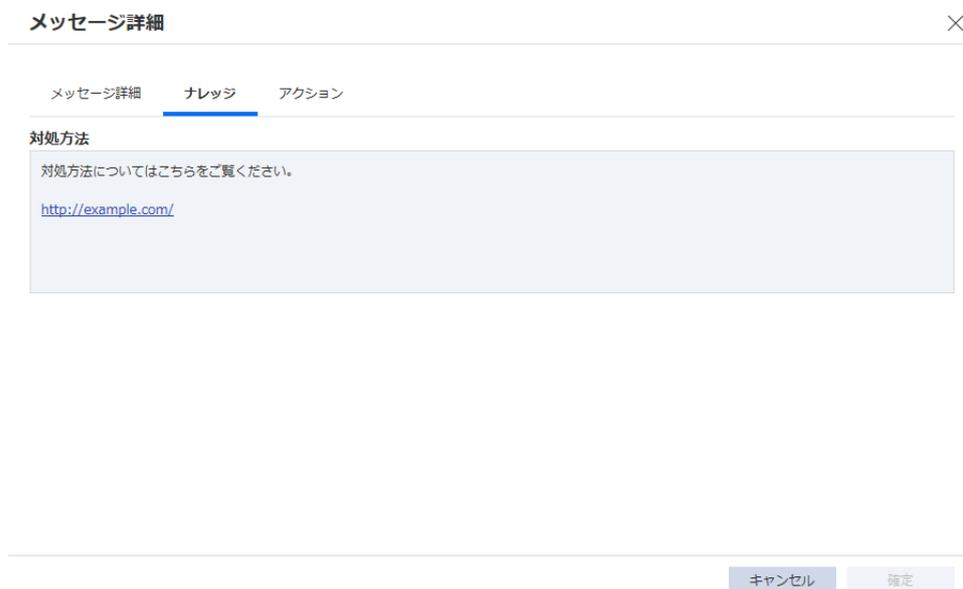


図 6-34 「メッセージ詳細」ダイアログ ナレッジタブ

ナレッジタブにはメッセージフィルタの「表示定義」に登録したナレッジの内容を表示します。

表示定義の設定方法は「6.2.11 フィルタの追加・変更 (97 ページ)」を参照してください。

ナレッジタブには、「表示定義」で登録したナレッジ数に応じて、表示エリアをグルーピングして表示します。

各表示グループには以下の項目を表示します。

表 6-27 項目一覧 (ナレッジタブ)

項目名	説明
グループタイトル	「表示定義」で登録したナレッジの表示タイトルの内容を表示します。
ナレッジ	登録したナレッジの表示タイプに応じて、テキスト、HTML のいずれかでナレッジに登録した内容を表示します。 メッセージが発生した場合に最初に条件に一致したメッセージフィルタに設定されている定義に従い、表示します。 メッセージフィルタが削除された場合は、表示されません。

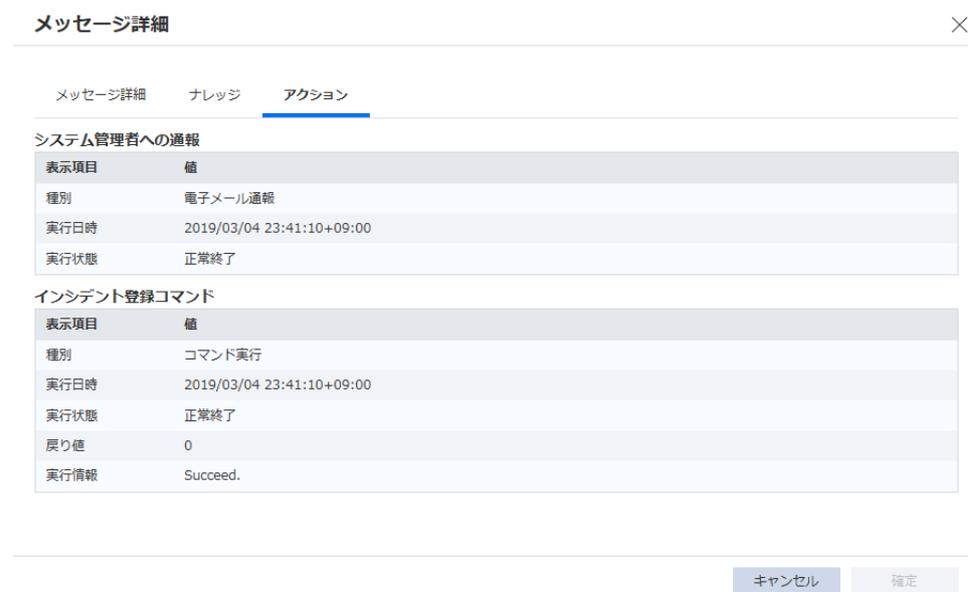


図 6-35 「メッセージ詳細」ダイアログアクションタブ

アクションタブにはメッセージフィルタの「アクション定義」に設定したアクションの実行結果を表示します。

アクション定義の設定方法は「[6.2.11 フィルタの追加・変更 \(97 ページ\)](#)」を参照してください。

表示される項目は実行したアクションの種別によって異なります。

メール通報時は以下の項目を表示します。

表 6-28 項目一覧 (アクションタブ - メール通報)

項目名	説明
タイトル	メッセージフィルタに登録した通報設定の名前を表示します。
種別	アクションの種別を表示します。メール通報時は「メール通報」と表示します
実行日時	メール通報を行った日時を表示します。
実行状態	メール通報の実行状態として以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ・正常終了 ・通報中 ・異常終了 ・対象外 (メッセージ発生時に通報定義が削除されている場合や通報定義が無効化されている場合に表示されます)

表 6-29 項目一覧 (アクションタブ - コマンド実行)

項目名	説明
タイトル	メッセージフィルタに登録した通報設定の名前を表示します。
種別	アクションの種別を表示します。コマンド実行時は「コマンド実行」と表示します
実行日時	コマンドを実行した日時を表示します。
実行状態	コマンド実行の実行状態として以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ・正常終了

項目名	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通報中 ・ 異常終了 ・ 対象外 (メッセージ発生時に通報定義が削除されている場合や通報定義が無効化されている場合に表示されます)
戻り値	コマンド実行後の戻り値を表示します。
実行情報	コマンドの実行結果として「標準出力」、「標準エラー出力」の内容を表示します。コマンドの実行に失敗した場合、そのエラー情報を出力します。

6.2.4 メッセージの確認状態の変更

本項ではメッセージの確認状態の変更方法を説明します。

メッセージの確認状態の変更方法は以下の2種類の方法が存在します。

- ・ 変更方法1

1. メッセージ一覧の操作対象メッセージのチェックボックスにチェックを入れ、[確認]アイコンをクリックします。
2. [確認]アイコンの下に確認状態が表示されるため、変更したい状態をクリックします。

なお、複数のメッセージに対してチェックを入れることで同時に複数のメッセージの確認状態を変更することが可能です。

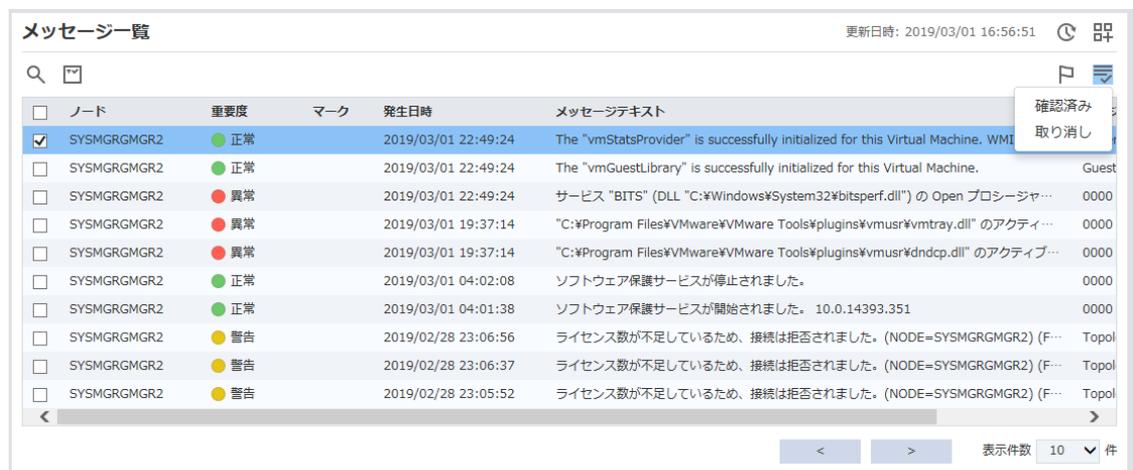


図 6-36 確認状態の変更方法 1

- ・ 変更方法2

1. メッセージ一覧の操作対象メッセージをクリックします。
2. 「メッセージ詳細」ダイアログが表示されるため、[確認状態]のプルダウンリストから確認状態を選択して[確定]ボタンをクリックします。

メッセージ詳細 ×

メッセージ詳細 ナレッジ アクション

表示項目	値
メッセージ番号	1751
ノード	SYSMGRGMGR2
重要度	● 正常
マーク	<input type="text" value=""/>
発生日時	2019/03/01 22:49:24+09:00
受信日時	2019/03/01 22:49:25+09:00
確認状態	<input type="button" value="確認済み"/> <input checked="" type="button" value="未確認"/>
メッセージテキスト	The "vmStatsProvider" is successfully initialized for this Virtual Machine. WMI namespace: "root%#cimv2".
メッセージ概要	
アプリケーション	vmStatsProvider
オブジェクト	General
メッセージ定義ID	1400000
メッセージID	00000256
カテゴリ	Application
通報状態	異常終了
コメント	<input type="text"/>
タグ	

図 6-37 確認状態の変更 方法 2

6.2.5 メッセージへのマーク付与

本項ではメッセージに対するマークの付与方法を説明します。

メッセージに対するマークの付与方法は以下の2種類の方法が存在します。

- 付与方法1
 1. メッセージ一覧の操作対象メッセージのチェックボックスにチェックを入れ、[マーク]アイコン をクリックします。
 2. [マーク]アイコン の下にマークが表示されるため、付与したいマークをクリックします。

なお、複数のメッセージに対してチェックを入れることで同時に複数のメッセージにマークを付与することが可能です。

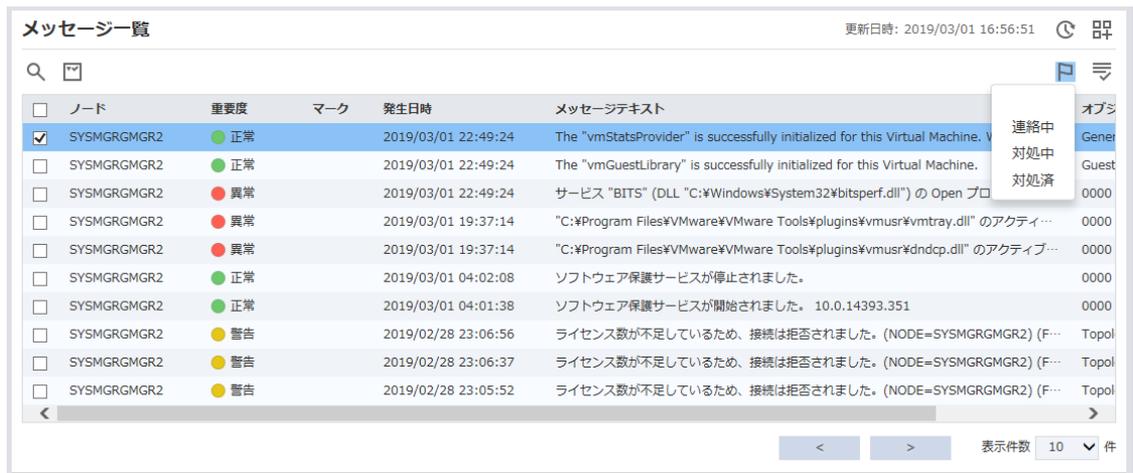


図 6-38 マークの付与 方法 1

- 付与方法 2

- メッセージ一覧の操作対象メッセージをクリックします。
- 「メッセージ詳細」ダイアログが表示されるため、[マーク]のプルダウンリストからマークを選択して[確定]ボタンをクリックします。

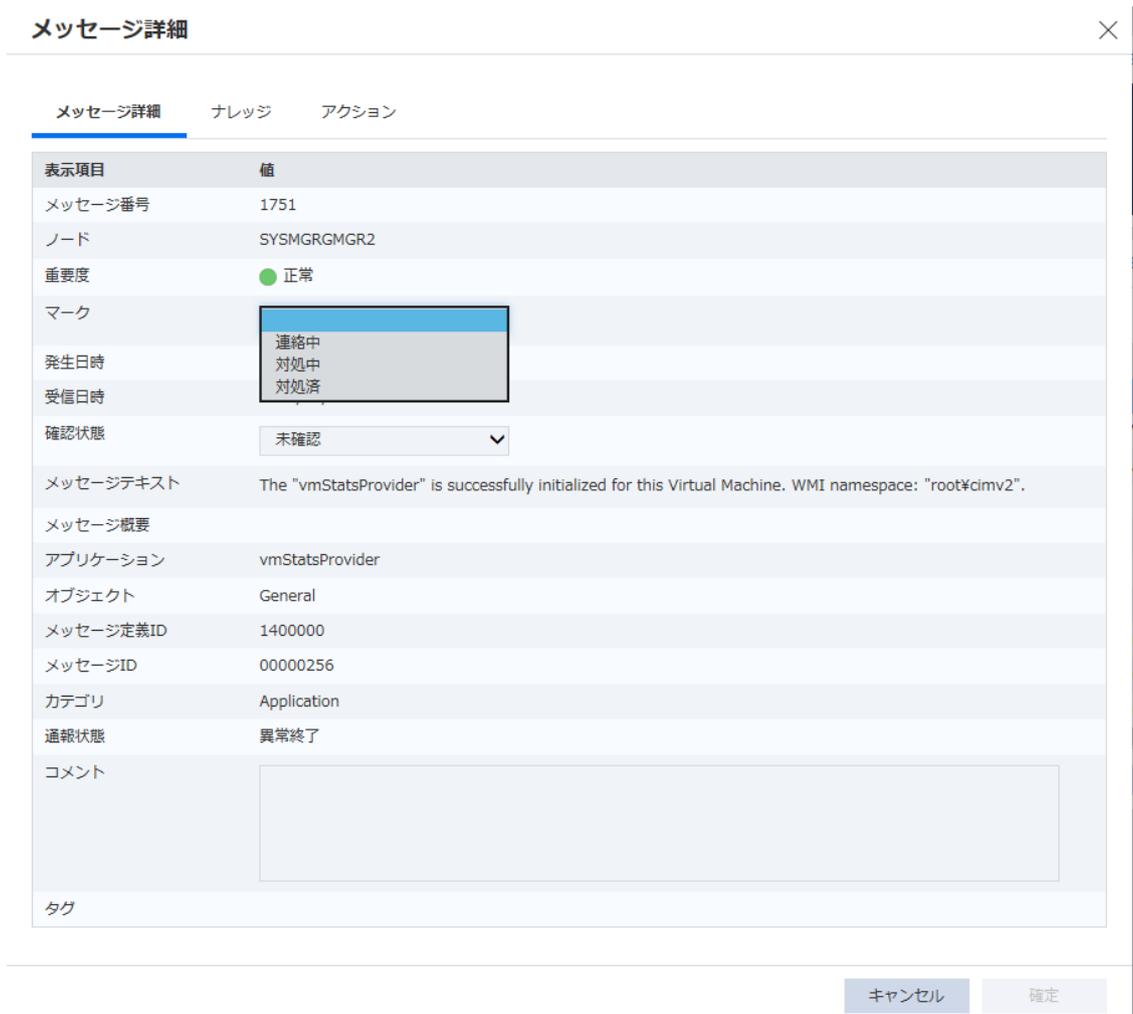


図 6-39 マークの付与 方法 2

6.2.6 メッセージのコメント編集

本項ではメッセージのコメントの編集方法を説明します。

なお、本項に記載する操作の権限はロールによって制御されており、以下のユーザが実施可能です。

運用監視 管理者	運用監視 操作者	運用監視 参照者
○	○	×

1. メッセージ一覧の操作対象メッセージをクリックします。
2. 「メッセージ詳細」ダイアログが表示されるため、[コメント]を入力して[確定]ボタンをクリックします。

メッセージ詳細
×

メッセージ詳細

ナレッジ

アクション

表示項目	値
メッセージ番号	1751
ノード	SYSMGRGMGR2
重要度	● 正常
マーク	<input type="text" value=""/>
発生日時	2019/03/01 22:49:24+09:00
受信日時	2019/03/01 22:49:25+09:00
確認状態	<input type="text" value="未確認"/>
メッセージテキスト	The "vmStatsProvider" is successfully initialized for this Virtual Machine. WMI namespace: "root#cimv2".
メッセージ概要	
アプリケーション	vmStatsProvider
オブジェクト	General
メッセージ定義ID	1400000
メッセージID	00000256
カテゴリ	Application
通報状態	異常終了
コメント	<input style="width: 100%;" type="text" value="コメント"/>
タグ	

図 6-40 コメント編集

6.2.7 重要度別メッセージ件数の表示

本項では「メッセージ」画面に表示されるメッセージの重要度別件数について説明します。

カテゴリ一覧からカテゴリを選択することにより未確認メッセージの重要度別件数を表示します。

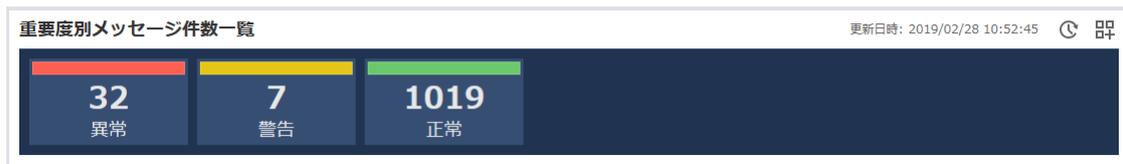


図 6-41 「メッセージ」画面 重要度別メッセージ件数

重要度を選択すると、検索画面とメッセージ一覧がその重要度で絞り込み表示（再検索）されます。重要度を複数選択することもできます。選択済みの重要度をもう一度クリックすることで選択状態を解除することができます。

重要度別メッセージ件数をダッシュボードのウィジェットとして表示している場合は、重要度を選択すると「メッセージ」画面に遷移します。メッセージは選択した重要度で絞り込まれた状態で表示されます。

6.2.8 カテゴリの操作

本項では「メッセージ」画面に表示されるカテゴリに対する操作について説明します。

カテゴリ一覧にて[操作]メニュー[⋮]のプルダウンから各操作を選択することにより、各操作ダイアログを表示します。

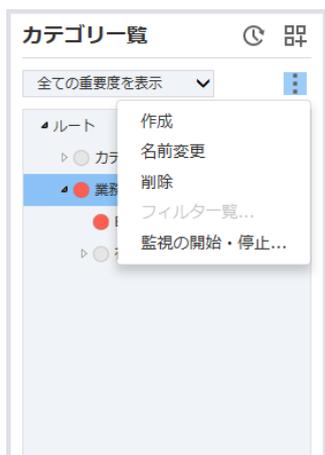


図 6-42 「メッセージ」画面 カテゴリ一覧

- 作成

図 6-43 「カテゴリ作成」ダイアログ

表 6-30 項目一覧（「カテゴリ作成」ダイアログ）

項目名	説明
作成先	カテゴリグループ/カテゴリを作成する親カテゴリグループ名が表示されます。
種別	作成するカテゴリグループ/カテゴリの種別を選択します
表示名	作成するカテゴリグループ/カテゴリの名前を入力します
キャンセル	カテゴリグループ/カテゴリの作成を中止しダイアログを閉じます
OK	カテゴリグループ/カテゴリの作成を行いダイアログを閉じます

[OK]をクリックすることによりカテゴリを作成します。

- ・ 名前変更

図 6-44 「名前変更」ダイアログ

表 6-31 項目一覧（「名前変更」ダイアログ）

項目名	説明
表示名	変更するカテゴリグループ/カテゴリの名前を入力します
キャンセル	カテゴリグループ/カテゴリの名前変更を中止しダイアログを閉じます

項目名	説明
OK	カテゴリグループ/カテゴリの名前変更を行いダイアログを閉じます

[OK]をクリックすることによりカテゴリの名前を変更します。

- 削除



図 6-45 「カテゴリ削除」ダイアログ

[OK]をクリックすることにより選択された[カテゴリグループ/カテゴリ]を削除します。

6.2.9 カテゴリの監視の開始・停止

本項ではカテゴリの監視の開始・停止について説明します。

カテゴリ一覧で監視の開始・停止するカテゴリもしくは、そのカテゴリを含むグループを選択し、[操作]メニューから[監視の開始・停止...]を選択することにより「監視の開始・停止」画面を表示します。

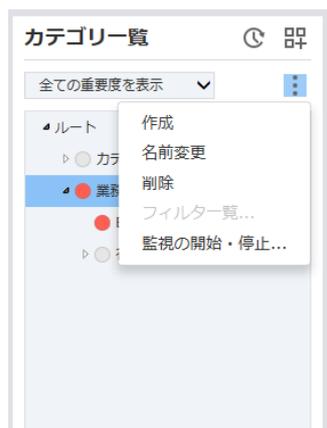


図 6-46 「メッセージ」画面 監視の開始・停止 操作メニュー

「監視の開始・停止」画面には、選択したカテゴリグループ（カテゴリを選択した場合は、その所属グループ）を起点に、カテゴリグループをツリー表示するカテゴリグループツリーパネルと、カテゴリグループツリーパネルで選択したグループに所属するカテゴリを、一覧表示するカテゴリパネルが表示されます。

カテゴリパネルでは、カテゴリを選択して開始・停止を行う事ができます。

停止中のカテゴリは、通報をおこないません。また、既定の設定ではカテゴリにメッセージを格納しません。停止中カテゴリの動作設定については、「環境構築ガイド」の「メッセージストア設定ファイル(msc_messagestore.properties)」を参照してください。

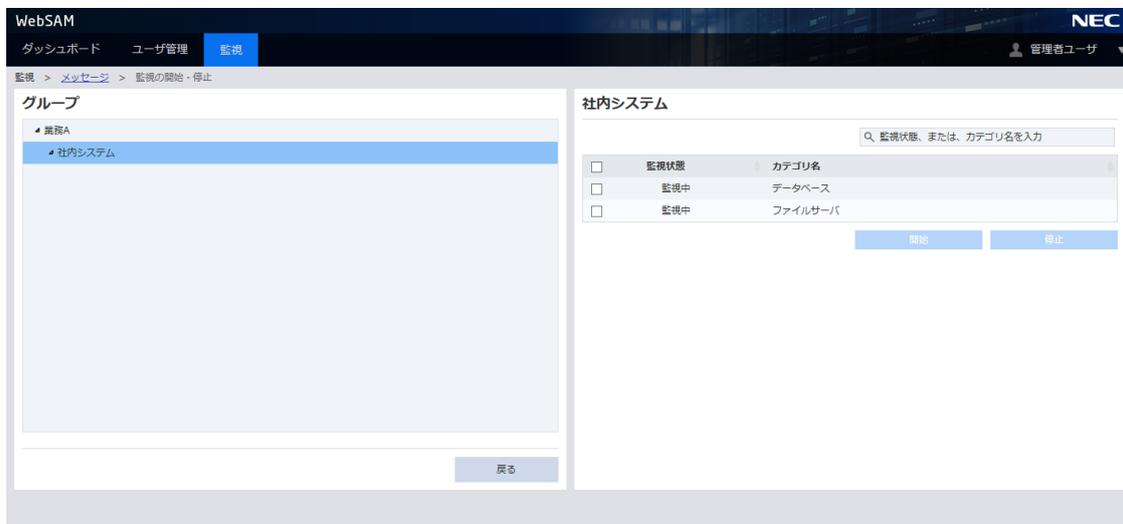


図 6-47 「監視の開始・停止」画面

表 6-32 項目一覧（「監視の開始・停止」画面）

項目名	説明
カテゴリグループツリー	メッセージ画面で、選択したカテゴリグループ（カテゴリを選択した場合は、その所属グループ）を起点に、カテゴリグループをツリー表示します。 選択したグループに所属するカテゴリを、カテゴリパネルで一覧表示します。
検索フィールド	監視状態、または、カテゴリ名を検索します。入力した文字列が監視状態、または、カテゴリ名に含まれる行のみ抽出されます。
選択チェックボックス	カテゴリグループツリーで選択したグループ配下のカテゴリ一覧が表示されます。チェックボックスで開始/停止する対象のカテゴリを選択することができます。開始/停止する対象は複数選択することができます。
監視状態	カテゴリの状態を表示します。 監視中：監視中のカテゴリであることを示します。 停止中：停止中のカテゴリであることを示します。
カテゴリ名	カテゴリ名を表示します。
[開始]ボタン	選択チェックボックスでチェックされたカテゴリの監視を開始します。
[停止]ボタン	選択チェックボックスでチェックされたカテゴリの監視を停止します。
[戻る]ボタン	「メッセージ」画面に戻ります。

[開始]ボタンをクリックすることにより「監視の開始」ダイアログが表示されます。[OK]をクリックしカテゴリの監視を開始します。



図 6-48 「監視の開始」ダイアログ

[停止]ボタンをクリックすることにより「監視の停止」ダイアログが表示されます。[OK]をクリックしカテゴリの監視を停止します。



図 6-49 「監視の停止」ダイアログ

6.2.10 フィルター一覧の表示

本項ではカテゴリに対して設定できるメッセージフィルタの一覧画面について説明します。

カテゴリ一覧でカテゴリを選択し、[操作]メニューから[フィルター一覧...]を選択することにより「フィルター一覧」画面を表示します。

フィルタは優先順位順に表示されます。各フィルタには、メッセージをカテゴリに振り分けるための条件が設定されています。メッセージが出力されると、優先順位の高い順にメッセージがフィルタリングされ、最初に条件に一致したフィルタのタイプが[格納]であればそのメッセージはカテゴリに振り分けられます。最初に条件に一致したフィルタのタイプが[除外]の場合、またはどのフィルタの条件にも一致しなかったメッセージはカテゴリには振り分けられません。

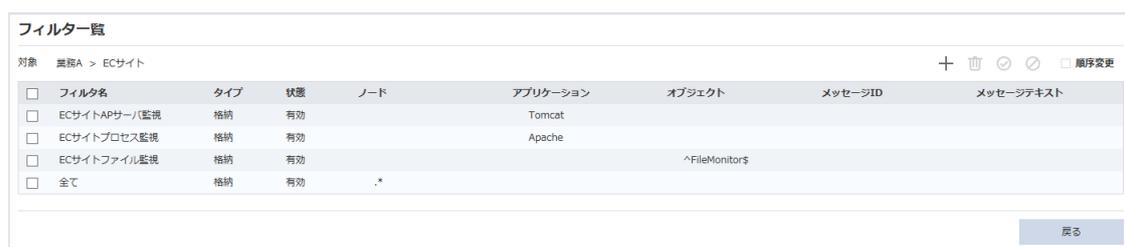


図 6-50 「フィルター一覧」画面

表 6-33 項目一覧（「フィルター一覧」画面）

項目名	説明
追加	フィルタを追加します。詳細は「 6.2.11 フィルタの追加・変更 (97 ページ) 」を参照してください。 フィルター一覧でフィルタを選択して追加すると、選択したフィルタの上に挿入されます。 選択せずに追加した場合、一番上に挿入されます。
削除	フィルタを削除します。 詳細は「 6.2.13 フィルタの削除 (106 ページ) 」を参照
有効	フィルタを有効にします。 詳細は「 6.2.14 フィルタの一括有効/無効化 (106 ページ) 」を参照
無効	フィルタを無効にします。 詳細は「 6.2.14 フィルタの一括有効/無効化 (106 ページ) 」を参照
順序変更	チェックボックスをオンにすることでフィルタの順序が変更できるようになります。 詳細は「 6.2.12 フィルタの順序変更 (104 ページ) 」を参照
フィルタ名	フィルタ名を表示します。
タイプ	フィルタのタイプを表示します。 格納：条件に一致したメッセージがカテゴリに振り分けます。 除外：条件に一致したメッセージはカテゴリに振り分けられません（以降のフィルタは処理されません）。
状態	フィルタの状態を表示します。 有効：フィルタリングの条件として有効であることを示します。 無効：一時的にフィルタリングの条件から外されていることを示します。
ノード	ノード名の条件文（正規表現）を表示します。
アプリケーション	アプリケーションの条件文（正規表現）を表示します。
オブジェクト	オブジェクトの条件文（正規表現）を表示します。
メッセージ ID	メッセージ ID の条件文（正規表現）を表示します。
メッセージテキスト	メッセージテキストの条件文（正規表現）を表示します。
[戻る]ボタン	「メッセージ」画面に戻ります。

フィルター一覧のフィルタをクリックすると、フィルタ詳細が表示されます。

ECサイトAPサーバ監視
✎ ☰

表示項目	値
フィルタ名	ECサイトAPサーバ監視
状態	有効
タイプ	格納

フィルタ条件

表示項目	値
グループ	
ノード	
アプリケーション	Tomcat
オブジェクト	
メッセージID	
カテゴリ	
メッセージ概要	
メッセージ定義ID	
重要度	
メッセージテキスト	

位置指定	否定	比較位置	比較条件	比較値	比較値形式
	<input type="checkbox"/>	1	=	start	文字列

キー指定	否定	キー値	比較条件	比較値	比較値形式
	<input checked="" type="checkbox"/>	Tomcat	=	restart	文字列

タグ

比較方法	
どれかに一致する	

否定	タグ名	比較条件
<input type="checkbox"/>	tomcat	で始まる

アクション定義

表示項目	値
状態	有効
完了時の自動確認	自動確認しない
電子メール通報	ECサイト担当者への通報
コマンド実行	インシデント登録コマンド

表示定義

表示項目	値
重要度の変更	警告

図 6-51 「フィルター一覧」画面 フィルタ詳細

表 6-34 項目一覧（「フィルター一覧」画面 フィルタ詳細）

項目名	説明
フィルタ名	フィルタ名を表示します。
状態	フィルタの状態を表示します。 有効：フィルタリングの条件として有効であることを示します。 無効：一時的にフィルタリングの条件から外されていることを示します。
タイプ	フィルタのタイプを表示します。 格納：条件に一致したメッセージがカテゴリに振り分けます。 除外：条件に一致したメッセージはカテゴリに振り分けられません（以降のフィルタは処理されません）。
グループ	グループの条件を表示します。
ノード	ノード名の条件文（正規表現）を表示します。
アプリケーション	アプリケーションの条件文（正規表現）を表示します。
オブジェクト	オブジェクトの条件文（正規表現）を表示します。
メッセージID	メッセージIDの条件文（正規表現）を表示します。
カテゴリ	カテゴリの条件文（正規表現）を表示します。
メッセージ概要	メッセージ概要の条件文（正規表現）を表示します。
メッセージ定義ID	メッセージ定義IDの条件文（正規表現）を表示します。

項目名	説明
重要度	重要度の条件を表示します。
メッセージテキスト	メッセージテキストの条件文（正規表現）を表示します。
位置指定	位置指定のフィルタ条件を設定している場合は、以下パラメータを表形式で表示します。 否定：否定にチェックを入れた場合、チェックされたチェックボックスを表示します。 比較位置：比較位置に指定した文字数を表示します。 比較条件：比較条件に指定した不等号を表示します。 比較値：比較値に指定した文字列を表示します。 比較形式：比較値の比較形式を表示します。
キー指定	キー指定のフィルタ条件を設定している場合は、以下パラメータを表形式で表示します。 否定：否定にチェックを入れた場合、チェックされたチェックボックスを表示します。 キー値：キー値に指定した文字列を表示します。 比較条件：比較条件に指定した不等号を表示します。 比較値：比較値に指定した文字列を表示します。 比較形式：比較値の比較形式を表示します。
タグ	タグのフィルタ条件を設定している場合は、以下パラメータを表形式で表示します。 比較方法：指定した比較方法を表示します。 否定：否定にチェックを入れた場合、チェックされたチェックボックスを表示します。 タグ名：タグに指定した文字列を表示します。 比較条件：比較条件に指定した文字列を表示します。
編集ボタン	フィルタの条件を変更します。 詳細は「 6.2.11 フィルタの追加・変更 (97 ページ) 」を参照してください。
引用ボタン	詳細表示中のフィルタ情報を引用してフィルタを追加します。 詳細は「 6.2.11 フィルタの追加・変更 (97 ページ) 」を参照してください。 追加したフィルタは、引用元のフィルタの一つ上に挿入されます。

注

[否定]（条件に該当しないものを対象とする）条件の場合、条件の先頭に[≠]を表示します。

格納タイプのフィルタで、アクション定義設定がされている場合、フィルタ詳細画面に、以下のアクション定義一覧が表示されます。

表 6-35 項目一覧（「フィルター一覧」画面 フィルタ詳細 - アクション定義）

項目名	説明
状態	アクション定義の状態を設定します。 有効：フィルタに合致するメッセージが発生した場合に定義されているアクション（メール通報、コマンド実行）が行われる状態です。

項目名	説明
	無効:フィルタに合致するメッセージが発生した場合でも定義されているアクション(メール通報、コマンド実行)が行われない状態で、一時的にアクションの実行を停止したい場合に利用します。
完了時の自動確認	アクション定義の完了時の自動確認を表示します。 自動確認する:フィルタに合致したメッセージを、自動的に「確認済み」にする設定です。 自動確認しない:フィルタにメッセージが合致しても、自動的に「確認済み」にしません。既定値ではこちらが設定されます。
電子メール通報	フィルタに合致した際に実行される、メール通報設定の通報設定名を表示します。
メール通報 情報ボタン	メール通報設定の設定内容をダイアログ画面に表示します。 メール通報設定の設定内容については「 6.4.6.1 メール通報設定の追加・変更 (209 ページ) 」を参照してください。
コマンド実行	フィルタに合致した際に実行される、コマンド設定の通報設定名を表示します。
コマンド 情報ボタン	コマンド設定の設定内容をダイアログ画面に表示します。 コマンド設定の設定内容については「 6.4.7.1 コマンド設定の追加・変更 (214 ページ) 」を参照してください。

格納タイプのフィルタで、表示定義設定がされている場合、フィルタ詳細画面に、以下の表示定義一覧が表示されます。

表 6-36 項目一覧(「フィルター一覧」画面 フィルタ詳細 - 表示定義)

項目名	説明
メッセージ概要の変更	メッセージ概要の変更設定がされている場合は、その指定した値が表示されます。 フィルタに合致したメッセージの概要を指定した内容で更新します。
重要度の変更	重要度の変更設定がされている場合は、その指定した重要度が表示されます。 フィルタに合致したメッセージの重要度を指定した重要度で更新します。
ナレッジ	フィルタに合致した際に、そのメッセージのメッセージ詳細に表示されるナレッジ設定の設定名を表示します。
ナレッジ 情報ボタン	ナレッジ設定の設定内容をダイアログ画面に表示します。 テキストタイプの場合は、指定した表示タイトル枠の中に、指定したナレッジの文字列を表示します。 HTML タイプの場合は、指定した表示タイトル枠の中に、指定したHTML ソースから生成されたページを表示します。

6.2.11 フィルタの追加・変更

本項ではメッセージフィルタの追加・変更方法について説明します。

「フィルター一覧」画面にて[追加]をクリックする、または「フィルター一覧」画面にてフィルタを選択し、[引用]アイコンをクリックすることにより、「メッセージフィルタ追加」画面を表示します。[引用]を選択した場合、各条件の入力フィールドには選択したフィルタの条件がセットされた状態で表示されます。

「フィルター一覧」画面にてフィルタを選択し、[編集]アイコンをクリックすることにより、「メッセージフィルタ変更」画面を表示します。

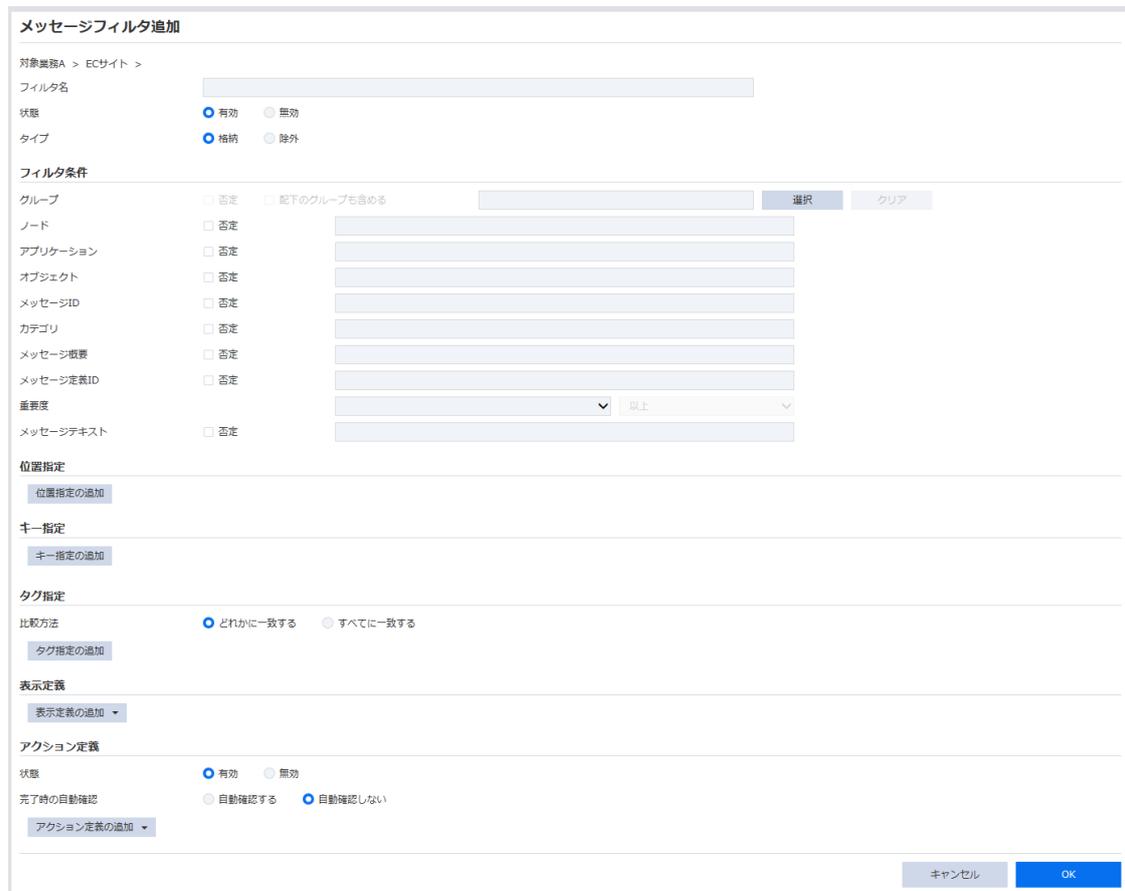


図 6-52 「メッセージフィルタ追加」画面

表 6-37 項目一覧（「メッセージフィルタ追加」画面）

項目名	説明
フィルタ名	フィルタの名前を 0～128 文字で入力します
状態	[有効]を指定した場合、フィルタの状態を有効とします。 [無効]を指定した場合、フィルタの状態を無効とします。
タイプ	フィルタのタイプ [格納]を指定した場合、フィルタに一致したメッセージをカテゴリへのカテゴリ化対象とします。 [除外]を指定した場合、フィルタに一致したメッセージをカテゴリへのカテゴリ化対象としません。また、以降のフィルタ定義との比較も行いません。除外フィルタには、アクション定義および、表示定義を設定できません。
グループ	グループを選択します。選択したグループ配下のノードのメッセージを対象とします。
否定(グループ)	チェックが入った場合、選択したグループ以外を対象とします。[配下のグループも含める]もチェック

項目名	説明
	した場合、選択したグループ配下の全てのグループ以外のグループが対象になります。
配下のグループも含める	チェックを入れた場合、指定したグループ配下のすべてグループを対象とします。
否定(ノード名)	チェックが入った場合、ノード名に対するフィルタ条件に一致しないもの全てを条件に一致したとみなします。
ノード名	ノード名に対するフィルタ条件を正規表現で指定します。
否定(アプリケーション)	チェックが入った場合、アプリケーションに対するフィルタ条件に一致しないもの全てを条件に一致したとみなします。
アプリケーション	アプリケーションに対するフィルタ条件を指定します。
否定(オブジェクト)	チェックが入った場合、オブジェクトに対するフィルタ条件に一致しないもの全てを条件に一致したとみなします。
オブジェクト	オブジェクト(メッセージ発生元のオブジェクト名)に対するフィルタ条件を正規表現で指定します。
否定(メッセージID)	チェックが入った場合、メッセージIDに対するフィルタ条件に一致しないもの全てを条件に一致したとみなします。
メッセージID	メッセージIDに対するフィルタ条件を指定します。
否定(カテゴリ)	チェックが入った場合、カテゴリに対するフィルタ条件に一致しないもの全てを条件に一致したとみなします。
カテゴリ	カテゴリに対するフィルタ条件を指定します。
否定(メッセージ概要)	チェックが入った場合、メッセージ概要に対するフィルタ条件に一致しないもの全てを条件に一致したとみなします。
メッセージ概要	メッセージ概要に対するフィルタ条件を指定します。
否定(メッセージ定義ID)	チェックが入った場合、メッセージ定義IDに対するフィルタ条件に一致しないもの全てを条件に一致したとみなします。
メッセージ定義ID	メッセージ本文の生成に使用するメッセージ定義を表すIDに対するフィルタ条件。
重要度	重要度に対するフィルタ条件を指定します。
重要度の範囲	重要度に対して、[以上][等しい][以下]の中から選択します。 緊急度の高い重要度を指定する場合は[以上]を選択してください。
否定(メッセージテキスト)	チェックが入った場合、メッセージに対するフィルタ条件に一致しないもの全てを条件に一致したとみなします。

項目名	説明
メッセージテキスト	メッセージテキストに対するフィルタ条件を指定します。
否定 (位置指定)	チェックが入った場合、メッセージテキストに対する位置指定フィルタ条件に一致しないもの全てを条件に一致したとみなします。
比較位置	メッセージテキストに対する比較位置を指定します。メッセージテキストの何文字目からを比較対象とするか、文字数を指定します。
比較条件	<p>"=": 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」が完全一致するか比較します。正規表現は使用できません。</p> <p>"<": 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」が不一致であるか比較します。</p> <p>">": 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値より大きい」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 > 「比較値」</p> <p>"<": 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値より小さい」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 < 「比較値」</p> <p>">=": 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値以上」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 >= 「比較値」</p> <p>"<=": 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値以下」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 <= 「比較値」</p>
比較値	指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、この設定した文字列を比較します。正規表現は使用できません。
比較値形式	<p>比較値の比較形式を指定します。文字列、数字のいずれかの比較形式を指定します。</p> <p>"文字列": 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を文字列 (バイナリ) 比較します。</p> <p>"数字": 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を数値変換し、数値として比較します。</p>
位置指定の追加	<p>位置指定フィルタ条件を追加します。</p> <p>位置指定は1つのフィルタに対して複数設定することが可能です。</p> <p>設定した位置指定を削除する場合は、各位置指定設定の右上の「×」を選択してください。</p>
否定 (キー指定)	チェックが入った場合、メッセージテキストに対するキー指定フィルタ条件に一致しないもの全てを条件に一致したとみなします。
キー値	メッセージテキストに対するキー指定フィルタ条件を指定します。メッセージテキストの何文字目からを比較対象とするか、文字数を指定します。

項目名	説明
比較条件	<p>"=" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」が完全一致するか比較します。正規表現で比較されます。</p> <p>"<" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」が不一致であるか比較します。</p> <p>">" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値より大きい」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 > 「比較値」</p> <p>"<" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値より小さい」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 < 「比較値」</p> <p>">=" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値以上」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 >= 「比較値」</p> <p>"<=" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を比較して、「比較値以下」か比較します。式: 「指定メッセージ本文の値」 <= 「比較値」</p>
比較値	<p>指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、この設定した文字列を比較します。「条件」に「=」を指定した場合、比較値は正規表現で指定します。(完全一致の場合の例「^文字列\$」)。</p>
比較値形式	<p>比較値の比較形式を指定します。文字列、数字のいずれかの比較形式を指定します。</p> <p>"文字列" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を文字列 (バイナリ) 比較します。</p> <p>"数字" : 指定したメッセージテキスト内の文字列 (値) と、「比較値」を数値変換し、数値として比較します。</p>
キー指定の追加	<p>キー指定フィルタ条件を追加します。</p> <p>キー指定は1つのフィルタに対して複数設定することが可能です。</p> <p>設定したキー指定を削除する場合は、各キー指定設定の右上の「×」を選択してください。</p>
比較方法 (タグ指定)	<p>タグ指定の比較方法を指定します。「どれかに一致する」、「すべてに一致する」のいずれかの比較方法を指定します。</p> <p>"どれかに一致する" : 指定したタグ指定フィルタ条件のどれかに一致した場合、条件に一致したとみなします。</p> <p>"すべてに一致する" : 指定した全てのタグ指定フィルタ条件に一致した場合、条件に一致したとみなします。</p>
否定 (タグ指定)	<p>チェックが入った場合、タグ指定に対するフィルタ条件に一致しないものを全てを条件に一致したとみなします。</p>
タグ名	<p>メッセージに付与されたタグ名に対するフィルタ条件を指定します。</p>

項目名	説明
比較条件 (タグ指定)	<p>"で始まる": タグ名が指定した文字列で始まるタグに一致したとみなします。</p> <p>"に一致する": タグ名に指定した文字列が完全に同一のタグに一致したとみなします。</p> <p>"を含む": タグ名に指定した文字列が含まれるタグに一致したとみなします。</p> <p>"で終わる": タグ名が指定した文字列で終わるタグに一致したとみなします。</p> <p>"正規表現": タグ名に指定した文字列が正規表現でタグに一致したとみなします。</p>
タグ指定の追加	<p>タグ指定フィルタ条件を追加します。</p> <p>タグ指定は1つのフィルタに対して複数設定することが可能です。</p> <p>設定したタグ指定を削除する場合は、各タグ指定設定の右の「×」を選択してください。</p>

図 6-53 「メッセージフィルタ追加」画面 - 表示定義

表 6-38 項目一覧（「メッセージフィルタ追加」画面 表示定義）

項目名	説明
表示定義の追加	<p>メッセージフィルタに設定する表示定義を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナレッジ: フィルタに合致したメッセージの詳細画面（ナレッジタブ）に任意の内容を表示する機能です。発生したメッセージへの対処方法や参考となる Web ページのリンクを設定することができます。 ・メッセージ概要の変更: フィルタに合致したメッセージの概要を指定した内容で更新する機能です。 ・重要度の変更: フィルタに合致したメッセージの重要度を指定した重要度で更新する機能です。 <p>1つのフィルタに対してナレッジは2件まで、メッセージ概要の変更、重要度の変更は1件のみ登録が可能です。</p>
表示タイトル	<p>メッセージ詳細画面（ナレッジタブ）に表示するナレッジの表示タイトルを1024文字以内で設定します。</p>
表示タイプ	<p>メッセージ詳細画面（ナレッジタブ）に表示するナレッジ情報の形式を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストビュー

項目名	説明
	・HTML ビュー
表示内容	メッセージ詳細画面（ナレッジタブ）に表示する情報を 8192 文字以内で設定します。 置換文字列が指定可能です。置換文字列を指定する場合は、実際に展開される文字数を考慮してください。 指定可能な置換文字列については「付録 B 置換文字列一覧（222 ページ）」を参照してください。
メッセージ概要の変更	メッセージフィルタに合致したメッセージの概要を 256 文字以内で設定します。 置換文字列が指定可能です。置換文字列を指定する場合は、実際に展開される文字数を考慮してください。 指定可能な置換文字列については「付録 B 置換文字列一覧（222 ページ）」を参照してください。
重要度の変更	メッセージフィルタに合致したメッセージの重要度を、指定した重要度で更新します。ドロップダウンリストから重要度を選択します。

図 6-54 「メッセージフィルタ追加」画面 - アクション定義

表 6-39 項目一覧（「メッセージフィルタ追加」画面 アクション定義）

項目名	説明
状態	アクション定義の状態を設定します。 有効：フィルタに合致するメッセージが発生した場合に定義されているアクション（メール通報、コマンド実行）が行われる状態です。 無効：フィルタに合致するメッセージが発生した場合でも定義されているアクション（メール通報、コマンド実行）が行われない状態です。一時的にアクションの実行を停止したい場合に利用します。
完了時の自動確認	アクション定義の完了時の自動確認を設定します。 自動確認する：フィルタに合致したメッセージを、自動的に「確認済み」にする設定です。 自動確認しない：フィルタにメッセージが合致しても、自動的に「確認済み」にしません。既定値ではこちらが設定されます。
アクション定義の追加	フィルタに合致するメッセージが発生する際に実行するアクションを追加します。 アクションは以下から選択します。 メール通報：メッセージ発生時に設定されたメールを送信します。

項目名	説明
	<p>コマンド実行：メッセージ発生時に設定されたコマンドを実行します。</p> <p>アクションは1つのフィルタに対して複数設定することが可能です。</p> <p>設定したアクション定義を削除する場合は、各アクション設定の右上の「X」を選択してください。</p>
電子メール通報	<p>フィルタに合致するメッセージが発生した場合に、あらかじめ登録された内容でメールを送信します。</p> <p>「選択」ボタンを押すと表示されるメール通報設定選択ダイアログから、選択した設定名が表示されます。</p> <p>送信するメール内容の設定方法については「6.4.6.1 メール通報設定の追加・変更 (209 ページ)」を参照してください。</p>
コマンド実行	<p>フィルタに合致するメッセージが発生した場合に、あらかじめ登録された設定でコマンドを実行します。</p> <p>「選択」ボタンを押すと表示されるコマンド実行設定選択ダイアログから、選択した設定名が表示されます。</p> <p>実行するコマンドの定義方法については「6.4.7.1 コマンド設定の追加・変更 (214 ページ)」を参照してください。</p>

条件の入力が完了したら、[OK]ボタンをクリックして登録します。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合、入力内容は破棄して「フィルター一覧」画面に戻ります。

6.2.12 フィルタの順序変更

本項ではメッセージフィルタの順序変更方法について説明します。

「フィルター一覧」画面にて[順序変更]をチェックすることにより、順序変更操作が可能になります。

フィルター名	タイプ	状態	ノート	アプリケーション	オブジェクト	メッセージID	メッセージテキスト
ECサイトAPサーバ監視	格納	有効		Tomcat			
ECサイトプロセス監視	格納	有効		Apache			
ECサイトファイル監視	格納	有効			^FileMonitor\$		
全て	格納	有効	.*				

図 6-55 「フィルター一覧」画面 順序変更

表 6-40 項目一覧（「フィルター一覧」画面 順序変更）

項目名	説明
▲	選択行を上へ移動します
▼	選択行を下へ移動します
キャンセル	キャンセル確認ダイアログを表示します

項目名	説明
	「表 6-41 項目一覧 (「キャンセル確認」 ダイアログ) (105 ページ)」
順序反映	反映確認ダイアログを表示します 「表 6-42 項目一覧 (「反映確認」 ダイアログ) (105 ページ)」

「キャンセル確認」 ダイアログ



図 6-56 「キャンセル確認」 ダイアログ

表 6-41 項目一覧 (「キャンセル確認」 ダイアログ)

項目名	説明
キャンセル	キャンセルせずにダイアログを閉じます (順序変更操作へ戻ります)
OK	順序変更を中止しフィルター一覧表示へ戻ります

「反映確認」 ダイアログ

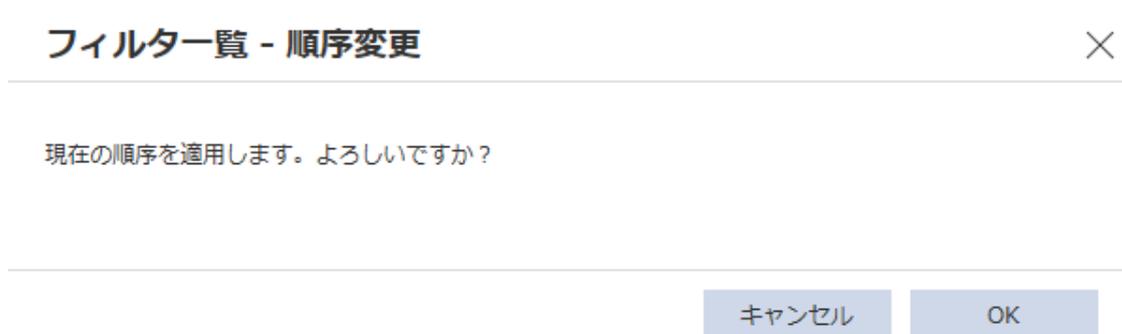


図 6-57 「反映確認」 ダイアログ

表 6-42 項目一覧 (「反映確認」 ダイアログ)

項目名	説明
キャンセル	順序変更を反映せずにダイアログを閉じます (順序変更操作へ戻ります)
OK	順序変更を反映しダイアログを閉じます

6.2.13 フィルタの削除

本項ではメッセージフィルタの削除方法について説明します。

「フィルター一覧」画面にてフィルター一覧の削除対象をチェックすることにより[削除]アイコンが有効になります。



図 6-58 「フィルター一覧」画面 削除

[削除]ボタンをクリックすることにより「フィルタ削除」ダイアログが表示されます。[OK]をクリックしフィルタを削除します。

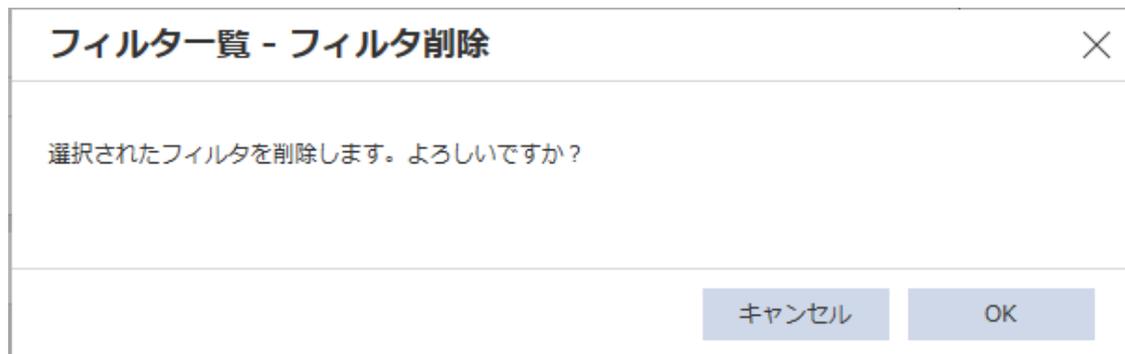


図 6-59 「フィルタ削除」ダイアログ

6.2.14 フィルタの一括有効/無効化

本項ではメッセージフィルタを一括で有効化、または無効化する方法について説明します。

「フィルター一覧」画面にて対象をチェックすることにより、フィルタの一括有効化/無効化の操作が可能になります。



図 6-60 「フィルター一覧」画面 有効/無効

[有効]アイコンをクリックすることにより「フィルタ状態変更」ダイアログが表示されます。[OK]をクリックしフィルタを有効化します。

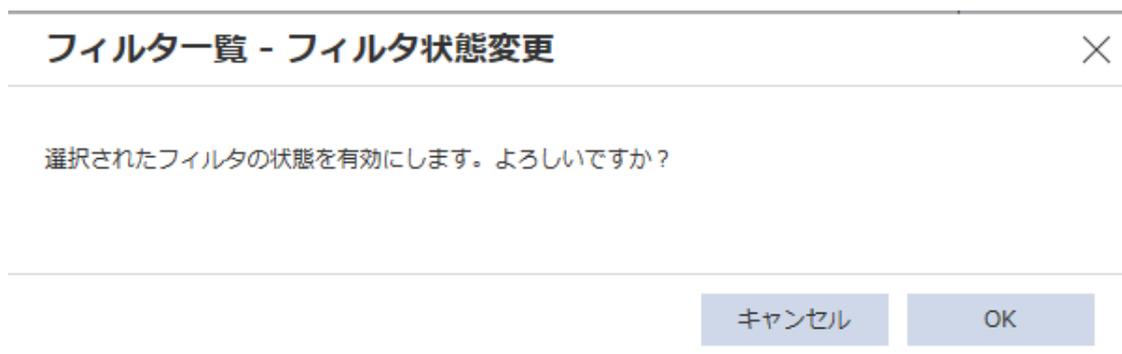


図 6-61 「フィルタ状態変更」ダイアログ (有効化)

[無効]アイコンをクリックすることにより「フィルタ状態変更」ダイアログが表示されます。[OK]をクリックしフィルタを無効化します。



図 6-62 「フィルタ状態変更」ダイアログ (無効化)

6.3 分析／レポート

本項では監視対象の各ノードから取得した各種情報をグラフとして表示する「分析／レポート」画面について説明します。

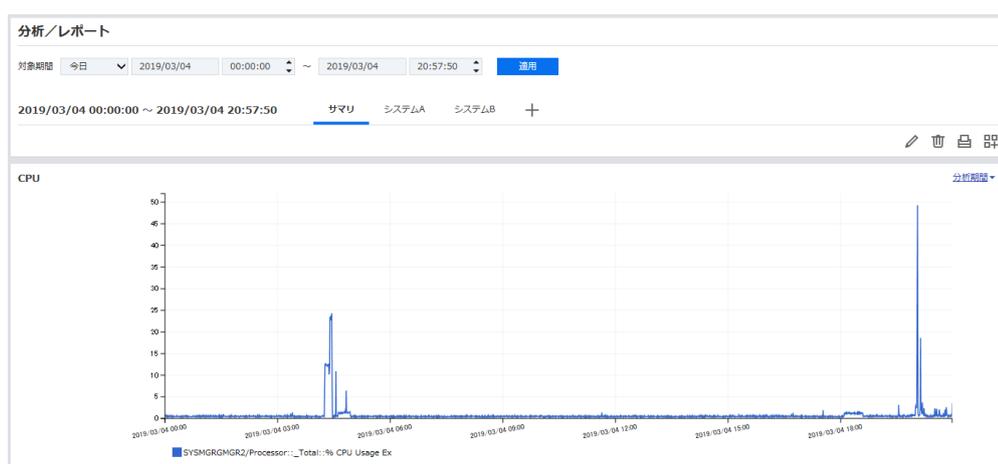


図 6-63 「分析／レポート」画面

分析／レポート機能を使うには、以下の手順で操作をします。ビューとは、グラフや分析結果を表示する領域のことです。

ビューには、複数のグラフを配置することができます。

1. 表示期間の設定をします。

分析／レポートの表示期間を設定します。

表 6-43 項目一覧（表示期間）

項目名	説明
過去1時間	各グラフの表示時間を過去1時間のグラフを表示します。
今日	本日の00:00から現在までのグラフを表示します。初期表示時はこのボタンが選択された状態です
昨日	前日の00:00から23:59までのグラフを表示します。
n日間	n日前の00:00から前日の23:59までのグラフを表示します。n日は、2～6日までをプルダウンで選択します。
n週間	過去n週間の00:00から前日の23:59までのグラフを表示します。n週間は、1～4までをプルダウンで選択します。
1ヶ月	先月の同日の00:00から前日の23:59までのグラフを表示します。
今月	今月の1日00:00から現在までのグラフを表示します。
前月	先月の1日00:00から末日の23:59現在までのグラフを表示します。
開始：終了	グラフの表示の開始時刻、終了時刻を指定します。開始時刻、終了時刻ともに1971/01/01 00:00～2037/12/31 23:59の範囲を指定します。
適用	[適用]ボタンをクリックすると、指定された期間のグラフを表示します。表示中期間の表示内容を更新します。

2. ビューを追加します。（「6.3.1 分析／レポートビューの設定（108ページ）」を参照してください。）

3. ビューの編集画面で、グラフ種別の選択をし、グラフ種別ごとに設定をします。詳しくは以下をご覧ください。

- 「6.3.2 性能グラフの設定（111ページ）」
- 「6.3.4 稼働状況グラフの設定（118ページ）」
- 「6.3.3 ランキンググラフの設定（114ページ）」

4. データの分析をする場合の操作は、「6.3.7 分析機能（125ページ）」をご覧ください。

5. ビューの印刷は、「6.3.6 分析／レポートビューの印刷（124ページ）」をご覧ください。

6.3.1 分析／レポートビューの設定

本項ではビューの追加と編集について記載します。

分析ビューの追加手順を説明します。

「分析／レポート」画面で[追加]アイコン+をクリックします。

「ビュー追加」ダイアログが表示されます。ビュー名を入力して、[OK]をクリックします。

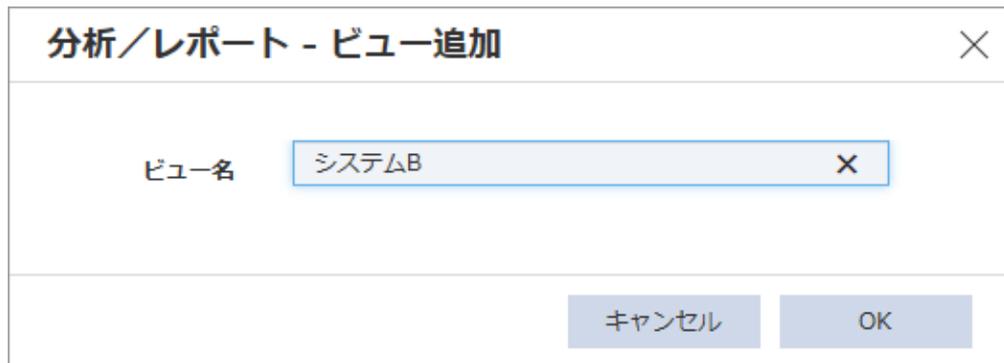


図 6-64 分析/レポート「ビュー追加」ダイアログ

「分析/レポート」画面にビューが追加されます。

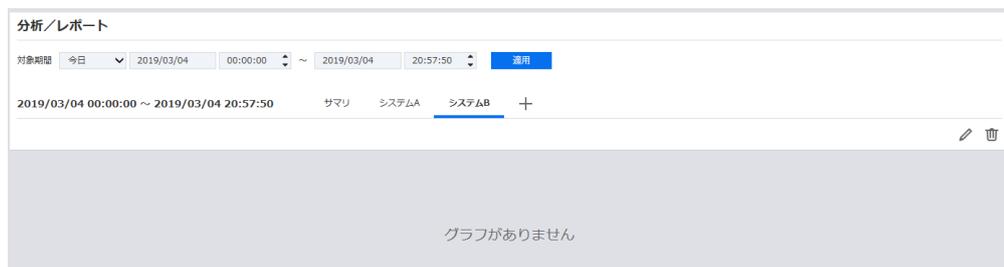


図 6-65 ビュー追加直後の「分析/レポート」画面

[編集]をクリックし、「ビュー変更」画面を開きます。



図 6-66 「ビュー変更」画面

グラフ一覧の [追加]アイコン+をクリックし、「グラフ設定」ダイアログを開きます。

グラフ - グラフ設定
×

グラフ名

グラフ種別

性能グラフ ランキング 稼働状況

データ種別 監視データ 統計データ

値 平均値 最小値 最大値 最終値

縦軸 ▼

ランキング

表示件数 件

ソート順 降順 昇順

値 平均値 最小値 最大値 最終値 監視データ

稼働状況

表示 稼働のみ 全状態

表示幅 ▼

図 6-67 「グラフ設定」ダイアログ

表 6-44 項目一覧（「グラフ設定」ダイアログ）

項目名	必須	説明
グラフ名	○	グラフの名前を 128 文字以内で入力します。
グラフ種別	○	以下のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 性能グラフ ランキング 稼働状況
表示幅	○	グラフの描画サイズを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 100% - 表示幅いっぱいに描画 66% - 表示幅の 2/3 を使用し描画(33%との組み合わせで、2 列のレイアウト) 50% - 表示幅の半分を使用し描画(2 列のレイアウト) 33% - 表示幅の 1/3 を使用し描画(3 列のレイアウト)

ヒント

グラフの定義数に上限は設けられていませんが、多数のグラフの描画にはクライアント性能が必要とされます。1 ビューあたり 50 グラフまでを推奨します。ご利用の環境に合わせて定義してください。

6.3.2 性能グラフの設定

本項では、グラフ種別に性能グラフを選択した場合の設定について記載します。

グラフ - グラフ設定
×

グラフ名

グラフ種別

性能グラフ

データ種別 監視データ 統計データ

値 平均値 最小値 最大値 最終値

縦軸 ▼

ランキング

表示件数 件

ソート順 降順 昇順

値 平均値 最小値 最大値 最終値 監視データ

稼働状況

表示 稼働のみ 全状態

表示幅 ▼

図 6-68 「グラフ設定」ダイアログ (性能グラフ)

表 6-45 項目一覧 (「グラフ設定」ダイアログ (性能グラフ))

項目名	必須	説明
データ種別	○	以下のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 監視データ：サーバー監視間隔毎に収集した性能データをグラフ化します。障害調査目的など短期間のデータ分析に用います。 統計データ：1時間もしくは1日単位で生成される統計データ（平均、最小、最大、最終）をグラフ化します。キャパシティプランニングなど長期間のデータ分析に用います。
値	○	統計グラフのときのみ指定できます。以下から1つ以上選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> 平均値 最小値 最大値 最終値 "平均値"、"最小値"、"最大値"、"最終値"は、"監視データ"を基に生成された統計データです。
縦軸	○	グラフの目盛の描画方法を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 自動：プロットされる値の最小値を下辺、最大値を上辺としてグラフ描画します。 パーセント：下辺を0、上辺を100%として描画します。

[OK]をクリックすると、追加した性能グラフがグラフ一覧に表示されます。

一覧から性能グラフを選択した状態にしてください。グラフ詳細が表示されます。



図 6-69 「ビュー変更」画面(性能グラフ)

性能グラフに表示するノード及びカウンタを選択します。

性能グラフの詳細から、[カウンタ追加...]アイコン+をクリックして、「カウンタ選択」ダイアログを表示します。

右上のフィールドに文字列を入れると、その文字を含むカウンタだけに絞り込まれて表示されます。

既に選択済みのカウンタを追加することはできません

カウンタの表示色はシステムで定められています。

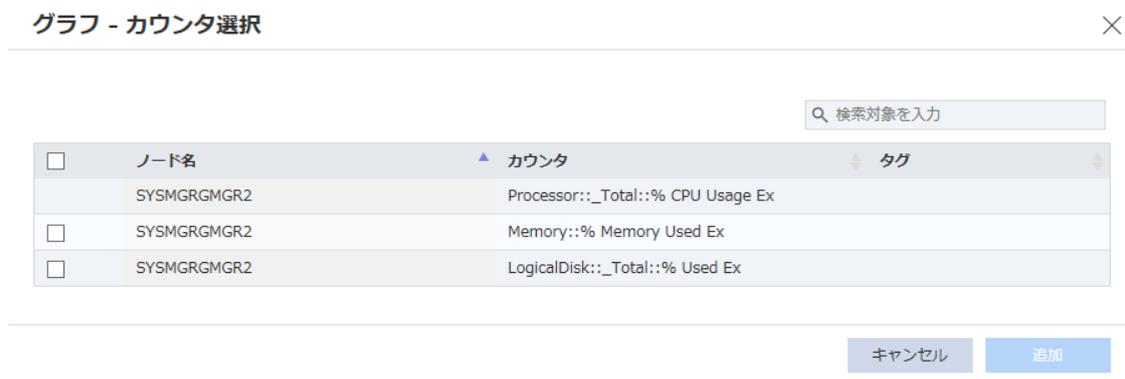


図 6-70 「カウンタ選択」ダイアログ

表 6-46 「カウンタ選択」ダイアログ

項目名	説明
カウンタ	<p>グラフ表示対象のノードと取得対象のデータ(カウンタ)の組み合わせを選択します。複数選択可能です。</p> <p>同時に選択できるカウンタは20件以内です。</p> <p>一覧のヘッダをクリックすることでノード、カウンタで並び替えをすることができます。</p>

項目名	説明
タグ	タグを表示します。

グラフ一覧

ビュー名 サマリ + ✎ 🗑 順序変更

グラフ名	グラフ種類	縦軸	表示幅
CPU	監視データ	自動	100%
CPU(統計)	統計データ	自動	100%
Memory	監視データ	自動	100%
性能データ	統計データ	自動	100%

1-4 件 / 4 件 1 表示件数 5 件

戻る

性能データの詳細

グラフ種類 統計データ + 🗑 順序変更

ノード名	カウンタ	タグ	色
SYSMGRGMGR2	Processor::_Total::% CPU Usage Ex		■
SYSMGRGMGR2	Memory::% Memory Used Ex		■
SYSMGRGMGR2	LogicalDisk::_Total::% Used Ex		■

図 6-71 性能グラフ設定 カウンター一覧

カウンタの削除は、以下のように操作をします。

1. 該当するカウンタをクリックして、選択状態にします。
2. [カウンタ削除]アイコン 🗑 をクリックします。
3. 「カウンタ削除」ダイアログが表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。
4. [キャンセル]ボタンをクリックした場合、カウンタを削除せずにダイアログを閉じます。

グラフ - カウンタ削除 ×

選択されたカウンタを削除します。よろしいですか?

キャンセル OK

図 6-72 「カウンタ削除」ダイアログ

カウンタの表示順序を変更するには、対象となるカウンタをクリック後、詳細画面の[順序変更]リンクをクリックします。

順序変更のボタンを操作し、適用をクリックしてください。

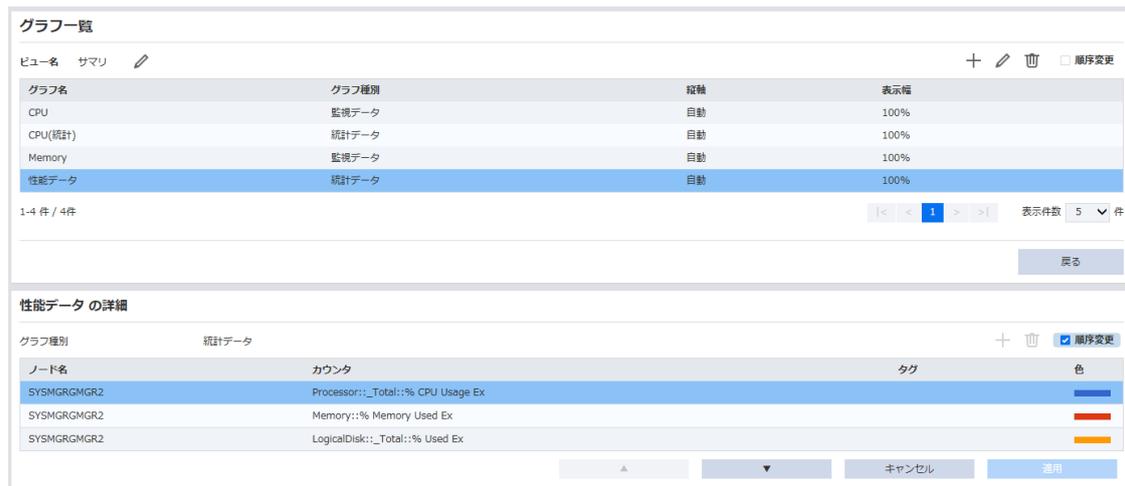


図 6-73 カウンタ順序変更

表 6-47 カウンタ順序変更

項目名	説明
▲	選択した行を上に移動します。クリックした回数分移動します。
▼	選択した行を下に移動します。クリックした回数分移動します。
キャンセル	順序変更の操作を取り消します
適用	順序変更の結果を反映します。

ヒント

描画領域の制限により表示する期間によってはデータが間引かれます。間引きなしに表示できる期間は以下の通りです。

表 6-48 間引きなしに表示できる期間

データ種別	監視間隔	期間			
		表示幅 : 100%	表示幅 : 66%	表示幅 : 50%	表示幅 : 33%
監視データ	30 秒(default)	6 時間 35 分 (23700 秒)	4 時間 18 分 30 秒 (15510 秒)	3 時間 10 分 (11400 秒)	2 時間 1 分 30 秒 (7290 秒)
	10 秒(min)	2 時間 11 分 40 秒 (7900 秒)	1 時間 26 分 10 秒 (5170 秒)	1 時間 3 分 20 秒 (3800 秒)	40 分 30 秒 (2430 秒)
統計データ	-	32 日 22 時間 (790 時間)	21 日 13 時間 (517 時間)	15 日 20 時間 (380 時間)	10 日 3 時間 (243 時間)

ヒント

長期間や多数のカウンタを設定したグラフは最大データを超過するために描画が行われない場合があります。期間の絞り込みや、カウンタ数を減らすことでグラフ表示を行うことができます。

6.3.3 ランキンググラフの設定

本項では、ランキンググラフの設定方法について説明します。

ランキンググラフは、ある指標(カウンタ)の中で指定期間内のトップ項目を指定に従って表示します。

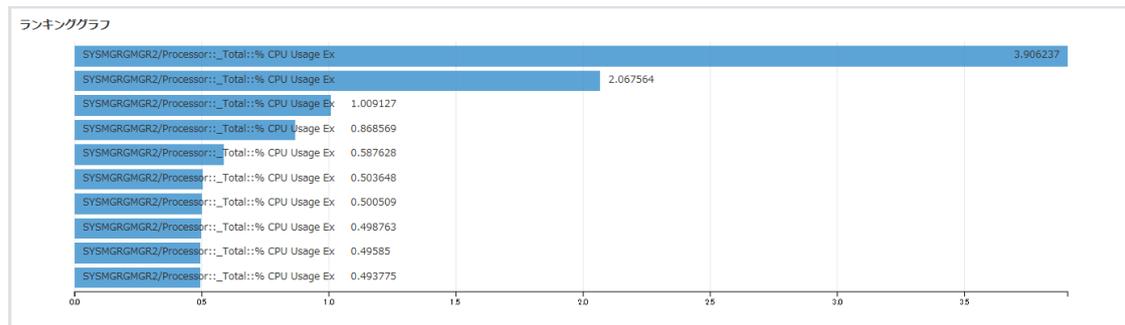


図 6-74 ランキンググラフ 例

グラフ一覧で、[追加]アイコン+をクリックし、グラフ種別として[ランキング]を選びます。

グラフ - グラフ設定 ×

グラフ名

グラフ種別

性能グラフ
データ種別 監視データ 統計データ

値 平均値 最小値 最大値 最終値

縦軸

ランキング
表示件数 件
ソート順 降順 昇順
値 平均値 最小値 最大値 最終値 監視データ

稼働状況
表示 稼働のみ 全状態

表示幅

図 6-75 「グラフ設定」ダイアログ(ランキング)

表 6-49 項目一覧(「グラフ設定」ダイアログ(ランキング))

項目名	必須	説明
表示件数	○	ランキング表示する件数を設定します。A4 縦で印刷する場合には、40 件程度を目安にしてください。 <ul style="list-style-type: none"> 初期設定は 10 件 1~100 の範囲で指定します。
ソート順	○	ランキングのソート順を設定します。初期設定は降順です。 <ul style="list-style-type: none"> 降順

項目名	必須	説明
値	○	<ul style="list-style-type: none"> 昇順 ランキング対象とするデータ種別を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 平均値 最小値 最大値 最終値 監視データ "監視データ"は監視システムで実際に取得した値です。"平均値"、"最小値"、"最大値"、"最終値"は、"監視データ"を基に生成された統計データです。 "監視データ"を選択した場合、指定された期間のうち最も新しい監視データのランキングが表示されます。 "平均値"、"最小値"、"最大値"、"最終値"を選択した場合、指定された期間の統計データのランキングが表示されます。統計データは正時毎に、0分～59分59秒までの監視データをもとに計算された値のため、開始・終了日時の指定範囲によっては同一カウンタがランキング上に複数回表示されることがあります。同一カウンタがランキング上に複数回表示されるのを避けたい場合、開始・終了日時にランキング対象時刻(同時刻)を指定しランキングを行ってください。 開始・終了日時の指定方法は「 6.3 分析/レポート (107 ページ) 」をご参照ください。

ヒント

統計データは正時ごとに作成されるため、開始・終了日時の指定範囲と同一カウンタがランキング上に表示される最大件数については、以下の例のとおりです。

- 開始・終了時刻の指定範囲が 12:00:00～12:45:00 の場合、同一カウンタがランキング上に表示される最大件数は 1 件です。
- 開始・終了時刻の指定範囲が 12:00:00～13:00:00 の場合、同一カウンタがランキング上に表示される最大件数は 2 件です。
- 開始・終了時刻の指定範囲が 11:30:00～12:45:00 の場合、同一カウンタがランキング上に表示される最大件数は 1 件です。
- 開始・終了時刻の指定範囲が 12:15:00～12:45:00 の場合、同一カウンタがランキング上に表示される最大件数は 0 件です。

[OK]をクリックすると、追加したランキングがグラフ一覧に表示されます。

一覧からランキングを選択した状態にしてください。グラフ詳細が表示されます。

図 6-76 「ビュー変更」画面(ランキンググラフの設定)

表 6-50 項目一覧(「ビュー変更」画面(ランキンググラフの設定))

項目名	入力値または表示	説明
グラフ種別	ランキング	ランキンググラフであることを示します。
対象グループ	選択したグループ	ランキングを算出したい母集団となるグループが表示されます [選択]をクリックし、表示されるグループ一覧から対象となるグループを選択してください。対象グループおよび対象カウンタのいずれか、もしくは両方を指定します。配下のグループを含めるをチェックすると、ランキング対象は、選択したグループの下全てのグループが対象となります。
選択ボタン		「グループ選択」ダイアログを表示し、グループを選択します。
クリアボタン		選択済みのグループをクリアします。
対象カウンタ	プリセット	以下のプリセットから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> メモリ使用率 ディスク使用率 CPU 使用率 CPU 使用率(プロセス単位)
対象カウンタ	自由入力	ランキングの対象としたいカウンタ名を 2048 文字以内の正規表現形式で指定します。
プレビュー		[プレビュー]ボタンをクリックすると対象となるカウンター一覧にリストが表示されます。
カウンター一覧(プレビュー)		ランキング対象のカウンタの一覧を表示します
適用		[適用]ボタンをクリックすると指定内容が保存されます。

[戻る]ボタンをクリックすると、設定したランキングを「分析／レポート」画面に表示します。

対象カウンタのプリセットには以下の正規表現が設定されています。

表 6-51 対象カウンタ (プリセット)

項目名	正規表現
メモリ使用率	^Memory::(% Memory Used Ex memusednocached MemoryUsedEx)\$
ディスク使用率	^LogicalDisk::(?!_Total::).+::(% Used Ex Use% used Capacity)\$
CPU 使用率	^Processor::(_Total:: all:: system:: ALL::)?% CPU Usage Ex\$
CPU 使用率(プロセス単位)	^Process::(?!_Total::).+::(% Processor Time CPU)\$

6.3.4 稼働状況グラフの設定

本項では、稼働状況グラフの設定方法について説明します。稼働状況は監視対象の指定期間内での稼働率を表示します。監査対象を1台のみ指定した場合は円グラフ、複数指定した場合は棒グラフで表示します。

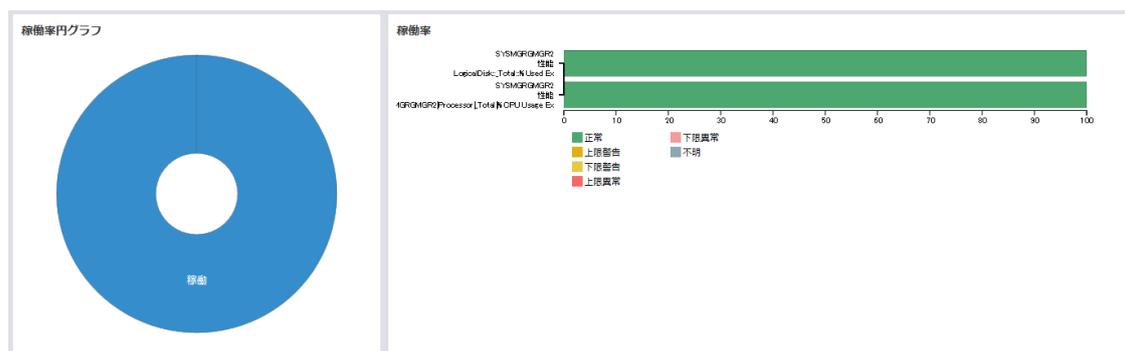


図 6-77 稼働状況グラフ 例

グラフ一覧で[追加]アイコン+をクリックし「グラフ設定」ダイアログを表示し、グラフ種別として[稼働状況]を選びます。グラフ表示の際、[稼働のみ]または[全状態]を選択して、[OK]をクリックします。

グラフ - グラフ設定 ×

グラフ名

グラフ種別

性能グラフ

データ種別 監視データ 統計データ

値 平均値 最小値 最大値 最終値

縦軸

ランキング

表示件数 件

ソート順 降順 昇順

値 平均値 最小値 最大値 最終値 監視データ

稼働状況

表示 稼働のみ 全状態

表示幅

図 6-78 「グラフ設定」ダイアログ(稼働状況)

表 6-52 項目一覧(「グラフ設定」ダイアログ(稼働状況))

項目名	説明
稼働のみ	稼働中を示す情報だけをグラフに示し、その他の状態は「非稼働」として表示します。
全状態	監視対象のステータスをそれぞれ表示します。

追加したグラフが、グラフ一覧に表示されます。

一覧から稼働状況のグラフを選択した状態にしてください。グラフ詳細が表示されます。

グラフ表示をする情報によって

- エージェント稼働率追加...
- その他稼働率追加...

のどちらかのボタンをクリックしてください。



図 6-79 「ビュー変更」画面(稼働状況)

6.3.4.1 エージェント稼働率の追加

[エージェント稼働率追加...]ボタンをクリックすると「監視対象選択」ダイアログが表示されます。グループツリーからグループを選択し、表示されるノード一覧から監視対象のノードを選択してください。既に選択済みのノードは選択できません。[追加]ボタンをクリックしてください。※ACOS 論理システムは表示されません。

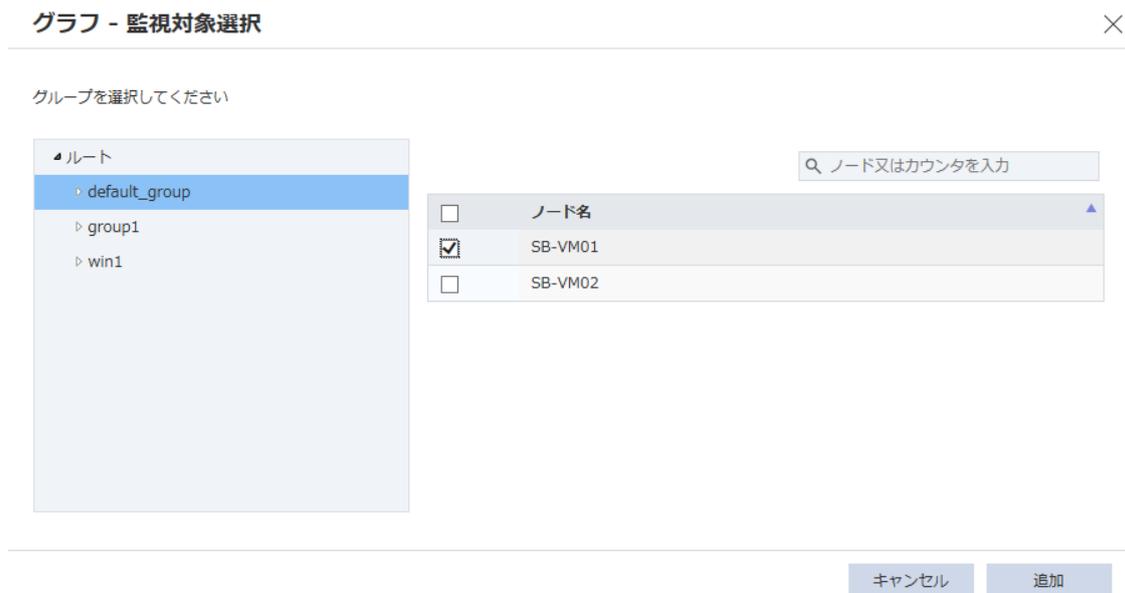


図 6-80 「監視対象選択」ダイアログ

選択したノードが一覧に表示されます。

[戻る]ボタンをクリックすると、「分析/レポート」画面に追加した稼働状況のグラフが表示されます。

6.3.4.2 その他の稼働率の追加

[その他の稼働率追加]ボタンをクリックすると「監視対象選択」ダイアログが表示されます。グループツリーからグループを選択し、表示されるノード一覧から監視対象のノードを選択

してください。当該ノードの中からグラフ表示したい監視対象を選択してください。既
に選択済みの監視対象は選択できません。

選択されたノードに応じてフィルタが表示されます。フィルタを選択すると、表示される
監視対象が絞りこまれます。

表 6-53 フィルタ項目一覧

選択ノード	フィルタ
ホスト	<ul style="list-style-type: none"> • エージェント • プロセス • ファイルサイズ • TCP/UDP ポート • Windows サービス • 性能
ACOS ホスト	<ul style="list-style-type: none"> • エージェント • LS • VIS • APM • FIPS • ACOS ジョブ
ACOS 論理システム	<ul style="list-style-type: none"> • LS • VIS • APM • FIPS • ACOS ジョブ
Azure サイト	Azure サイト
Azure リソース	Azure リソース
Azure サブスクリプション	Azure サブスクリプション

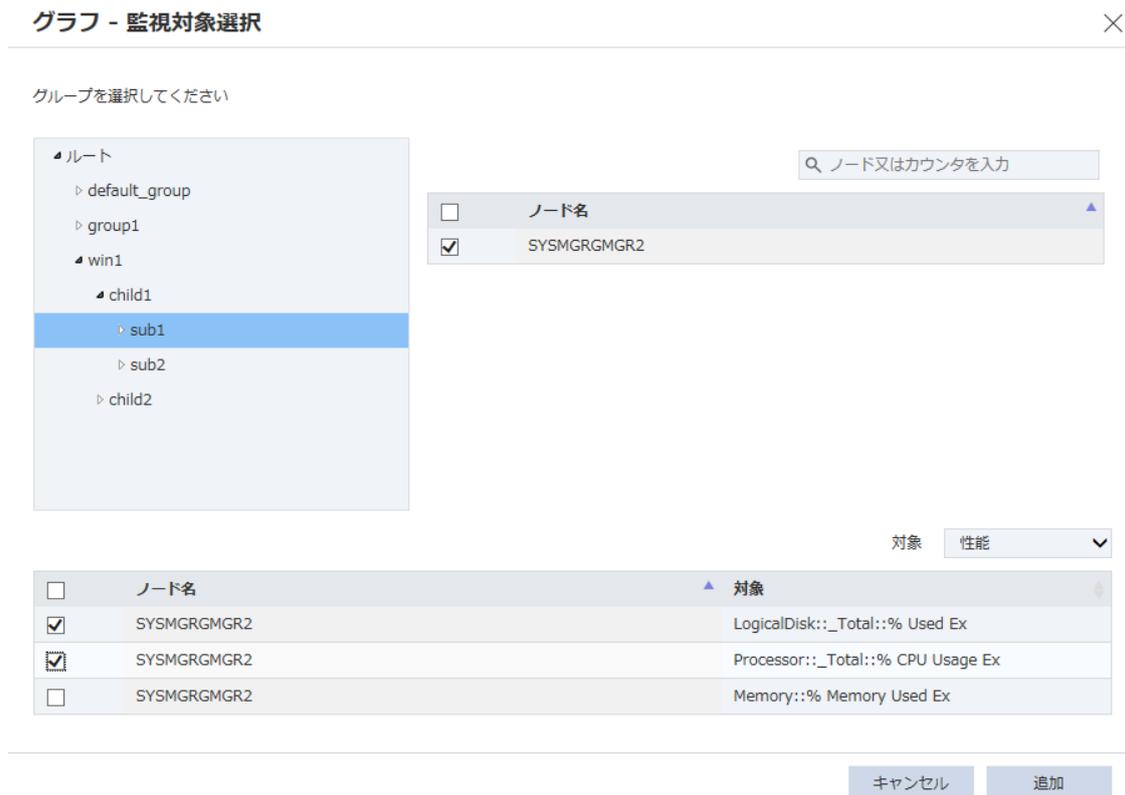


図 6-81 その他の稼働率 ダイアログ

監視対象を選択して、[追加]をクリックします。グラフ詳細にグラフに表示する監視対象の一覧が表示されます。

[戻る]ボタンをクリックすると、「分析/レポート」画面に追加した稼働状況のグラフが表示されます。

稼働状況のグラフに表示されるステータスを以下に示します。

表 6-54 稼働状況表示情報一覧

監視対象	ステータス	
	表示:稼働のみ	表示:全状態
エージェント	<ul style="list-style-type: none"> 起動中 	<ul style="list-style-type: none"> 起動中 停止中 切断 無効 機能プロセス停止 不明
プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 起動中 	<ul style="list-style-type: none"> 起動中 上限異常 下限異常 停止中 対象外 不明

監視対象	ステータス	
	表示:稼働のみ	表示:全状態
ファイルサイズ	<ul style="list-style-type: none"> 正常 	<ul style="list-style-type: none"> 正常 警告 異常 不明
TCP/UDP ポート	<ul style="list-style-type: none"> オープン 	<ul style="list-style-type: none"> オープン クローズ 不明
<ul style="list-style-type: none"> Windows サービス LS VIS APM FIPS ACOS ジョブ 	<ul style="list-style-type: none"> 起動中 	<ul style="list-style-type: none"> 起動中 停止中 不明
性能	<ul style="list-style-type: none"> 正常 	<ul style="list-style-type: none"> 正常 上限警告 下限警告 上限異常 下限異常 不明
Azure サイト	<ul style="list-style-type: none"> 接続 	<ul style="list-style-type: none"> 接続 切断
Azure サブスクリプション	<ul style="list-style-type: none"> 有効 	<ul style="list-style-type: none"> 有効 警告 無効 期限切れ 削除済み
Azure リソース	<ul style="list-style-type: none"> 起動中 	<ul style="list-style-type: none"> 起動中 停止済み 割り当て解除 作成中 更新中 削除中 失敗

6.3.5 分析／レポートビューの削除

本項では分析／レポートビューの削除方法について説明します。

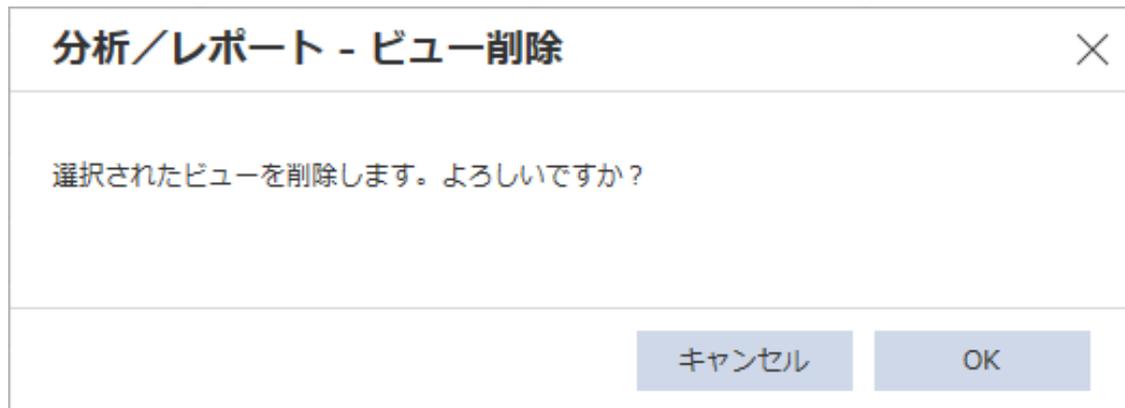


図 6-82 分析/レポート「ビュー削除」ダイアログ

「分析/レポート」画面にてタブからビューを選択し、[削除]アイコンをクリックして「ビュー削除」ダイアログを表示します。

[OK]ボタンをクリックしビューを削除します。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合はビューを削除せずに「分析/レポート」画面に戻ります。

6.3.6 分析/レポートビューの印刷

本項では分析/レポートビューの印刷方法について説明します。

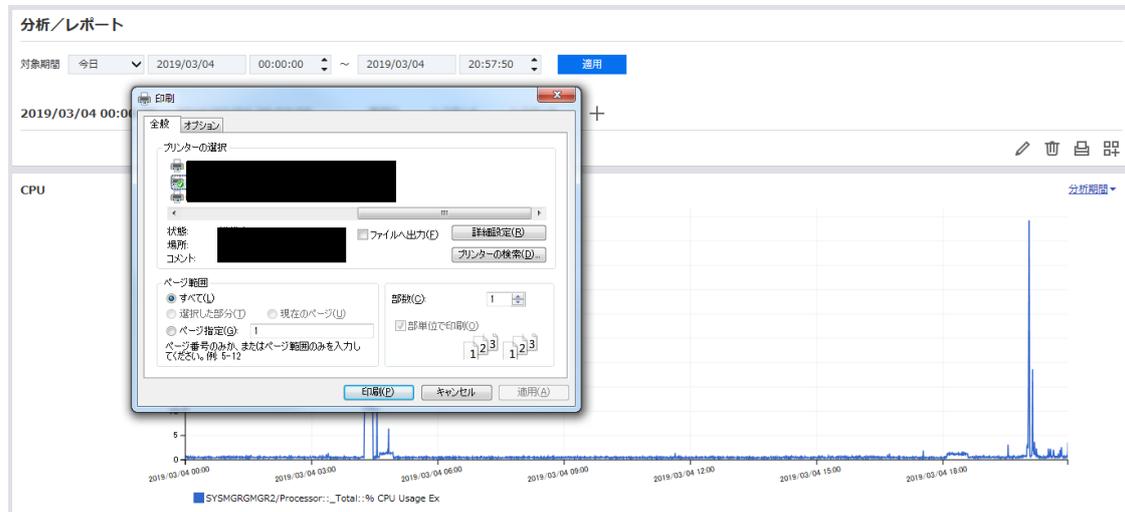


図 6-83 分析/レポート ビューの印刷

「分析/レポート」画面にてタブからビューを選択し、[印刷]アイコンをクリックします。印刷ダイアログが表示されます

[OK]ボタンをクリックするとビューが印刷されます。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合は印刷をせずに「分析/レポート」画面に戻ります。

6.3.7 分析機能

本項では性能データに基づき将来の予測シミュレーションし、グラフとして表示する分析機能について説明します。

なお、本項に記載する操作の権限はロールによって制御されていますが、システム管理者を除く全ユーザが操作可能です。

運用監視 管理者	運用監視 操作者	運用監視 参照者
○	○	○

未来の予測を行うには、以下のように操作します。

1. 「分析／レポート」画面の対象期間を設定して任意の期間のグラフを表示します。分析機能では設定した対象期間を基準にして分析期間が決まります。
2. 分析対象のビューを選択した状態にして、グラフ右上の[分析期間]をクリックします。
3. プルダウンメニューから分析したい期間を選択します。

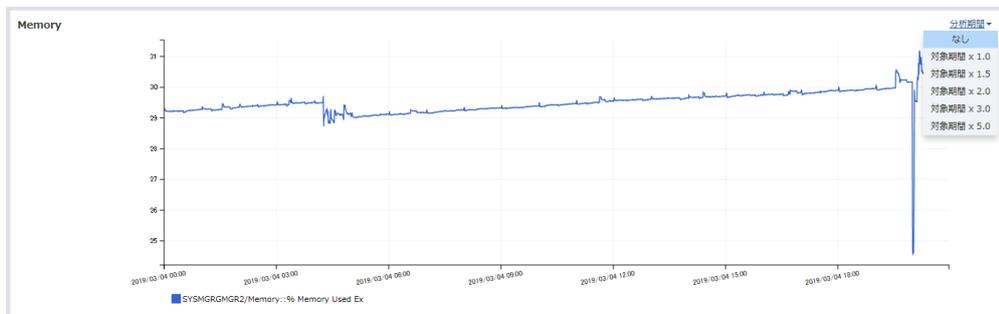


図 6-84 分析期間

4. プルダウンメニューから分析期間を選択すると分析結果が表示されます。未来の期間については、予測に基づいた近似値直線を示します。
5. 分析を解除するには、プルダウンメニューから[なし]を選択してください。

分析はグラフ表示データを基に実行されます。表示期間が長い場合、間引かれたデータで分析される可能性があります。詳細は「[6.3.2 性能グラフの設定 \(111 ページ\)](#)」の末尾に記載されている注釈を参照してください。

分析結果の例を示します。

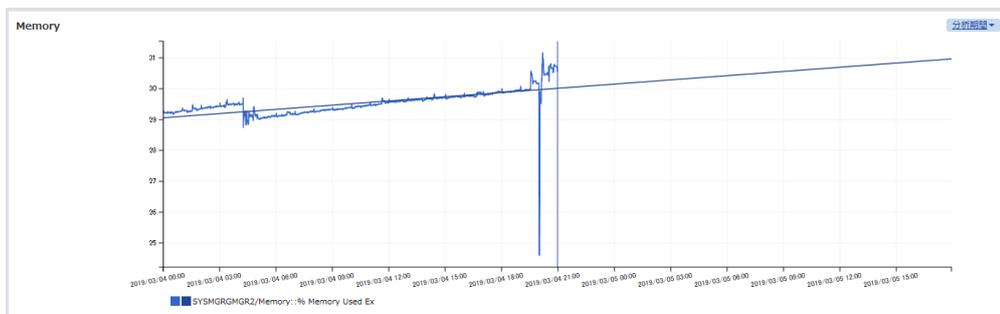


図 6-85 分析結果表示

6.4 設定

本項では設定機能について説明します。

メニューから、[監視]-[設定]をクリックすることにより、「設定」画面が表示されます。

6.4.1 ノード監視

本項では監視対象のノードの一覧を表示するための「ノード監視」画面について説明します。

メニューから、[監視]-[設定]-[ノード監視]タブをクリックすることにより、「ノード監視」画面が表示されます。

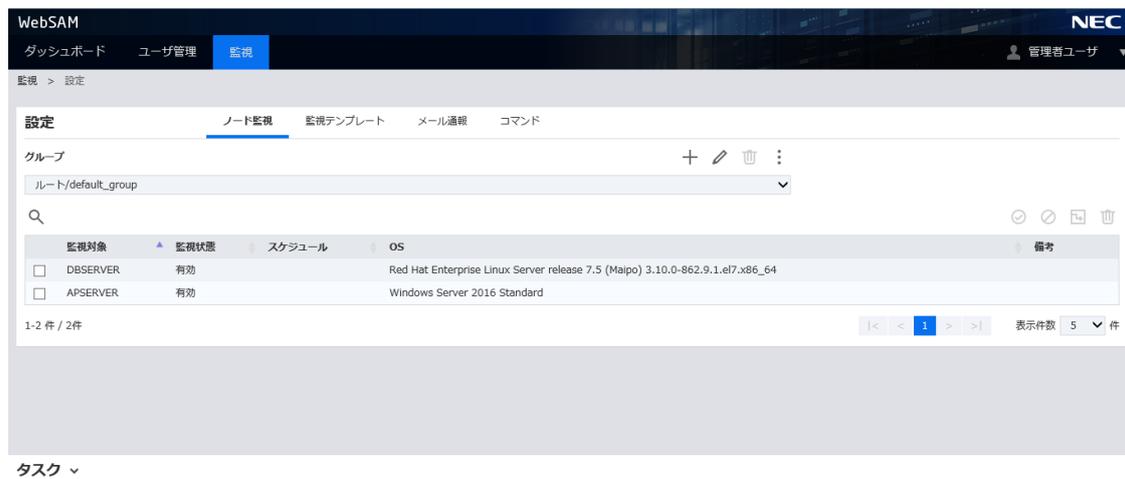


図 6-86 ノード監視画面

表 6-55 項目一覧 (監視一覧)

項目名	説明
監視対象	監視対象サーバの監視エージェント名を表示します。
監視状態	監視の状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 有効 無効
スケジュール	監視スケジュールの定義名を表示します。
OS	監視対象サーバの OS を表示します。
備考	監視設定に対する備考を表示します。

グループプルダウンをクリックすることにより、グループツリーを参照できます。任意のグループを選択することで、選択したグループ配下のノード一覧を参照することができます。

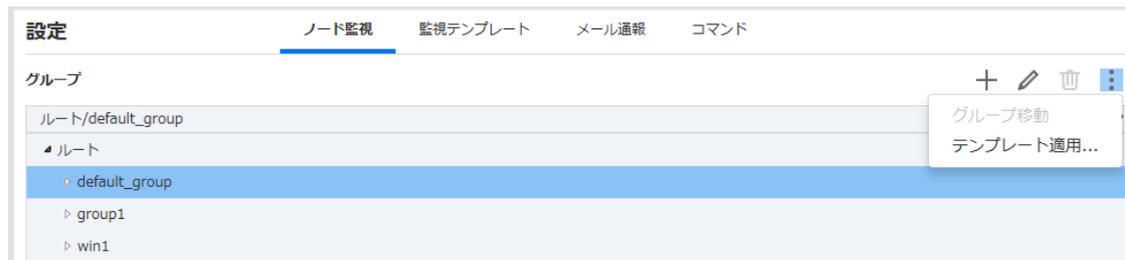


図 6-87 ノード監視画面「グループツリー」

表 6-56 項目一覧（「ノード」画面 ノード一覧パネルとグループツリー）

項目名	説明
グループ作成アイコン+	「5.2.1.1 グループの作成 (22 ページ)」
グループ名変更アイコン✎	「5.2.1.3 グループ名の変更 (23 ページ)」
グループ削除アイコン✖	「5.2.1.2 グループの削除 (23 ページ)」
操作メニューアイコン⋮	<p>選択したグループに対する操作メニューを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「5.2.1.4 グループの移動 (24 ページ)」 「5.2.1.5 監視テンプレートの適用(グループ) (25 ページ)」

ヒント

- ノード監視画面には、SystemManager G ビュー上で「未登録のホスト」として登録されているノードは表示されません。「未登録のホスト」に登録されているノードは任意のトポロジグループに移動してください。

6.4.1.1 グループの作成

本項ではグループの作成方法について説明します。

- 作成先の親グループをグループツリーから選択します。
- 選択すると操作メニュー⋮の[グループ作成]が有効になるため、[グループ作成]をクリックします。

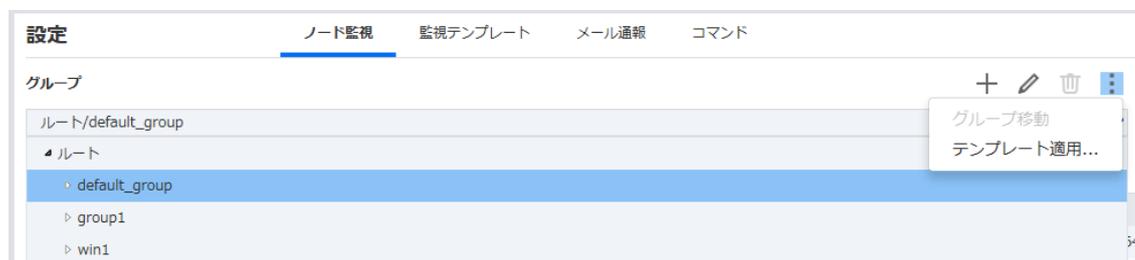


図 6-88 「ノード監視」画面 グループ作成

- 「グループ作成」ダイアログが表示されるため、グループ名を入力し、[OK]ボタンをクリックするとグループが作成されます。

図 6-89 「グループ作成」ダイアログ

表 6-57 項目一覧（「グループ作成」ダイアログ）

項目名	入力規則	説明
グループ名	128 文字以内	作成するグループの名称となります。

6.4.1.2 グループの削除

本項ではグループの削除方法について説明します。

注

- 削除対象のグループ配下にグループが存在している場合はグループを削除することができません。
- 削除対象のグループ配下にノードが存在している場合、グループを削除するとノードは default_group 配下に移動します。

- 削除対象のグループをグループツリーから選択します。
- 選択すると[グループ削除]アイコンが有効になるため、[グループ削除]アイコンをクリックします。

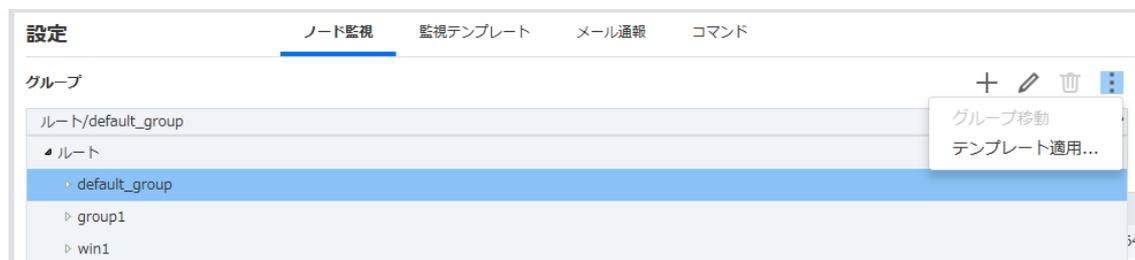


図 6-90 「ノード監視」画面 グループ削除

- 「グループ削除」ダイアログが表示されるため、[OK]ボタンをクリックするとグループが削除されます。

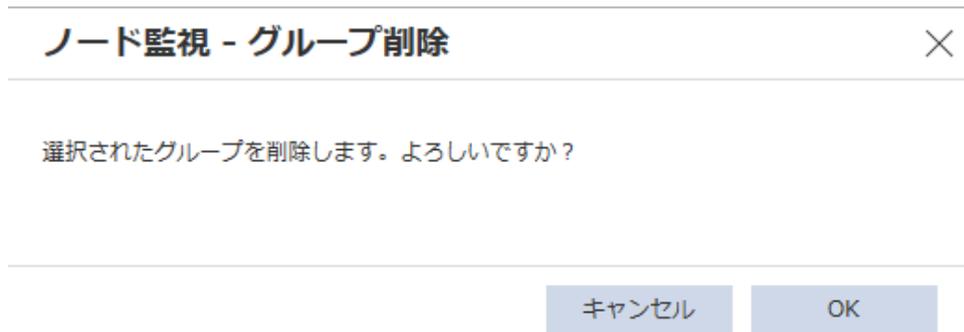


図 6-91 「グループ削除」ダイアログ

6.4.1.3 グループ名の変更

本項ではグループ名の変更方法について説明します。

1. 名称を変更したいグループをグループツリーから選択します。
2. 選択すると操作メニューの[グループ名変更]アイコンが有効になるため、[グループ名変更]アイコンをクリックします。

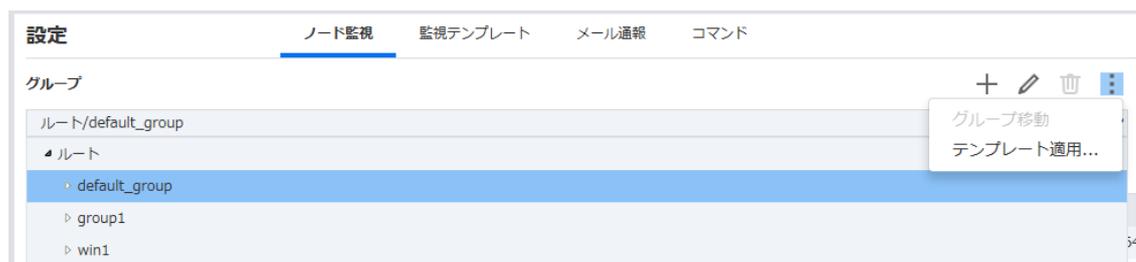


図 6-92 「ノード監視」画面 グループ名変更

3. 「グループ名変更」ダイアログが表示されるため、グループ名を入力し、[OK]ボタンをクリックするとグループ名が変更されます。



図 6-93 「グループ名変更」ダイアログ

表 6-58 項目一覧 (グループ名変更)

項目名	入力規則	説明
グループ名	128 文字以内	変更後のグループの名称となります。

6.4.1.4 グループの移動

本項ではグループの移動方法について説明します。

1. 移動対象のグループをグループツリーから選択します。
2. 操作メニュー[⋮]の[グループ移動]が有効となるため、[グループ移動]をクリックします。



図 6-94 「ノード監視」画面 グループ移動

3. 「グループ移動」ダイアログが表示されるため、移動先のグループを選択し、[OK]ボタンをクリックするとグループが移動されます。



図 6-95 「グループ移動」ダイアログ

6.4.1.5 監視テンプレートの適用(グループ)

本項ではノード監視からの監視テンプレートの適用方法について説明します。

1. 「ノード監視」画面にてテンプレートを適用したいグループをグループツリーから選択します。
2. 操作メニュー  の[テンプレート適用...]をクリックします。

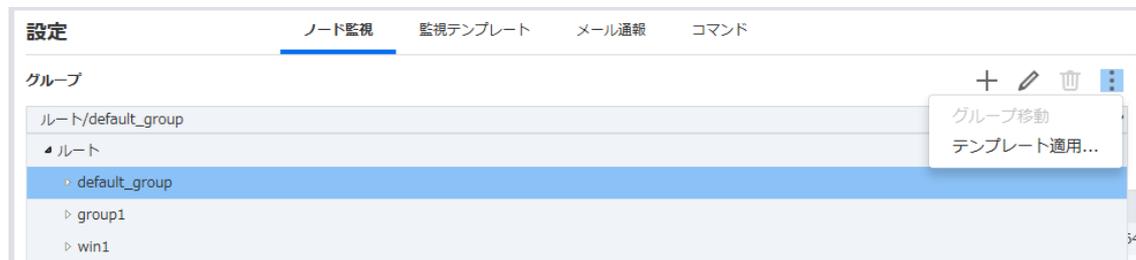


図 6-96 「ノード監視」画面 テンプレート適用

3. 「テンプレート選択」ダイアログが表示されます。適用したいテンプレートを選択し、[OK]ボタンをクリックします。



図 6-97 「テンプレート選択」ダイアログ

4. テンプレートの適用状況を示すタスク一覧が表示されます。タスク一覧に表示される項目については「[6.4.8 タスク \(217 ページ\)](#)」を参照してください。

タスク名	対象	状態	進捗率	重要度	要求時刻	完了時刻	実行ユーザ
テンプレート適用	SB-VM01,rhel73_mg	完了	100%	● 正常	00:32:45	00:32:45	管理者ユーザ
テンプレート適用	SB-VM01,rhel73_mg	完了	100%	● 重要度なし	00:32:19	00:32:20	管理者ユーザ

図 6-98 タスク一覧

5. タスク一覧からタスクを選択すると「タスク詳細」ダイアログが表示され、テンプレートの適用の実行ログを参照することができます。タスク詳細に表示される項目については「[6.4.8 タスク \(217 ページ\)](#)」を参照してください。

タスク詳細 ×

表示項目	値
タスク名	テンプレート適用
対象	SB-VM01,rhel73_mg
状態	完了
重要度	● 正常
要求日時	2019/03/07 00:32:45+09:00
開始日時	2019/03/07 00:32:45+09:00
完了日時	2019/03/07 00:32:45+09:00
実行ユーザ	管理者ユーザ

時刻	重要度	メッセージ
00:32:45	● 正常	rhel73_mgにシスログテンプレート(Linux)を適用しました
00:32:45	● 正常	rhel73_mgにシスログ監視設定を適用しました
00:32:45	● 正常	SB-VM01にシスログテンプレート(Linux)を適用しました
00:32:45	● 正常	SB-VM01にシスログ監視設定を適用しました

閉じる

図 6-99 「タスク詳細」ダイアログ

6.4.1.6 監視状態変更

本項では監視の有効化および無効化方法について説明します。

「ノード監視」画面には、監視一覧表右上部に[有効化]アイコン☑[無効化]アイコン☒があります。監視一覧で監視対象のチェックボックスをチェックすると[有効化]アイコン☑[無効化]アイコン☒が有効になります。(複数の監視対象をチェックした場合は有効になりません。)

[有効化]アイコン☑[無効化]アイコン☒をクリックすると、監視の有効化および無効化を行うことができます。

The screenshot shows the '設定' (Settings) page for monitoring. It features a table with columns for '監視対象' (Monitoring Target), '監視状態' (Monitoring Status), 'スケジュール' (Schedule), and 'OS'. Two entries are visible: 'DBSERVER' (Red Hat Enterprise Linux Server) and 'APSERVER' (Windows Server). The 'DBSERVER' row has a checked checkbox and a status of '有効' (Active). In the top right corner of the table area, there are two icons: a green checkmark in a circle (activation) and a red X in a circle (deactivation), both highlighted with a red box. Below the table, there are pagination controls showing '1-2 件 / 2件' and '表示件数 5 件'.

図 6-100 監視状態変更



図 6-101 「有効化」ダイアログ

表 6-59 項目一覧（「有効化」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	監視を有効化せずにダイアログを閉じます。
OK	監視を有効化してダイアログを閉じます。

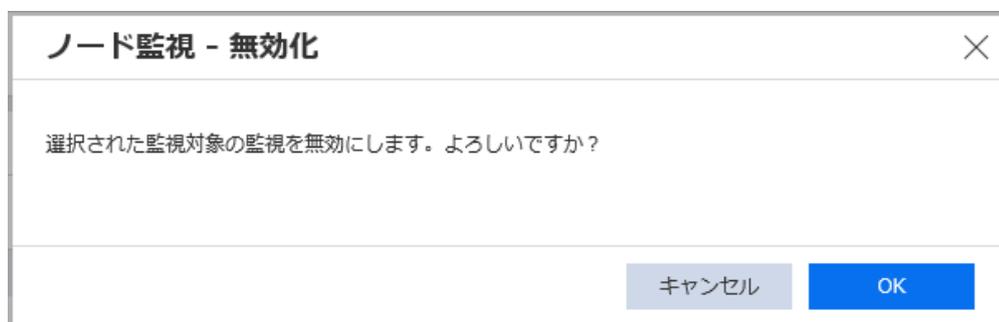


図 6-102 「無効化」ダイアログ

表 6-60 項目一覧（「無効化」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	監視を無効化せずにダイアログを閉じます。
OK	監視を無効化してダイアログを閉じます。

6.4.1.7 監視設定削除

本項では監視設定の削除方法について説明します。

「ノード監視」画面には、監視一覧表右上部に[削除]アイコンがあります。ノード一覧で監視対象のチェックボックスをチェックすると[削除]アイコンが有効になります。（複数の監視対象をチェックした場合も有効になります。）

[削除]アイコンをクリックすると、以下のような「監視設定削除」ダイアログが表示され、選択中の監視対象の監視設定を全て削除することができます。

⚠ 注意

- 削除した監視設定は元に戻せません。誤って削除してしまった場合、全ての監視設定を登録し直す必要がありますのでご注意ください。



図 6-103 「監視設定削除」ダイアログ

表 6-61 項目一覧（「監視設定削除」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	監視設定を削除せずにダイアログを閉じます。
OK	監視設定を削除してダイアログを閉じます。

6.4.1.8 詳細タブ

本項では監視設定の詳細情報の参照方法について説明します。

ノード監視一覧で監視対象の行をクリックすると、該当する監視設定の詳細情報が詳細タブに表示されます。

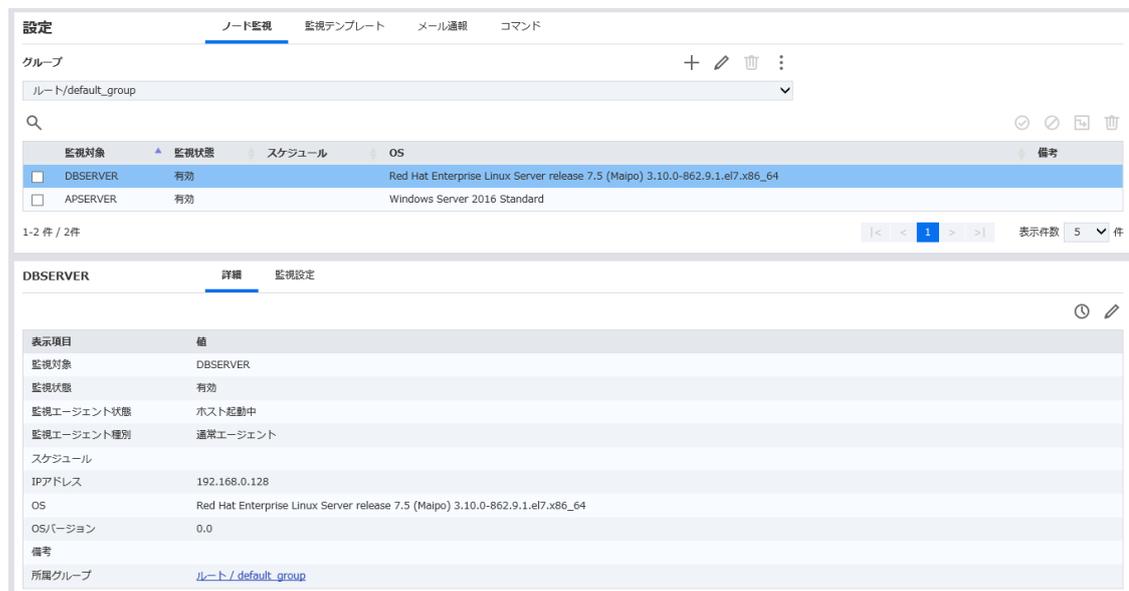


図 6-104 詳細タブ

表 6-62 項目一覧（詳細タブ）

項目名	説明
監視状態	監視の状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 有効 無効
監視エージェントの状態	監視エージェントの状態を表示します。エージェントが存在しない場合は、[削除済み]と表示されます。

項目名	説明
監視エージェント種別	監視エージェントの種別を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 通常エージェント 通常の監視エージェント リモートホスト エージェントレスのホスト（リモート監視エージェントにより監視されます）
スケジュール	監視スケジュールの定義名を表示します。
スケジュール状態	スケジュールが設定されている場合その状態を示します。以下のいずれかの状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 稼働中 停止中
IP アドレス	監視対象サーバの IP アドレスを表示します。
OS	監視対象サーバの OS を表示します。
備考	監視設定に対する備考を表示します。
スケジュール設定アイコン 	クリックすると「スケジュール設定」ダイアログを表示します。
備考編集	クリックすると「備考編集」ダイアログを表示します。
所属グループ	監視対象サーバの所属グループを表示します。

スケジュール設定

本項では監視のスケジュール設定方法について説明します。

[スケジュール設定...]アイコンをクリックすると、以下のような「スケジュール設定」ダイアログが表示されます。本ダイアログを利用して、監視対象（監視エージェント）にスケジュールを設定することで、指定した期間に監視を行うことができます。

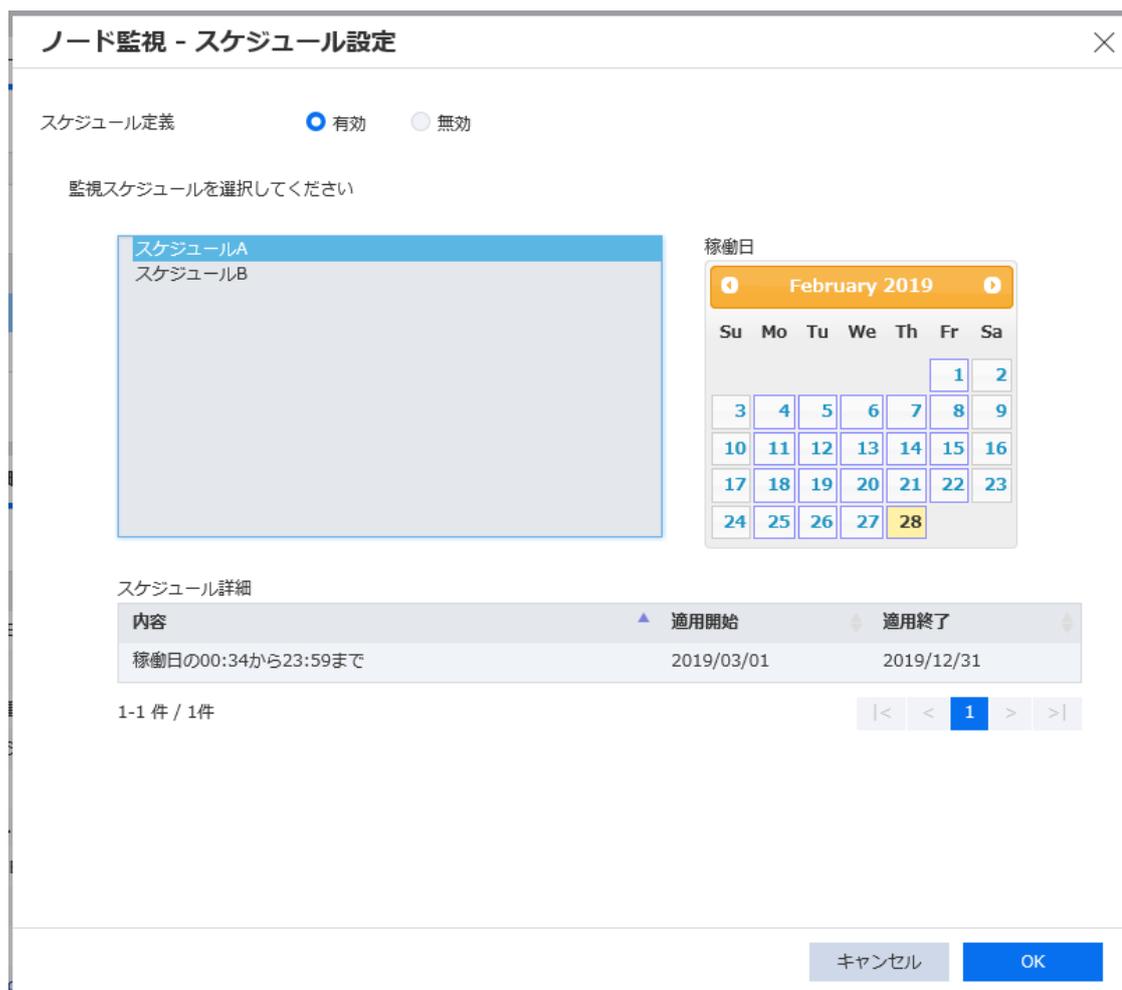


図 6-105 「スケジュール設定」ダイアログ

表 6-63 項目一覧（「スケジュール設定」ダイアログ）

項目名	説明
スケジュール定義	以下のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 有効 無効 有効を選択した場合にはさらにスケジュール定義をリストボックスから選択します。
稼働日	選択されているスケジュールの稼働日をカレンダー上に表示します。稼働日を示す日は枠線が青で表示されます。稼働日以外は枠線がグレーで表示されます。
スケジュール詳細	選択されたスケジュール定義に登録されているスケジュールの一覧を表形式で表示します。スケジュール詳細には以下の項目があります。 <ul style="list-style-type: none"> 内容 スケジュールの内容を表示します。 適用開始 定期スケジュールの場合に、スケジュールの適用開始日を表示します。 適用終了 定期スケジュールの場合に、スケジュールの適用終了日を表示します。空の場合は終了日はありません。
キャンセル	スケジュールの設定を破棄してダイアログを閉じます。

項目名	説明
OK	スケジュールの設定を反映してダイアログを閉じます。

ヒント

スケジュールは SystemManager G で設定されたものが表示されます。スケジュールの設定方法は「WebSAM SystemManager G マニュアル」の「スケジュールを設定する」を参照してください。

備考編集

本項では監視設定の備考の編集方法について説明します。

詳細タブで[備考編集]アイコンをクリックすると以下に示す「備考編集」ダイアログが表示されます。本ダイアログで監視設定の備考を編集できます。



図 6-106 「備考編集」ダイアログ

表 6-64 項目一覧（「備考編集」ダイアログ）

項目名	説明
備考編集	備考の内容を 255 文字以内で入力します。
キャンセル	備考の編集を破棄し、ダイアログを閉じます。
OK	備考の編集を反映してダイアログを閉じます。

6.4.1.9 監視設定タブ

監視設定タブをクリックすると、監視設定の大項目が表示されます。各項目をクリックすると監視設定の参照および監視項目の設定を行うことができます。

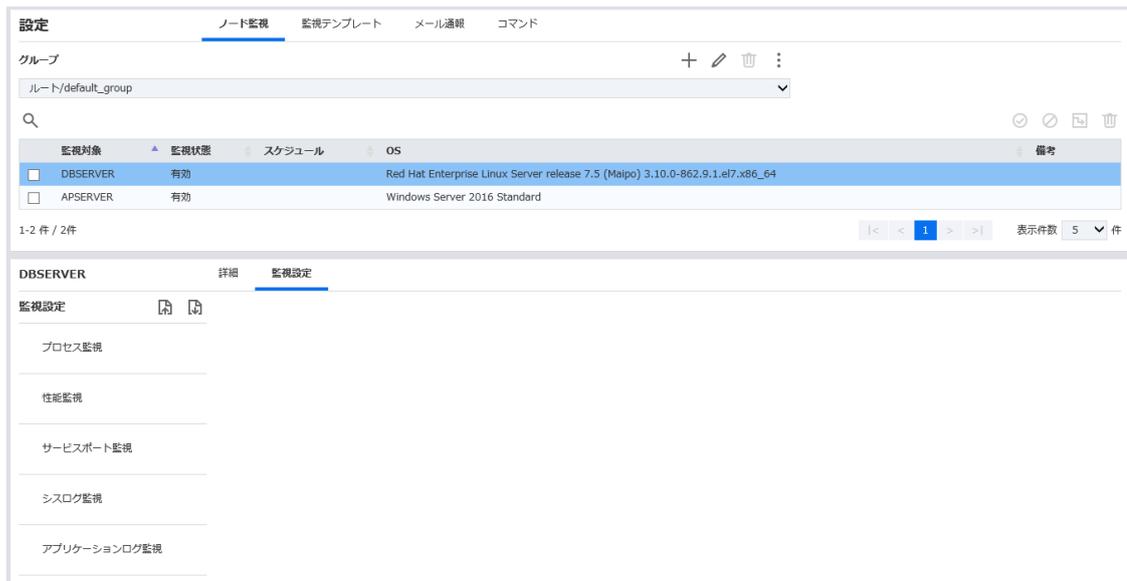


図 6-107 監視設定タブ

表 6-65 項目一覧（監視設定タブ）

項目名	説明
テンプレート化アイコン 	ノードに設定されている監視設定を監視テンプレートとして登録します。詳細は「 5.2.1.11 監視テンプレート化 (33 ページ) 」を参照してください。
テンプレート適用アイコン 	監視テンプレートの備考が表示されます。詳細は「 5.2.1.12 監視テンプレートの適用(ノード) (34 ページ) 」を参照してください。
Windows サービス監視パネル	ノードの Windows サービス監視設定を表示します。OS 種別が Windows の場合にのみ表示されます。詳細は「 5.2.2.1 Windows サービス監視 (36 ページ) 」を参照してください。
プロセス監視パネル	ノードのプロセス監視設定を表示します。詳細は「 5.2.2.2 プロセス監視 (37 ページ) 」を参照してください。
性能監視パネル	ノードの性能監視設定を表示します。詳細は「 5.2.2.3 性能監視 (39 ページ) 」を参照してください。
サービスポート監視パネル	ノードのサービスポート監視設定を表示します。詳細は「 5.2.2.4 サービスポート監視 (40 ページ) 」を参照してください。
イベントログ監視パネル	ノードのイベントログ監視設定を表示します。OS 種別が Windows の場合にのみ表示されます。詳細は「 5.2.2.5 イベントログ監視 (41 ページ) 」を参照してください。
シスログ監視パネル	ノードのシスログ監視設定を表示します。OS 種別が Linux/Unix の場合にのみ表示されます。詳細は「 5.2.2.6 シスログ監視 (42 ページ) 」を参照してください。
アプリケーションログ監視パネル	ノードのアプリケーションログ監視設定を表示します。詳細は「 5.2.2.7 アプリケーションログ監視 (43 ページ) 」を参照してください。

6.4.1.10 監視テンプレート化

本項ではノードの監視設定を監視テンプレート化する方法について説明します。

監視設定タブで[テンプレート化...]アイコン  をクリックして「テンプレート化」ダイアログを表示します。

ノード監視 - テンプレート化
×

テンプレート名

設定対象

Windowsサービス監視

プロセス監視

性能監視

サービスポート監視

イベントログ監視

アプリケーションログ監視

備考

キャンセル

OK

図 6-108 「テンプレート化」ダイアログ

表 6-66 項目一覧（「テンプレート化」ダイアログ）

項目名	必須	説明
テンプレート名	○	監視テンプレートの名前を 256 文字以内で入力します。
設定対象	○	監視テンプレートに設定する監視設定を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows サービス監視：Windows サービス監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。ノードの OS の種別が Windows の場合に表示されます。 • プロセス監視：プロセス監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。 • 性能監視：性能監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。 • サービスポート監視：サービスポート監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。 • イベントログ監視：イベントログ監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。ノードの OS 種別が Windows の場合に表示されます。 • シスログ監視：シスログ監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。ノードの OS の種別が Linux もしくは Unix の場合に表示されます。 • アプリケーションログ監視：アプリケーションログ監視の監視設定を監視テンプレートに設定します。
備考		監視テンプレートの備考を 1024 文字以内で入力します。

項目の入力が完了したら、[OK]ボタンをクリックして監視テンプレート化します。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合は入力内容を破棄して監視設定タブに戻ります。

6.4.1.11 監視テンプレートの適用(ノード)

本項では監視設定タブからの監視テンプレートの適用方法について説明します。

1. 監視設定タブで[テンプレート適用...]アイコンをクリックします。

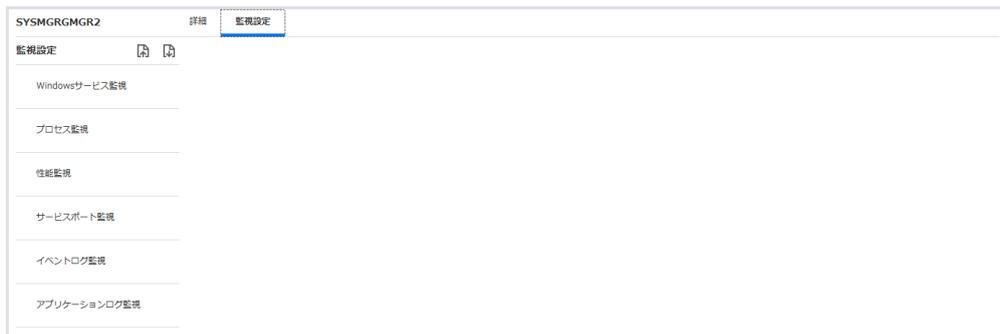


図 6-109 監視設定タブ テンプレート適用

2. 「テンプレート選択」ダイアログが表示されます。適用したいテンプレートを選択し、[OK]ボタンをクリックします。

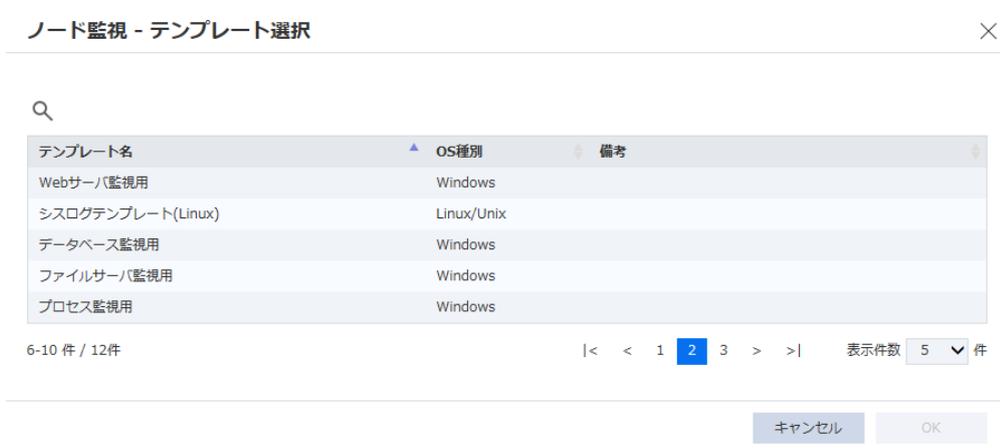


図 6-110 「テンプレート選択」ダイアログ

3. テンプレートの適用状況を示すタスク一覧が表示されます。タスク一覧に表示される項目については「6.4.8 タスク (217 ページ)」を参照してください。



図 6-111 タスク一覧

4. タスク一覧からタスクを選択すると「タスク詳細」ダイアログが表示され、テンプレートの適用の実行ログを参照することができます。タスク詳細に表示される項目については「6.4.8 タスク (217 ページ)」を参照してください。

タスク詳細		×
表示項目	値	
タスク名	テンプレート適用	
対象	SYSMGRGMGR2	
状態	完了	
重要度	● 正常	
要求日時	2019/03/02 02:15:15+09:00	
開始日時	2019/03/02 02:15:15+09:00	
完了日時	2019/03/02 02:15:16+09:00	
実行ユーザ	管理者ユーザ	
時刻	重要度	メッセージ
02:15:16	● 正常	SYSMGRGMGR2に性能監視テンプレート(Windows)を適用しました
02:15:16	● 正常	SYSMGRGMGR2に性能監視設定を適用しました

閉じる

図 6-112 「タスク詳細」ダイアログ

6.4.2 監視設定

本項では「ノード監視」画面の監視設定タブおよび「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細から操作可能な監視設定機能について説明します。

6.4.2.1 Windows サービス監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[Windows サービス監視]をクリックすると Windows サービス監視設定パネルが開きます。Windows サービス監視設定パネルでは Windows サービスの監視状況を確認することができます。

表示項目	値
監視サービス表示名	SystemManager G API Gateway
監視サービス名	SystemManagerGAPIGateway
スタートアップ	自動
ログオン名	LocalSystem
サービス説明	"Carbon Kernel"

図 6-113 Windows サービス監視

本パネルは左に Windows サービスグループのツリーを表示します。ツリー上で Windows サービスグループを選択すると、右側に選択されたグループに属するサービスの一覧が表示されます。表には以下の項目があります。

表 6-67 項目一覧 (Windows サービス)

項目名	説明
監視サービス表示名	監視対象サービスの表示名を表示します。
スタートアップ	監視対象サービスのスタートアップ状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> システム 自動 手動 無効 不明
ログオン名	監視対象サービスのログオン名を表示します。

Windows サービスの一覧から Windows サービスを選択すると、下部に Windows サービス詳細が表示されます。

表 6-68 項目一覧 (Windows サービス詳細)

項目名	説明
監視サービス表示名	監視対象サービスの表示名を表示します。
監視サービス名	監視対象サービスのサービス名を表示します。
スタートアップ	監視対象サービスのスタートアップ状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> システム 自動 手動 無効 不明
ログオン名	監視対象サービスのログオン名を表示します。
サービス説明	監視対象サービスの説明を表示します。

Windows サービス監視設定変更

Windows サービス監視パネルで[監視設定変更...]をクリックすると「Windows サービス監視設定変更」画面が表示されます。

「Windows サービス監視設定変更」画面では Windows サービス監視パネルと同様の Windows サービスグループツリー、Windows サービス一覧、Windows サービス詳細があります。



図 6-114 「Windows サービス監視設定変更」画面

グループ追加/変更/削除

「Windows サービス監視設定変更」画面の Windows サービスグループツリーには[グループ設定]アイコン  があります。

ここをクリックすると以下のメニューが表示され、グループの追加、変更、削除ができます。

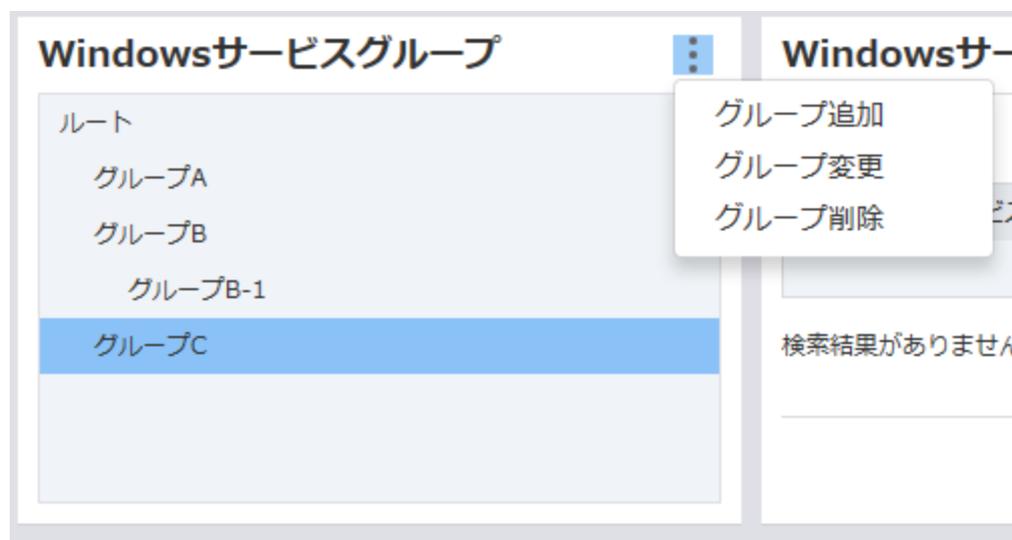


図 6-115 ポップアップメニュー

ポップアップメニューで[グループ追加]を選択すると以下に示す「グループ追加」ダイアログが表示されます。本ダイアログを使用してルート直下または選択されているグループの配下にグループの追加ができます。グループは階層化できます。選択されているグループに既にサービスが登録されている場合には、そのグループに子グループを追加することはできません。

図 6-116 「グループ追加」ダイアログ

表 6-69 項目一覧（「グループ追加」ダイアログ）

項目名	説明
グループ名	追加するグループの名前を 64 文字以内で入力します。
キャンセル	グループを追加せずにダイアログを閉じます。
OK	グループを追加してダイアログを閉じます。

グループツリーでグループを選択し、ポップアップメニューで[グループ変更]を選択すると以下に示す「グループ変更」ダイアログが表示されます。本ダイアログを使用して、ツリー上で選択されたグループの名前を変更することができます。

図 6-117 「グループ変更」ダイアログ

表 6-70 項目一覧（「グループ変更」ダイアログ）

項目名	説明
グループ名	変更するグループの名前を 64 文字以内で入力します。
キャンセル	グループを変更せずにダイアログを閉じます。
OK	グループを変更してダイアログを閉じます。

グループツリーでグループを選択し、ポップアップメニューで[グループ削除]を選択すると以下に示す「グループ削除」ダイアログが表示されます。本ダイアログを使用して、ツリー上で選択されたグループを削除することができます。グループを削除すると配下のグループおよびサービスも削除されます。

Windowsサービス監視設定変更 - グループ削除



グループ: グループCを削除します。よろしいですか?

キャンセル

OK

図 6-118 「グループ削除」ダイアログ

表 6-71 項目一覧 (「グループ削除」ダイアログ)

項目名	説明
キャンセル	グループを削除せずにダイアログを閉じます。
OK	グループを削除してダイアログを閉じます。

サービス追加/削除

「Windows サービス監視設定変更」画面の Windows サービスには[サービス追加]ボタンがあります。「ノード監視」画面の Windows サービス監視設定ではここをクリックすると以下の「Windows サービス一覧」ダイアログが表示され、チェックした Windows サービスを Windows サービスグループに追加することができます。チェックボックスが表示されていないサービスはすでに追加済みの Windows サービスです。

Windowsサービス監視設定変更 - Windowsサービス一覧



<input type="checkbox"/>	サービス表示名	サービス名	サービス状態	スタートアップ	ログオン名	サービス説明
<input type="checkbox"/>	ActiveX Installer (AxInstSV)	AxInstSV	停止	手動	LocalSystem	インターネットからの ActiveX コントロールのインストールに対し、ユーザー アカウント制御により検証を行い、グループ ポリシー設定に基づいて ActiveX コントロールのインストールを管理します。このサービスはオンデマンドで開始され、無効になっている場合、ActiveX コントロールのインストールはブラウザの既定の設定に従って行われます。
<input type="checkbox"/>	AllJoyn Router Service	AJRouter	停止	手動	LocalService	ローカル AllJoyn クライアントの AllJoyn メッセージをルーティングします。このサービスが停止している場合、バンドルされた独自のルーターを持たない AllJoyn クライアントは実行することができなくなります。
<input checked="" type="checkbox"/>	Apache Tomcat 8.5 ServiceGovernor	ServiceGovernor	開始	自動	LocalSystem	Apache Tomcat 8.5.32 Server - http://tomcat.apache.org/
<input type="checkbox"/>	App Readiness	AppReadiness	停止	手動	LocalSystem	ユーザーがこの PC に初めてサインインしたときや新しいアプリを追加したときにアプリを使用できるよう準備します。
<input type="checkbox"/>	Application Identity	AppIDSvc	停止	手動	LocalService	アプリケーションの ID を判定および検証します。このサービスを無効にすると、AppLocker が適用されなくなります。

1-5 件 / 223件

|< < 1 2 3 4 5 ... 45 > >| 表示件数 5 件

キャンセル

OK

図 6-119 「Windows サービス一覧」ダイアログ

表 6-72 項目一覧 (「Windows サービス一覧」ダイアログ)

項目名	説明
サービス表示名	サービスの表示名を表示します。
サービス名	サービスの名前を表示します。
サービス状態	サービスの状態を表示します。
スタートアップ	スタートアップの種類を表示します。
ログオン名	ログオンアカウントの名前を表示します。
サービス説明	サービスの説明を表示します。
キャンセル	サービスを追加せずにダイアログを閉じます。
OK	サービスを追加してダイアログを閉じます。

「監視テンプレート」画面の Windows サービス監視設定では[サービス追加]アイコン+をクリックすると以下の「Windows サービス追加」ダイアログが表示され、入力した Windows サービスを Windows サービスグループに追加することができます。

The screenshot shows a dialog box titled "Windows サービス監視設定変更 - Windows サービス監視追加". It features a close button (X) in the top right corner. The main area contains three input fields with labels: "サービス表示名", "サービス名", and "サービス説明". At the bottom, there are two buttons: "キャンセル" (Cancel) and "OK".

図 6-120 「Windows サービス追加」ダイアログ

表 6-73 項目一覧 (「Windows サービス追加」ダイアログ)

項目名	必須	説明
サービス表示名	○	Windows サービスの表示名を 256 文字以内で入力します。
サービス名	○	Windows サービスのサービス名を 256 文字以内で入力します。
サービス説明		Windows サービスの説明を 512 文字以内で入力します。

また、「監視テンプレート」画面の Windows サービス監視設定では[サービス変更]アイコンがあります。変更したいサービスを選択した状態で[サービス変更]アイコンをクリックすると以下の「Windows サービス変更」ダイアログが表示され、Windows サービスを変更することができます。「Windows サービス変更」ダイアログの入力項目は「Windows サービス追加」ダイアログと同じです。



図 6-121 「Windows サービス変更」ダイアログ

「Windows サービス監視設定変更」画面の Windows サービスには[サービス削除]アイコンがあります。削除したいサービスのチェックボックスをチェックした状態でここをクリックすると以下の「Windows サービス監視」削除ダイアログが表示され、サービスをグループから削除できます。



図 6-122 「Windows サービス監視削除」ダイアログ

表 6-74 項目一覧（「Windows サービス削除」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	サービスを削除せずにダイアログを閉じます。
OK	サービスを削除してダイアログを閉じます。

6.4.2.2 プロセス監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[プロセス監視]をクリックするとプロセス監視設定パネルが開きます。プロセス監視設定パネルではプロセスの監視状況を確認することができます。

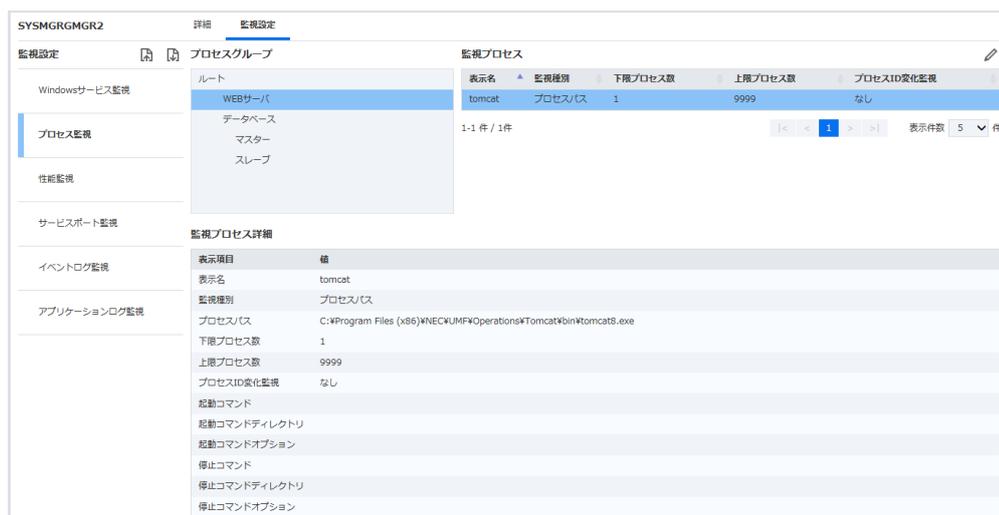


図 6-123 プロセス監視

本パネルは左にプロセスグループのツリーを表示します。ツリー上でプロセスグループを選択すると、右側に選択されたグループに属する監視サービスの一覧が表示されます。表には以下の項目があります。

表 6-75 項目一覧 (監視プロセス)

項目名	説明
表示名	監視対象プロセスの表示名を表示します。
監視種別	監視方法を表示します。以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> プロセスパス コマンドライン
下限プロセス数	プロセス数の下限値を表示します。
上限プロセス数	プロセス数の上限値を表示します。
プロセス ID 変化監視	プロセス ID の変化監視の有無を表示します。以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> あり なし

監視プロセスの一覧から監視プロセスを選択すると、下部に監視プロセス詳細が表示されます。

監視プロセス詳細には以下の項目があります。

表 6-76 項目一覧 (監視プロセス詳細)

項目名	説明
表示名	監視対象プロセスの表示名を表示します。
監視種別	監視方法を表示します。以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> プロセスパス コマンドライン
プロセスパス	監視種別がプロセスパスの場合はプロセスパスを表示します。
コマンドライン	監視種別がコマンドラインの場合はコマンドラインを表示します。
下限プロセス数	プロセス数の下限値を表示します。

項目名	説明
上限プロセス数	プロセス数の上限値を表示します。
プロセス ID 変化監視	プロセス ID の変化監視の有無を表示します。以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> あり なし
起動コマンド	起動コマンドのアプリケーションを表示します。
起動コマンドディレクトリ	起動コマンドの作業ディレクトリを表示します。
起動コマンドオプション	起動コマンドのオプションを表示します。
停止コマンド	停止コマンドのアプリケーションを表示します。
停止コマンドディレクトリ	停止コマンドの作業ディレクトリを表示します。
停止コマンドオプション	停止コマンドのオプションを表示します。

プロセス監視設定変更

プロセス監視パネルで[監視設定変更...]アイコンをクリックすると「プロセス監視設定変更」画面が表示されます。

「プロセス監視設定変更」画面ではプロセス監視パネルと同様のプロセスグループツリー、監視プロセス一覧、監視プロセス詳細があります。



図 6-124 「プロセス監視設定変更」画面

グループ追加/変更/削除

「プロセス監視設定変更」画面のプロセスグループツリーには[グループ設定]アイコンがあります。

ここをクリックすると以下のメニューが表示され、グループの追加、変更、削除ができます。

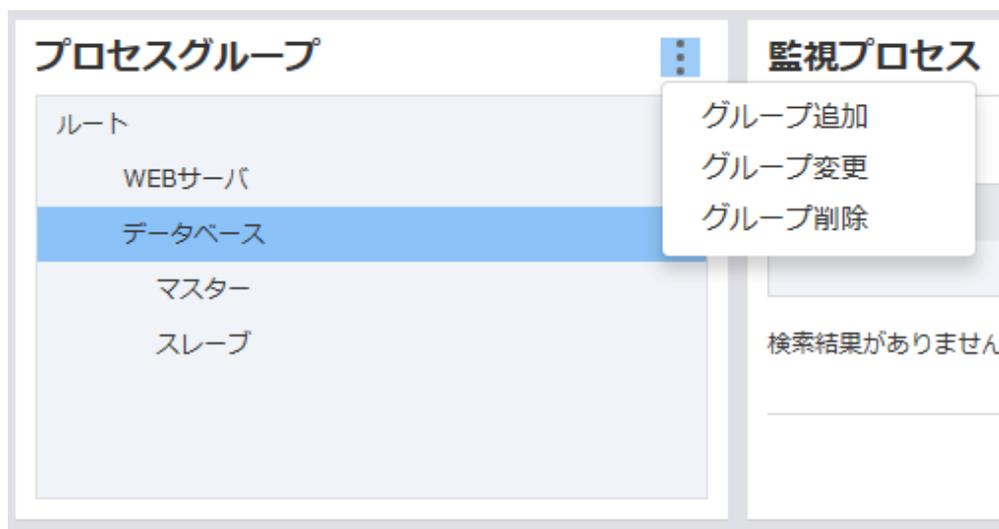


図 6-125 ポップアップメニュー

ポップアップメニューで[グループ追加]を選択すると以下に示す「グループ追加」ダイアログが表示されます。本ダイアログを使用してルート直下または選択されているグループの配下にグループの追加ができます。グループは階層化できます。選択されているグループに既にプロセスが登録されている場合には、そのグループに子グループを追加することはできません。



図 6-126 「グループ追加」ダイアログ

表 6-77 項目一覧（「グループ追加」ダイアログ）

項目名	説明
グループ名	追加するグループの名前を 64 文字以内で入力します。
キャンセル	グループを追加せずにダイアログを閉じます。
OK	グループを追加してダイアログを閉じます。

グループツリーでグループを選択し、ポップアップメニューで[グループ変更]を選択すると以下に示す「グループ変更」ダイアログが表示されます。本ダイアログを使用して、ツリー上で選択されたグループの名前を変更することができます。

図 6-127 「グループ変更」ダイアログ

表 6-78 項目一覧（「グループ変更」ダイアログ）

項目名	説明
グループ名	変更するグループの名前を 64 文字以内で入力します。
キャンセル	グループを変更せずにダイアログを閉じます。
OK	グループを変更してダイアログを閉じます。

グループツリーでグループを選択し、ポップアップメニューで[グループ削除]を選択すると以下に示す「グループ削除」ダイアログが表示されます。本ダイアログを使用して、ツリー上で選択されたグループを削除することができます。グループを削除すると配下のグループおよびプロセスも削除されます。

図 6-128 「グループ削除」ダイアログ

表 6-79 項目一覧（「グループ削除」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	グループを削除せずにダイアログを閉じます。
OK	グループを削除してダイアログを閉じます。

プロセス追加/削除

「プロセス監視設定変更」画面の監視プロセスには[プロセス追加]アイコン+があります。ここをクリックすると以下の「プロセス追加(入力)」画面が表示され、プロセスグループにプロセスを追加する事ができます。

図 6-129 「プロセス追加(入力)」画面

表 6-80 項目一覧 (「プロセス追加(入力)」画面)

項目名	説明
表示名	プロセスの表示名を 64 文字以内で入力します。直接入力または起動プロセス一覧でプロセスを選択します。
起動中プロセス参照	「起動プロセス一覧」ダイアログを表示します。「監視テンプレート」画面のプロセス監視設定では当項目は表示されません。
起動種別：プロセスパス監視	プロセスパスの監視を行う場合にはチェックを入れます。
起動種別：プロセスパス	プロセスパス監視にチェックをした場合にはプロセスのパスを 256 文字以内で指定します。直接入力または起動プロセス一覧で選択します。
起動種別：コマンドライン監視	コマンドラインの監視を行う場合にはチェックを入れます。
起動種別：コマンドライン	コマンドライン監視にチェックをした場合にはコマンドラインを 256 文字以内で指定します。直接入力または起動プロセス一覧で選択します。
下限プロセス数	監視プロセス数の下限値を 1-9999 の値で指定します。上限プロセス数以下の値を指定する必要があります。
上限プロセス数	監視プロセス数の上限値を 1-9999 の値で指定します。下限プロセス数以上の値を指定する必要があります。
プロセス ID 変化監視	プロセスの有無だけでなく、プロセス ID の変化も監視する場合にはチェックします。
起動コマンド	プロセスを起動するためのコマンドを 256 文字以内で指定します。
起動コマンドディレクトリ	起動コマンドを実行するディレクトリを 256 文字以内で指定します。
起動コマンドオプション	起動コマンドに渡すオプションを 256 文字以内で指定します。
停止コマンド	プロセスを停止するためのコマンドを 256 文字以内で指定します。
停止コマンドディレクトリ	停止コマンドを実行するディレクトリを 256 文字以内で指定します。
停止コマンドオプション	停止コマンドに渡すオプションを 256 文字以内で指定します。
キャンセル	プロセスを追加せずに前画面に戻ります。
OK	プロセスを追加して前画面に戻ります。

「プロセス追加(入力)」画面で[起動中プロセス参照]ボタンをクリックすると「起動プロセス一覧」ダイアログを表示します。「起動プロセス一覧」ダイアログから監視対象プロセスを選択することにより、「プロセス追加(入力)」画面の入力項目を一部自動入力することができます。

イメージ名	プロセスパス	コマンドライン	プロセスID	親プロセスID	ユーザ名	優先度	起動時刻
conhost.exe	C:\Windows\system32\conhost.exe	??C:\Windows\system32\conhost.exe 0x4	3052	3036	SYSTEM	8	2019/02/28 04:38:07
conhost.exe	C:\Windows\system32\conhost.exe	??C:\Windows\system32\conhost.exe 0x4	2688	2680	NETWORK SERVICE	8	2019/02/28 04:38:07
conhost.exe	C:\Windows\system32\conhost.exe	??C:\Windows\system32\conhost.exe 0x4	6244	6172	SYSTEM	8	2019/03/01 20:18:05
csrss.exe	csrss.exe	csrss.exe	396	388	SYSTEM	13	
csrss.exe	csrss.exe	csrss.exe	1780	6416	SYSTEM	13	

図 6-130 「起動プロセス一覧」ダイアログ

表 6-81 項目一覧（「起動プロセス一覧」ダイアログ）

項目名	説明
表示名	プロセスの表示名を表示します。
プロセスパス	プロセスのパスを表示します。
コマンドライン	プロセスのコマンドラインを表示します。
プロセス ID	プロセス ID を表示します。
親プロセス ID	親プロセス ID を表示します。
ユーザ名	プロセスの実行ユーザの名前を表示します。
優先度	プロセスの優先度を表示します。
起動時刻	プロセスの起動時刻を表示します。
キャンセル	プロセスを選択せずにダイアログを閉じます。
OK	プロセスを選択してダイアログを閉じます。

「プロセス監視設定変更」画面の監視プロセスには[プロセス削除]ボタンがあります。削除したいプロセスのチェックボックスをチェックした状態で[プロセス削除]ボタンをクリックすると以下の「プロセス監視削除」ダイアログが表示され、プロセスをグループから削除できます。



図 6-131 「プロセス監視削除」ダイアログ

表 6-82 項目一覧（「プロセス削除」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	プロセスを削除せずにダイアログを閉じます。
OK	プロセスを削除してダイアログを閉じます。

6.4.2.3 性能監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[性能監視]をクリックすると性能監視設定パネルが開きます。性能監視設定パネルでは性能情報の監視状況を確認することができます。

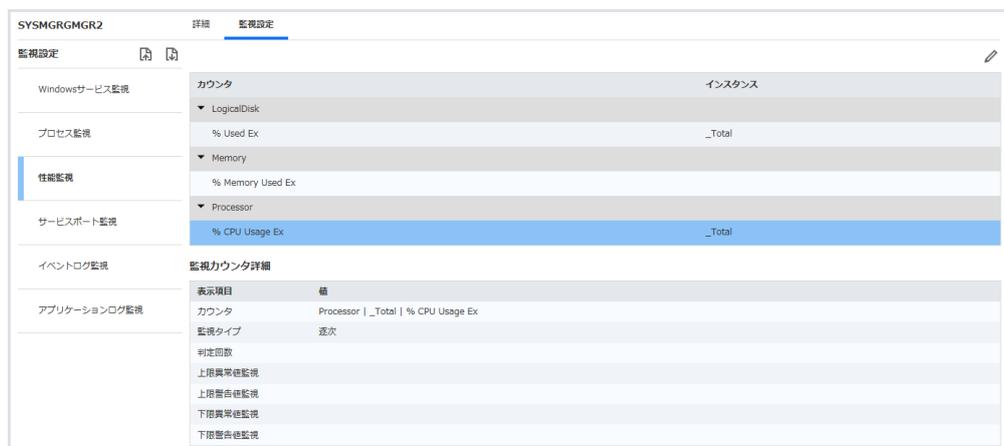


図 6-132 性能監視一覧

表 6-83 項目一覧（性能監視）

項目名	説明
カウンタ	監視対象の項目を表示します。
インスタンス	監視対象のインスタンスを表示します。

カウンタをクリックすると、以下に示す監視カウンタ詳細が表示されます。

表示項目	値
カウンタ	Processor _Total % CPU Usage Ex
監視タイプ	逐次
判定回数	
上限異常値監視	
上限警告値監視	
下限異常値監視	
下限警告値監視	

図 6-133 監視カウンタ詳細

表 6-84 項目一覧 (監視カウンタ詳細)

項目名	説明
カウンタ	監視対象の項目を表示します。
監視タイプ	以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 逐次 連続 平均
判定回数	連続と平均の場合のみ表示します。連続の場合は閾値を何回超えた場合に通知するかを示し、平均の場合は過去何回分の平均値を使用するかを示します。
上限異常値監視	上限異常閾値を表示します。上限異常値監視をしない場合は空欄です。
上限警告値監視	上限警告閾値を表示します。上限警告値監視をしない場合は空欄です。
下限異常値監視	下限異常閾値を表示します。下限異常値監視をしない場合は空欄です。
下限警告値監視	下限警告閾値を表示します。下限警告値監視をしない場合は空欄です。

性能監視設定変更

性能監視パネルで[監視設定変更...]アイコンをクリックすると「性能監視設定変更」画面が表示されます。「性能監視設定変更」画面では性能監視パネルと性能カウンター一覧、性能カウンタ細詳細があります。

カウンタ	インスタンス
LogicalDisk	
% Used Ex	_Total
Memory	
% Memory Used Ex	
Processor	
% CPU Usage Ex	_Total

図 6-134 「性能監視設定変更」画面

「ノード監視」画面の性能監視設定では[監視カウンタ選択...]アイコンをクリックすると以下に示す「監視対象カウンタの選択」画面が表示され、リソースおよびインスタンス、カウンタを選択して監視対象のカウンタをして追加することができます。

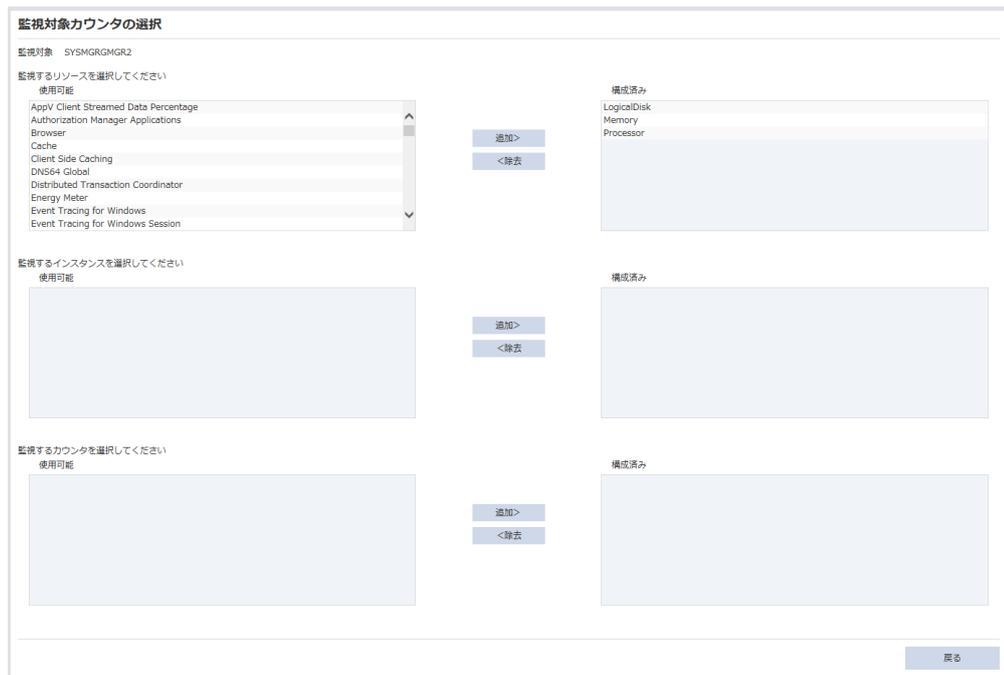


図 6-135 「監視対象カウンタの選択」画面

「監視テンプレート」画面の性能監視設定では性能カウンター一覧に以下のリンクが表示されます。

- 監視カウンタ追加アイコン+
- 監視カウンタ変更アイコン✎
- 監視カウンタ削除アイコン🗑

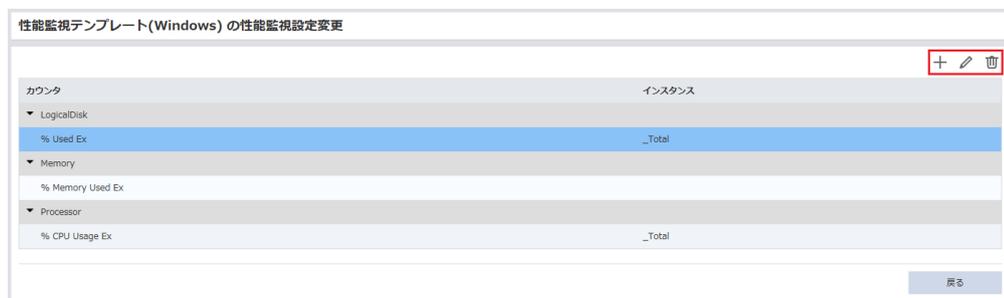


図 6-136 「性能監視設定変更」画面（監視テンプレート）

[監視カウンタ追加]アイコン+をクリックすると以下に示す「監視カウンタ追加」ダイアログが表示され、入力した監視カウンタを追加することができます。

性能監視設定変更 - 監視カウンタ追加



リソース	<input type="text"/>
インスタンス	<input type="text"/>
カウンタ	<input type="text"/>

キャンセル

OK

図 6-137 「監視カウンタ追加」ダイアログ

表 6-85 項目一覧（「監視カウンタ追加」ダイアログ）

項目名	必須	説明
リソース	○	監視カウンタのリソースを 128 文字以内で入力します。
インスタンス		監視カウンタのインスタンスを 128 文字以内で入力します。
カウンタ	○	監視カウンタのカウンタを 128 文字以内で入力します。

変更したい監視カウンタを選択して[監視カウンタ変更]アイコンをクリックすると以下に示す「監視カウンタ変更」ダイアログが表示され、監視カウンタを変更することができます。

「監視カウンタ変更」ダイアログの項目は「監視カウンタ追加」ダイアログと同じです。

性能監視設定変更 - 監視カウンタ変更



リソース	<input type="text" value="LogicalDisk"/>
インスタンス	<input type="text" value="_Total"/>
カウンタ	<input type="text" value="% Used Ex"/>

キャンセル

OK

図 6-138 「監視カウンタ変更」ダイアログ

削除したい監視カウンタを選択して[監視カウンタ削除]アイコンをクリックすると以下に示す「監視カウンタ削除」ダイアログが表示され、監視カウンタを削除することができます。

項目名	説明
	-99999999999999999999 ~ 99999999999999999999 の範囲で指定します。
キャンセル	入力内容を破棄し、前画面に戻ります。
OK	入力内容を反映し、前画面に戻ります。

6.4.2.4 サービスポート監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[サービスポート監視]をクリックすると サービスポート監視設定パネルが開きます。サービスポート監視設定パネルではサービスポートの監視状況を確認することができます。



図 6-141 サービスポート監視

表 6-77 項目一覧 (サービスポート監視)

項目名	説明
表示名	サービスポートの表示名を表示します。
ポート番号	サービスポートのポート番号を表示します。
プロトコル	以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • TCP • UDP
正常なポート状態	以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • オープン • クローズ

サービスポート監視の一覧表からサービスポートを選択すると、以下に示すサービスポート監視設定詳細が表示されます。

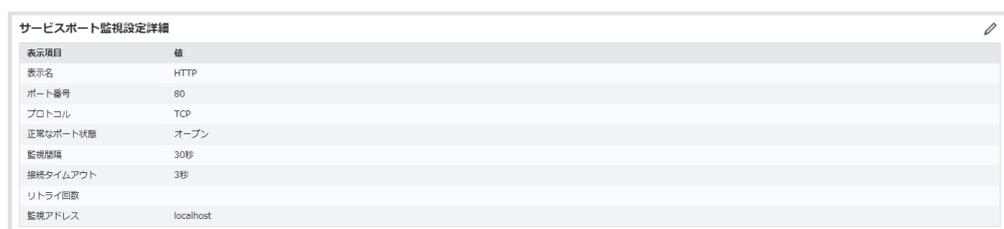


図 6-142 サービスポート詳細

表 6-88 項目一覧 (サービスポート詳細)

項目名	説明
表示名	サービスポートの表示名を表示します。
ポート番号	サービスポートのポート番号を表示します。
プロトコル	以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • TCP • UDP
正常なポート状態	以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • オープン • クローズ
監視間隔	ポートを監視する間隔 (秒) を表示します。
接続タイムアウト	接続タイムアウトと判断する時間 (秒) を表示します。
リトライ回数	接続タイムアウト時のリトライ回数を表示します。
監視アドレス	監視対象アドレスを表示します。IP アドレス (IPv4/IPv6) 形式または localhost が表示されます。

サービスポート監視設定変更

サービスポート監視パネルで[監視設定変更...]アイコンをクリックすると「サービスポート監視設定変更」画面が表示されます。

「サービスポート監視設定変更」画面ではサービスポート監視パネルと同様のサービスポート一覧、サービスポート監視設定詳細詳細があります。



図 6-143 「サービスポート監視設定変更」画面

表 6-89 項目一覧 (「サービスポート監視設定変更」画面)

項目名	説明
追加アイコン 	「サービスポート追加 (入力)」画面を表示します。
削除アイコン 	「サービスポート監視設定削除」ダイアログを表示します。
変更アイコン 	「サービスポート変更 (入力)」画面を表示します。
戻る	前画面に戻ります。

サービスポート追加/変更/削除

「サービスポート監視設定変更」画面の[追加]アイコン \oplus をクリックすると以下に示す「サービスポート追加(入力)」画面が表示され、サービスポート監視設定を追加することができます。

図 6-144 「サービスポート追加 (入力)」画面

表 6-90 項目一覧 (「サービスポート追加 (入力)」画面)

項目名	説明
表示名	サービスポートの表示名を 64 文字以内で入力します。
ポート番号	サービスポートのポート番号を 1-65535 で入力します。
プロトコル	以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • TCP • UDP
正常なポート状態	以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • オープン • クローズ
監視間隔(秒)	ポートを監視する間隔 (秒) を 10-86400 で指定します。
接続タイムアウト(秒)	接続タイムアウトと判断する時間 (秒) を 1-60 で指定します。
リトライ回数	接続タイムアウト時のリトライ回数を 0-10 の値で指定します。プロトコルが UDP の場合のみ必須です。
監視アドレス	[指定する]にチェックを入れた場合、監視対象アドレスを IP アドレス (IPv4/IPv6) 形式で指定するか localhost を指定します。指定しない場合は localhost として扱われます。
キャンセル	サービスを追加せずに前画面に戻ります。
OK	サービスポートを追加して前画面に戻ります。

「サービスポート監視設定変更」画面の[変更]アイコン \neq をクリックすると以下に示す「サービスポート変更(入力)」画面が表示され、サービスポート監視設定を変更することができます。

図 6-145 「サービスポート変更 (入力)」画面

入力項目については「サービスポート追加 (入力)」画面と同じです。

「サービスポート監視設定変更」画面の[削除]アイコンをクリックすると以下に示す「サービスポート監視設定削除」ダイアログが表示され、選択中のサービスポート監視設定を削除することができます。

図 6-146 「サービスポート監視設定削除」ダイアログ

表 6-91 項目一覧 (「サービスポート監視設定削除」ダイアログ)

項目名	説明
キャンセル	サービスポートを削除せずにダイアログを閉じます。
OK	サービスポートを削除してダイアログを閉じます。

6.4.2.5 イベントログ監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[イベントログ監視]をクリックするとイベントログ監視設定パネルが開きます。イベントログ監視設定パネルではイベントログの監視状況を確認することができます。



図 6-147 イベントログ監視

イベントログの一覧からイベントログを選択すると、下部にイベントログ詳細が表示されます。イベントログ詳細には以下の項目があります。

表 6-92 項目一覧（イベントログ詳細）

項目名	説明
イベントログ名	イベントログの名前を表示します。
ログフィルタ	ログフィルタの一覧を表示します。

表 6-93 項目一覧（ログフィルタ）

項目名	説明
フィルタ名	ログフィルタ名を表示します。
タイプ	フィルタタイプを以下のいずれかで表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 格納 削除 [格納]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されます。[削除]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されず、後続のフィルタについてのフィルタ処理も行われません。
重要度	イベントログの種類のフィルタ条件を表示します。
アプリケーション	イベントログのソースのフィルタ条件を表示します。
オブジェクト	イベントログのタスクのカテゴリまたは分類のフィルタ条件を表示します。
メッセージ ID	イベントログのイベント ID のフィルタ条件を表示します。
メッセージテキスト	メッセージ本文に対するフィルタ条件を表示します。

イベントログ監視設定変更

イベントログ監視パネルで[監視設定変更...]アイコンをクリックすると「イベントログ監視設定変更」画面が表示されます。「イベントログ監視設定変更」画面ではイベントログ監視パネルと同様のイベントログ一覧、イベントログ詳細があります。



図 6-148 「イベントログ監視設定変更」画面

「監視テンプレート」画面のイベントログ監視設定では以下のリンクが表示されます。

- イベントログ追加アイコン+
- イベントログ変更アイコン✎
- イベントログ削除アイコン✖

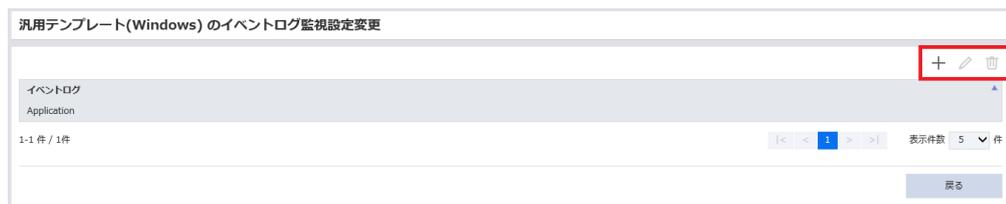


図 6-149 「イベントログ監視設定変更」画面(監視テンプレート)

[イベントログ追加]アイコン+をクリックすると以下に示す「イベントログ追加」ダイアログが表示され、入力したイベントログを追加することができます。



図 6-150 「イベントログ追加」ダイアログ

表 6-94 項目一覧 (「イベントログ追加」ダイアログ)

項目名	必須	説明
イベントログ	○	イベントログを 64 文字以内で入力します。

変更したいイベントログを選択して[イベントログ変更]アイコンをクリックすると以下に示す「イベントログ変更」ダイアログが表示され、イベントログを変更することができます。

「イベントログ変更」ダイアログの項目は「イベントログ追加」ダイアログと同じです。



図 6-151 「イベントログ変更」ダイアログ

削除したいイベントログを選択して[イベントログ削除]アイコンをクリックすると以下に示す「イベントログ削除」ダイアログが表示され、イベントログを削除することができます。

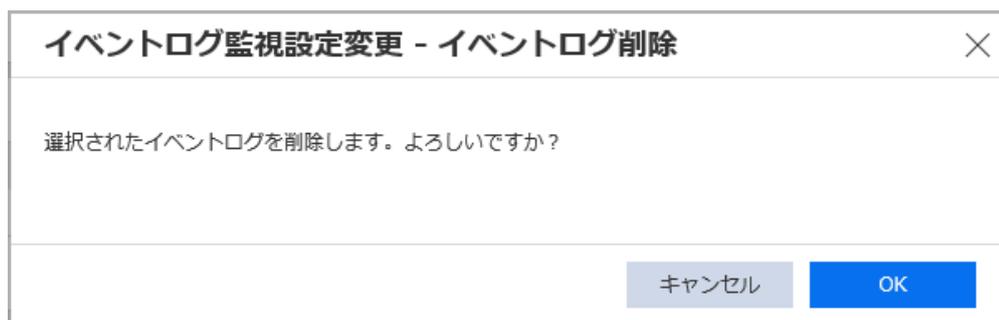


図 6-152 「イベントログ削除」ダイアログ

ログフィルタ追加/変更/削除

「イベントログ監視設定変更」画面のログフィルタには[追加]アイコンがあります。ここをクリックすると以下に示す「ログフィルタ追加（入力）」画面が表示されます。この画面を使用してフィルタ定義を追加することができます。

図 6-153 「ログフィルタ追加 (入力)」画面

表 6-95 項目一覧 (「ログフィルタ追加 (入力)」画面)

項目名	説明
ログフィルタ名	ログフィルタ名を 256 文字以内で入力します。
フィルタタイプ	フィルタタイプを以下のいずれかで表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 格納 削除 [格納]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されます。[削除]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されず、後続のフィルタについてのフィルタ処理も行われません。
ノード	ノードに対するフィルタ条件を 256 文字以内の正規表現形式で指定します。否定指定した場合、正規表現指定に一致しなかったメッセージが選択対象となります。
アプリケーション	イベントログのソースに当たる項目で、フィルタ条件を 128 文字以内の正規表現形式で指定します。否定指定した場合、正規表現指定に一致しなかったメッセージが選択対象となります。
オブジェクト	イベントログのタスクのカテゴリまたは分類に当たる項目で、フィルタ条件を 128 文字以内の正規表現形式で指定。否定指定した場合、正規表現指定に一致しなかったメッセージが選択対象となります。
メッセージ ID	イベントログのイベント ID に当たる項目で、フィルタ条件を 128 文字以内の正規表現形式で指定します。否定指定した場合、正規表現指定に一致しなかったメッセージが選択対象となります。
メッセージテキスト	メッセージ本文を 1024 文字以内の正規表現で指定します。否定指定した場合、正規表現指定に一致しなかったメッセージが選択対象となります。
位置指定	位置指定情報を指定します。
キー指定	キー情報を指定します。

項目名	説明
重要度	イベントログの種類に当たる項目で、検索条件を選択します。否定指定した場合、選択条件に一致しなかったメッセージが対象となります。
表示定義	メッセージの表示に関する定義を指定します。
オプション定義	フィルタのオプション定義を指定します。
キャンセル	設定を破棄して前画面に戻ります。
OK	設定を反映して前画面に戻ります。

位置指定はメッセージテキスト中の位置指定による検索条件を8個まで指定します。否定指定した場合、条件に一致しなかったメッセージが選択対象となります。



図 6-154 「ログフィルタ追加 (入力)」画面 位置指定

表 6-96 項目一覧 (「ログフィルタ追加 (入力)」画面 位置指定)

項目名	説明
否定	チェックした場合には条件にマッチしないものが選択対象になります。
比較位置	メッセージテキスト中の位置を指定します。
比較条件	=,<>,>=,>,<=,<から選択します。
比較値	比較値を64文字以内で入力します。正規表現は指定できません。

キー指定はログの内容中のキー指定による検索条件を8個まで指定します。否定指定した場合、条件に一致しなかったメッセージが選択対象となります。



図 6-155 「ログフィルタ追加 (入力)」画面 キー指定

表 6-97 項目一覧 (「ログフィルタ追加 (入力)」画面 キー指定)

項目名	説明
否定	チェックした場合には条件にマッチしないものが選択対象になります。
キー値	ログの内容中のキーを64文字以内で指定します。
比較条件	=,<>,>=,>,<=,<から選択します。
比較値	比較する値を指定します。[条件]に=を指定した場合は[比較値]は正規表現で指定します。

抽出したログをメッセージ通知するときに付与する情報を定義します。



図 6-156 「ログフィルタ追加 (入力)」画面 表示定義

表 6-98 項目一覧 (「ログフィルタ追加 (入力)」画面 表示定義)

項目名	説明
重要度変更	フィルタ条件に一致したメッセージの重要度を、指定した重要度に変更します。

オプション定義では抽出したログに対する拡張設定を定義します。



図 6-157 「ログフィルタ追加 (入力)」画面 オプション定義

表 6-99 項目一覧 (「ログフィルタ追加 (入力)」画面 オプション定義)

項目名	説明
使用する	メッセージ抑制機能を使用する場合にはチェックします。
監視間隔(秒)	最初の1件が抽出されてからメッセージ通知しない期間を1~3600秒で指定します。この間隔を超えて抽出されたログはメッセージ通知され、再度、通知しない期間が開始されます。
リセットする	通知しない期間内にログを抽出してメッセージ通知を抑止した時に、監視間隔をリセットする場合にチェックします。連続して抽出されたログを抑止し続けたい場合に使用します。
抑止動作	メッセージ抑止時の動作を指定します。[監視間隔内のメッセージを削除する]監視間隔内に該当フィルタに一致したログが複数検出された場合、最初の1件のログのみをメッセージ通知して、以降のログは通知せず削除されます。監視間隔内に該当フィルタに一致したログは、該当フィルタより優先度が低いフィルタの設定があっても無効となります。[監視間隔内のメッセージを以降のフィルタに適用する]監視間隔内に該当フィルタに一致したログが複数検出された場合、最初の1件のログのみをメッセージ通知して、以降のログでは該当フィルタが無効となります。監視間隔内に該当フィルタに一致したログは、該当フィルタより優先度が低いフィルタが存在する場合、順番にフィルタのチェックが実施され、一致するとメッセージ通知されます。

「イベントログ監視設定変更」画面のログフィルタには[変更]アイコンがあります。変更したいフィルタをチェックし、[変更]アイコンをクリックすると以下に示す「ログフィルタ変更 (入力)」画面を表示します。この画面を使用してフィルタ定義を変更することができます。

図 6-158 「ログフィルタ変更 (入力)」画面

入力項目は「ログフィルタ追加 (入力)」画面と同様です。「イベントログ監視設定変更」画面のログフィルタには[削除]アイコンがあります。削除したいフィルタをチェックし、[削除]ボタンをクリックすると以下に示す「ログフィルタ削除」ダイアログを表示します。このダイアログを使用してフィルタ定義を削除することができます。

図 6-159 「ログフィルタ削除」ダイアログ

表 6-100 項目一覧 (「ログフィルタ削除」ダイアログ)

項目名	説明
キャンセル	フィルタを削除せずにダイアログを閉じます。
OK	フィルタを削除してダイアログを閉じます。

ログフィルタの順序変更

「イベントログ監視設定変更」画面のログフィルタには[順序変更]アイコンがあります。ここをクリックすると選択中のログの順序を上下に移動することができます。

6.4.2.6 シスログ監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[シスログ監視]をクリックするとシスログ監視設定パネルが開きます。シスログ監視設定パネルではシスログの監視状況を確認することができます。



図 6-160 シスログ監視

シスログの一覧からシスログを選択すると、下部にシスログ詳細が表示されます。シスログ詳細には以下の項目があります。

表 6-101 項目一覧（シスログ詳細）

項目名	説明
シスログ名	シスログの名前を表示します。
ログフィルタ	ログフィルタの一覧を表示します。

表 6-102 項目一覧（ログフィルタ）

項目名	説明
フィルタ名	ログフィルタ名を表示します。
タイプ	フィルタタイプを以下のいずれかで表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 格納 削除 [格納]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されます。[削除]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されず、後続のフィルタについてのフィルタ処理も行われません。
カテゴリ	シスログのカテゴリを表示します。
重要度	ログをメッセージ通知する際に付与される重要度を表示します。
アプリケーション	ログをメッセージ通知する際に付与されるアプリケーション名を表示します。
オブジェクト	ログをメッセージ通知する際に付与されるオブジェクト名を表示します。
メッセージID	ログをメッセージ通知する際に付与されるメッセージIDを表示します。
メッセージテキスト	メッセージ本文に対するフィルタ条件を表示します。

シスログ監視設定変更

シスログ監視パネルで[監視設定変更...]アイコンをクリックすると「シスログ監視設定変更」画面が表示されます。「シスログ監視設定変更」画面ではシスログ監視パネルと同様のシスログ一覧、シスログ詳細があります。



図 6-161 「シスログ監視設定変更」画面

「監視テンプレート」画面の監視設定では以下のリンクが表示されます。

- シスログ追加アイコン
- シスログ変更アイコン
- シスログ削除アイコン

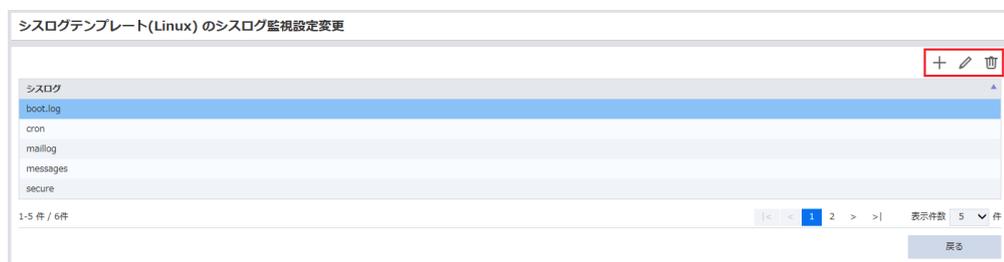


図 6-162 「シスログ監視設定変更」画面（監視テンプレート）

[シスログ追加]アイコンをクリックすると以下に示す「シスログ追加」ダイアログが表示され、入力したシスログを追加することができます。



図 6-163 「シスログ追加」ダイアログ

表 6-103 項目一覧 (「シスログ追加」ダイアログ)

項目名	必須	説明
シスログ	○	シスログを 256 文字以内で入力します。

変更したいシスログを選択して[シスログ変更]アイコンをクリックすると以下に示す「シスログ変更」ダイアログが表示され、シスログを変更することができます。

「シスログ変更」ダイアログの項目は「シスログ追加」ダイアログと同じです。



図 6-164 「シスログ変更」ダイアログ

削除したいシスログを選択して[シスログ削除]アイコンをクリックすると以下に示す「シスログ削除」ダイアログが表示され、シスログを削除することができます。



図 6-165 「シスログ削除」ダイアログ

ログフィルタ追加/変更/削除

「イベントログ監視設定変更」画面のログフィルタには[追加]アイコンがあります。ここをクリックすると以下に示す「ログフィルタ追加 (入力)」画面を表示します。この画面を使用してフィルタ定義を追加することができます。

図 6-166 「ログフィルタ追加 (入力)」画面

表 6-104 項目一覧 (「ログフィルタ追加 (入力)」画面)

項目名	説明
ログフィルタ名	ログフィルタ名を表示します。
フィルタタイプ	フィルタタイプを以下のいずれかで表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 格納 削除 [格納]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されます。[削除]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されず、後続のフィルタについてのフィルタ処理も行われません。
メッセージテキスト	メッセージ本文を 1024 文字以内の正規表現で指定します。否定指定した場合、正規表現指定に一致しなかったメッセージが選択対象となります。
位置指定	位置指定情報を指定します。
キー指定	キー情報を指定します。
表示定義	メッセージの表示に関する定義を指定します。
オプション定義	フィルタのオプション定義を指定します。
キャンセル	設定を破棄して前画面に戻ります。
OK	設定を反映して前画面に戻ります。

位置指定はメッセージテキスト中の位置指定による検索条件を 8 個まで指定します。否定指定した場合、条件に一致しなかったメッセージが選択対象となります。

図 6-167 「ログフィルタ追加 (入力)」画面 位置指定

表 6-105 項目一覧 (「ログフィルタ追加 (入力)」画面 位置指定)

項目名	説明
否定	チェックした場合には条件にマッチしないものが選択対象になります。
比較位置	メッセージテキスト中の位置を指定します。
比較条件	=,<>,>=,>,<=,<から選択します。
比較値	比較値を 64 文字以内で入力します。正規表現は指定できません。

キー指定はログの内容中のキー指定による検索条件を 8 個まで指定します。否定指定した場合、条件に一致しなかったメッセージが選択対象となります。



図 6-168 「ログフィルタ追加 (入力)」画面 キー指定

表 6-106 項目一覧 (「ログフィルタ追加 (入力)」画面 キー指定)

項目名	説明
否定	チェックした場合には条件にマッチしないものが選択対象になります。
キー値	ログの内容中のキーを 64 文字以内で指定します。
比較条件	=,<>,>=,>,<=,<から選択します。
比較値	比較する値を指定します。[条件]に = を指定した場合は[比較値]は正規表現で指定します。

抽出したログをメッセージ通知するときに付与する情報を定義します。

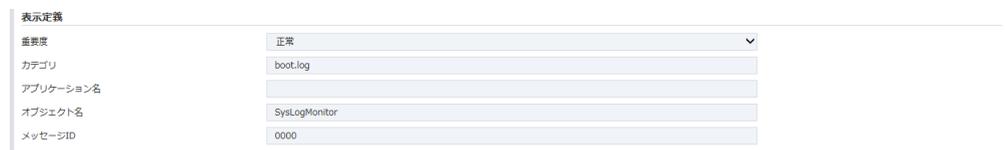


図 6-169 「ログフィルタ追加 (入力)」画面 表示定義

表 6-107 項目一覧 (「ログフィルタ追加 (入力)」画面 表示定義)

項目名	説明
重要度変更	ログをメッセージ通知する際に付与する重要度を選択します。
カテゴリ	ログをメッセージ通知する際に付与するカテゴリ情報を 32 文字以内で指定するか、または監視対象となっているシスログの名前の中から選択します。
アプリケーション名	ログをメッセージ通知する際に付与するアプリケーション情報を 32 文字以内で指定します。
オブジェクト名	ログをメッセージ通知する際に付与するオブジェクト情報を 32 文字以内で指定します。
メッセージ ID	ログをメッセージ通知する際に付与するメッセージ ID を 32 文字以内で指定します。

オプション定義では抽出したログに対する拡張設定を定義します。



図 6-170 「ログフィルタ追加 (入力)」画面 オプション定義

表 6-108 項目一覧 (「ログフィルタ追加 (入力)」画面 オプション定義)

項目名	説明
使用する	メッセージ抑制機能を使用する場合にはチェックします。
監視間隔(秒)	最初の1件が抽出されてからメッセージ通知しない期間を1~3600秒で指定します。この間隔を超えて抽出されたログはメッセージ通知され、再度、通知しない期間が開始されます。
リセットする	通知しない期間内にログを抽出してメッセージ通知を抑止した時に、監視間隔をリセットする場合にチェックします。連続して抽出されたログを抑止し続けたい場合に使用します。
抑止動作	メッセージ抑止時の動作を指定します。[監視間隔内のメッセージを削除する]監視間隔内に該当フィルタに一致したログが複数検出された場合、最初の1件のログのみをメッセージ通知して、以降のログは通知せず削除されます。監視間隔内に該当フィルタに一致したログは、該当フィルタより優先度が低いフィルタの設定があっても無効となります。[監視間隔内のメッセージを以降のフィルタに適用する]監視間隔内に該当フィルタに一致したログが複数検出された場合、最初の1件のログのみをメッセージ通知して、以降のログでは該当フィルタが無効となります。監視間隔内に該当フィルタに一致したログは、該当フィルタより優先度が低いフィルタが存在する場合、順番にフィルタのチェックが実施され、一致するとメッセージ通知されます。

「シスログ監視設定変更」画面のログフィルタには[変更]アイコン  があります。変更したいフィルタをチェックし、[変更]アイコン  をクリックすると以下に示す「ログフィルタ変更 (入力)」画面を表示します。この画面を使用してフィルタ定義を変更することができます。



図 6-171 「ログフィルタ変更 (入力)」画面

入力項目は「ログフィルタ追加 (入力)」画面と同様です。「シスログ監視設定変更」画面のログフィルタには[削除]アイコン  があります。削除したいフィルタをチェックし、[削除]アイコン  をクリックすると以下に示す「ログフィルタ削除」ダイアログを表示します。このダイアログを使用してフィルタ定義を削除することができます。

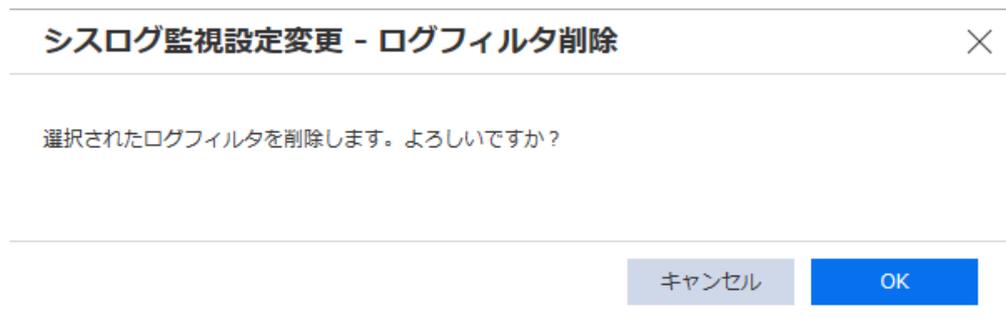


図 6-172 「ログフィルタ削除」ダイアログ

表 6-109 項目一覧（「ログフィルタ削除」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	フィルタを削除せずにダイアログを閉じます。
OK	フィルタを削除してダイアログを閉じます。

ログフィルタの順序変更

「シスログ監視設定変更」画面のログフィルタには[順序変更]アイコンがあります。ここをクリックすると選択中のログの順序を上下に移動することができます。

6.4.2.7 アプリケーションログ監視

「ノード監視」画面の監視設定タブもしくは「監視テンプレート」画面の監視テンプレート詳細で[アプリケーションログ監視]をクリックするとアプリケーションログ監視設定パネルが開きます。アプリケーションログ監視設定パネルではアプリケーションログの監視状況を確認することができます。



図 6-173 アプリケーションログ監視

表 6-110 項目一覧（アプリケーションログ詳細）

項目名	説明
アプリケーションログ名	アプリケーションログの名前を表示します。
ログファイル名	アプリケーションログのファイルパスを表示します。
ログファイル文字コード	アプリケーションログの文字コードです。

項目名	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • US-ASC II • Unicode(UTF-8) • Unicode(Big-Endian) • Unicode • Japanese(Shift-JIS) • Japanese(JIS) • Japanese(JIS 0208-1990 and 0212-1990) • Chinese Traditional(Big5) • Chinese Simplified(GB2312) • Chinese Simplified(GB18030)
ログフィルタ	ログフィルタの一覧を表示します。

本パネルは左にアプリケーションロググループのツリーを表示します。ツリー上でアプリケーションロググループを選択すると、右側に選択されたグループに属するアプリケーションログの一覧が表示されます。アプリケーションログの一覧からアプリケーションログを選択すると、下部にアプリケーションログ詳細が表示されます。アプリケーションログ詳細には以下の項目があります。

表 6-111 項目一覧 (ログフィルタ)

項目名	説明
フィルタ名	ログフィルタ名を表示します。
タイプ	フィルタタイプを以下のいずれかで表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 格納 • 削除 [格納]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されます。[削除]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されず、後続のフィルタについてのフィルタ処理も行われません。
カテゴリ	ログをメッセージ通知する際に付与されるカテゴリを表示します。
重要度	ログをメッセージ通知する際に付与される重要度を表示します。
アプリケーション	ログをメッセージ通知する際に付与されるアプリケーション名を表示します。
オブジェクト	ログをメッセージ通知する際に付与されるオブジェクト名を表示します。
メッセージ ID	ログをメッセージ通知する際に付与されるメッセージ ID を表示します。
メッセージテキスト	メッセージ本文に対するフィルタ条件を表示します。

アプリケーションログ監視設定変更

アプリケーションログ監視パネルで[監視設定変更...]アイコンをクリックすると「アプリケーションログ監視設定変更」画面が表示されます。「アプリケーションログ監視設定変更」画面ではアプリケーションログ監視パネルと同様のアプリケーションロググループツリー、アプリケーションログ一覧、アプリケーションログ詳細があります。



図 6-174 「アプリケーションログ監視設定変更」画面

グループ追加/変更/削除

「アプリケーションログ監視設定変更」画面のアプリケーションロググループツリーには[グループ設定]アイコン  があります。ここをクリックすると以下のメニューが表示され、グループの追加、変更、削除ができます。

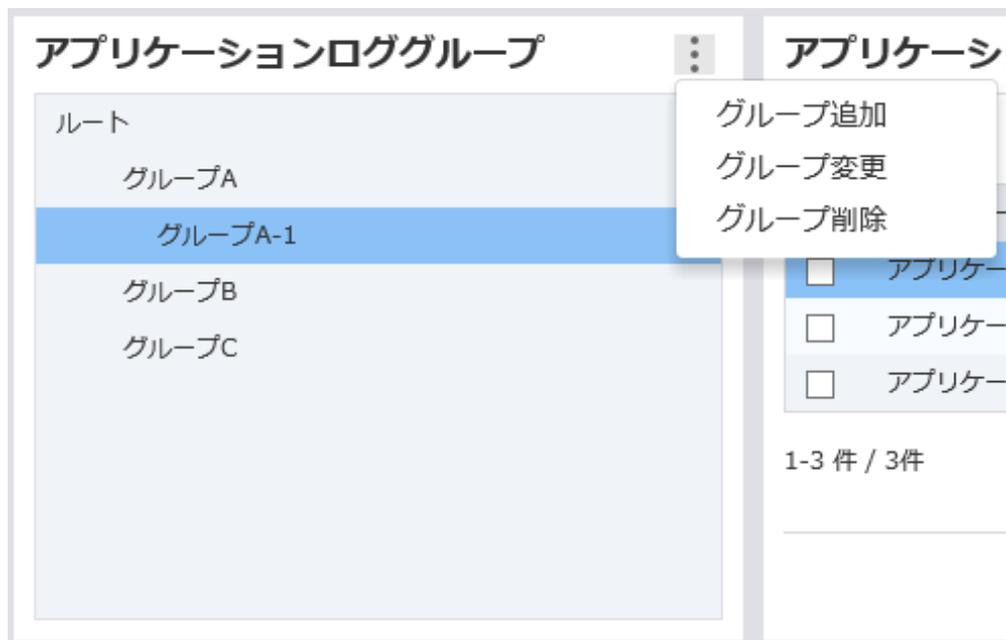


図 6-175 ポップアップメニュー

ポップアップメニューで[グループ追加]を選択すると以下に示す「グループ追加」ダイアログが表示されます。本ダイアログを使用してルート直下または選択されているグループの配下にグループの追加ができます。グループは階層化できます。

図 6-176 「グループ追加」ダイアログ

表 6-112 項目一覧（「グループ追加」ダイアログ）

項目名	説明
グループ名	追加するグループの名前を 64 文字以内で入力します。
キャンセル	グループを追加せずにダイアログを閉じます。
OK	グループを追加してダイアログを閉じます。

グループツリーでグループを選択し、ポップアップメニューで[グループ変更]を選択すると以下に示す「グループ変更」ダイアログが表示されます。本ダイアログを使用して、ツリー上で選択されたグループの名前を変更することができます。

図 6-177 「グループ変更」ダイアログ

表 6-113 項目一覧（「グループ変更」ダイアログ）

項目名	説明
グループ名	変更するグループの名前を 64 文字以内で入力します。
キャンセル	グループを変更せずにダイアログを閉じます。
OK	グループを変更してダイアログを閉じます。

グループツリーでグループを選択し、ポップアップメニューで[グループ削除]を選択すると以下に示す「グループ削除」ダイアログが表示されます。本ダイアログを使用して、ツリー

上で選択されたグループを削除することができます。グループを削除すると配下のグループ・アプリケーションログおよびアプリケーションログフィルタも削除されます。

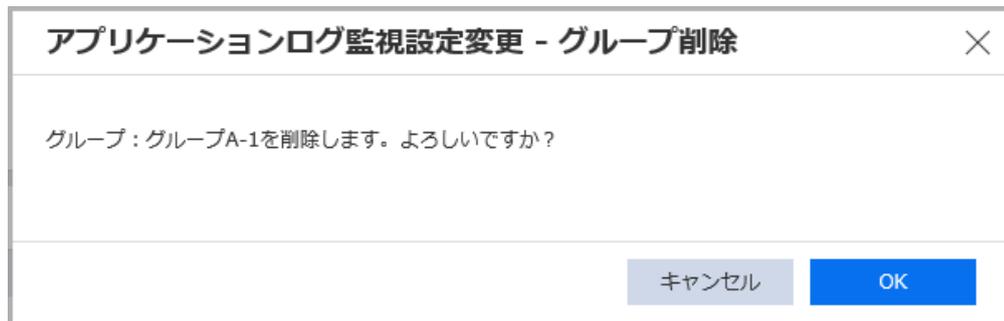


図 6-178 「グループ削除」ダイアログ

表 6-114 項目一覧 (「グループ削除」ダイアログ)

項目名	説明
キャンセル	グループを削除せずにダイアログを閉じます。
OK	グループを削除してダイアログを閉じます。

アプリケーションログ追加/変更/削除

「アプリケーションログ監視設定変更」画面のアプリケーションログには[アプリケーションログ追加]アイコン+があります。ここをクリックすると以下のアプリケーションログ追加(入力)が表示され、アプリケーションロググループにアプリケーションログを追加することができます。



図 6-179 「アプリケーションログ追加(入力)」画面

表 6-115 項目一覧 (「アプリケーションログ追加 (入力)」画面)

項目名	説明
アプリケーションログ名	アプリケーションログの名前を 32 文字以内で入力します。
ログファイル名	アプリケーションログのファイルパスを 256 文字以内で入力します。
ログファイル文字コード	アプリケーションログの文字コードです。 <ul style="list-style-type: none"> • US-ASC II • Unicode(UTF-8) • Unicode(Big-Endian)

項目名	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • Unicode • Japanese(Shift-JIS) • Japanese(JIS) • Japanese(JIS 0208-1990 and 0212-1990) • Chinese Traditional(Big5) • Chinese Simplified(GB2312) • Chinese Simplified(GB18030)
バックアップファイル	バックアップファイルを監視するかどうかを設定します。
キャンセル	設定を反映せずに前画面に戻ります。
OK	設定を反映して前画面に戻ります。

表 6-116 項目一覧 (バックアップファイル)

項目名	説明
監視する	バックアップファイルを監視する場合にチェックします。
ログファイル名 1～8	バックアップファイルのパスを 256 文字以内で入力します。

アプリケーションログ詳細には[アプリケーションログ変更]アイコンがあります。ここをクリックすると、以下に示す「アプリケーションログ変更 (入力)」画面を表示します。アプリケーションログの監視設定を変更することができます。



図 6-180 「アプリケーションログ変更(入力)」画面

「アプリケーションログ変更 (入力)」画面の各入力項目については「アプリケーションログ追加 (入力)」画面と同様です。そちらの説明を参照してください。

「アプリケーションログ監視設定変更」画面のアプリケーションログにはアプリケーションログ[削除]アイコンがあります。削除したいアプリケーションログのチェックボックスをチェックした状態でここをクリックすると以下の「アプリケーションログ削除」ダイアログが表示され、アプリケーションログをグループから削除できます。アプリケーションログを削除すると配下のアプリケーションログフィルタも削除されます。

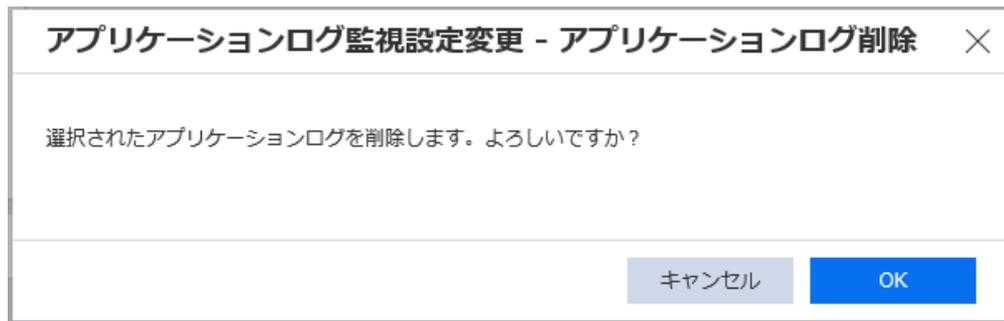


図 6-181 「アプリケーションログ削除」ダイアログ

表 6-117 項目一覧（「アプリケーションログ削除」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	アプリケーションログを削除せずにダイアログを閉じます。
OK	アプリケーションログを削除してダイアログを閉じます。

ログフィルタ追加変更削除

「アプリケーションログ監視設定変更」画面のログフィルタには[追加]アイコン+があります。ここをクリックすると以下に示す「ログフィルタ追加（入力）」画面を表示します。この画面を使用してフィルタ定義を追加することができます。

図 6-182 「ログフィルタ追加(入力)」画面

表 6-118 項目一覧（「ログフィルタ追加（入力）」画面）

項目名	説明
ログフィルタ名	ログフィルタ名を表示します。

項目名	説明
フィルタタイプ	フィルタタイプを以下のいずれかで表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 格納 削除 [格納]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されます。[削除]の場合、このフィルタに一致したログはメッセージ通知されず、後続のフィルタについてのフィルタ処理も行われません。
メッセージテキスト	メッセージ本文を 1024 文字以内の正規表現で指定します。否定指定した場合、正規表現指定に一致しなかったメッセージが選択対象となります。
位置指定	位置指定情報を指定します。
キー指定	キー情報を指定します。
表示定義	メッセージの表示に関する定義を指定します。
オプション定義	フィルタのオプション定義を指定します。
キャンセル	設定を破棄して前画面に戻ります。
OK	設定を反映して前画面に戻ります。

位置指定はメッセージテキスト中の位置指定による検索条件を 8 個まで指定します。否定指定した場合、条件に一致しなかったメッセージが選択対象となります。



図 6-183 「ログフィルタ追加(入力)」画面 位置指定

表 6-119 項目一覧 (「ログフィルタ追加 (入力)」画面 位置指定)

項目名	説明
否定	チェックした場合には条件にマッチしないものが選択対象になります。
比較位置	メッセージテキスト中の位置を指定します。
比較条件	=,<>,>,<=<から選択します。
比較値	比較値を 64 文字以内で入力します。正規表現は指定できません。

キー指定はログの内容中のキー指定による検索条件を 8 個まで指定します。否定指定した場合、条件に一致しなかったメッセージが選択対象となります。



図 6-184 「ログフィルタ追加(入力)」画面 キー指定

表 6-120 項目一覧 (「ログフィルタ追加 (入力)」画面 位置指定)

項目名	説明
否定	チェックした場合には条件にマッチしないものが選択対象になります。
キー値	ログの内容中のキーを 64 文字以内で指定します。
比較条件	比較する値を指定します。[条件]に = を指定した場合は[比較値]は正規表現で指定します。
比較値	比較値を 64 文字以内で入力します。正規表現は指定できません。

図 6-185 「ログフィルタ追加(入力)」画面 表示定義

表 6-121 項目一覧(「ログフィルタ追加(入力)」画面 表示定義)

項目名	説明
重要度	ログをメッセージ通知する際に付与する重要度を選択します。
カテゴリ	カテゴリ項目を Application、Security、System から選択もしくは 32 文字以内で自由に入力します。
アプリケーション名	ログをメッセージ通知する際に付与するアプリケーション情報を 32 文字以内で指定します。
オブジェクト名	ログをメッセージ通知する際に付与するオブジェクト情報を 32 文字以内で指定します。
メッセージ ID	ログをメッセージ通知する際に付与するメッセージ ID を 32 文字以内で指定します。

図 6-186 「ログフィルタ追加(入力)」画面 オプション定義

表 6-122 項目一覧(「ログフィルタ追加(入力)」画面 オプション定義)

項目名	説明
使用する	メッセージ抑制機能を使用する場合にはチェックします。
監視間隔(秒)	最初の 1 件が抽出されてからメッセージ通知しない期間を 1~3600 秒で指定します。この間隔を超えて抽出されたログはメッセージ通知され、再度、通知しない期間が開始されます。
リセットする	通知しない期間内にログを抽出してメッセージ通知を抑止した時に、監視間隔をリセットする場合にチェックします。連続して抽出されたログを抑止し続けたい場合に使用します。
抑止動作	メッセージ抑止時の動作を指定します。[監視間隔内のメッセージを削除する]監視間隔内に該当フィルタに一致したログが複数検出された場合、最初の 1 件のログのみをメッセージ通知して、以降のログは通知せず削除されます。監視間隔内に該当フィルタに一致したログは、該当フィルタより優先度が低いフィルタの設定があっても無効となります。[監視間隔内のメッセージを以降のフィルタに適用する]監視間隔内に該当フィルタに一致したログが複数検出された場合、最初の 1 件のログのみをメッセージ通知して、以降のログでは該当フィルタが無効となります。監視間隔内に該当フィルタに一致したログは、該当フィルタより優先度が低いフィルタが存在する場合、順番にフィルタのチェックが実施され、一致するとメッセージ通知されます。

「アプリケーションログ監視設定変更」画面のログフィルタには[変更]アイコンがあります。変更したいフィルタをチェックし、[変更]アイコンをクリックすると以下に示す「ログフィルタ変更(入力)」画面を表示します。この画面を使用してフィルタ定義を変更することができます。

図 6-187 「ログフィルタ変更(入力)」画面

入力項目は「ログフィルタ追加 (入力)」画面と同様です。「アプリケーションログ監視設定変更」画面のログフィルタには[削除]アイコンがあります。削除したいフィルタをチェックし、[削除]アイコンをクリックすると以下に示す「ログフィルタ削除」ダイアログを表示します。このダイアログを使用してフィルタ定義を削除することができます。

図 6-188 「ログフィルタ削除」ダイアログ

表 6-123 項目一覧（「ログフィルタ削除」ダイアログ）

項目名	説明
キャンセル	フィルタを削除せずにダイアログを閉じます。
OK	フィルタを削除してダイアログを閉じます。

ログフィルタの順序変更

「シスログ監視設定変更」画面のログフィルタには[順序変更]アイコンがあります。ここをクリックすると選択中のログの順序を上下に移動することができます。

6.4.3 クラウド監視

本項では、パブリッククラウド上のリソースを監視するための設定を行う「クラウド監視」画面について説明します。

メニューから、[監視]-[設定]-[クラウド監視]タブをクリックすることにより、「クラウド監視」画面が表示されます。



図 6-189 クラウド監視画面

表 6-124 項目一覧（「クラウド監視画面」ノード一覧）

項目名	説明
ノード名	クラウド監視対象のノード名を表示します。
所属グループ	クラウド監視対象のノードが所属するグループを表示します。クリックするとそのグループを選択したクラウド監視画面を表示します。
備考	クラウド監視対象のノードに設定された備考を表示します。

グループプルダウンから設定を行うパブリッククラウドを選択します。

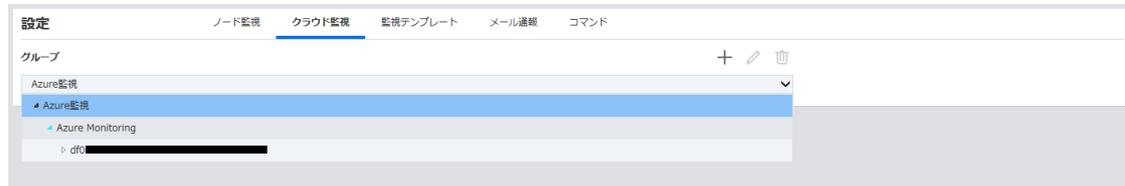


図 6-190 クラウド監視画面「グループツリー」

表 6-125 項目一覧（「クラウド監視画面」グループツリー）

項目名	説明
Azure 監視	Azure のリソースを監視するための設定を行います。詳細は「 6.4.3.1 Azure 監視 (186 ページ) 」を参照してください。

6.4.3.1 Azure 監視

Azure と接続するための情報をクラウド監視画面のサイトとして登録することで、Azure のリソースの状態、アクティビティログを監視することができるようになります。Azure と接続するためには、あらかじめ Azure Active Directory アプリケーションを作成し、アプリケーションに対してリソースへのアクセス許可を与える必要があります。Azure のドキュメントの[ハウツー ガイド]-[アプリケーションの構成]-[サービスプリンシパルの作成]の手順に従い、設定してください。その際、以下の値を指定してください。

表 6-126 サービスプリンシパルの作成時に指定する値

設定項目	設定する値
アプリケーションの登録 - 名前	任意の文字列を指定してください（例：System Manager G）。
アプリケーションの登録 - アプリケーションタイプ	Web app / API
アプリケーションの登録 - サインオン URL	使用しませんので、ダミーの URL（例：https://localhost）を指定してください。
ロールの割り当ての追加 - 役割	監視閲覧者
ロールの割り当ての追加 - アクセスの割り当て先	Azure AD のユーザー、グループ、サービス プリンシパル
ロールの割り当ての追加 - 選択	登録したアプリケーション

上記 Azure ドキュメント、[サービスプリンシパルの作成]の中の[サインインするための値を取得する]の節に記載された手順に従い、以下の情報を取得し、控えてください。以降の節に記載する、サイトの登録の際に必要なになります。

- アプリケーション ID
- 認証キー
- ディレクトリ ID (テナント ID)

サイトの追加

本項ではサイトの追加方法について説明します。

1. 「Azure 監視」をグループツリーから選択します。
2. 選択すると[サイト追加]アイコン+が有効になりますので、クリックします。



図 6-191 「クラウド監視」画面 サイト追加

3. 「サイト追加」ダイアログが表示されるため、必要な情報を入力します。

図 6-192 「サイト追加」ダイアログ

表 6-127 項目一覧（「サイト追加」ダイアログ）

項目名	入力規則	説明
サイト名	128 文字以内	作成するサイトの名前
アプリケーション ID	-	Azure Active Directory アプリケーションのアプリケーション ID
アプリケーションシークレット	-	Azure Active Directory アプリケーションの認証キー
ディレクトリ ID	-	Azure Active Directory のディレクトリ ID (テナント ID)
監視設定 - アクティビティログ	-	アクティビティログを監視してメッセージとして出力するかを選択
監視設定 - 監視間隔 (秒)	60~86400	Azure リソースの状態、アクティビティログを監視する間隔
Proxy サーバ	253 文字以内	Proxy サーバのホスト名または IP アドレス
Proxy ポート	1~65535	Proxy サーバの TCP ポート番号

4. 「OK」 ボタンを押下し、サイトを追加します。

サイトを追加すると、Azure に接続され、監視が開始されます。[監視]-[ノード]画面には以下のノードが登録されます。

- サイト
 - Azure との接続状態等が監視されます。
- サブスクリプション
 - サブスクリプションの契約状態等が監視されます。

- リソース

VMの稼動状態等が監視されます。

注

- Azure 監視を行うためのアプリケーションやサービスプリンシパルの作成、Azure 監視が利用する API 利用では Azure の課金は発生しません。ただし、Azure データセンターから出ていくデータに関しては帯域幅の利用料金が発生します。※同一リージョン内でのデータ転送では帯域幅の費用は発生しません。詳細は Azure のドキュメントの[帯域幅の料金詳細]をご確認ください。
- アクティビティログの監視では、Azure ポータルで表示される、「操作名」に"Health Event"が含まれるアクティビティログは監視できません。
- アクティビティログの監視性能の諸元は 50 件/秒です。この値を超えるアクティビティログが発生する場合、監視が遅延する恐れがあります。

サイトの変更

本項ではサイトの変更方法について説明します。

1. 変更する対象のサイトをグループツリーから選択します。
2. 選択すると[サイト変更]アイコンが有効になりますので、クリックします。



図 6-193 「クラウド監視」画面 サイト変更

3. 「サイト変更」ダイアログが表示されるため、必要な情報を入力します。

図 6-194 「サイト変更」ダイアログ

表 6-128 項目一覧（「サイト変更」ダイアログ）

項目名	入力規則	説明
サイト名	128 文字以内	サイトの名前
アプリケーション ID	-	変更できません。入力誤り等で変更が必要になった場合、サイトを削除して追加し直してください。
アプリケーションシークレット	-	Azure Active Directory アプリケーションの認証キー 変更する場合、[更新する]のチェックを ON にしてください。
ディレクトリ ID	-	変更できません。入力誤り等で変更が必要になった場合、サイトを削除して追加し直してください。
監視設定 - アクティビティログ	-	アクティビティログを監視してメッセージとして出力するかを選択
監視設定 - 監視間隔 (秒)	60~86400	Azure リソースの状態、アクティビティログを監視する間隔
Proxy サーバ	253 文字以内	Proxy サーバのホスト名または IP アドレス
Proxy ポート	1~65535	Proxy サーバの TCP ポート番号

- 「OK」ボタンを押下し、変更内容を確定します。

サイトの削除

本項ではサイトの削除方法について説明します。

注

- サイトを削除すると、[監視]-[ノード]画面からも対応するノードが削除されます。

1. 削除対象のサイトをグループツリーから選択します。
2. 選択すると[サイト削除]アイコンが有効になるため、クリックします。



図 6-195 「クラウド監視」画面 サイト削除

3. 「サイト削除」ダイアログが表示されるため、[OK]ボタンをクリックしてサイトを削除します。

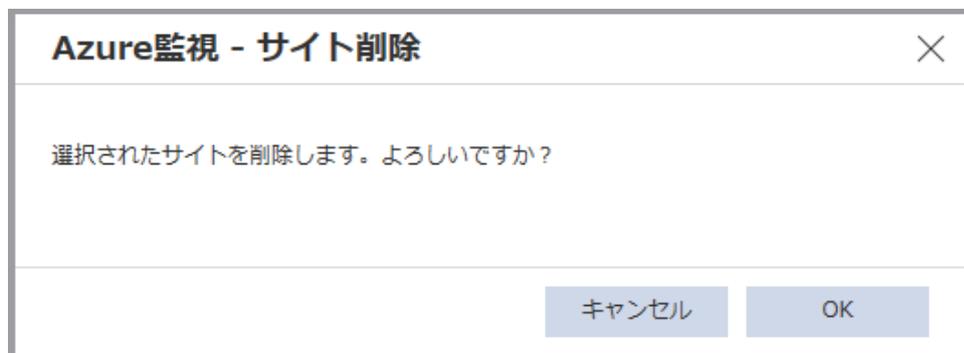


図 6-196 「サイト削除」ダイアログ

クラウド監視詳細

本項ではクラウド監視の詳細情報の参照方法について説明します。

ノード監視一覧でクラウド監視対象の行をクリックすると、該当するクラウド監視の詳細情報が表示されます。

表示項目	値
ノード名	WinTest1
OS	Windows
OS/バージョン	WindowsServer 2016-Datacenter
リソースタイプ	Microsoft.Compute/virtualMachines
所属グループ	ルート / Azure_Monitoring / [redacted] Group
備考	Azure接続確認

図 6-197 詳細

表 6-129 項目一覧（「クラウド監視詳細」）

項目名	説明
ノード名	クラウド監視対象のノード名を表示します。
OS	クラウド監視対象の OS 名を表示します。
OS バージョン	クラウド監視対象の OS バージョンを表示します。

項目名	説明
リソースタイプ	クラウド監視対象のリソースタイプを表示します。
所属グループ	クラウド監視対象のノードが所属するグループを表示します。クリックするとそのグループを選択したクラウド監視画面を表示します。
備考	クラウド監視対象のノードに設定された備考を表示します。
編集アイコン 	クラウド監視対象の備考編集ダイアログを表示します。詳細は「備考編集(192 ページ)」を参照してください。

備考編集

本項ではクラウド監視設定の備考の編集方法について説明します。

詳細で[編集]アイコンをクリックすると以下に示す「編集」ダイアログが表示されます。本ダイアログでクラウド監視設定の備考を編集できます。

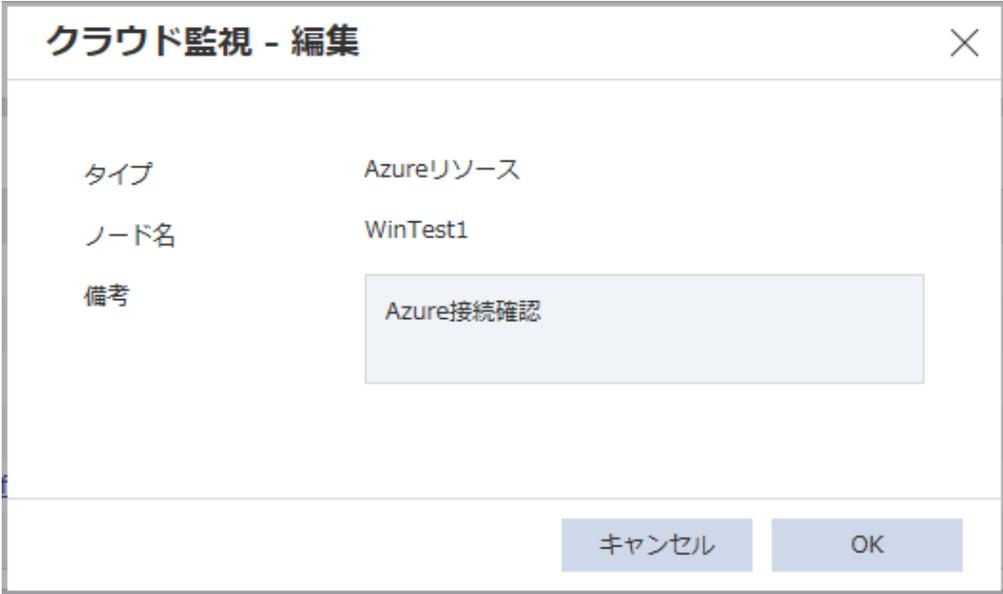


図 6-198 「備考編集」ダイアログ

表 6-130 項目一覧（「クラウド監視」編集ダイアログ）

項目名	説明
タイプ	クラウド監視対象のタイプを表示します。
ノード名	クラウド監視対象のノード名を表示します。
備考	備考の内容を 256 文字以内で入力します。
キャンセル	編集内容を破棄し、ダイアログを閉じます。
OK	編集内容を反映してダイアログを閉じます。

6.4.4 監視テンプレート

本項では監視テンプレートを表示するための「監視テンプレート」画面について説明します。

メニューから、[監視]-[設定]-[監視テンプレート]タブをクリックすることにより、「監視テンプレート」画面が表示されます。



図 6-199 「監視テンプレート」画面

表 6-131 項目一覧（「監視テンプレート」画面）

項目名	説明
検索アイコン🔍	指定した条件に合致する監視テンプレートを検索するための検索実行画面を表示するボタンです。
表示件数	一覧に表示される監視テンプレートの1ページ当たりの表示件数です。表示件数は5,10,50,100のいずれかから選択可能です。
追加アイコン+	監視テンプレートを追加します。詳細は「 6.4.4.1 監視テンプレートの追加 (195 ページ) 」を参照してください。
変更アイコン✎	監視テンプレートを変更します。詳細は「 6.4.4.2 監視テンプレートの変更 (196 ページ) 」を参照してください。
複製アイコン📄	監視テンプレートを複製します。詳細は「 6.4.4.3 監視テンプレートの複製 (197 ページ) 」を参照してください。
削除アイコン🗑️	監視テンプレートを削除します。詳細は「 6.4.4.4 監視テンプレートの削除 (198 ページ) 」を参照してください。
監視テンプレート一覧	監視テンプレートの一覧です。

監視テンプレート一覧には以下の項目が表示されます。

表 6-132 項目一覧（「監視テンプレート」画面 監視テンプレート一覧）

項目名	説明
テンプレート名	監視テンプレートの名前です。
OS 種別	監視テンプレートの OS 種別です。以下のいずれかの OS 種別が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> Windows : OS の種別が Windows のノードに対して適用することができる監視テンプレートであることを示します Linux/Unix : OS の種別が Linux もしくは Unix のノードに対して適用することができる監視テンプレートであることを示します
備考	監視テンプレートの備考です。

監視テンプレートを検索する場合、[検索]アイコン🔍をクリックし「検索実行」画面を表示した後、検索条件を入力し検索を実施してください。

「検索実行」画面に表示される項目、ボタンは以下の通りです。なお文字列での検索は部分一致検索です。

図 6-200 「監視テンプレート」画面 検索

表 6-133 項目一覧（「監視テンプレート」画面 検索）

項目名	入力規則	説明
テンプレート名	256 文字以内	入力したテンプレート名が検索対象となります。
OS 種別	少なくとも一つ	チェックした OS 種別が検索対象となります。以下の OS 種別から選択することができます。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows • Linux/Unix
備考	256 文字以内	入力した備考が検索対象となります。

「監視テンプレート」画面の監視テンプレート一覧に表示されている監視テンプレートを選択すると、監視テンプレート詳細が表示されます。

図 6-201 「監視テンプレート」画面 詳細

表 6-134 項目一覧（「監視テンプレート」画面 監視テンプレート詳細）

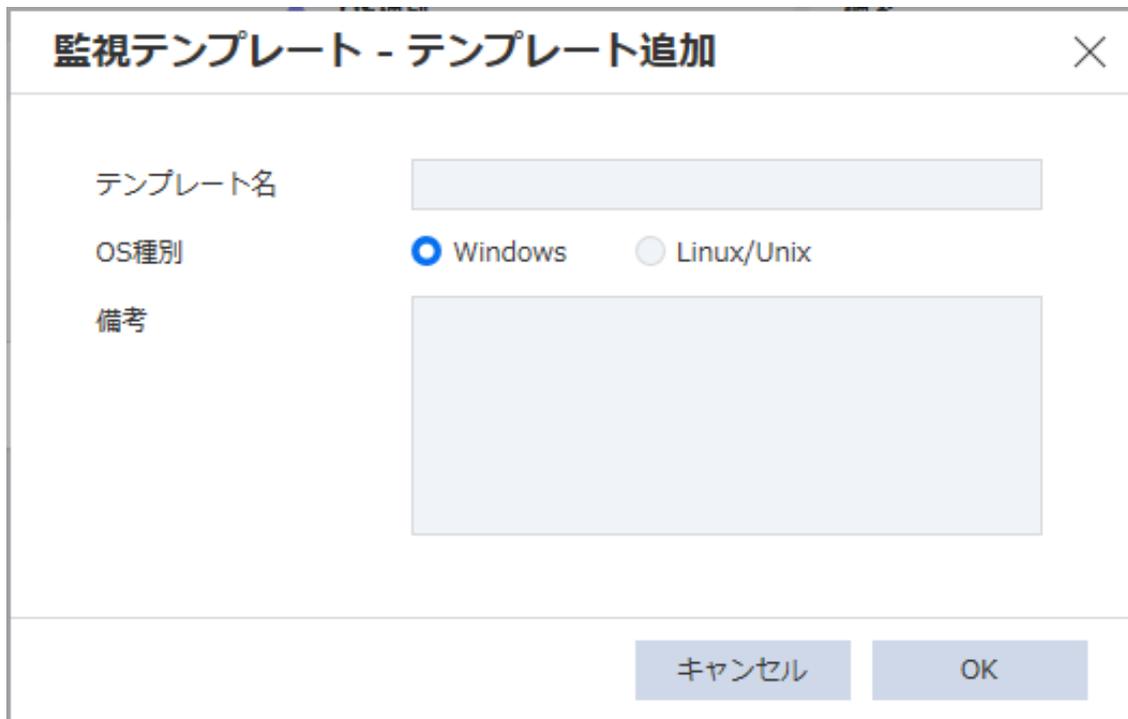
項目名	説明
テンプレート名	監視テンプレートの名前が表示されます。
OS 種別	監視テンプレートの OS 種別が表示されます。以下のいずれかの OS 種別が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows : OS の種別が Windows のノードに対して適用することができる監視テンプレートであることを示します • Linux/Unix : OS の種別が Linux もしくは Unix のノードに対して適用することができる監視テンプレートであることを示します
備考	監視テンプレートの備考が表示されます。
Windows サービス監視パネル	監視テンプレートの Windows サービス監視設定を表示します。OS 種別が Windows の場合にのみ表示されます。詳細は「 5.2.2.1 Windows サービス監視 (36 ページ) 」を参照してください。

項目名	説明
プロセス監視パネル	監視テンプレートのプロセス監視設定を表示します。詳細は「 5.2.2.2 プロセス監視 (37 ページ) 」を参照してください。
性能監視パネル	監視テンプレートの性能監視設定を表示します。詳細は「 5.2.2.3 性能監視 (39 ページ) 」を参照してください。
サービスポート監視パネル	監視テンプレートのサービスポート監視設定を表示します。詳細は「 5.2.2.4 サービスポート監視 (40 ページ) 」を参照してください。
イベントログ監視パネル	監視テンプレートのイベントログ監視設定を表示します。OS 種別が Windows の場合にのみ表示されます。詳細は「 5.2.2.5 イベントログ監視 (41 ページ) 」を参照してください。
シスログ監視パネル	監視テンプレートのシスログ監視設定を表示します。OS 種別が Linux/Unix の場合にのみ表示されます。詳細は「 5.2.2.6 シスログ監視 (42 ページ) 」を参照してください。
アプリケーションログ監視パネル	監視テンプレートのアプリケーションログ監視設定を表示します。詳細は「 5.2.2.7 アプリケーションログ監視 (43 ページ) 」を参照してください。
適用アイコン 	監視テンプレートをノードに適用します。詳細は「 6.4.4.5 監視テンプレートの適用 (198 ページ) 」を参照してください。

6.4.4.1 監視テンプレートの追加

本項では監視テンプレートの追加方法について説明します。

「監視テンプレート」画面にて[追加]アイコン+をクリックして「監視テンプレート追加」ダイアログを表示します。



監視テンプレート - テンプレート追加

×

テンプレート名

OS種別 Windows Linux/Unix

備考

キャンセル OK

図 6-202 「監視テンプレート追加」ダイアログ

表 6-135 項目一覧（「監視テンプレート追加」ダイアログ）

項目名	必須	説明
テンプレート名	○	監視テンプレートの名前を 256 文字以内で入力します。
OS 種別	○	監視テンプレートの OS 種別を選択します。選択した OS 種別によって設定可能な監視設定が異なります。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows : OS の種別が Windows のノードに対する監視設定を設定することができます • Linux/Unix : OS の種別が Linux もしくは Unix のノードに対する監視設定を設定することができます
備考		監視テンプレートの備考を 1024 文字以内で入力します。

項目の入力が完了したら、[OK]ボタンをクリックして監視テンプレートを追加します。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合は入力内容を破棄して「監視テンプレート」画面に戻ります。

6.4.4.2 監視テンプレートの変更

本項では監視テンプレートの変更方法について説明します。

「監視テンプレート」画面にて一覧から監視テンプレートを選択し、[変更]アイコンをクリックして「監視テンプレート変更」ダイアログを表示します。

監視テンプレート - テンプレート変更

×

テンプレート名

OS種別 Windows Linux/Unix

備考

図 6-203 「監視テンプレート変更」ダイアログ

表 6-136 項目一覧（「監視テンプレート変更」ダイアログ）

項目名	必須	説明
テンプレート名	○	変更後の監視テンプレートの名前を 256 文字以内で入力します。初期値として変更対象の監視テンプレートのテンプレート名が表示されます。

項目名	必須	説明
OS 種別	○	変更対象の監視テンプレートの OS 種別が選択されます。OS 種別を変更することはできません。
備考		変更後の監視テンプレートの備考を 1024 文字以内で入力します。初期値として変更対象の監視テンプレートの備考が表示されます。

項目の入力が完了したら、[OK]ボタンをクリックして監視テンプレートを変更します。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合は入力内容を破棄して「監視テンプレート」画面に戻ります。

6.4.4.3 監視テンプレートの複製

本項では監視テンプレートの複製方法について説明します。

「監視テンプレート」画面にて一覧から監視テンプレートを選択し、[複製]アイコンをクリックして「監視テンプレート複製」ダイアログを表示します。



図 6-204 「監視テンプレート複製」ダイアログ

表 6-137 項目一覧（「監視テンプレート複製」ダイアログ）

項目名	必須	説明
テンプレート名	○	監視テンプレートの名前を 256 文字以内で入力します。初期値として、複製元の監視テンプレートのテンプレート名の末尾に「(複製)」が付与された値が表示されます。
OS 種別	○	複製元の監視テンプレートの OS 種別が選択されます。OS 種別を変更することはできません。
備考		監視テンプレートの備考を 1024 文字以内で入力します。初期値として複製元の監視テンプレートの備考が表示されます。

項目の入力が完了したら、[OK]ボタンをクリックして監視テンプレートを複製します。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合は入力内容を破棄して「監視テンプレート」画面に戻ります。

6.4.4.4 監視テンプレートの削除

本項では監視テンプレートの削除方法について説明します。

「監視テンプレート」画面にて一覧から監視テンプレートを選択し、[削除]アイコンをクリックして「監視テンプレート削除」ダイアログを表示します。

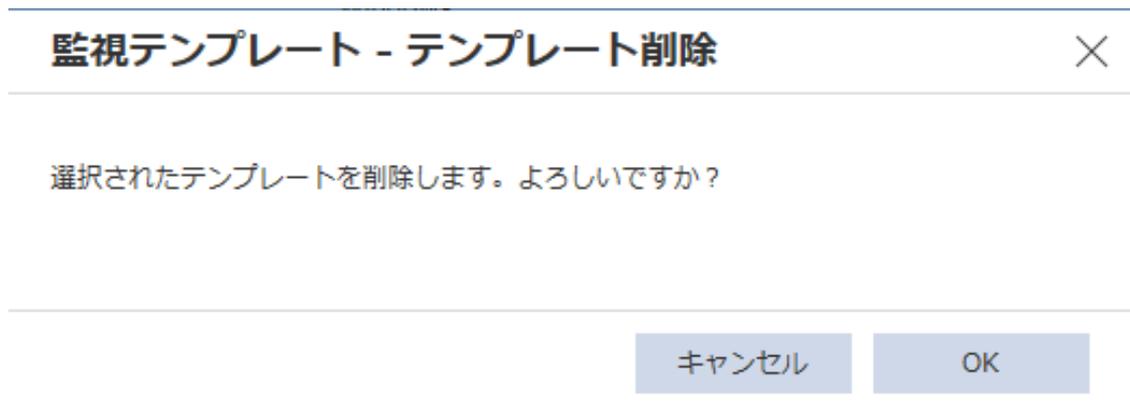


図 6-205 「監視テンプレート削除」ダイアログ

[OK]ボタンをクリックして監視テンプレートを削除します。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合は監視テンプレートを削除せずに「監視テンプレート」画面に戻ります。

6.4.4.5 監視テンプレートの適用

本項では監視テンプレートの適用方法について説明します。

「監視テンプレート」画面にて一覧から監視テンプレートを選択して監視テンプレート詳細を表示します。

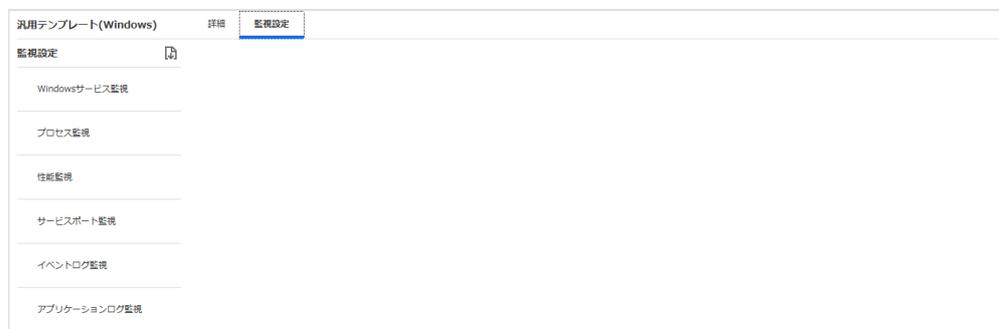


図 6-206 テンプレートの適用

監視テンプレート詳細にて[適用]アイコンをクリックし、「監視テンプレート適用」ダイアログを表示します。

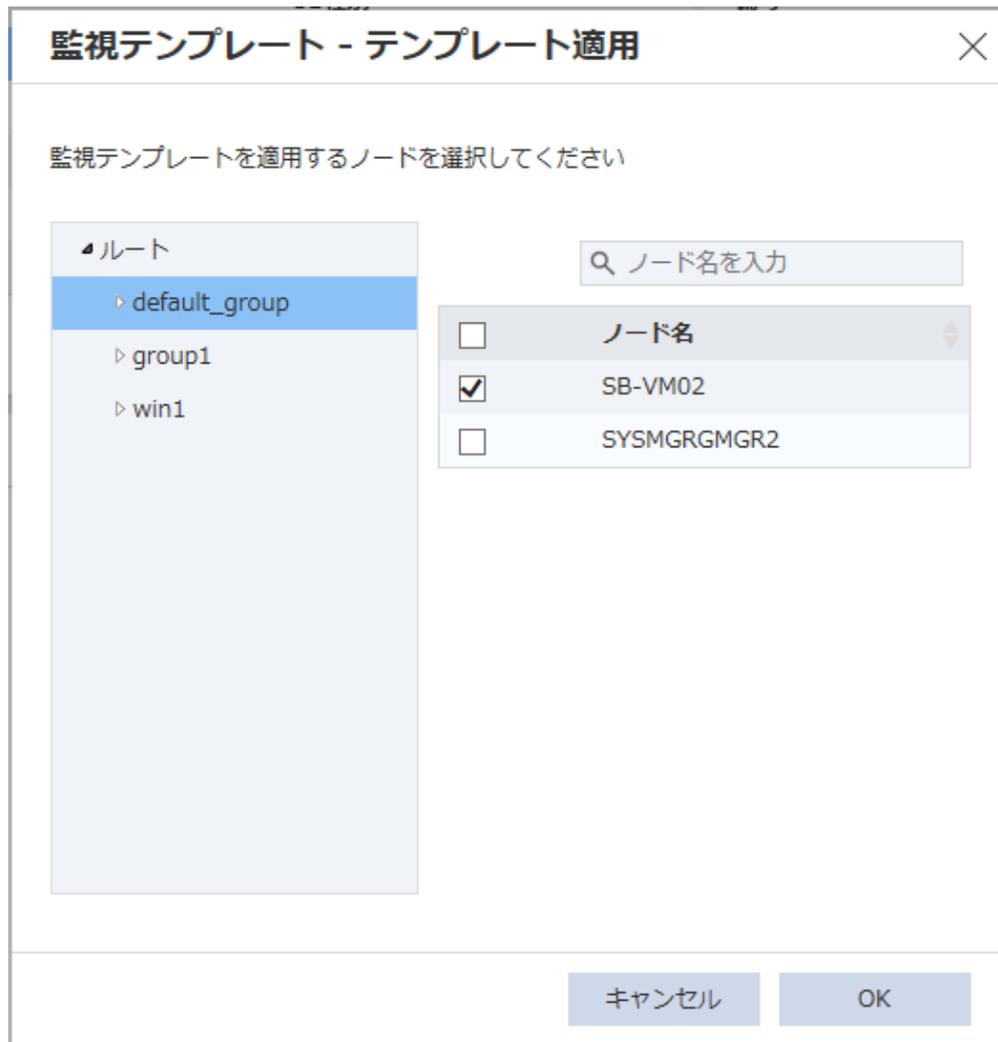


図 6-207 テンプレートの適用

表 6-138 項目一覧（「監視テンプレート適用」ダイアログ）

項目名	説明
グループツリー	「ノード」画面にて設定したグループがツリーで表示されます。グループを選択すると選択したグループ配下のノード一覧が表示されます。
ノード一覧	グループツリーで選択したグループ配下のノード一覧が表示されます。チェックボックスで監視テンプレート適用対象のノードを選択することができます。適用対象は複数選択することができます。
検索フィールド	ノード名を検索します。入力した文字列がノード名に含まれる行のみ抽出されます。

「監視テンプレート適用」ダイアログのグループツリーからグループを選択し、ノード一覧を表示します。

ノード一覧のチェックボックスにチェックを入れて監視テンプレートを適用するノードを選択します。

ノードを選択したら、[OK]ボタンをクリックして監視テンプレートを適用します。

テンプレートの適用状況を示すタスク一覧が表示されます。タスク一覧に表示される項目については「6.4.8 タスク (217 ページ)」を参照してください。

タスク名	対象	状態	進捗率	重要度	要求時刻	完了時刻	実行ユーザ
テンプレート適用	SB-VM02	完了	100%	重要度なし	01:00:25	01:00:25	管理者ユーザ

図 6-208 タスク一覧

タスク一覧からタスクを選択すると「タスク詳細」ダイアログが表示され、テンプレートの適用の実行ログを参照することができます。タスク詳細に表示される項目については「6.4.8 タスク (217 ページ)」を参照してください。

表示項目	値
タスク名	テンプレート適用
対象	SYSTEMGRGMGR2
状態	完了
重要度	● 正常
要求日時	2019/03/01 01:06:23+09:00
開始日時	2019/03/01 01:06:23+09:00
完了日時	2019/03/01 01:06:23+09:00
実行ユーザ	管理者ユーザ

時刻	重要度	メッセージ
01:06:23	● 正常	SYSTEMGRGMGR2に汎用テンプレート(Windows)を適用しました

図 6-209 「タスク詳細」ダイアログ

6.4.5 自動監視

本項では自動監視ルールを表示するための「自動監視」画面について説明します。

自動監視ルールはサーバが作成されたときに自動で監視テンプレートを適用したり、自動で「ノード」画面のグループを移動させたりするためのアクションと、どのサーバに対してアクションを実行するかをサーバの業務グループやサーバ名、カタログ、OSの条件で指定する実行条件を設定します。

サーバが作成されたとき、登録されている自動監視ルールを自動監視ルール一覧の先頭から順番に実行条件に一致するかを判定し、実行条件に一致する場合にはサーバに対してアクションを実行します。

メニューから、[監視]-[設定]-[自動監視]タブをクリックすることにより、「自動監視」画面が表示されます。



図 6-210 「自動監視」画面

表 6-139 項目一覧（「自動監視」画面）

項目名	説明
検索フィールド	自動監視ルール名または備考で自動監視ルール一覧を絞り込みます。入力した文字列が自動監視ルール名もしくは備考に含まれる行のみ抽出されて自動監視ルール一覧が表示されます。
[追加]アイコン+	クリックすると自動監視ルールを追加するための「自動監視ルール追加」画面が表示されます。詳細は「 6.4.5.1 自動監視ルールの追加・変更 (202ページ) 」を参照してください。
自動監視ルール一覧	自動監視ルールを自動監視ルール名の昇順で一覧表示します。
表示件数	一覧に表示される自動監視ルールの1ページ当たりの表示件数です。表示件数は5,10,50,100のいずれかから選択可能です。

自動監視ルール一覧には以下の項目が表示されます。

表 6-140 項目一覧（「自動監視」画面 自動監視ルール一覧）

項目名	説明
自動監視ルール名	自動監視ルールの名前を表示します。
備考	自動監視ルールの備考を表示します。

自動監視ルール一覧に表示されている自動監視ルールを選択すると、自動監視ルール詳細が表示されます。

表示項目	値
自動監視ルール名	10_Webサーバ用監視ルール
実行条件	
業務グループ	始まる /System/Web
サーバ名	始まる web
カタログ	正しい Red Hat Enterprise Linux 7
OS	
アクション	
監視テンプレートの適用	web監視テンプレート
ノード画面のグループの移動	業務グループと同じパスのグループに移動
備考	Webサーバ用の監視ルールを適用し、ノードのグループを移動させる

図 6-211 「自動監視」画面 自動監視ルール詳細

表 6-141 項目一覧（「自動監視」画面 自動監視ルール詳細）

項目名	説明
自動監視ルール名	自動監視ルールの名前が表示されます。
実行条件	アクションを実行する条件です。実行条件には以下の条件が設定可能で、作成されたサーバがすべての条件に一致する場合にアクションが実行されます。実行条件が一つも設定されていない場合には作成されたサーバに対して必ずアクションが実行されます。 <ul style="list-style-type: none"> 業務グループ

項目名	説明
	<ul style="list-style-type: none"> サーバ名 カタログ OS また各条件に合わせて以下の比較条件が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 等しい：条件の文字列と等しい場合に条件に一致したと判定します 含む：条件の文字列を含む場合に条件に一致したと判定します 始まる：条件の文字列から始まる場合に条件に一致したと判定します 終わる：条件の文字列で終わる場合に条件に一致したと判定します
業務グループ	自動監視ルールに設定されている業務グループの条件が表示されます。
サーバ名	自動監視ルールに設定されているサーバ名の条件が表示されます。
カタログ	自動監視ルールに設定されているカタログの条件が表示されます。
OS	自動監視ルールに設定されている OS の条件が表示されます。
アクション	実行条件に一致するサーバが作成されたときに実行されるアクションです。以下のアクションが設定可能で、実行条件に一致した場合には設定されているすべてのアクションが実行されます。 <ul style="list-style-type: none"> 監視テンプレートの適用 ノード画面のグループの移動
監視テンプレートの適用	監視テンプレートの適用アクションです。適用する監視テンプレート名が表示されます。当該アクションが設定されていない場合には空欄が表示されます。設定されていた監視テンプレートが削除されている場合には[削除済み]と表示されます。監視テンプレートが削除済みの場合には監視テンプレートは適用されません。
ノード画面のグループの移動	ノード画面のグループの移動アクションです。「ノード」画面上のグループをサーバの業務グループと同じパスのグループに移動させる場合には[業務グループと同じパスのグループに移動]と表示されます。「ノード」画面上のグループを移動させない場合には空欄が表示されます。
備考	自動監視ルールの備考が表示されます。
[編集]アイコン 	クリックすると自動監視ルールを編集するための「自動監視ルール変更」画面が表示されます。詳細は「 6.4.5.1 自動監視ルールの追加・変更 (202ページ) 」を参照してください。
[削除]アイコン 	クリックすると自動監視ルールを削除するための「自動監視ルール削除」ダイアログが表示されます。詳細は「 6.4.5.2 自動監視ルールの削除 (206ページ) 」を参照してください。

6.4.5.1 自動監視ルールの追加・変更

本項では自動監視ルールの追加・変更方法について説明します。

「自動監視ルール」画面にて[追加]をクリックすると「自動監視ルール追加」画面が表示されます。

また「自動監視ルール」画面の自動監視ルール詳細にて[編集]をクリックすると「自動監視ルール変更」画面が表示されます。

各項目を入力して[OK]ボタンをクリックすると自動監視ルールを追加・変更することができます。

自動監視ルール追加

自動監視ルール名

実行条件

業務グループ

サーバ名

カタログ

OS

アクション

監視テンプレートの適用

ノード画面のグループの移動 業務グループと同じパスのグループに移動

備考

図 6-212 「自動監視ルール登録」画面

表 6-142 項目一覧（「自動監視ルール登録」画面）

項目名	必須	説明
自動監視ルール名	○	自動監視ルールの名前を 256 文字以内で入力します。
実行条件		<p>アクションを実行する条件を設定します。実行条件には以下の条件が設定可能で、作成されたサーバがすべての条件に一致する場合にアクションが実行されます。実行条件が一つも設定されていない場合には作成されたサーバに対して必ずアクションが実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 業務グループ • サーバ名 • カタログ • OS <p>また各条件に合わせて以下の比較条件を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 等しい: 条件の文字列と等しい場合に条件に一致したと判定します • 含む: 条件の文字列を含む場合に条件に一致したと判定します • 始まる: 条件の文字列から始まる場合に条件に一致したと判定します • 終わる: 条件の文字列で終わる場合に条件に一致したと判定します
業務グループ		業務グループの条件を 256 文字以内で入力、もしくは「業務グループ選択」ダイアログから業務グループを選択します。また比較条件をドロップダウンリストから選択します。本項目はチェックボックスにチェックを入れることで有効になります。
業務グループ選択ボタン		クリックすると「業務グループ選択」ダイアログが表示されます。本項目はチェックボックスにチェックを入れることで有効になります。
サーバ名		サーバ名の条件を 256 文字以内で入力します。また比較条件をドロップダウンリストから選択します。本項目はチェックボックスにチェックを入れることで有効になります。
カタログ		カタログの条件を 256 文字以内で入力、もしくは「カタログ選択」ダイアログからカタログを選択します。また比較条件をドロップダウンリストから選択します。本項目はチェックボックスにチェックを入れることで有効になります。
カタログ選択ボタン		クリックすると「カタログ選択」ダイアログが表示されます。本項目はチェックボックスにチェックを入れることで有効になります。
OS		OS の条件を 256 文字以内で入力します。また比較条件をドロップダウンリストから選択します。本項目はチェックボックスにチェックを入れることで有効になります。

項目名	必須	説明
アクション		実行条件に一致するサーバが作成されたときに実行されるアクションを設定します。以下のアクションが設定可能で、実行条件に一致した場合には設定されているすべてのアクションが実行されます。 <ul style="list-style-type: none"> 監視テンプレートの適用 ノード画面のグループの移動
監視テンプレートの適用		適用する監視テンプレートを「テンプレート選択」ダイアログから選択します。設定されていた監視テンプレートが削除されている場合には[削除済み]と表示されます。
監視テンプレート選択ボタン		クリックすると「監視テンプレート選択」ダイアログが表示されます。
監視テンプレートクリアボタン		クリックすると監視テンプレートの適用アクションがクリアされます。
ノード画面のグループの移動		「ノード」画面上のグループをサーバの業務グループと同じパスのグループに移動させるかどうかを指定します。チェックボックスにチェックを入れた場合には「ノード」画面上のグループをサーバの業務グループと同じパスのグループに移動させます。サーバの業務グループと同じパスのグループが「ノード」画面上のグループツリーに存在しない場合には新たにグループが追加された後にそのグループにノードを移動させます。チェックボックスのチェックを外した場合には「ノード」画面上のグループは移動させません。
備考		自動監視ルールの備考を 1024 文字以内で入力します。
キャンセルボタン		クリックすると入力内容を破棄して「自動監視」画面に戻ります。
OK ボタン		クリックすると入力内容を登録して「自動監視」画面に戻ります。

業務グループの条件は「業務グループ選択」ダイアログから選択することができます。

1. チェックボックスにチェックを入れて業務グループの条件を有効にします。
2. [選択]ボタンをクリックして「業務グループ選択」ダイアログを表示します。

実行条件

<input checked="" type="checkbox"/> 業務グループ	等しい		選択
<input type="checkbox"/> サーバ名	等しい		
<input type="checkbox"/> カタログ	等しい		選択
<input type="checkbox"/> OS	等しい		

図 6-213 「自動監視ルール登録」画面 業務グループ選択

3. 「業務グループ選択」ダイアログにて業務グループツリーから業務グループを選択して、[選択]ボタンをクリックすると業務グループの条件に選択した業務グループのパスが入力されます。

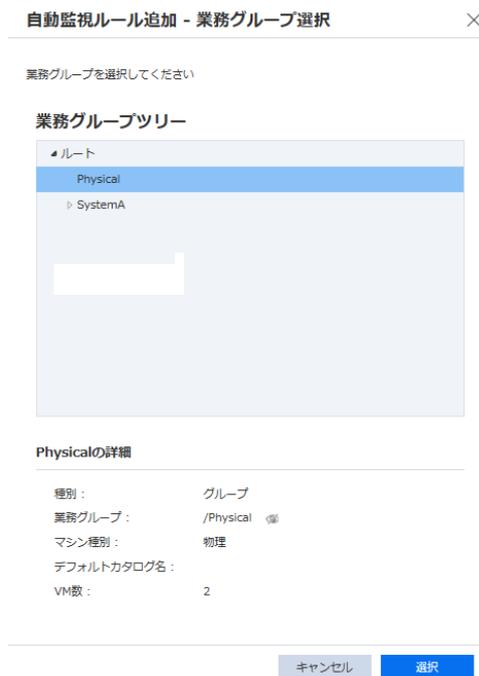


図 6-214 「業務グループ選択」ダイアログ

カタログの条件は「カタログ選択」ダイアログから選択することができます。

1. チェックボックスにチェックを入れてカタログの条件を有効にします。
2. [選択]ボタンをクリックして「カタログ選択」ダイアログを表示します。



図 6-215 「自動監視ルール登録」画面 カタログ選択

3. 「カタログ選択」ダイアログにてドロップダウンリストからカタログを選択して、[OK]ボタンをクリックするとカタログの条件に選択したカタログが入力されます。



図 6-216 「カタログ選択」ダイアログ

テンプレートの適用アクションは「テンプレート選択」ダイアログから選択します。

1. [選択]ボタンをクリックして「テンプレート選択」ダイアログを表示します。



図 6-217 「自動監視ルール登録」画面 テンプレート選択

- 「テンプレート選択」ダイアログにて監視テンプレート一覧から監視テンプレートを選択して、[OK]ボタンをクリックすると監視テンプレートが選択されます。



図 6-218 「テンプレート選択」ダイアログ

6.4.5.2 自動監視ルールの削除

本項では自動監視ルールの削除方法について説明します。

「自動監視」画面にて一覧から自動監視ルールを選択し、[削除]ボタンをクリックして「自動監視ルール削除」ダイアログを表示します。

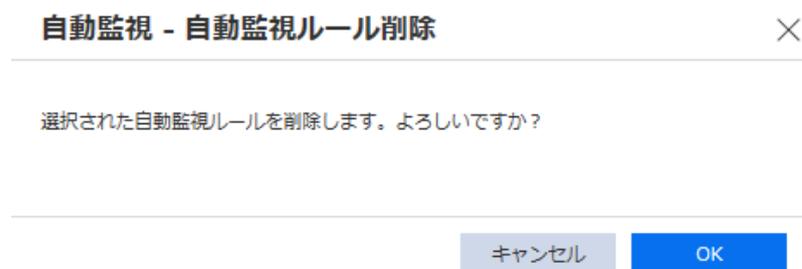


図 6-219 「自動監視ルール削除」ダイアログ

[OK]ボタンをクリックして自動監視ルールを削除します。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合は自動監視ルールを削除せずに「自動監視ルール削除」ダイアログを閉じます。

6.4.5.3 自動監視ルールの実行結果の確認

本項では自動監視ルールの実行結果の確認方法について説明します。

サーバ作成後、作成したサーバが自動監視ルールの実行条件に一致する場合には自動監視ルールに設定されたアクションの実行結果がタスク一覧に表示されます。

メニューから、[監視]-[設定]をクリックして「設定」画面を表示します。その後、「ノード」画面下部の[タスク]をクリックしてタスク一覧を表示し、[全てのユーザのタスクを表示]チェックボックスにチェックを入れることでアクションの実行結果を確認することができます。なお、自動監視によって実行されたタスクの[実行ユーザ]は空欄で表示されます。

タスク名	対象	状態	進捗率	重要度	要求時刻	完了時刻	実行ユーザ
テンプレート適用	monitoring-01	完了	100%	● 正常	15:39:56	15:39:56	
テンプレート適用	STServer	完了	100%	● 正常	15:39:38	15:39:39	
テンプレート適用	STServer	完了	100%	● 正常	15:37:36	15:37:38	tenantAdmin
テンプレート適用	STServer	完了	100%	● 正常	15:35:13	15:35:13	tenantAdmin

図 6-220 自動監視ルールの実行結果の確認

タスク一覧の詳細については「6.4.8 タスク (217 ページ)」を参照してください。

注

同じ業務グループに複数のサーバが同時に作成されたときに、自動監視ルールの[ノード画面のグループの移動]アクションが実行されると、同じグループが「ノード」画面のグループツリー上に作成される場合があります。その場合には「ノード」画面にて一方のグループにノードを移動させて、もう一方の重複したグループを削除してください。

ノードの移動方法については以下を参照してください。

- ・「6.1.8 ノードの移動 (59 ページ)」

グループの削除方法については以下を参照してください。

- ・「6.1.7 グループの削除 (58 ページ)」

6.4.6 メール通報

本項ではメール通報設定を表示するための「メール通報」画面について説明します。

メニューから、[監視]-[設定]-[メール通報]タブをクリックすることにより、「メール通報」画面が表示されます。

通報設定名	状態	送信先(To)	送信先(CC)	表題
ECサイト担当者への通報	有効	ec-admin@example.com		ECサイトに異常が発生しました
システム管理者への通報	有効	system-admin@example.com		異常が検知されました

図 6-221 「メール通報」画面

表 6-143 項目一覧 (「メール通報」画面)

項目名	説明
表示件数	一覧に表示されるメール通報設定の1ページ当たりの表示件数です。表示件数は5,10,50,100のいずれかから選択可能です。

項目名	説明
検索フィールド	メール通報設定名、または、送信先 (TO) を検索します。入力した文字列がメール通報設定名または、送信先 (TO) に含まれる行のみ抽出されます。
追加アイコン+	メール通報設定を追加します。詳細は「6.4.6.1 メール通報設定の追加・変更 (209 ページ)」を参照してください。
削除アイコン-	メール通報設定を削除します。詳細は「6.4.6.2 メール通報設定の削除 (213 ページ)」を参照してください。

また、「メール通報」画面のアクション一覧に表示されているメール通報設定を選択すると、メール通報詳細が表示されます。

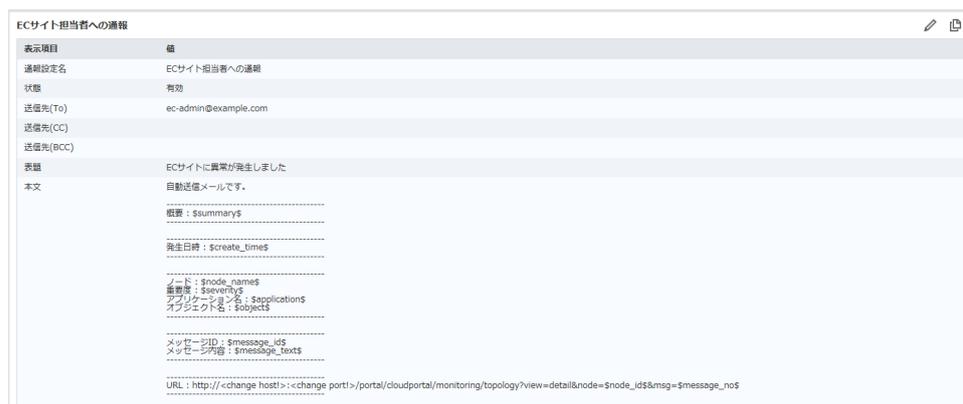


図 6-222 「メール通報」画面 メール通報詳細

表 6-144 項目一覧 (「メール通報」画面 メール通報詳細)

項目名	説明
通報設定名	メール通報の定義名を表示します。
状態	メール通報設定の状態を表示します。 有効: メール通報設定として有効であることを示します。 無効: メール通報設定として無効であることを示します。
送信先(TO)	メール通報時の送信先(TO)メールアドレスを表示します。 設定されたメールアドレスが複数ある場合は"," (カンマ) で区切って表示します。
送信先(CC)	メール通報時の送信先(CC)メールアドレスを表示します。 設定されたメールアドレスが複数ある場合は"," (カンマ) で区切って表示します。
送信先(BCC)	メール通報時の送信先(BCC)メールアドレスを表示します。 設定されたメールアドレスが複数ある場合は"," (カンマ) で区切って表示します。
表題	送信するメールの表題を表示します。
本文	送信するメールの本文を表示します。
編集アイコン✎	メール通報設定を編集します。詳細は「6.4.6.1 メール通報設定の追加・変更 (209 ページ)」を参照してください。
引用アイコン📄	詳細表示中のメール通報設定を引用してメール通報設定を追加します 詳細は「6.4.6.1 メール通報設定の追加・変更 (209 ページ)」を参照してください。

項目名	説明
	追加したメール通報設定は、引用元のメール通報設定の一つ上に挿入されます。

6.4.6.1 メール通報設定の追加・変更

本項ではメール通報設定の追加方法について説明します。

「メール通報」画面にて[追加]アイコン \oplus をクリックする、または「メール通報」画面にてアクションを選択し、[引用]アイコン \square をクリックすることにより、「メール通報登録」画面を表示します。[引用]を選択した場合、各項目の入力フィールドには選択したアクションの項目がセットされた状態で表示されます。

「メール通報」画面にてアクションを選択し、[編集]アイコン \pencil をクリックすることにより、「メール通報変更」画面を表示します。

メール通報設定を行う場合、メール通報に利用する SMTP サーバ情報をあらかじめ設定しておく必要があります。

「環境構築ガイド」の「通報メールサーバー設定ファイル(msc_report_mail_server.properties)」を参照し、利用するメールサーバの情報を設定してください。

利用するメールサーバは必ずデフォルト設定(mail_server{n}.default=on)をしてください。

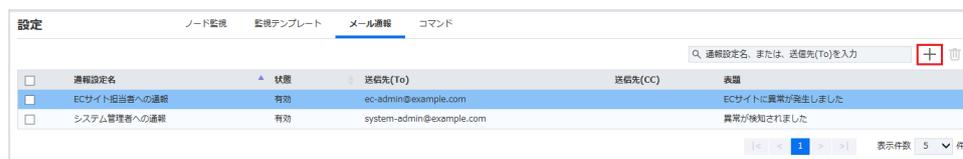


図 6-223 「メール通報」画面 追加ボタン

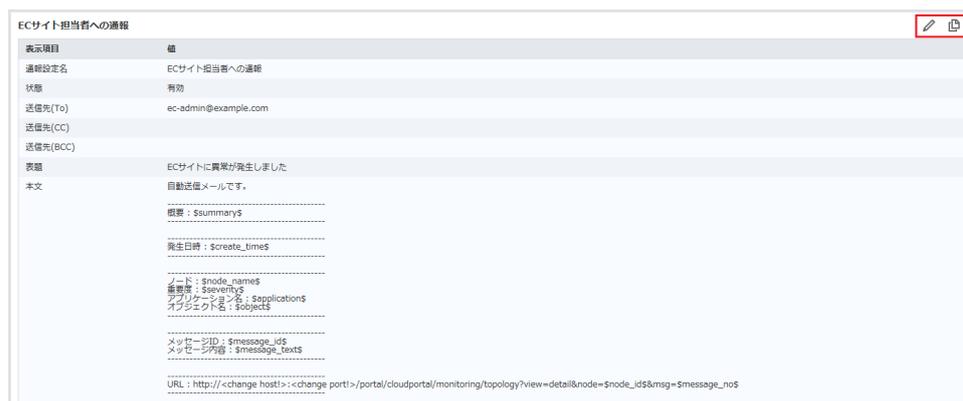


図 6-224 「メール通報」画面 編集、引用ボタン

図 6-225 「メール通報登録」画面

表 6-145 項目一覧（「メール通報登録」画面）

項目名	必須	説明
通報設定名	○	メール通報設定の名前を 64 文字以内で入力します
状態	○	[有効]を指定した場合、メール通報設定の状態を有効とします。 [無効]を指定した場合、メール通報設定の状態を無効とします。
送信先 (TO)		送信先 (TO) のメールアドレスを指定します。 複数の通報先を指定する場合はカンマ、または空白文字（半角スペース、改行、タブ）で区切ってください。 1つのメールアドレスは 256 文字以内、全体で 768 文字以内で指定してください（文字数にはカンマ、空白文字を含みます）。 メールアドレスは電子メールアドレス形式 (local-part@domain) である必要があります。
送信先 (CC)		送信先 (CC) のメールアドレスを指定します。 複数の通報先を指定する場合はカンマ、または空白文字（半角スペース、改行、タブ）で区切ってください。 1つのメールアドレスは 256 文字以内、全体で 768 文字以内で指定してください（文字数にはカンマ、空白文字を含みます）。 メールアドレスは電子メールアドレス形式 (local-part@domain) である必要があります。
送信先 (BCC)		送信先 (BCC) のメールアドレスを指定します。 複数の通報先を指定する場合はカンマ、または空白文字（半角スペース、改行、タブ）で区切ってください。 1つのメールアドレスは 256 文字以内、全体で 768 文字以内で指定してください（文字数にはカンマ、空白文字を含みます）。 メールアドレスは電子メールアドレス形式 (local-part@domain) である必要があります。
表題		メールの表題を 128 文字以内で指定します 置換文字列が指定可能です。置換文字列を指定する場合は、実際に展開される文字数を考慮してください。 指定可能な置換文字列については「付録 B 置換文字列一覧 (222 ページ)」を参照してください。
本文		メールの本文を 8192 文字以内で指定します。

項目名	必須	説明
		<p>置換文字列が指定可能です。置換文字列を指定する場合は、実際に展開される文字数を考慮してください。</p> <p>指定可能な置換文字列については「付録 B 置換文字列一覧 (222 ページ)」を参照してください。</p> <p>SystemManager G Manager によって通報されたメール本文から、メール通報される契機となったメッセージの、詳細ページにアクセスできます。メール本文の設定として以下の URL を指定してください。設定例の「<change host!>:<change port!>」については、SystemManager G Manager のホスト名、およびポート番号 (既定値: 12080) に適宜修正してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定例 1 : ノード画面 メッセージ詳細への URL <pre>http://<change host!>:<change port!>/portal/cloudportal/monitoring/topology?view=detail&node=\$node_id&msg=\$message_no\$</pre> <p>URL のクエリに指定できる各パラメータにつきましては、「6.1 ノード (47 ページ)」を参照してください</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定例 2 : メッセージ画面のメッセージ詳細への URL (別途ライセンスが必要です) <pre>http://<change host!>:<change port!>/portal/cloudportal/monitoring/business?view=detail&category=\$business_node_id&msg=\$message_no\$</pre> <p>URL のクエリに指定できる各パラメータにつきましては、「6.2 メッセージ (76 ページ)」を参照してください</p>

メールの本文に「ノード」画面、「メッセージ」画面への URL に指定する場合に利用できる URL パラメータになります。

表 6-146 「ノード」画面 URL パラメータ

URL パラメータ	有効値	説明
view	list detail status msg	<p>該当 URL にアクセスした際にデフォルトで表示状態となるパネルを指定します。未指定または view 指定が無効の場合、ノード一覧パネルのみ表示状態となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> list : ノード一覧パネルを表示します。 detail : ステータスパネルとメッセージパネルを表示します。group または node の指定が必須となります。(未指定の場合、view 指定が無効となります。) status : ステータスパネルのみを表示します (重要度の件数とステータス一覧を表示)。group または node の指定が必須となります。(未指定の場合、view 指定が無効となります。) msg : メッセージパネルのみを表示します。group または node が未指定の場合、すべてのメッセージを表示します。
group	グループ ID	ステータスパネル、メッセージパネルを表示する場合の表示対象のグループを指定します。ノード一覧パネルを表示する場合は指定しても無視されます。
node	ノード ID	ステータスパネル、メッセージパネルを表示する場合の表示対象のノードを指定します。ノード一覧パネルを表示する場合は指定しても無視されます。
auto	on	自動更新を行いたい場合に指定します。指定がない、または on 以外の不正な値を指定した場合は自動更新されません。

「ノード」画面の URL を指定した例として、view の URL パラメータに対して msg を指定し、node の URL パラメータにノード ID を指定した場合の画面を以下に記載します。



図 6-226 URL パラメータ利用時の「ノード」画面の例

表 6-147 「メッセージ」画面 URL パラメータ

URL パラメータ	有効値	説明
view	list detail msg	表示するパネルを指定します。未指定または view 指定が無効の場合、カテゴリ一覧パネルのみ表示します。 <ul style="list-style-type: none"> list: カテゴリ一覧パネルと重要度別メッセージ件数一覧パネルを表示します。 detail: カテゴリ一覧パネルと重要度別メッセージ件数一覧パネル、メッセージ一覧パネルを表示します。category の指定が必須となります。(未指定の場合、view 指定が無効となります。) msg: メッセージ一覧パネルのみ表示します。category の指定が必須となります。(未指定の場合、view 指定が無効となります。)
category	カテゴリ	重要度別メッセージ件数一覧パネル、メッセージ一覧パネルを表示する場合の表示対象のカテゴリの ID を指定します。
auto	on	自動更新を行いたい場合に指定します。指定がない、または on 以外の不正な値を指定した場合は自動更新されません。

「メッセージ」画面の URL を指定した例として、view の URL パラメータに対して msg を指定し、category の URL パラメータに置換文字列の \$business_node_id\$ を指定した場合の画面を以下に記載します。

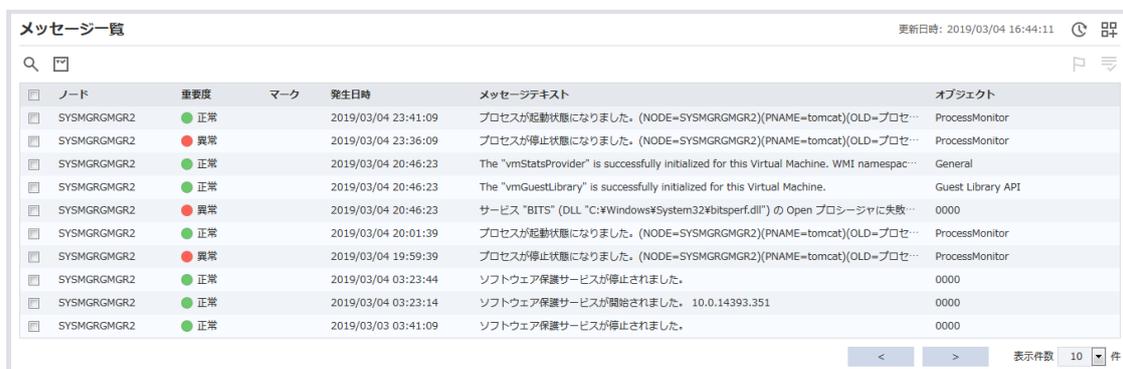


図 6-227 URL パラメータ利用時の「メッセージ」画面の例

6.4.6.2 メール通報設定の削除

本項ではメール通報設定の削除方法について説明します。

メール通報一覧の削除対象をチェックすると[削除]アイコンが有効になります。[削除]アイコンをクリックすることにより「メール通報削除」ダイアログが表示されます。[OK]をクリックしメール通報設定を削除します。

ヒント

フィルタのアクション定義に設定されているメール通報設定も削除できます。削除した場合、フィルタのアクション定義画面には、「削除済み」と表示されメール通報は行われません。

フィルタのアクション定義については、以下を参照してください。

- ・「6.1.10 通報フィルタの設定 (62 ページ)」
- ・「6.2.11 フィルタの追加・変更 (97 ページ)」

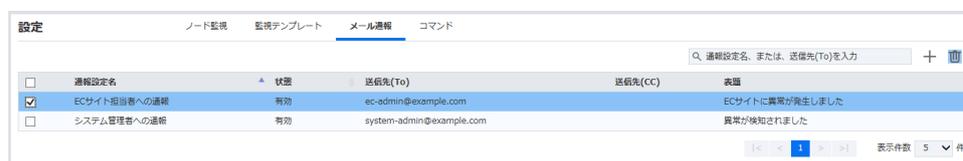


図 6-228 「メール通報」画面 削除チェックボックス



図 6-229 「メール通報削除」ダイアログ

6.4.7 コマンド

本項ではコマンド設定を表示するための「コマンド」画面について説明します。

メニューから、[監視]-[設定]-[コマンド]タブをクリックすることにより、「コマンド」画面が表示されます。



図 6-230 「コマンド」画面

表 6-148 項目一覧（「コマンド」画面）

項目名	説明
表示件数ボタン	一覧に表示されるコマンド設定の1ページ当たりの表示件数です。 表示件数は 5,10,50,100 のいずれかから選択可能です。
検索フィールド	コマンド通報設定、または、コマンドを検索します。入力した文字列がコマンド通報設定、または、コマンドに含まれる行のみ抽出されます。
追加アイコン+	コマンド設定を追加します。詳細は「 6.4.7.1 コマンド設定の追加・変更 (214 ページ) 」を参照してください。
削除アイコン	コマンド設定を削除します。詳細は「 6.4.7.2 コマンド設定の削除 (217 ページ) 」を参照してください。

また、「コマンド」画面のコマンド一覧に表示されているコマンド設定を選択すると、コマンド設定詳細が表示されます。

表示項目	値
通報設定名	インシデント登録コマンド
状態	有効
コマンド	action.bat
オプション	
作業ディレクトリ	

図 6-231 「コマンド通報」画面 コマンド設定詳細

表 6-149 項目一覧（「コマンド」画面 コマンド設定詳細）

項目名	説明
通報設定名	通報設定名を表示します。
状態	コマンド設定の状態を表示します。 有効：コマンド設定として有効であることを示します。 無効：コマンド設定として無効であることを示します。
コマンド	コマンド設定として登録されているコマンドを表示します。
オプション	コマンド設定として登録されているオプションを表示します。
作業ディレクトリ	コマンド設定として登録されている作業ディレクトリを表示します。
編集アイコン	コマンド設定を編集します。詳細は「 6.4.7.1 コマンド設定の追加・変更 (214 ページ) 」を参照してください。
引用アイコン	詳細表示中のコマンド設定を引用してコマンド設定を追加します 詳細は「 6.4.7.1 コマンド設定の追加・変更 (214 ページ) 」を参照してください。 追加したコマンド設定は、引用元のコマンド設定の一つ上に挿入されます。

6.4.7.1 コマンド設定の追加・変更

本項ではコマンド設定の追加方法について説明します。

「コマンド」画面にて[追加]アイコン+をクリックする、または「コマンド」画面にてコマンド設定を選択し、[引用]アイコンををクリックすることにより、「コマンド登録」画面を表示します。[引用]を選択した場合、各項目の入力フィールドには選択したコマンド設定の項目がセットされた状態で表示されます。

「コマンド」画面にてコマンド設定を選択し、[編集]アイコンをクリックすることにより、「コマンド変更」画面を表示します。



図 6-232 「コマンド」画面 追加ボタン



図 6-233 「コマンド」画面 編集、引用ボタン



図 6-234 「コマンド登録」画面

表 6-150 項目一覧（「コマンド登録」画面）

項目名	必須	説明
通報設定名	○	コマンド設定の名前を 64 文字以内で入力します
状態	○	[有効]を指定した場合、コマンド設定の状態を有効とします。 [無効]を指定した場合、コマンド設定の状態を無効とします。
コマンド	○	実行するコマンドを絶対パスまたは相対パスで指定します。256 文字以内で指定してください。 相対パスの場合は、作業ディレクトリからの相対パスで指定します。コマンドは WebConsole Option をインストールしたマシンに存在する必要があります。 パスに空白が含まれる場合でも、ダブルクォーテーション「"」で囲まずに指定します。 置換文字列が指定可能です。置換文字列を指定する場合は、実際に展開される文字数を考慮してください。 指定可能な置換文字列については「付録 B 置換文字列一覧 (222 ページ)」を参照してください。 なお、起動するコマンドの標準出力・エラー出力の文字コードは UTF-8 である必要があります。 コマンドの標準出力・エラー出力の文字コードは UTF-8 ではない場合、コマンドの出力結果は取得されません。
オプション		コマンドを実行する際の引数を指定します。2048 文字以内で指定してください。 置換文字列が指定可能です。置換文字列を指定する場合は、実際に展開される文字数を考慮してください。

項目名	必須	説明
		指定可能な置換文字列については「付録 B 置換文字列一覧 (222 ページ)」を参照してください。
作業ディレクトリ		<p>コマンドを実行する際の作業ディレクトリを絶対パスで指定します。256 文字以内で指定してください。</p> <p>パスに空白が含まれる場合でも、ダブルクォーテーション「"」で囲まずに指定します。</p> <p>置換文字列が指定可能です。置換文字列を指定する場合は、実際に展開される文字数を考慮してください。</p> <p>指定可能な置換文字列については「付録 B 置換文字列一覧 (222 ページ)」を参照してください。</p> <p>指定がない場合、作業ディレクトリとして下記のディレクトリを使用します。</p> <p><WebConsole-install-path>\bin</p>

Windows で C:\tmp を実行ディレクトリとして以下のコマンドを実行する場合の例を示します。

```
C:\Program Files\Scripts\Action.bat Error Recovery
```

表 6-151 項目一覧（「コマンド登録」画面 Windows の例）

項目名	説明
通報設定名	Windows アクション
状態	有効
コマンド	C:\Program Files\Scripts\Action.bat
オプション	Error Recovery
作業ディレクトリ	C:\tmp

UNIX で/tmp を実行ディレクトリとして以下のコマンドを実行する場合の例を示します。

```
/usr/local/bin/action.sh -s error -m recovery
```

表 6-152 項目一覧（「コマンド登録」画面 UNIX の例）

項目名	説明
通報設定名	UNIX アクション
状態	有効
コマンド	/usr/local/bin/action.sh
オプション	-s error -m recovery
作業ディレクトリ	/tmp

項目の入力が完了したら、[OK]ボタンをクリックして登録します。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合、入力内容は破棄して「コマンド」画面に戻ります。

6.4.7.2 コマンド設定の削除

本項ではコマンド設定の削除方法について説明します。

コマンド一覧の削除対象をチェックすると[削除]アイコンが有効になります。[削除]アイコンをクリックすることにより「コマンド削除」ダイアログが表示されます。[OK]をクリックしコマンド設定を削除します。

ヒント

フィルタのアクション定義に設定されているコマンド設定も削除できます。削除した場合、フィルタのアクション定義画面には、「削除済み」と表示されコマンドの実行は行われません。

フィルタのアクション定義については、以下を参照してください。

- ・「6.1.10 通報フィルタの設定 (62 ページ)」
- ・「6.2.11 フィルタの追加・変更 (97 ページ)」



図 6-235 「コマンド」画面 削除チェックボックス

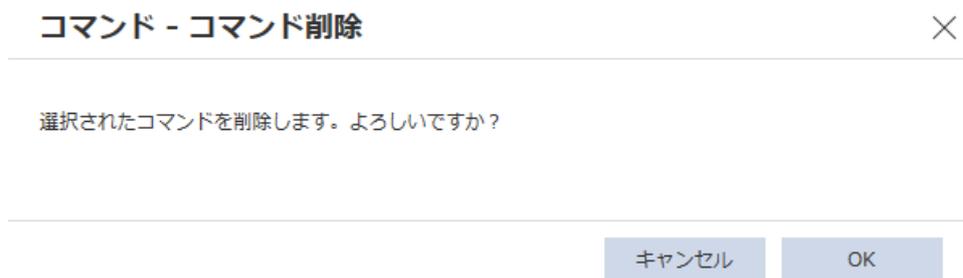


図 6-236 「コマンド削除」ダイアログ

6.4.8 タスク

本項ではタスクについて説明します。

「設定」画面下部の[タスク]をクリックするとタスク一覧が表示されます。テンプレート適用など、新たなタスクが発生した際は、自動的に表示されます。

表 6-153 タスク一覧

項目名	説明
直近 24 時間ボタン	直近の 24 時間分のタスクを表示します。
履歴ボタン	実行したタスクの履歴を表示します。

[直近 24 時間]ボタンをクリックすると直近 24 時間に実行されたタスクの一覧が表示されます。

タスク名	対象	状態	進捗率	重要度	要求時刻	完了時刻	実行ユーザ
テンプレート適用	SYSMGRGMGR2	完了	100%	正常	20:46:23	20:46:24	管理者ユーザ

図 6-237 タスク一覧(直近 24 時間)

表 6-154 項目一覧 (タスク一覧(直近 24 時間))

項目名	初期値	説明
表示件数	5	5,10,50,100 から選択します。タスク一覧に表示する件数を指定します。直近の実行タスクから要求時刻の順に指定された件数のタスクをリストに表示します。
全てのユーザのタスクを表示	未選択	チェックオフの場合、ログインしたユーザが実行したタスクの一覧が表示されます。 チェックをすると、他のユーザが実行したタスク情報を表示します。 管理者の場合、ユーザが登録したタスク情報も表示されます。
タスク名		実施したタスクの種類が表示されます。本バージョンではテンプレート適用のみ表示されます。
対象		タスクを実行した対象のノードを表示します。
状態		一覧表示時の状態を示します。 <ul style="list-style-type: none"> 待機 実行中 完了
進捗率		タスク実行の進捗状況を示します。完了すると 100% で表示されます。
重要度		タスクの状態を表示します。以下のいずれかの重要度が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 異常 警告 不明 正常 重要度なし 監視停止中
要求時刻		タスクの実行要求時刻が hh:dd:ss の形式で表示されます。
完了時刻		タスクが完了していれば、完了時刻が hh:dd:ss の形式で表示されます。未完了の場合は、空欄になります。
実行ユーザ		タスクを実行したユーザ名(氏名) が表示されます。

[履歴]ボタンをクリックするとタスクの履歴を確認することができます。タスクの履歴ではタスク一覧を重要度や要求日時で絞り込んで表示することができます。

タスク名	対象	重要度	要求日時	完了日時	実行ユーザ
テンプレート適用	SB-VM02	重要度なし	2019/03/01 01:00:25	2019/03/01 01:00:25	管理者ユーザ
テンプレート適用	SB-VM01	重要度なし	2019/03/01 01:05:56	2019/03/01 01:05:56	管理者ユーザ
テンプレート適用	SYSMGRGMGR2	正常	2019/03/01 01:06:23	2019/03/01 01:06:23	管理者ユーザ
テンプレート適用	SYSMGRGMGR2	正常	2019/03/02 02:15:15	2019/03/02 02:15:16	管理者ユーザ

図 6-238 タスク一覧(履歴)

表 6-155 項目一覧 (タスク一覧(履歴))

項目名	初期値	説明
重要度	全ての重要度を表示	タスク一覧の表示を絞り込む場合にこのプルダウンリストから重要度を選択します。選択できるのは一つだけです。 <ul style="list-style-type: none"> • 全ての重要度を表示 • 異常 • 警告 • 不明 • 正常 • 重要度なし • 監視停止中
要求日時(検索範囲)	24 時間前の時刻	タスク一覧に表示するタスクの範囲を yyyy/mm/dd mm:dd:ss 形式で指定します。
全てのユーザのタスクを表示	チェックなし	他のユーザが実行したタスクを表示するか否かを指定します。初期表示ではチェックがされていないため、ログインしたユーザが実行したタスクのみ一覧に表示されます。
適用ボタン		[重要度]および[要求日時]、[全てのユーザのタスクを表示]に指定された条件でタスク一覧に適用し一覧を再表示します。
タスク名		タスクの種類を表示します。本バージョンでは[テンプレート適用]のみです。
対象		タスクを実行した対象のノードを表示します。
重要度		タスクに設定された重要度を表示します。
要求日時		タスクの要求日時を yyyy/mm/dd mm:dd:ss 形式で表示します。
完了日時		タスクが完了していれば、完了時刻を yyyy/mm/dd mm:dd:ss 形式で表示します。未完了の場合は、空欄になります。
実行ユーザ		タスクを実行したユーザの氏名が表示されます。

タスク一覧からタスクを選択すると「タスク詳細」ダイアログが表示されます。

「タスク詳細」ダイアログではタスクの実行ログを一覧で確認することができます。



図 6-239 「タスク詳細」ダイアログ

表 6-156 項目一覧（「タスク詳細」ダイアログ）

項目名	説明
タスク名	タスクの種類を表示します。本バージョンでは[テンプレート適用]のみです。
対象	タスクを実行した対象のノードを表示します。
重要度	タスクの状態を表示します。以下のいずれかの重要度が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 異常 ・ 警告 ・ 不明 ・ 正常 ・ 重要度なし ・ 監視停止中
要求日時	タスクの要求日時を yyyy/mm/dd mm:dd:ss 形式で表示します。
完了時刻	タスクの完了時刻を yyyy/mm/dd mm:dd:ss 形式で表示します。未完了の場合は、空欄になります。
実行ユーザ	タスクを実行したユーザ名(氏名) が表示されます。
実行ログ	タスクの実行ログを一覧で表示します。
時刻	タスクの実行ログにメッセージが出力された時刻が mm:dd:ss 形式で表示されます。
重要度	タスクの実行ログの重要度が表示されます。
メッセージ	タスクの実行ログのメッセージが表示されます。

付録 A 監視端末 (View) と Web Console とのフィールドマッピング情報

- メッセージのマッピング

監視端末 (View) に表示される項目と、Web Console に表示される項目の対応について説明します。

監視端末 (View)	連携有無	Web Console	補足
ノード	○	ノード	
重要度	△	重要度	監視端末 (View) と Web Console の重要度の対応は「インストールガイド」の「マネージャと WebConsole Option の重要度の対応設定」を参照してください
マーク	×	マーク	「マーク」は事後の操作時に付与されるものなので Web Console に反映されません。
発生時刻	○	発生日時	
受信時刻	×	受信日時	Web Console 側で受信した日時が表示されます。
確認	×	確認状態	「確認」は事後の操作時に付与されるものなので Web Console に反映されません。
メッセージテキスト	○	メッセージテキスト	
メッセージ概要	×	メッセージ概要	監視端末 (View) /Web Console で、それぞれにメッセージフィルタが存在するため、それぞれの概要が表示されます。
アプリケーション	○	アプリケーション	
オブジェクト	○	オブジェクト	
カテゴリ	○	カテゴリ	
-	-	メッセージ定義 ID	監視端末 (View) には対応する項目はありません。
メッセージ ID	○	メッセージ ID	
コメント	×	コメント	「コメント」は事後の操作時に付与されるものなので Web Console に反映されません。

付録 B 置換文字列一覧

置換文字列の一覧を以下の表に記載します。指定した置換文字列に、メッセージ登録された、各パラメータのパラメータ値を置換して文字列を生成します。

以下の設定値に、置換文字列を指定することができます

- 表示定義 - メッセージ概要の変更
- 表示定義 - ナレッジ本文
- コマンド通報設定 - コマンド
- コマンド通報設定 - オプション
- コマンド通報設定 - 作業ディレクトリ
- メール通報設定 - メール表題
- メール通報設定 - メール本文

以下の置換文字列を指定できます(小文字/大文字指定可能)。

置換文字	FW 版互換置換文字	説明
\$message_id\$	\$MESSAGEIDS\$	メッセージ ID
\$definition_code\$		メッセージ定義
\$tenant_id\$		テナント ID
\$severity\$	\$SEVERITY\$	重要度
\$create_time\$	\$GENERATEDDATES\$, \$GENERATEDTIMES\$	発生日時。互換文字は発生日、発生時刻。
\$system_name\$		システム名
\$node_id\$		ノード ID
\$node_type\$		ノード種別
\$node_name\$	\$NODE\$	ノード名
\$object\$	\$OBJECT\$	オブジェクト
\$application\$	\$APPLICATION\$	アプリケーション
\$eventcategory\$	\$EVENTCATEGORY\$	カテゴリ
\$summary\$		メッセージ概要
\$message_no\$		メッセージ番号
\$receive_time\$	\$RECEIVEDATES\$, \$RECEIVETIMES\$	受信日時。互換文字は受信日、受信時刻。
\$message_text\$	\$MESSAGETEXT\$	メッセージ本文
\$business_node_id\$		通報が発生する契機となったフィルタが設定されていたビジネスカテゴリノード ID。ノードの通報フィルタの場合には指定する事はできません。

また、ナレッジ本文には、以下の置換文字列も、上記の置換文字列と合わせて指定可能です(小文字/大文字指定可能)。

置換文字	説明
\$confirm\$	確認フラグ
\$mark\$	マーク
\$comment\$	コメント

付録 C 重要度一覧

重要度を緊急度が高い順に列挙します。

1. 異常
2. 警告
3. 不明
4. 正常
5. 重要度なし
6. 監視停止中

注

表示設定を変更している場合は上記順序に当てはまらない場合があります。

付録 D WebConsole Option とコマンドで同期する

状況によっては、SystemManager G マネージャと WebConsole Option のデータに不整合が発生する場合があります。

本節では、SystemManager G マネージャと WebConsole Option のデータに不整合が発生した場合に、データを同期する同期コマンドを説明します。

データの不整合が発生する可能性のあるケースは以下の通りです。

表 D-1 発生ケース一覧

項番	ケース	WebConsole Option の対象コンポーネント
1	WebConsole Option 側のリストア実行時	全て
2	SystemManager G マネージャ側のリストア実行時	全て
3	SystemManager G マネージャにて、性能監視の Processor オブジェクトをシングルコアからマルチコア構成に変更するコマンド(PerformanceCmd.exe RE-SETUP - P)を実行時	性能データストア
4	SystemManager G マネージャが NetvisorPro V と同一コアでインストールされており、ネットワークビュー配下のノード名の変更を実施した時 ※データ収集設定が行われており、データ収集絞込み操作コマンド (nvpdatacolfilter)によって性能管理サービスへの性能データを登録対象にしている場合のみ	性能データストア
5	SystemManager G マネージャに WebConsole Option の性能データストアへの連携設定した後に、インストールガイドの「マネージャと WebConsole Option の重要度の対応設定」により重要度の変更を行った時	性能データストア

同期コマンドによるデータの同期対象コンポーネントは、監視ステータス管理(Status)、外部連携(ExtLink)、性能データストア(PerformanceDataStore)です。SystemManager G マネージャおよび WebConsole Option 起動中に実行します。

同期コマンドの使用は下記のコマンド仕様を参照してください。

- パス

Windows マネージャ : <manager-install-path>\Manager\bin\HttpClientCmd.exe

Linux マネージャ : <manager-install-path>/Manager/bin/HttpClientCmd.exe

- 形式

HttpClientCmd.exe SYNC [-C [S][E][P]]

- オプション

SYNC

WebConsole Option のコンポーネントと同期します。

-C [S][E][P]

同期するコンポーネントを並べて指定します。オプション-C 含め全て省略した場合は、全てのコンポーネントを同期します。

(-C 指定時は省略不可、小文字不可、複数指定可、順不同)

S ... 監視ステータス管理

E ... 外部連携

P ... 性能データストア

- 戻り値

戻り値	説明	対処方法
0	正常終了	コマンドは正常に終了しました。対処は不要です。
1	内部ソフトウェアエラー	本エラー発生時はサポートへお問い合わせください。

- 注意事項

- 戻り値はコマンドが SystemManager G マネージャで受け付けられたかを判断するものであり、WebConsole Option への同期処理の結果は返却しません。
- コマンドは管理者権限で実行する必要があります。Windows Server 2008 以降のバージョンでは、コマンドプロンプトを管理者権限で起動してください
- Linux マネージャ上でこれらのコマンドを実行するためには以下の準備が必要となります。
 - * ライブラリパスの設定環境変数 LD_LIBRARY_PATH に以下を追加してください。 <manager-install-path>/Manager/bin
 - * ロケールの設定実行環境のロケールを UTF-8 に設定してください。

- 使用例

- HttpClientCmd.exe SYNC

SystemManager G マネージャ側の状態を WebConsole Option 側の全てのコンポーネントに同期します。

- HttpClientCmd.exe SYNC -C SE

SystemManager G マネージャ側の状態を WebConsole Option 側の監視ステータス管理と外部連携に同期します。